

令和7年度
市政世論調査結果報告書

越谷市

はじめに

本市の市政世論調査は昭和45年に実施して以来、今回で56回目を迎えます。市政世論調査は市民各層の行政ニーズを的確にとらえ、行政施策に反映させていくために継続して実施しているものです。

今回は、「暮らしや居住意向について」「越谷市への愛着度と魅力発信について」「広報について」「市内の公共交通について」「景観（風景）について」「地場農産物や地産地消について」「参加と協働のまちづくりについて」「ひきこもりについて」「環境政策について」「人権全般に関する意識について」「男女共同参画について」「行政のデジタル化について」「地域医療体制について」「介護サービスについて」「地域活動への参加状況について」「相談できる相手や場所について」「障がいや障がいのある人に対する理解について」「キャッシュレス決済について」「自治会について」「スポーツ・レクリエーションの実施状況について」「越谷市の施策について」の各テーマにおいて、市民意識の把握に努めました。

今回の調査で、すべてのニーズや問題点が解明されたわけではありませんが、調査の結果を今後の市政運営の参考資料として活用しながら、市民の皆様の期待に応えられるまちづくりや、行政サービスを推進してまいりたいと考えております。

ご多忙にもかかわらず、市政世論調査にご協力をいただきました市民の皆様にご心より御礼申し上げます。

令和7年11月

越谷市長 福田 晃

目 次

第1章 調査設計	1
1. 調査実施の目的	3
2. 調査手法	3
3. 回収状況	3
4. 調査項目	3
5. 居住地区区分	4
6. 集計結果の誤差比率について	5
7. 集計結果の有意性について	6
8. 報告書の見かた	7
第2章 調査回答者の属性	9
1. 回答者の属性	11
第3章 調査結果の概要	15
1. 暮らしや居住意向について	17
2. 越谷市への愛着度と魅力発信について	17
3. 広報について	17
4. 市内の公共交通について	17
5. 景観（風景）について	18
6. 地場農産物や地産地消について	18
7. 参加と協働のまちづくりについて	18
8. ひきこもりについて	19
9. 環境政策について	19
10. 人権全般に関する意識について	19
11. 男女共同参画について	20
12. 行政のデジタル化について	20
13. 地域医療体制について	20
14. 介護サービスについて	20
15. 地域活動への参加状況について	21
16. 相談できる相手や場所について	21
17. 障がいや障がいのある人に対する理解について	21
18. キャッシュレス決済について	21
19. 自治会について	21
20. スポーツ・レクリエーションの実施状況について	22
21. 越谷市の施策について	22

第4章 調査結果の詳細	23
1. 暮らしや居住意向について	25
(1) 現在の暮らし向き	25
(2) 居住意向	31
(3) 転居意向の理由	37
2. 越谷市への愛着度と魅力発信について	43
(1) 越谷市への愛着	43
(2) 愛着がある理由	45
(3) 地域への貢献意欲	47
(4) ブランドメッセージ「水遊都市KOSHIGAYA」の認知度	49
3. 広報について	51
(1) 市政情報の入手先	51
(2) 活用されている「広報こしがや」の媒体	53
(3) 「広報こしがや」のわかりやすさ	55
(4) 「広報こしがや」で興味をもった記事	57
(5) 「広報こしがや」等が役立ったことがあるか	59
(6) 「広報こしがや」などの市政情報で役立った点	61
4. 市内の公共交通について	63
(1) 公共交通の利用状況	63
(2) 公共交通の満足度	65
5. 景観（風景）について	67
(1) 景観（風景）の満足度	67
(2) 行政に望むこと	69
6. 地場農産物や地産地消について	71
(1) 越谷の農業特産物の認知度	71
(2) 越谷の農業特産物の購入経験・購入場所	73
7. 参加と協働のまちづくりについて	77
(1) 「参加と協働のまちづくり」の認知度	77
(2) 「参加と協働のまちづくり」を知ったきっかけ	79
(3) 「参加と協働のまちづくり」への参加意向	81
(4) 「越谷市自治基本条例」の認知度	83
(5) 「越谷市自治基本条例」を知ったきっかけ	85
(6) 「越谷市自治基本条例」の普及・啓発方法	87

8. ひきこもりについて	89
(1) 自身、または家族の中に『ひきこもり』の状態に当てはまる人の有無	89
(2) 『ひきこもり』の状態にある方の年齢、期間、相談の状況	91
(3) ひきこもり支援として必要なもの	93
(4) ひきこもり相談窓口として知っている窓口・団体	95
9. 環境政策について	97
(1) 環境や環境の取組への関心度	97
(2) 関心がある環境の取組	99
(3) 「脱炭素社会」の認知度	101
(4) 脱炭素社会の実現への取組意向	103
(5) 脱炭素社会の実現に取り組みたくない理由	105
(6) 脱炭素社会の実現につながる行動の実践状況	107
10. 人権全般に関する意識について	113
(1) 基本的人権の意識	113
(2) 人権意識の変化	115
(3) 関心のある人権問題	117
(4) 人権侵害を感じたこと	119
(5) 人権侵害を感じた内容	121
11. 男女共同参画について	123
(1) 男女がともに仕事と家庭を両立するための条件	123
(2) 日常生活のなかでの優先度（希望）	125
(3) 日常生活のなかでの優先度（現実）	127
(4) 日常生活のなかでの優先度（比較）	129
(5) 1日の生活で希望どおりの時間配分ができているか	130
(6) 男女共同参画施設が今後力を入れること	132
12. 行政のデジタル化について	134
(1) デジタル行政サービスで利用したことがあるもの	134
(2) デジタル行政サービスの満足度	136
(3) 行政サービスのデジタル化で期待する分野	138
13. 地域医療体制について	140
(1) 地域医療体制の認知度	140
(2) 医療機関の情報の入手方法	143
14. 介護サービスについて	145
(1) 介護サービスの利用時に事業・事業所・従事者に求めるもの	145

15. 地域活動への参加状況について	148
(1) 地域活動への参加状況	148
16. 相談できる相手や場所について	150
(1) 心配ごとや困りごとを相談できる相手や場所	150
17. 障がいや障がいのある人に対する理解について	152
(1) 障がいや障がいのある人に対する理解の進捗	152
18. キャッシュレス決済について	154
(1) キャッシュレス決済の利用経験	154
(2) 市の窓口等でのキャッシュレス決済の利用経験	156
(3) キャッシュレス決済を利用しない理由	158
19. 自治会について	160
(1) 自治会の加入状況	160
(2) 自治会に加入した理由	162
(3) 参加している自治会活動	164
(4) 自治会に加入して感じている点	166
(5) 自治会に加入しない理由	168
(6) 自治会に加入するために必要だと思うこと	170
(7) 自治会への加入意思	172
(8) 自治会を脱会した理由	174
20. スポーツ・レクリエーションの実施状況について	176
(1) スポーツ・レクリエーション活動の実施状況	176
(2) スポーツ・レクリエーション活動を行った主な理由	178
(3) スポーツ・レクリエーション活動を行っていない理由	180
(4) 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動（比較的軽いスポーツ）	182
(5) 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動（野外活動）	184
(6) 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動（競技的スポーツ）	186
21. 越谷市の施策について	188
(1) よくなってきたと感じるもの	188
(2) 特に力を入れるべきだと思われるもの	191
(3) 自由回答	194

第5章 調査票	199
---------	-----

第 1 章 調査設計

1. 調査実施の目的

本調査は、市民生活の現状、行政への要望及び市政に対する評価の意識を的確に把握するとともに、市民に対する施策の浸透状況を測定し、今後の行政運営等に反映させるための基礎的資料とすることを目的として実施した。

2. 調査手法

- (1) 調査地域：越谷市内全域
- (2) 調査対象：市内在住の18歳以上の男女
- (3) 対象者数：5,000人
- (4) 抽出方法：住民基本台帳より無作為抽出
- (5) 調査方法：郵送法（郵送配布・郵送回収またはインターネット回収）
- (6) 調査期間：令和7年7月22日～令和7年8月5日

3. 回収状況

	票数		回収率
配布数	5,000		
回収数	2,440		48.80%
	うち郵送回収	1,821	36.42% (74.63%)
	うちインターネット回収	619	12.38% (25.37%)
有効回収数	2,440		48.80%

() は回収数に対する郵送、インターネット回収の割合

4. 調査項目

調 査 項 目
(1) 基本属性（問1～問7） (2) 暮らしや居住意向について（問8～問9-2） (3) 越谷市への愛着度と魅力発信について（問10～問12） (4) 広報について（問13～問16-2） (5) 市内の公共交通について（問17～問18） (6) 景観（風景）について（問19～問20） (7) 地場農産物や地産地消について（問21～問22） (8) 参加と協働のまちづくりについて（問23～問26） (9) ひきこもりについて（問27～問29） (10) 環境政策について（問30～問33） (11) 人権全般に関する意識について（問34～問37-2） (12) 男女共同参画について（問38～問41） (13) 行政のデジタル化について（問42～問43） (14) 地域医療体制について（問44～問45） (15) 介護サービスについて（問46） (16) 地域活動への参加状況について（問47） (17) 相談できる相手や場所について（問48） (18) 障がいや障がいのある人に対する理解について（問49） (19) キャッシュレス決済について（問50～問50-3） (20) 自治会について（問51～問51-4） (21) スポーツ・レクリエーションの実施状況について（問52～問53） (22) 越谷市の施策について（問54～問55）

5. 居住地区区分



◆ 居住地区該当町表

地区区分	該当町名
桜井	大字大里、大字下間久里、大字上間久里、大字大泊、大字平方、平方南町、千間台東1～4丁目
新方	大字弥十郎、大字大吉、大字向畑、大字北川崎、大字大杉、大字大松、大字船渡、弥栄町1～4丁目
増林	大字花田、大字増林、大字増森、大字中島、東越谷1～10丁目、中島1～3丁目、増林1～3丁目、増森1～2丁目、花田1～7丁目
大袋	大字恩間、大字大竹、大字大道、大字三野宮、大字恩間新田、大字袋山、大字大林、大字大房、千間台西1～6丁目
荻島	大字野島、大字小曾川、大字砂原、大字南荻島、大字西新井、大字北後谷、大字長島
出羽	宮本町1～5丁目、神明町1～3丁目、谷中町1～4丁目、七左町1・4～8丁目、大間野町1～5丁目、新川町1～2丁目、新越谷2丁目
蒲生	大字蒲生、瓦曾根1～2丁目、南越谷1丁目、登戸町、蒲生東町、蒲生寿町、蒲生旭町、蒲生本町、蒲生西町1～2丁目、蒲生1～4丁目、蒲生愛宕町、蒲生南町、南町1～3丁目
川柳	伊原1～2丁目、川柳町1～5丁目、レイクタウン7丁目
大相模	大字西方、相模町1～5丁目、大成町1～2・6～8丁目、東町1～3・5丁目、相模町6～7丁目、流通団地1～4丁目、西方1～2丁目、レイクタウン1～6・8～9丁目
大沢	大沢、大沢1～4丁目、東大沢1～5丁目
北越谷	北越谷1～5丁目
越ヶ谷	越ヶ谷、越ヶ谷1～5丁目、御殿町、柳町、越ヶ谷本町、中町、弥生町、赤山町1～2丁目、宮前1丁目、赤山本町
南越谷	瓦曾根3丁目、南越谷2～5丁目、蒲生茜町、東柳田町、元柳田町、赤山町3～5丁目、新越谷1丁目

6. 集計結果の誤差比率について

今回のアンケート調査は、その調査対象となる母集団（越谷市全域に住む18歳以上の男女）から一部を抽出した標本（サンプル）の比率、平均、標準偏差などを調べ、これらの値から母集団の比率や平均を推測する、いわゆる「標本調査」を行っている。したがって、調査結果には母集団に対する標本誤差が生じる。

本調査では、母集団の推定において、信頼度を95%として信頼区間を算出しており、その際の標本誤差は以下の数式で統計的に算出できる。

$$b = \pm 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b：信頼度95%の標本誤差

N：母集団のサイズ

n：有効回収数（=2,440）

P：サンプルの回答比率

$$\text{ただし、} \frac{N-n}{N-1} \div 1$$

回答比率(P) 基数(n)	5%または 95%前後	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
10,000	±0.4%	±0.6%	±0.8%	±0.9%	±0.9%	±1.0%
5,000	±0.6%	±0.8%	±1.1%	±1.3%	±1.3%	±1.4%
2,440	±0.9%	±1.2%	±1.6%	±1.8%	±1.9%	±2.0%
2,000	±1.0%	±1.3%	±1.7%	±2.0%	±2.1%	±2.2%
1,000	±1.3%	±1.9%	±2.5%	±2.8%	±3.0%	±3.1%
500	±1.9%	±2.6%	±3.5%	±4.0%	±4.3%	±4.4%
100	±4.3%	±5.9%	±7.8%	±9.0%	±9.6%	±9.8%

（小数点以下第2位を四捨五入）

7. 集計結果の有意性について

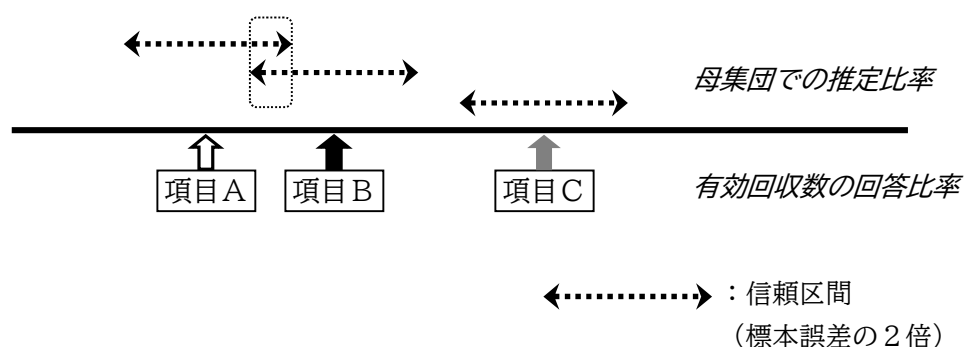
今回のアンケート調査は「標本調査」であり、調査対象となる母集団への標本誤差が必ず生じてくる。その際、どの程度までアンケート調査結果に基づく評価ができるのかという有意性が問題となる。

今回の調査では、有効回収数が2,440票であるため、回答比率がちょうど50%の場合には標本誤差は $\pm 2.0\%$ となっている。つまり、アンケート調査結果で得た50%という集計結果を、実際の母集団にあてはめるには標本誤差 $\pm 2.0\%$ 分の誤差が生じることになる。したがって、母集団の傾向として評価する際には、50%ではなく、 $50 \pm 2.0\%$ ($=48.0\% \sim 52.0\%$) という一定の幅を持った値（信頼区間）として取り扱う必要がある。そして、その信頼区間に基づいて母集団の評価のために、項目間の評価をする場合、少なくとも評価対象となる項目の回答比率の差が4.0%（標本誤差の2倍）以上でなければ意味をなさない（有意性を持たない）ものとなる（下図参照）。

そのため、アンケート調査に有意性を持たせ、母集団へ効果的に反映させるためには、ある程度の回収数が必要とされている。例えば、100票程度の回収数の場合、その調査結果の標本誤差は、回答比率50%において $\pm 9.8\%$ となり、信頼区間は19.6%にも上がってしまう。このような状況では項目間の評価が事実上不可能に近くなり、アンケート調査自体が意味のないものになってしまう。このような事態を招かないためにも、通常の標本調査においては、回収数が1,000票程度は必要であるといえる。

今回のアンケート調査の場合、有効回収数が2,440票であるため、評価にあたっての前提条件はクリアされている。ただし、前述の標本誤差が生じてくるため、評価・分析にあたっては、信頼区間（今回の調査の場合は4.0%程度）未満の差異は切り捨てて考える必要がある。

<項目Bは項目Aよりも有意に高いとはいえない場合>



8. 報告書の見かた

- (1) nは比率算出の基数であり、100%が何人の回答に相当するかを示す。
- (2) 「無回答」はその設問に回答をしなかったものであり、有効票となる。
- (3) 属性別の集計において、全体の調査数には無回答も含まれるため、各属性の調査数の合計は全体の調査数と一致しない。
- (4) 回答はすべて百分率(%)で表し、小数点以下第2位を四捨五入している。そのため、数値の合計は100%を前後する場合がある。
- (5) 複数回答を求める質問の回答については、すべての数値を合計すると100%を超えることがある。
- (6) 複数の選択肢を合計した『○○○』の数値は算出したものであり、図表中の選択肢の数値の合計と一致しない場合がある。
- (7) 図表中の「－」は該当者なしを表す。
- (8) 割合の表記については、下記のとおり。

例 40%台

表記	約4割(4割)	4割強	4割半ば	5割弱	約5割(5割)
範囲	39.0～41.9% (40.0%)	42.0～43.9%	44.0～46.9%	47.0～48.9%	49.0～51.9% (50.0%)

- (9) 文中の「若年層」「中年層」「高齢層」については、下記の年齢層を示す。

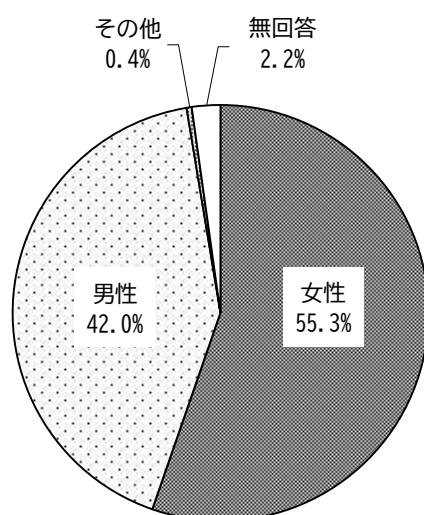
表記	若年層	中年層	高齢層
年齢層	18～29歳	40～49歳	60～69歳
	30～39歳	50～59歳	70歳以上

第2章 調査回答者の属性

1. 回答者の属性

1. 性別

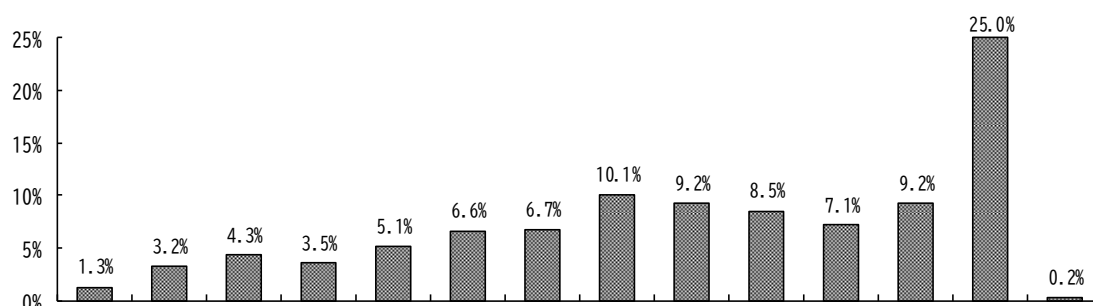
問1. あなたの性別を教えてください。(〇は1つ)



(n=2,440)

2. 年代

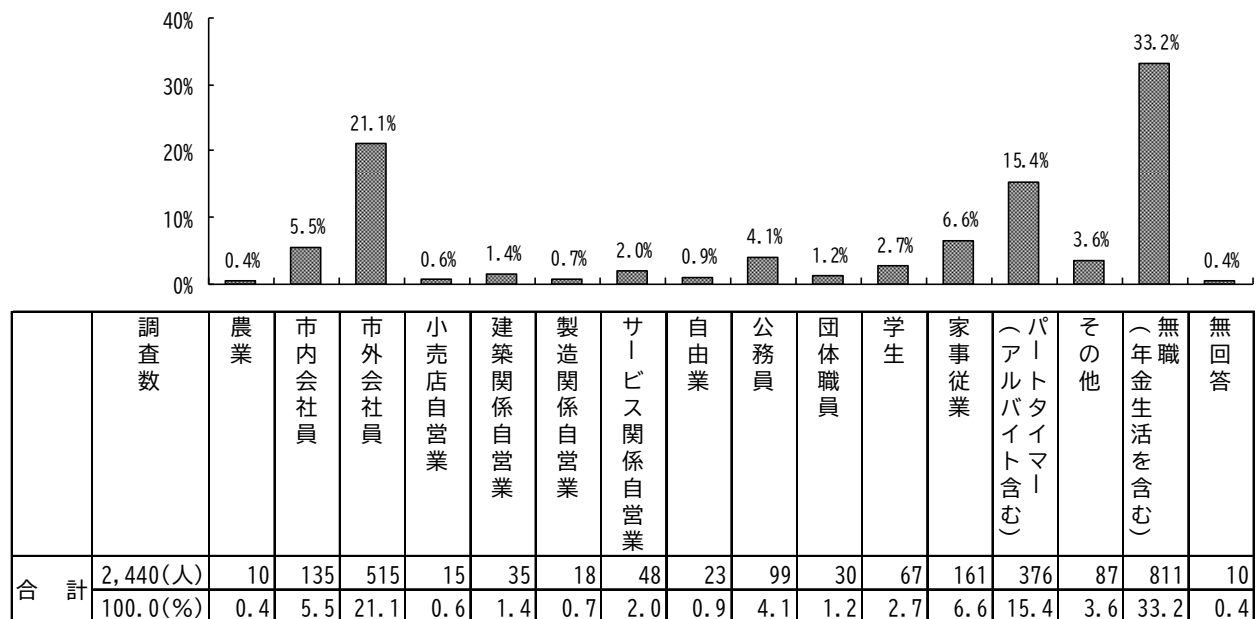
問2. あなたの年齢はどの区分にあてはまりますか。(〇は1つ)



	調査数	18 ～ 19 歳	20 ～ 24 歳	25 ～ 29 歳	30 ～ 34 歳	35 ～ 39 歳	40 ～ 44 歳	45 ～ 49 歳	50 ～ 54 歳	55 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 ～ 74 歳	75歳 以上	無 回 答
合 計	2,440(人)	31	78	105	86	125	161	163	246	224	208	174	224	610	5
	100.0(%)	1.3	3.2	4.3	3.5	5.1	6.6	6.7	10.1	9.2	8.5	7.1	9.2	25.0	0.2
女 性	1,350(人)	18	53	54	52	68	97	91	133	125	99	97	130	332	1
	100.0(%)	1.3	3.9	4.0	3.9	5.0	7.2	6.7	9.9	9.3	7.3	7.2	9.6	24.6	0.1
男 性	1,026(人)	11	25	50	34	57	63	72	110	91	109	76	88	240	0
	100.0(%)	1.1	2.4	4.9	3.3	5.6	6.1	7.0	10.7	8.9	10.6	7.4	8.6	23.4	0.0
その他	10(人)	1	0	1	0	0	1	0	2	4	0	0	0	0	1
	100.0(%)	10.0	0.0	10.0	0.0	0.0	10.0	0.0	20.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0
無回答	54(人)	1	0	0	0	0	0	0	1	4	0	1	6	38	3
	100.0(%)	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.9	7.4	0.0	1.9	11.1	70.4	5.6

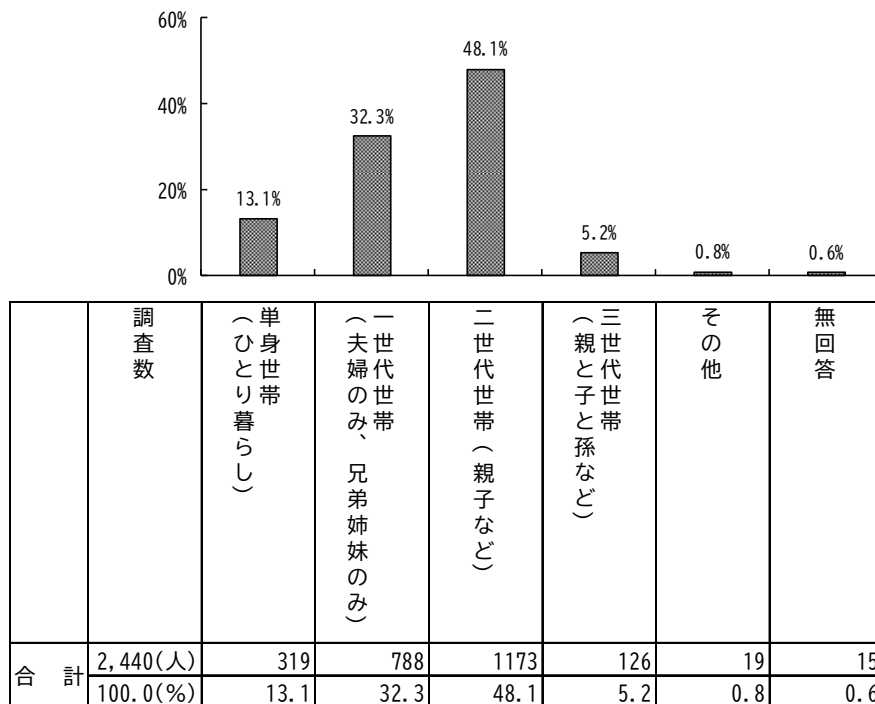
3. 職業

問3. あなたのご職業は次のうちどれに当たりますか。(〇は1つ)



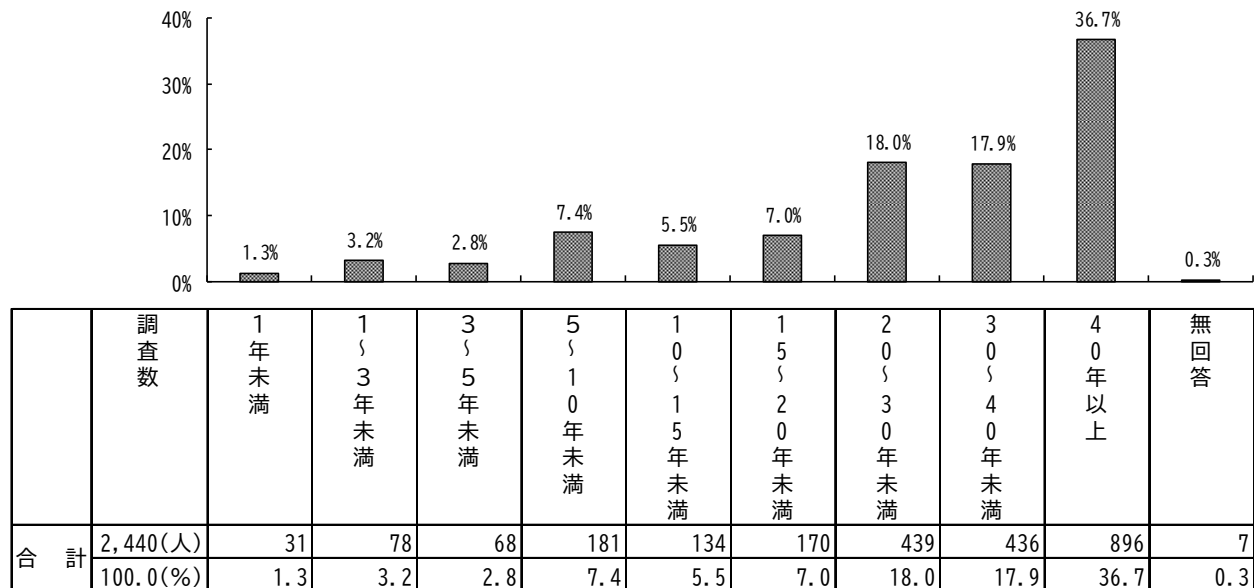
4. 世帯の状況

問4. あなたの世帯は次のうちどれに当たりますか。(〇は1つ)



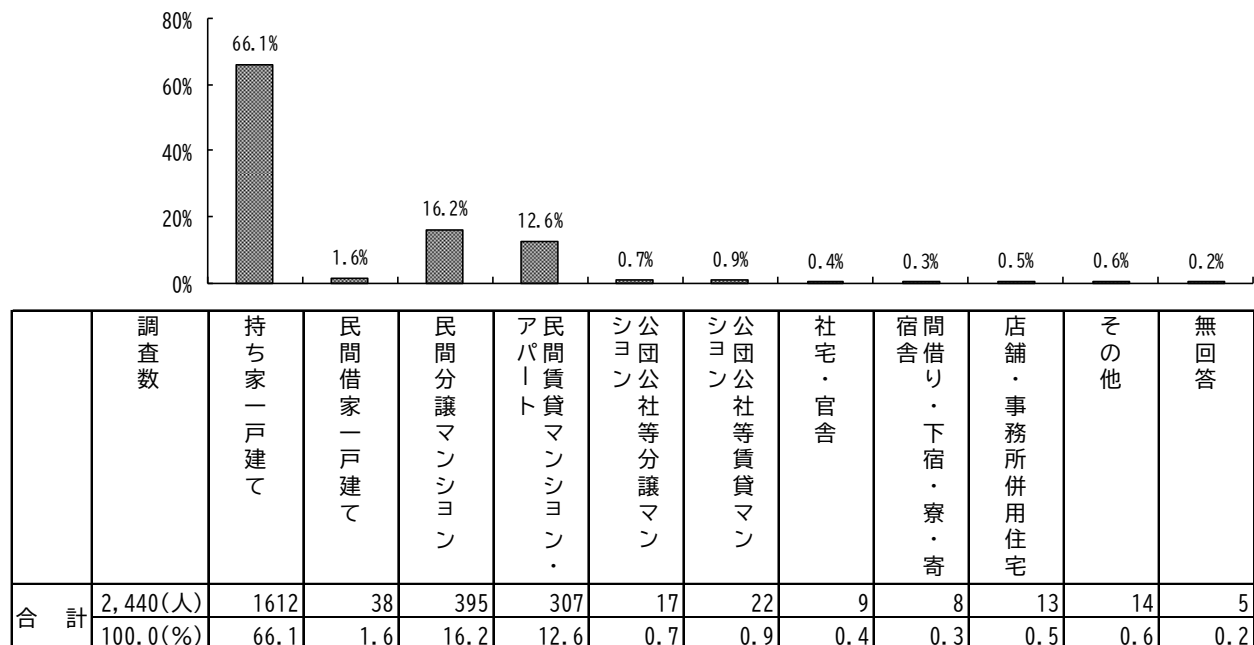
5. 居住年数

問5. あなたは、越谷市に住んでどれくらいになりますか。(〇は1つ)



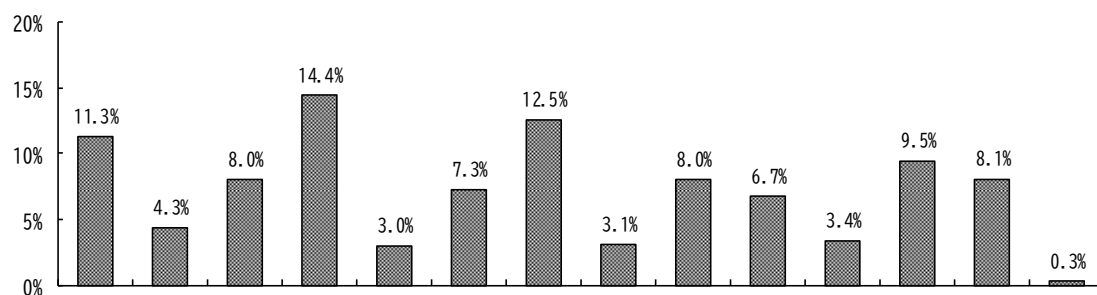
6. 居住形態

問6. あなたのお住まいは次のどれにあたりますか。(〇は1つ)



7. 居住地区

問7. あなたは、どの地区に住んでいますか。(〇は1つ)



	調査数	桜井地区	新方地区	増林地区	大袋地区	荻島地区	出羽地区	蒲生地区	川柳地区	大相模地区	大沢地区	北越谷地区	越ヶ谷地区	南越谷地区	無回答
合 計	2,440(人)	275	106	195	352	74	178	306	76	196	164	83	231	197	7
	100.0(%)	11.3	4.3	8.0	14.4	3.0	7.3	12.5	3.1	8.0	6.7	3.4	9.5	8.1	0.3

第3章 調査結果の概要

1. 暮らしや居住意向について

現在の暮らし向きについては、「十分満足している」と「十分とはいえないが、一応満足している」を合わせた『満足』は6割弱となっている。

今後の居住意向は、「ずっと住み続けたい」と「どちらかといえば住み続けたい」を合わせた『定住意向』は8割弱となっている。

『転居意向』の理由は、「交通の便が悪いので」が2割弱、「現在、住んでいる住宅が狭いので」「付近の生活環境が悪いので」が1割台となっている。

2. 越谷市への愛着度と魅力発信について

越谷市への愛着については、「とても愛着がある」「愛着がある」「やや愛着がある」を合わせた『愛着がある』は7割半ばとなっている。

『愛着がある』理由は、「日常生活における買い物が便利」が約6割、「交通の利便性がよい」「生活全般において不足がない」が5割台となっている。

地域への貢献意欲については、「大いに貢献したい」「貢献したい」「やや貢献したい」を合わせた『貢献したい』は6割弱となっている。

ブランドメッセージ「水遊都市 KOSHIGAYA」の認知度は、「よく知っている」「知っている」「まあまあ知っている」を合わせた『知っている』は4割強となっている。

3. 広報について

市政情報の入手先については、「広報こしがや」が6割強で突出して多くなっている。

「広報こしがや」の媒体は、「紙面」が9割弱で突出して多くなっている。

「広報こしがや」のわかりやすさは、「わかりやすい」と「おおむねわかりやすい」を合わせた『わかりやすい』は約6割となっている。

「広報こしがや」で興味をもった記事は、「医療・健康」が5割弱、「行政サービス（各種相談、支援制度、申請手続きなど）」が約4割となっている。

「広報こしがや」等が役に立ったことがあるかについては、「とても役に立った」「役に立った」「やや役に立った」を合わせた『役に立った』は6割強となっている。

「広報こしがや」等が役に立った点は、「子育てや健康・医療などの暮らしに役立つ情報を知ることができた」が6割弱、「行政情報（行政運営・行政サービス）について知ることができた」「スポーツやグルメ、イベントなどの地域の魅力について知ることができた」が4割台となっている。

4. 市内の公共交通について

鉄道は「常に利用している」が2割半ばで最も多く、「とても満足している」と「やや満足している」を合わせた『満足』は8割強となっている。

バスは「全く利用しない」が4割弱で最も多く、『満足』は5割となっている。

タクシーは「全く利用しない」が5割弱で最も多く、『満足』は約5割となっている。

5. 景観（風景）について

住まいの地区の景観（風景）の満足度については、「満足している」と「十分とはいえないが、おおむね満足している」を合わせた『満足』は約7割となっている。

良い景観（風景）のまちをつくるために行政に望むことは、「良好な景観づくりに役立つ公共事業」が5割、「目標や基本方針を住民に示す」が4割弱となっている。

6. 地場農産物や地産地消について

越谷の農業特産物の認知度は、「いちご」が7割半ば、「ねぎ」が6割半ば、「くわい」が6割弱となっている。

越谷の農業特産物の購入経験は、「ねぎ」が6割半ば、「いちご」が6割強、「小松菜」が約5割となっている。

越谷の農業特産物の購入場所は、「太郎兵衛もち」は「市民まつりなどイベント」、「くわい」「山東菜」は「農産物直売所」、「ねぎ」「いちご」「チューリップ」「小松菜」は「市内スーパーマーケット」がそれぞれ最も多くなっている。

7. 参加と協働のまちづくりについて

「参加と協働のまちづくり」の認知度は、「よく知っている」と「まあまあ知っている」を合わせた『知っている』は1割半ばとなっている。

「参加と協働のまちづくり」を知ったきっかけは、「広報こしがや」が約8割で突出して多くなっている。

「参加と協働のまちづくり」への参加意向は、「参加したい」と「どちらかといえば参加したい」を合わせた『参加したい』は3割半ばとなっている。

「越谷市自治基本条例」の認知度は、「よく知っている」と「まあまあ知っている」を合わせた『知っている』は1割未満となっている。

「越谷市自治基本条例」を知ったきっかけは、「広報こしがや」が7割強で突出して多くなっている。

「越谷市自治基本条例」の普及・啓発方法については、「広報こしがやへの情報掲載」が6割弱、「公共施設等でのポスター掲示」「SNS（XやLINE）による情報発信」が約3割となっている。

8. ひきこもりについて

自身、または家族の中に『ひきこもり』の状態に当てはまる人がいるかどうかについては、「いる」は1割未満となっている。

『ひきこもり』の状態の人の年齢は、「20歳代」「30歳代」「50歳代」が2割弱となっている。

『ひきこもり』の期間は、「10年以上20年未満」が2割半ば、「1年～3年」が約2割となっている。

『ひきこもり』の相談の状況は、「相談したことがある」は約4割となっている。

ひきこもり支援として必要なものは、「ひきこもり支援に関する様々な情報の提供」が約4割、「ひきこもり本人が利用できるフリースペースや居場所づくり」が3割半ばとなっている。

ひきこもり相談窓口の認知度は、「児童相談所」が約3割、「学校・スクールカウンセラー」が3割弱となっている。

9. 環境政策について

環境や環境の取組への関心度については、「関心がある」と「ある程度関心がある」を合わせた『関心がある』は約7割となっている。

『関心がある』項目は、「ごみの減量・リサイクル」が約7割、「地球温暖化対策」「気候変動の影響への対処（熱中症対策等）」が6割台となっている。

「脱炭素社会」の認知度は、「言葉も意味も知っている」「言葉は知っているが、意味はよく分からない」を合わせた『言葉を知っている』は8割半ばとなっている。

脱炭素社会の実現に向けた取組意向については、「積極的に取り組みたい」と「ある程度取り組みたい」を合わせた『取り組みたい』は8割半ばとなっている。

脱炭素社会の実現に取り組みたくない理由は、「地球温暖化への対策としてどれだけ効果があるのかわからない」が約4割、「どのような基準で選択し、どのように取り組めばよいか情報が不足している」が4割弱となっている。

脱炭素社会の実現に向けて「実践している」行動は、「レジ袋等の使用量を削減するため、買い物にはマイバッグやかごを持参する」が8割半ば、「ごみの正しい分別や資源のリサイクルを積極的に行う」が8割強となっている。

10. 人権全般に関する意識について

今の日本社会における基本的人権については、「十分尊重されている」と「やや尊重されている」を合わせた『尊重されている』は6割強となっている。

10年前と比べた人権意識の変化については、「非常に高くなっている」と「やや高くなっている」を合わせた『高くなっている』は5割半ばとなっている。

関心のある人権問題は、「インターネット上における人権問題」が4割半ば、「女性の人権問題」と「高齢者の人権問題」が4割台となっている。

日常生活の中で人権が侵害されたと感じた経験については、「ある」は1割半ばとなっている。

人権が侵害されたと感じた内容は、「あらぬ噂を立てられたり、他人から悪口や陰口を言われた」が約5割、「職場において、不当な待遇や上司の言動を受けた」が4割強となっている。

11. 男女共同参画について

男女がともに仕事と家庭を両立するための条件については、「育児休業・介護休暇制度を利用できる職場環境を整備すること」が約6割、「女性が働くことに対して、家族や周囲の理解と協力があること」、「保育施設や保育時間の延長など、保育内容を充実させること」、「在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること」が3割台となっている。

日常生活の中での優先度については、希望は「家庭生活」が約3割、「仕事」と「家庭生活」の両方が3割弱、現実（現状）は「家庭生活」が3割半ば、「仕事」と「家庭生活」の両方が2割強となっている。また、「仕事」は現実が希望を1割以上上回っている。

1日の生活で希望どおりの時間配分ができているかについては、「そう思う」と「どちらかといえどそう思う」を合わせた『そう思う』は6割弱となっている。

男女共同参画施設が今後力を入れるべきことは、「いつでも誰でも気軽に立ち寄れる交流の場」が4割半ば、「相談事業」、「情報誌や啓発パンフレットなどによる啓発事業」、「相互交流の援助など市民・団体活動の支援」が1割半ばとなっている。

12. 行政のデジタル化について

デジタル行政サービスで利用したことがあるものは、「越谷市公式ホームページ」が4割強、「越谷市電子申請届出サービス（オンライン手続き）」が3割強となっている。

デジタル行政サービスの満足度は、「とても満足」と「満足している」を合わせた『満足』は5割弱となっている。

行政サービスのデジタル化で期待する分野は、「医療」が6割弱、「福祉」が3割強となっている。

13. 地域医療体制について

地域医療体制の認知度は、「利用（実施）したことがある」と「利用（実施）したことはないが知っている」を合わせた『知っている』は、「越谷市夜間急患診療所」が8割強、「休日当番医制度」が8割弱、「埼玉県救急電話相談（＃7119）」が約6割となっている。

医療機関の情報の入手方法は、「インターネットで調べる（越谷市・厚生労働省ホームページを除く）」が約5割、「広報こしがや」が約4割となっている。

14. 介護サービスについて

介護サービス提供者の事業の形態については、「地域に密着した事業展開をしている施設（市内在住者のみ利用できる施設）」が約4割、「どちらでもよい」が約3割、「広く事業展開をしている施設（市内・市外問わずだれでも利用できる施設）」が2割強となっている。

事業の種別については、「施設・居住系サービス（施設に入所して介護を受けるサービス）」が4割強、「訪問系サービス（ホームヘルパーなどに自宅へ来てもらって介護を受けるサービス）」が3割強となっている。

事業所の体制については、「従事者のスキル向上や知識の取得に力を入れている」が約6割、「虐待研修などを行い、虐待発生防止に力を入れている」が2割半ばとなっている。

従事者の資質については、「利用者の話をしっかり聞く」が5割半ば、「介護の経験が豊富」が3割弱となっている。

15. 地域活動への参加状況について

参加している地域活動は、「自治会等の行事」が3割強、「学校等の行事」と「趣味やスポーツのサークルでの活動」が約1割となっている。

16. 相談できる相手や場所について

心配ごとや困りごとを相談できる相手や場所は、「家族や親戚」が約8割、「友人・知人」が6割強となっている。

17. 障がいや障がいのある人に対する理解について

障がいや障がいのある人に対する理解については、「進んだ」と「少し進んだ」を合わせた『進んだ』は5割半ばとなっている。

18. キャッシュレス決済について

キャッシュレス決済の利用経験は、「ある」は8割となっている。

市の窓口等でのキャッシュレス決済の利用経験は、「ある」は2割半ばとなっている。

キャッシュレス決済を利用しない理由は、「詐欺などの犯罪被害が心配だから」が5割弱、「キャッシュレス決済の利用方法がわからないから」が4割強となっている。

19. 自治会について

自治会の加入状況は「加入している」が7割弱、「加入していない」が2割強、「加入していたが脱会した」が1割未満となっている。

自治会に加入した理由は、「加入するのが当然だと思うため」が約6割、「地域の人と触れ合えるため」、「周りの人が加入しているため」、「地域の情報を得ることができるため」が約2割となっている。

参加している自治会活動は、「町内清掃などの環境美化活動」が4割半ば、「お祭りなどの行事」が3割強となっている。

自治会に加入して感じている点については、「地域に顔見知りができ安心感がある」が4割強、「役員就任等への負担感」が約3割となっている。

自治会に加入していない理由は、「加入しなくても困らないため」が3割半ば、「住んでいるマンションなどに自治会がないため」が3割強となっている。

自治会に加入するために必要だと思うことについては、「仕事や家事にゆとりがあること」が5割弱、「参加してみたい魅力的な活動」が3割強となっている。

自治会に加入していない方の加入意思については、「加入したくない」が5割強、「条件が合えば加入してもよい」が3割半ば、「加入したい」が1割未満となっている。

自治会を脱会した理由は、「自治会に加入しているメリットが感じられなかった」が6割半ば、「班長や役員などを引き受けたくなかった」が3割強となっている。

20. スポーツ・レクリエーションの実施状況について

この1年間のスポーツ・レクリエーション活動の実施状況については、「週に3回以上」と「週に1～2回程度」を合わせた『週に1回以上』は4割強、『週に1回以上』と「月に1～3回程度」を合わせた『月に1回以上』は5割半ばとなっている。

スポーツ・レクリエーション活動を行った理由は、「運動不足解消」が7割弱、「健康、体力維持・増進」が5割半ばとなっている。

スポーツ・レクリエーション活動を行っていない理由は、「仕事（家事、育児も含む）や勉強が忙しいから」が4割弱、「年をとったから」が2割半ばとなっている。

今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動については、比較的軽いスポーツは「ウォーキング」が約4割、野外活動は「ハイキング」が2割弱、競技的スポーツは「バドミントン」が約1割となっている。

21. 越谷市の施策について

越谷市の施策について、ここ数年のうちで「よくなってきたと感じるもの」は、「駅周辺の整備」が3割弱、「オンラインで完結できる手続きの充実」と「交通安全対策」が1割半ばとなっている。

今後の市政の中で「特に力を入れるべきだと思われるもの」は、「防犯対策」が4割弱、「水害や地震などの災害対策」が3割弱となっている。

第4章 調査結果の詳細

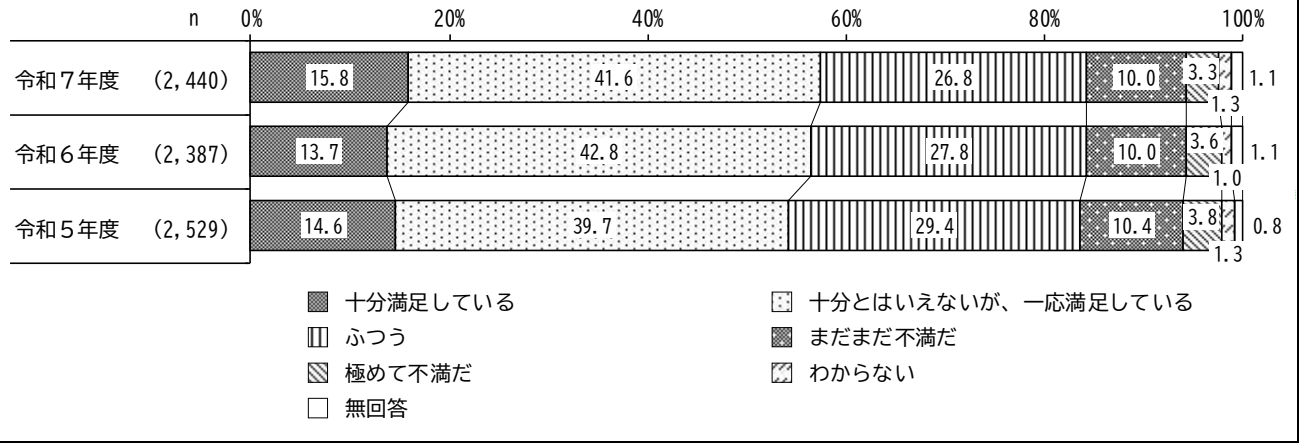
1. 暮らしや居住意向について

(1) 現在の暮らし向き

◇『満足』が6割弱

問8. あなたは現在の暮らし向きについて、どのように思っていますか。(○は1つ)

図表1-1-1 現在の暮らし向き



現在の暮らし向きについては、「十分とはいえないが、一応満足している」(41.6%)が最も多く、次いで「ふつう」(26.8%)、「十分満足している」(15.8%)、「まだまだ不満だ」(10.0%)、「極めて不満だ」(3.3%)の順となっている。「十分満足している」と「十分とはいえないが、一応満足している」を合わせた『満足』(57.4%)は6割弱、「まだまだ不満だ」と「極めて不満だ」を合わせた『不満』(13.4%)は1割強となっている。

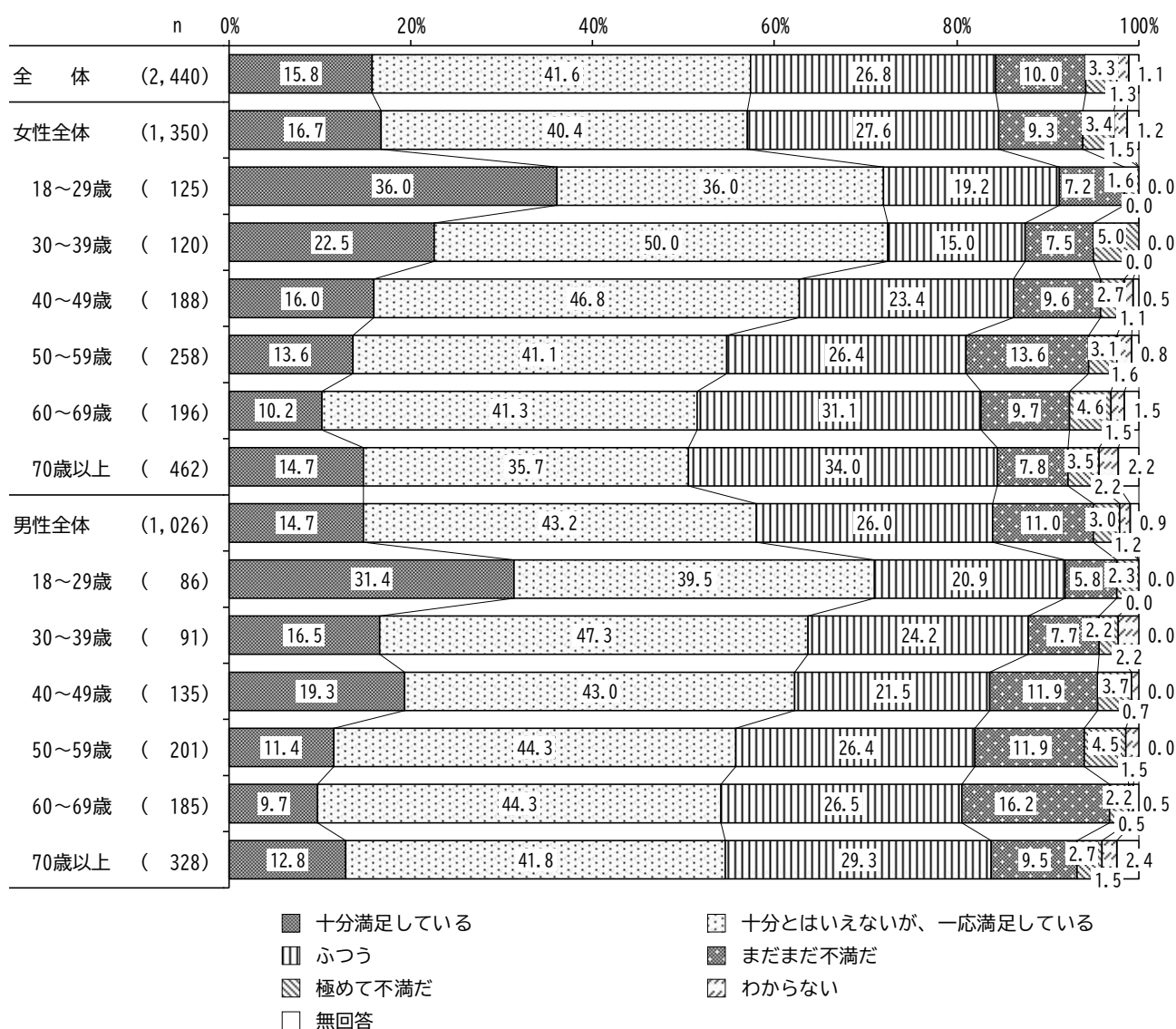
過去2回の調査と比較すると、『満足』は令和6年度(56.6%)から0.8ポイント、令和5年度(54.2%)から3.2ポイント、調査ごとに増加している。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

性別でみると、大きな差はみられない。

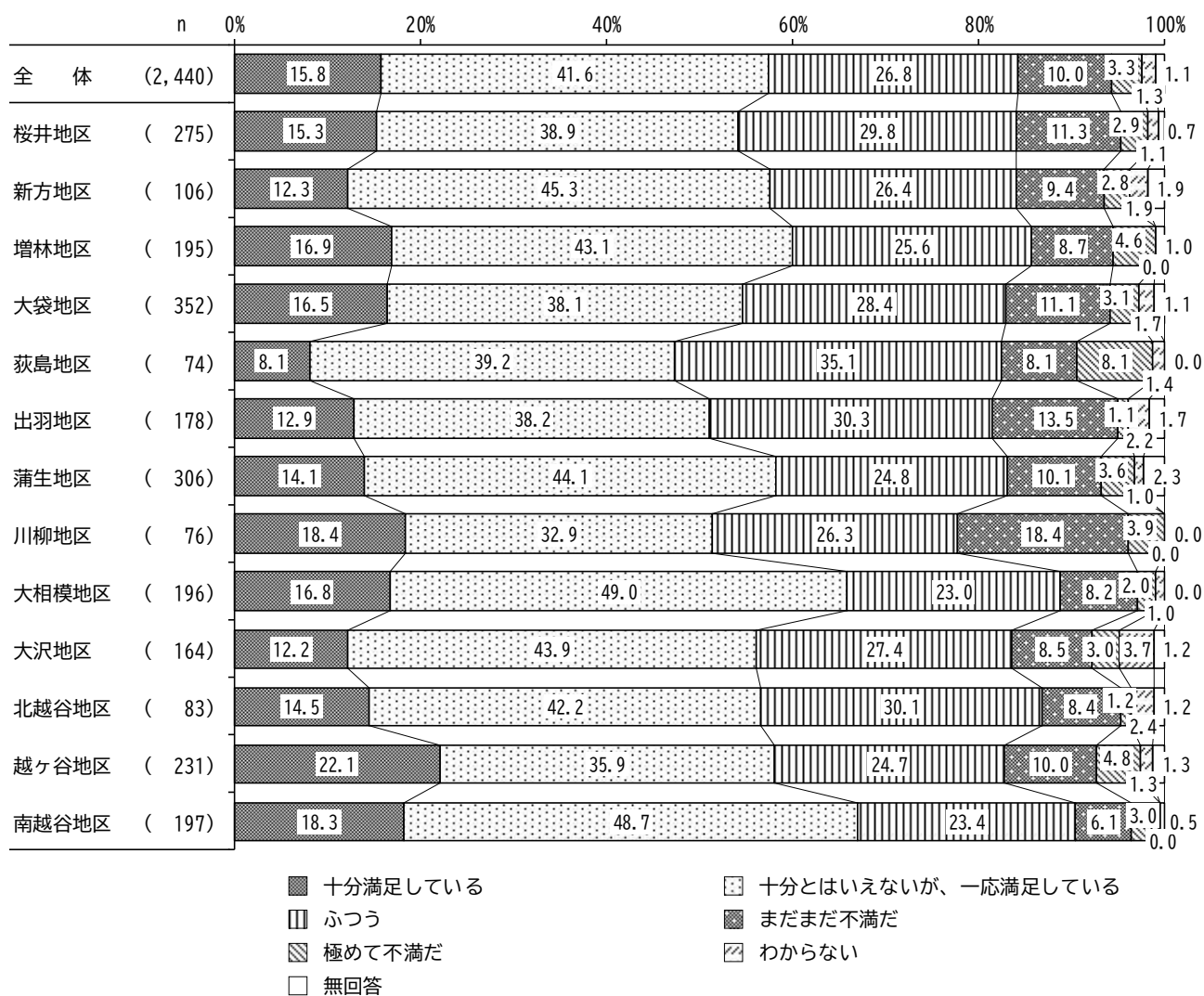
性・年齢別でみると、『満足』は女性 30 歳代以下 (72.0%、72.5%) で 7 割強、男性 18～29 歳 (70.9%) で約 7 割と多くなっている。特に 18～29 歳は「十分満足している」が女性 (36.0%)、男性 (31.4%) とともに 3 割台と、全体を 10 ポイント以上上回っている。一方、50 歳代以上は『満足』が女性 (54.7%、51.5%、50.4%)、男性 (55.7%、54.1%、54.6%) とともに 5 割台となっている。また、『不満』は男性 60 歳代 (18.4%) が最も多く、全体を 5.0 ポイント上回っている。

図表 1-1-2 性・年齢別 現在の暮らし向き



居住地区別でみると、『満足』は南越谷地区（67.0％）が7割弱で最も多く、大相模地区（65.8％）、増林地区（60.0％）も6割台となっている。一方、荻島地区（47.3％）は『満足』が唯一5割を下回っている。また、『不満』は川柳地区（22.4％）が全体を9.0ポイント上回り、最も多くなっている。

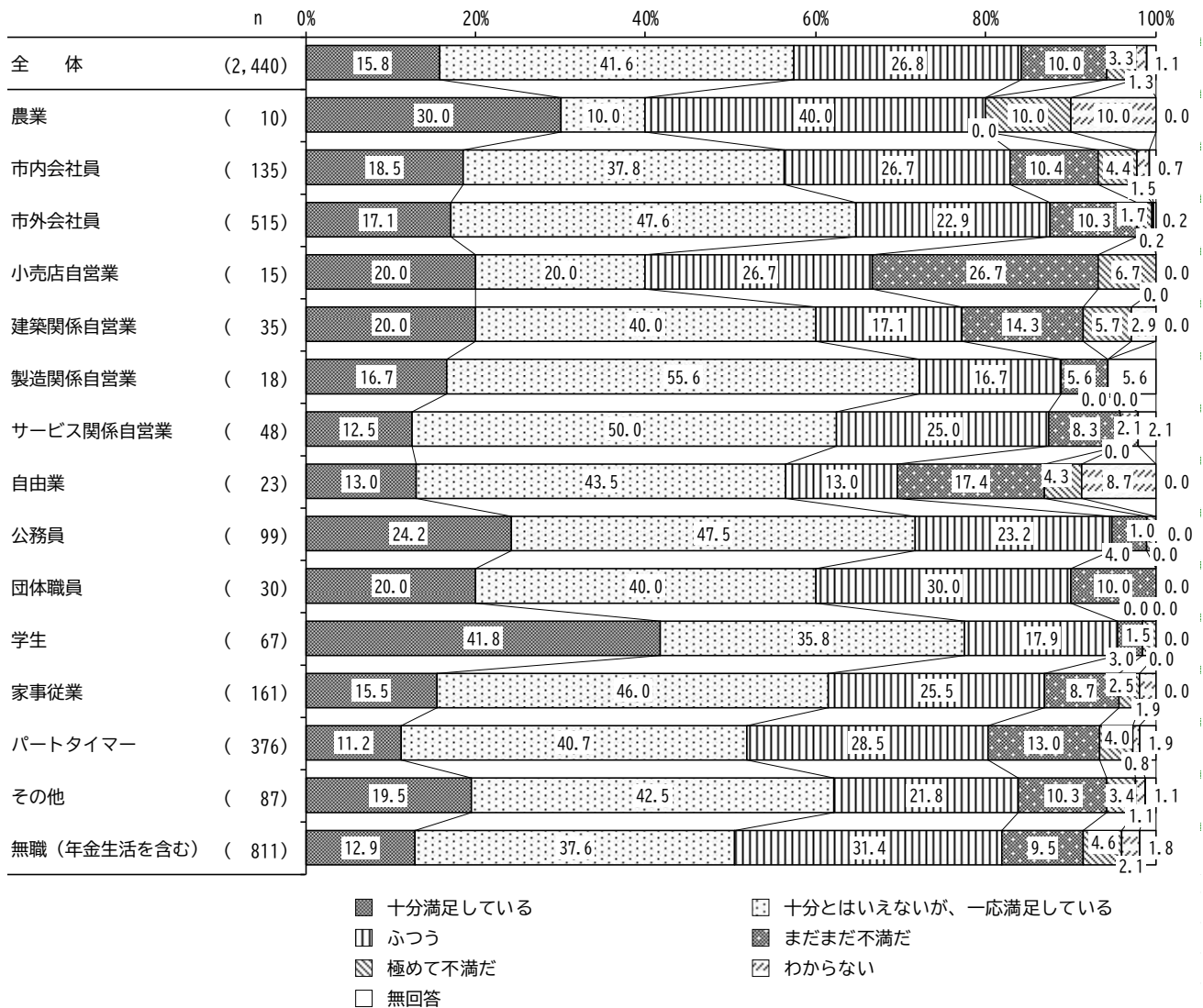
図表1－1－3 居住地区別 現在の暮らし向き



職業別でみると、『満足』は学生（77.6%）が8割弱で最も多く、公務員（71.7%）も約7割となっている。学生は「十分満足している」（41.8%）が全体を26.0ポイント上回っている。一方、『不満』は建築関係自営業（20.0%）で2割となっている。

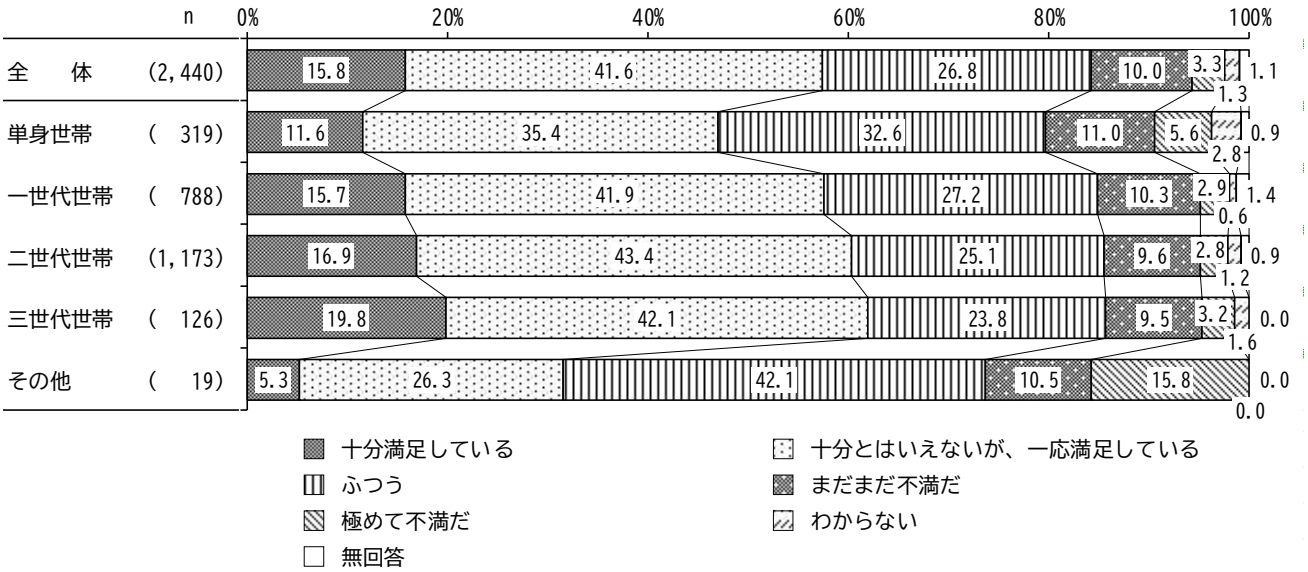
※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については、記述の対象としない。

図表1-1-4 職業別 現在の暮らし向き



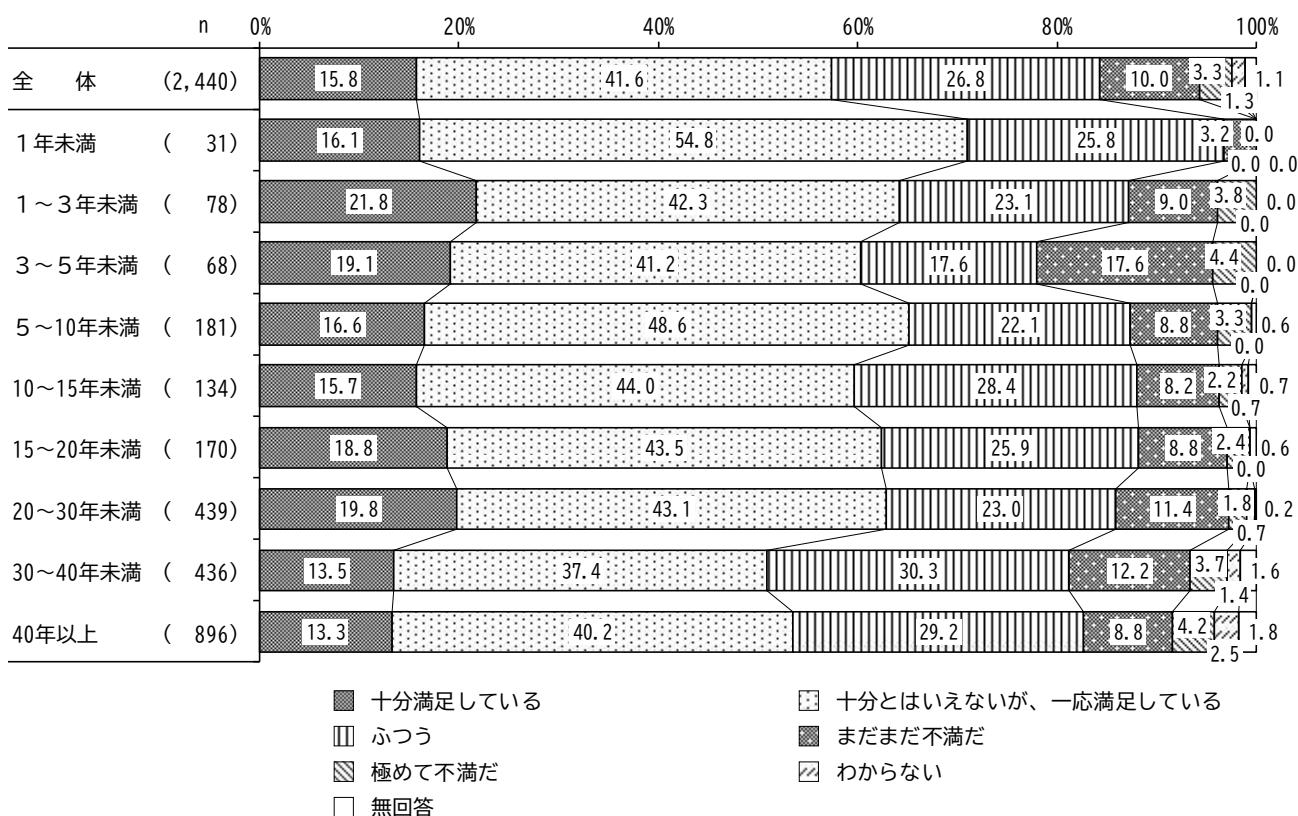
世帯状況別でみると、『満足』は三世帯世帯（61.9%）が約6割で最も多くなっている。一方、単身世帯（47.0%）は5割弱と、全体を10.4ポイント下回っている。

図表1－1－5 世帯状況別 現在の暮らし向き



居住年数別でみると、『満足』は1年未満（71.0%）が約7割で最も多く、全体を13.6ポイント上回っている。一方、30～40年未満（50.9%）は約5割、40年以上（53.5%）も全体を下回っている。また、『不満』は3～5年未満（22.1%）が2割強で最も多くなっている。

図表1-1-6 居住年数別 現在の暮らし向き

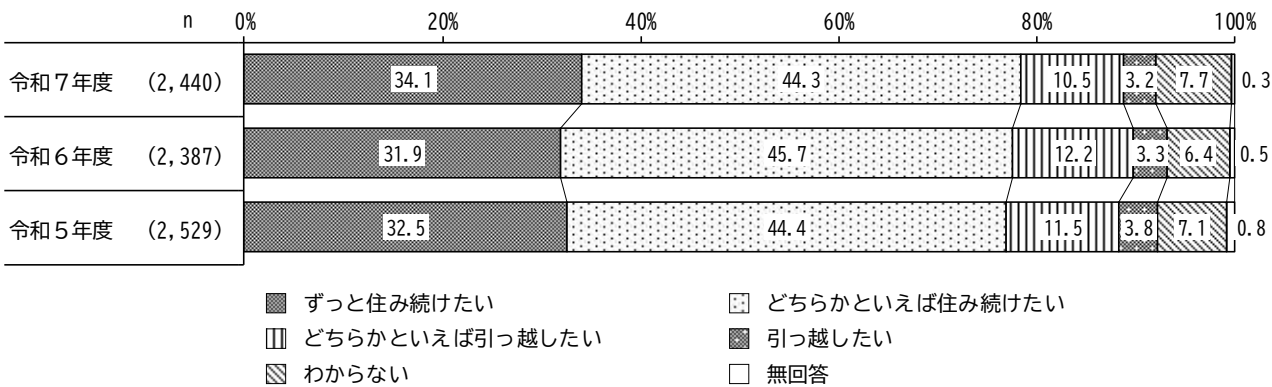


(2) 居住意向

◇『定住意向』が8割弱

問9. あなたは今後も、現在のところに住み続けたいと思いますか。(○は1つ)

図表1-2-1 居住意向



今後の居住意向については、「どちらかといえば住み続けたい」(44.3%)が最も多く、次いで「ずっと住み続けたい」(34.1%)、「どちらかといえば引っ越したい」(10.5%)、「引っ越したい」(3.2%)の順となっている。「ずっと住み続けたい」と「どちらかといえば住み続けたい」を合わせた『定住意向』(78.3%)は8割弱、「どちらかといえば引っ越したい」と「引っ越したい」を合わせた『転居意向』(13.6%)は1割強となっている。

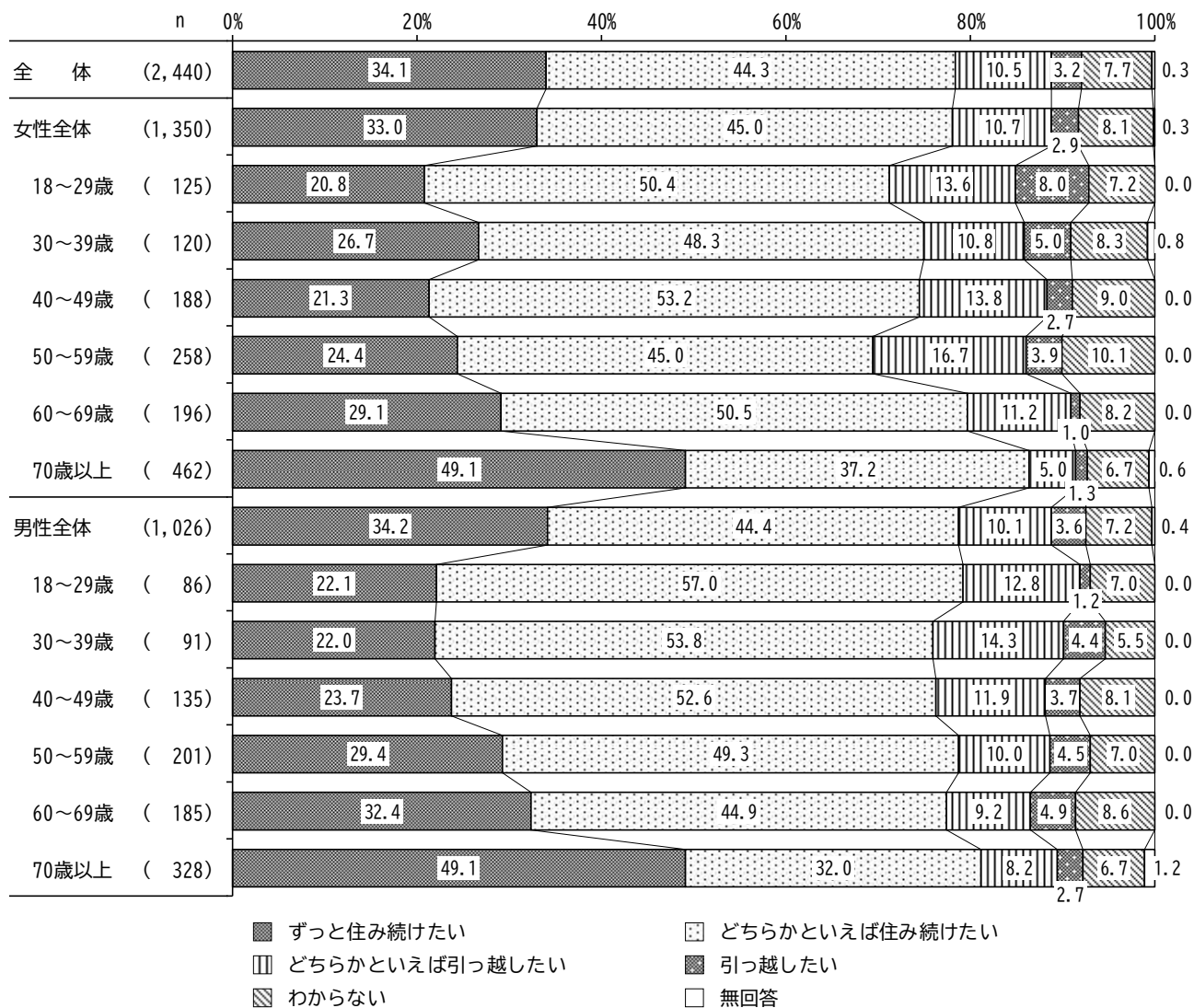
過去2回の調査と比較すると、『定住意向』『転居意向』とも概ね同様の傾向となっている。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

性別でみると、大きな差はみられない。

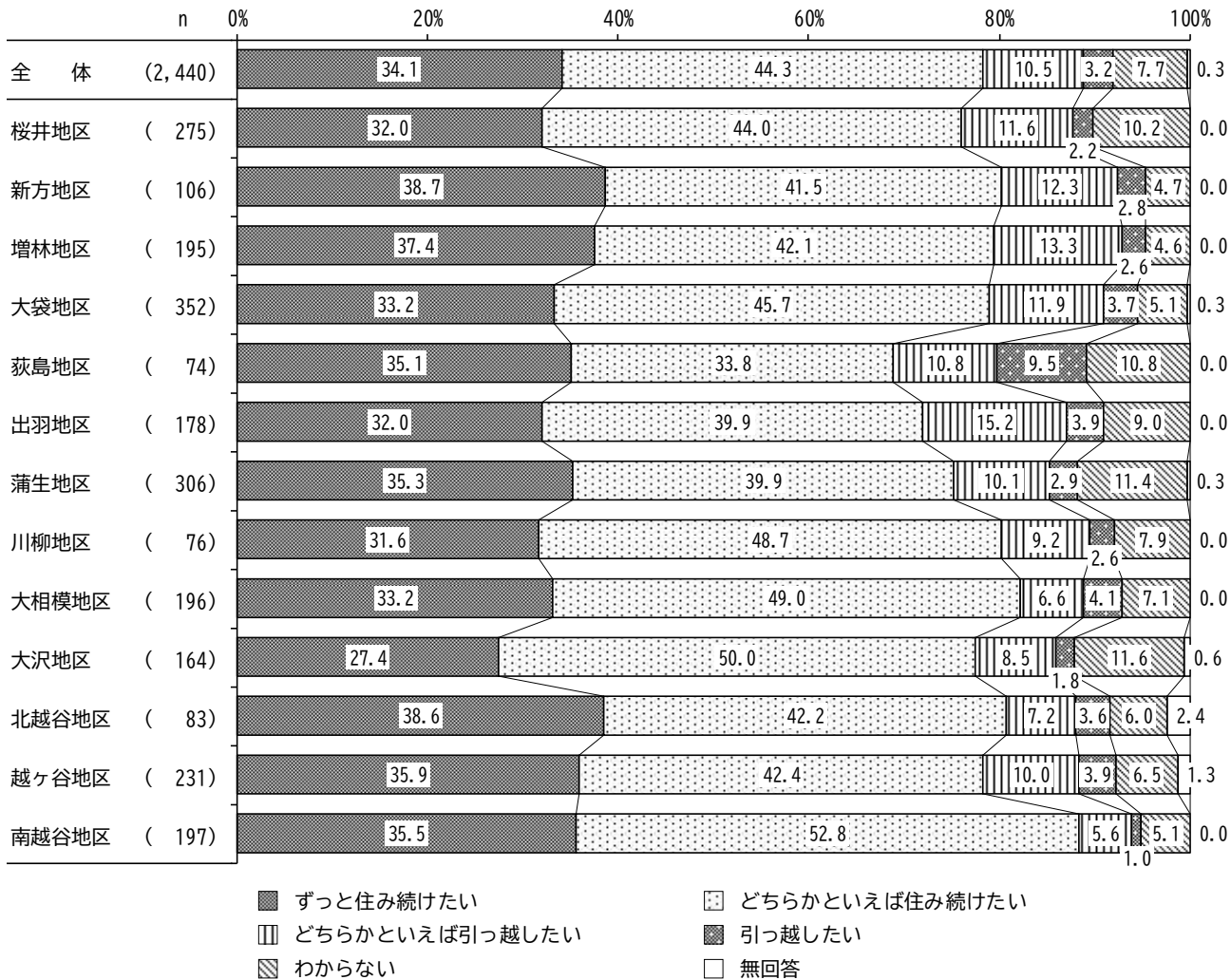
性・年齢別でみると、『定住意向』は70歳以上で女性（86.4%）、男性（81.1%）とも最も多くなっている。一方、女性18～29歳（71.2%）、女性50歳代（69.4%）は『定住意向』が約7割と、全体を7ポイント以上下回っている。また、『転居意向』は女性18～29歳（21.6%）、50歳代（20.5%）で2割台と多くなっている。

図表1-2-2 性・年齢別 居住意向



居住地区別でみると、『定住意向』は南越谷地区（88.3%）が9割弱で最も多く、大相模地区（82.1%）、北越谷地区（80.7%）、川柳地区（80.3%）、新方地区（80.2%）も8割台となっている。一方、荻島地区（68.9%）は『定住意向』が唯一7割未満となっており、出羽地区（71.9%）も全体を6.4ポイント下回っている。また、『転居意向』は荻島地区（20.3%）、出羽地区（19.1%）で約2割となっている。

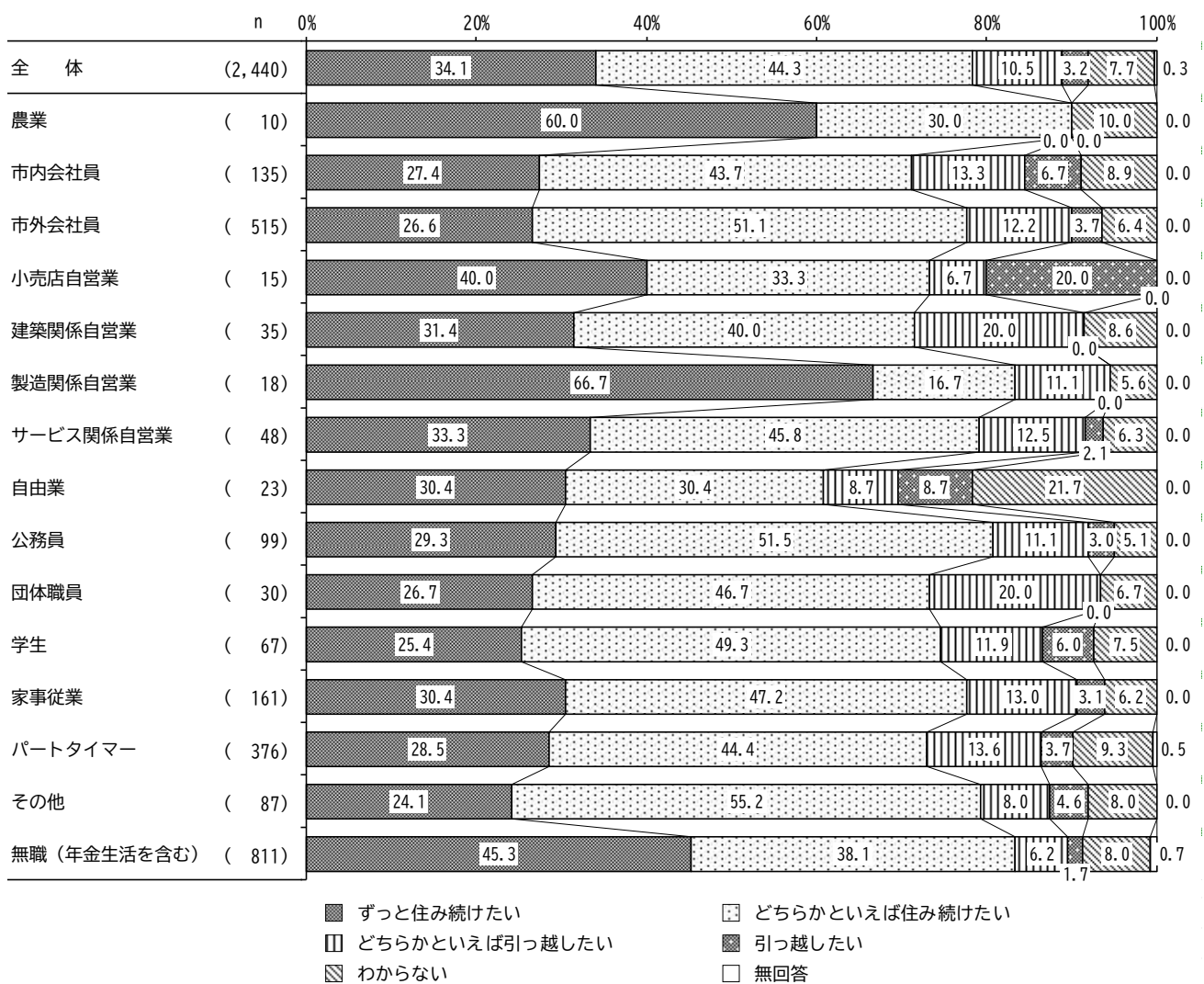
図表1－2－3 居住地区別 居住意向



職業別でみると、『定住意向』は無職（年金生活を含む）（83.4%）、公務員（80.8%）などで8割台と多くなっている。一方、市内会社員（71.1%）、建築関係自営業（71.4%）、パートタイマー（72.9%）、団体職員（73.3%）などは、全体を5ポイント以上下回っている。また、『転居意向』は市内会社員（20.0%）、建築関係自営業（20.0%）、団体職員（20.0%）で2割となっている。

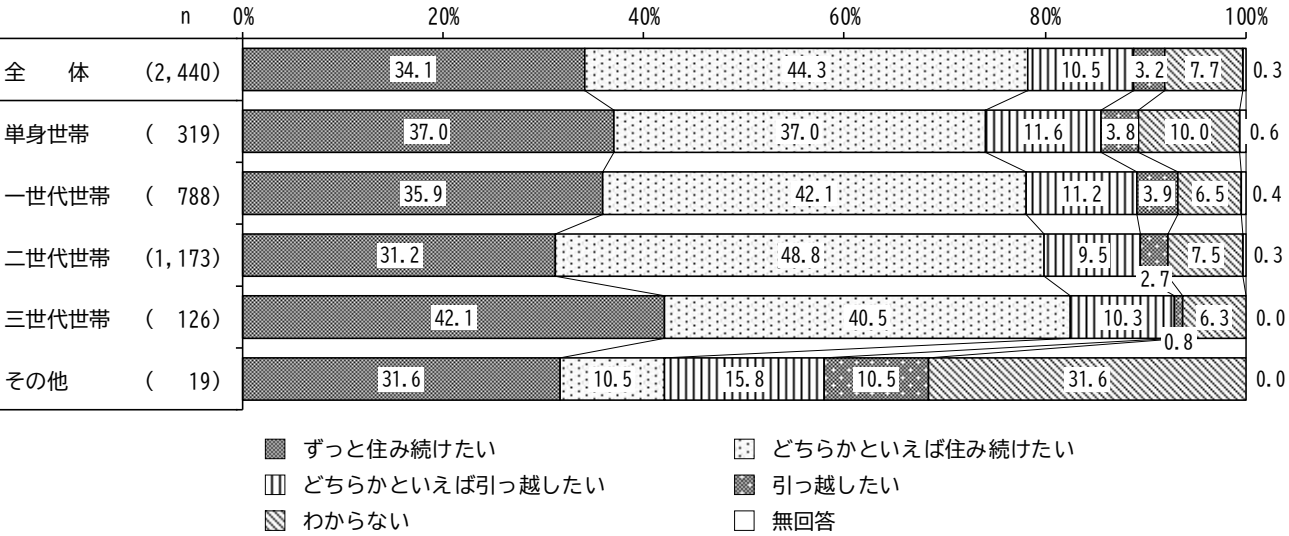
※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については、記述の対象としない。

図表1-2-4 職業別 居住意向



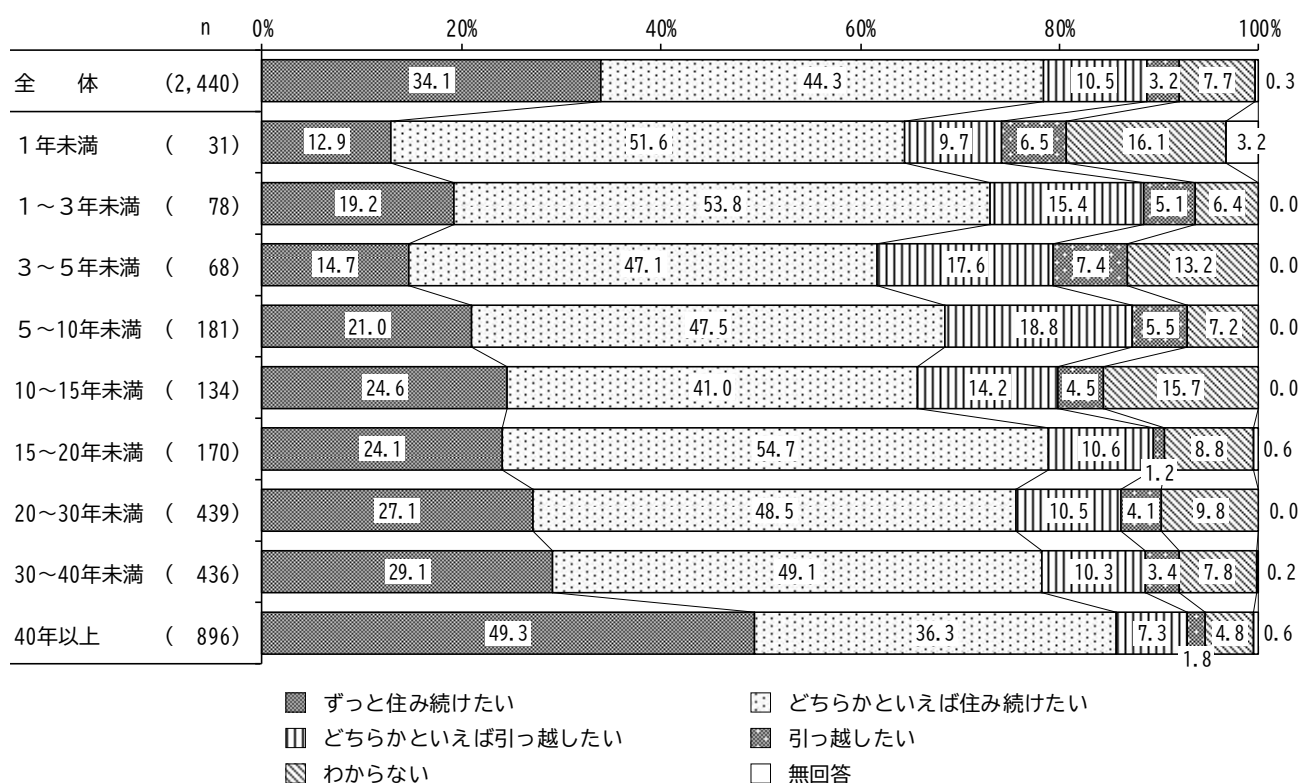
世帯状況別でみると、『定住意向』は三世代世帯（82.5％）が8割強で最も高く、二世代世帯（80.0％）も8割となっている。一方、単身世帯（74.0％）は全体を4.3ポイント下回っている。

図表1－2－5 世帯状況別 居住意向



居住年数別でみると、『定住意向』は40年以上(85.6%)が8割半ばで最も多く、15～20年未満(78.8%)、30～40年未満(78.2%)も8割弱となっている。一方、3～5年未満(61.8%)、1年未満(64.5%)、10～15年未満(65.7%)は全体を1割以上下回っている。また、『転居意向』は3～5年未満(25.0%)が2割半ばで最も多く、5～10年未満(24.3%)、1～3年未満(20.5%)も2割台となっている。

図表1-2-6 居住年数別 居住意向

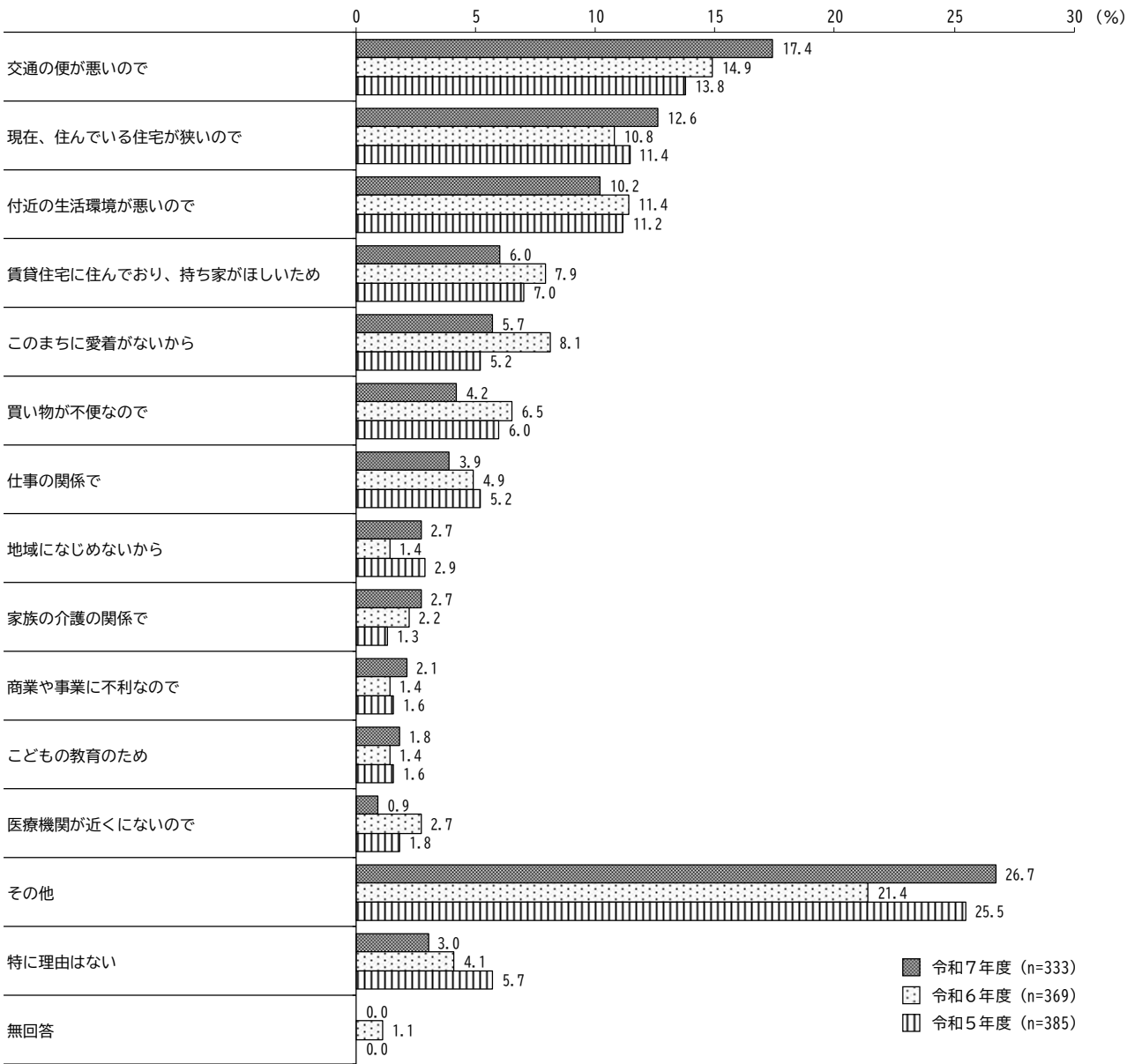


(3) 転居意向の理由

◇「交通の便が悪いので」が最も多く、2割弱

問9-2. 問9で「3」または「4」と答えた方(引っ越したいと答えた方)に伺います。
引っ越したいと思われる主な理由は何ですか。(〇は1つ)

図表1-3-1 転居意向の理由



『転居意向』のある 333 人に引っ越したいと思う主な理由を聞いたところ、「交通の便が悪いので」(17.4%) が最も多く、次いで「現在、住んでいる住宅が狭いので」(12.6%)、「付近の生活環境が悪いので」(10.2%)、「賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため」(6.0%)、「このまちに愛着がないから」(5.7%) の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、「交通の便が悪いので」は令和6年度(14.9%)から2.5ポイント、令和5年度(13.8%)から3.6ポイント、調査ごとに増加している。

性別でみると、女性は「交通の便が悪いので」(22.3%)、男性は「現在、住んでいる住宅が狭いので」(12.8%)が最も多く、「交通の便が悪いので」は女性が男性を11.7ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、女性40歳代は「交通の便が悪いので」(25.8%)が2割半ば、「現在、住んでいる住宅が狭いので」(19.4%)が約2割と多くなっている。また、男性70歳以上は「地域になじめないから」(8.3%)が全体を5.6ポイント上回っている。。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については、記述の対象としない。

図表1-3-2 性・年齢別 転居意向の理由

	調査数(人)	交通の便が悪いので	現在、住んでいる住宅が狭いので	付近の生活環境が悪いので	賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため	このまちに愛着がないから	買い物が不便なので	仕事の関係で	地域になじめないから	家族の介護の関係で	商業や事業に不利なので	こどもの教育のため	医療機関が近くにない	その他	特に理由はない	無回答
全 体	333	17.4	12.6	10.2	6.0	5.7	4.2	3.9	2.7	2.7	2.1	1.8	0.9	26.7	3.0	-
女性全体	184	22.3	13.0	11.4	6.0	5.4	4.9	3.3	1.1	2.7	1.1	1.6	1.1	23.4	2.7	-
18～29歳	27	22.2	14.8	18.5	11.1	7.4	-	7.4	-	-	-	-	-	14.8	3.7	-
30～39歳	19	15.8	26.3	10.5	5.3	-	5.3	10.5	-	-	-	5.3	-	21.1	-	-
40～49歳	31	25.8	19.4	12.9	6.5	3.2	-	-	3.2	3.2	-	6.5	3.2	16.1	-	-
50～59歳	53	18.9	13.2	9.4	1.9	3.8	7.5	3.8	-	5.7	1.9	-	-	30.2	3.8	-
60～69歳	24	16.7	4.2	-	12.5	16.7	-	-	4.2	4.2	4.2	-	4.2	33.3	-	-
70歳以上	29	34.5	3.4	17.2	3.4	3.4	13.8	-	-	-	-	-	-	20.7	3.4	-
男性全体	141	10.6	12.8	8.5	6.4	5.7	3.5	5.0	4.3	2.8	2.8	2.1	0.7	31.2	3.5	-
18～29歳	12	-	25.0	8.3	8.3	16.7	-	8.3	8.3	-	-	-	-	16.7	8.3	-
30～39歳	17	11.8	11.8	17.6	5.9	11.8	-	-	-	-	5.9	11.8	-	23.5	-	-
40～49歳	21	4.8	23.8	9.5	4.8	-	-	19.0	4.8	-	-	4.8	-	28.6	-	-
50～59歳	29	10.3	13.8	6.9	6.9	-	3.4	6.9	-	6.9	3.4	-	-	41.4	-	-
60～69歳	26	11.5	11.5	3.8	11.5	7.7	3.8	-	3.8	3.8	7.7	-	-	30.8	3.8	-
70歳以上	36	16.7	2.8	8.3	2.8	5.6	8.3	-	8.3	2.8	-	-	2.8	33.3	8.3	-

居住地区別でみると、増林地区は「交通の便が悪いので」(32.3%)が3割強と全体を14.9ポイント上回り、出羽地区(23.5%)も2割強と多くなっている。また、「現在、住んでいる住宅が狭いので」は蒲生地区(20.0%)、「付近の生活環境が悪いので」は出羽地区(17.6%)、大袋地区(16.4%)などで多くなっている。

※調査数が少ないもの(本調査では30人未満とする)については、記述の対象としない。

図表1-3-3 居住地区別 転居意向の理由

		(%)														
	調査数(人)	交通の便が悪いので	現在、住んでいる住宅が狭いので	付近の生活環境が悪いので	賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため	このまちに愛着がないから	買い物が不便なので	仕事の関係で	地域になじめないから	家族の介護の関係で	商業や事業に不利なので	こどもの教育のため	医療機関が近くにない	その他	特に理由はない	無回答
全 体	333	17.4	12.6	10.2	6.0	5.7	4.2	3.9	2.7	2.7	2.1	1.8	0.9	26.7	3.0	-
桜井地区	38	13.2	13.2	10.5	2.6	2.6	5.3	2.6	2.6	2.6	2.6	-	-	39.5	2.6	-
新方地区	16	37.5	-	6.3	12.5	6.3	6.3	6.3	-	-	6.3	-	-	12.5	6.3	-
増林地区	31	32.3	9.7	-	-	6.5	6.5	-	3.2	6.5	-	-	-	29.0	6.5	-
大袋地区	55	16.4	10.9	16.4	1.8	7.3	5.5	5.5	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	23.6	3.6	-
荻島地区	15	26.7	6.7	-	6.7	13.3	13.3	-	-	-	6.7	-	6.7	20.0	-	-
出羽地区	34	23.5	5.9	17.6	2.9	2.9	-	2.9	8.8	5.9	2.9	-	-	26.5	-	-
蒲生地区	40	12.5	20.0	7.5	5.0	7.5	2.5	2.5	5.0	2.5	2.5	2.5	-	27.5	2.5	-
川柳地区	9	22.2	11.1	22.2	-	-	-	11.1	-	-	-	-	-	33.3	-	-
大相模地区	21	19.0	19.0	9.5	19.0	-	4.8	-	-	-	-	9.5	-	14.3	4.8	-
大沢地区	17	-	11.8	5.9	11.8	-	5.9	-	-	-	-	5.9	5.9	47.1	5.9	-
北越谷地区	9	-	22.2	11.1	11.1	11.1	-	11.1	11.1	-	-	-	-	22.2	-	-
越ヶ谷地区	32	3.1	15.6	9.4	6.3	12.5	3.1	9.4	-	3.1	3.1	3.1	-	28.1	3.1	-
南越谷地区	13	23.1	23.1	15.4	15.4	-	-	7.7	-	7.7	-	-	-	7.7	-	-

職業別でみると、無職（年金生活を含む）は「交通の便が悪いので」（28.1％）が3割弱と全体を10.7ポイント上回り、「買い物が不便なので」（9.4％）も全体を5.2ポイント上回っている。また、市外会社員は「交通の便が悪いので」（20.7％）、パートタイマーは「現在、住んでいる住宅が狭いので」（18.5％）が最も多くなっている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については、記述の対象としない。

図表1－3－4 職業別 転居意向の理由

	調査数（人）	交通の便が悪いので	現在、住んでいる住宅が狭いので	付近の生活環境が悪いので	賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため	このまちに愛着がないから	買い物が不便なので	仕事の関係で	地域になじめないから	家族の介護の関係で	商業や事業に不利なので	こどもの教育のため	医療機関が近くにない	その他	特に理由はない	無回答
全 体	333	17.4	12.6	10.2	6.0	5.7	4.2	3.9	2.7	2.7	2.1	1.8	0.9	26.7	3.0	-
農業	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
市内会社員	27	7.4	25.9	3.7	11.1	-	3.7	-	3.7	3.7	3.7	3.7	-	29.6	3.7	-
市外会社員	82	20.7	12.2	12.2	7.3	9.8	1.2	9.8	1.2	1.2	1.2	2.4	-	20.7	-	-
小売店自営業	4	25.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-	25.0	-	-	-	-	-
建築関係自営業	7	-	-	14.3	14.3	-	-	-	-	14.3	-	-	-	57.1	-	-
製造関係自営業	2	50.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
サービス関係自営業	7	-	-	-	14.3	14.3	-	14.3	-	-	14.3	14.3	-	14.3	14.3	-
自由業	4	25.0	-	-	-	-	-	-	25.0	-	-	-	-	50.0	-	-
公務員	14	14.3	7.1	-	-	14.3	7.1	-	-	14.3	-	14.3	-	28.6	-	-
団体職員	6	-	16.7	16.7	16.7	-	16.7	16.7	-	-	-	-	-	16.7	-	-
学生	12	33.3	8.3	16.7	-	8.3	-	8.3	8.3	-	-	-	-	16.7	-	-
家事従業	26	7.7	15.4	23.1	11.5	3.8	7.7	-	-	-	3.8	-	-	15.4	11.5	-
パートタイマー	65	12.3	18.5	9.2	4.6	6.2	3.1	1.5	1.5	3.1	1.5	-	3.1	33.8	1.5	-
その他	11	9.1	-	9.1	9.1	-	-	9.1	9.1	-	-	-	-	45.5	9.1	-
無職（年金生活を含む）	64	28.1	4.7	9.4	1.6	3.1	9.4	-	4.7	3.1	1.6	-	1.6	28.1	4.7	-

世帯状況別でみると、単身世帯、一世代世帯、二世帯世帯は「交通の便が悪いので」（16.3%、18.5%、16.7%）が最も多く、大きな差はみられない。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については、記述の対象としない。

図表1-3-5 世帯状況別 転居意向の理由

		(%)														
	調査数（人）	交通の便が悪いので	現在、住んでいる住宅が狭いので	付近の生活環境が悪いので	賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため	このまちに愛着がないから	買い物が不便なので	仕事の関係で	地域になじめないから	家族の介護の関係で	商業や事業に不利なので	こどもの教育のため	医療機関が近くにない	その他	特に理由はない	無回答
全 体	333	17.4	12.6	10.2	6.0	5.7	4.2	3.9	2.7	2.7	2.1	1.8	0.9	26.7	3.0	-
単身世帯	49	16.3	14.3	6.1	6.1	4.1	8.2	4.1	4.1	6.1	2.0	-	-	26.5	2.0	-
一世代世帯	119	18.5	11.8	8.4	9.2	6.7	4.2	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	29.4	1.7	-
二世帯世帯	144	16.7	11.8	13.2	2.8	6.3	2.8	6.3	3.5	2.8	2.8	2.8	0.7	23.6	4.2	-
三世帯世帯	14	21.4	21.4	7.1	7.1	-	7.1	-	-	-	-	-	-	28.6	7.1	-
その他	5	-	20.0	20.0	20.0	-	-	-	-	-	-	-	-	40.0	-	-

居住年数別でみると、5～10年未満は「現在、住んでいる住宅が狭いので」（18.2％）が全体を5.6ポイント上回り、「交通の便が悪いので」（18.2％）と同率で最も多くなっている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については、記述の対象としない。

図表1－3－6 居住年数別 転居意向の理由

(%)

	調査数（人）	交通の便が悪いので	現在、住んでいる住宅が狭いので	付近の生活環境が悪いので	賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため	このまちに愛着がないから	買い物が不便なので	仕事の関係で	地域になじめないから	家族の介護の関係で	商業や事業に不利なので	こどもの教育のため	医療機関が近くにない	その他	特に理由はない	無回答
全 体	333	17.4	12.6	10.2	6.0	5.7	4.2	3.9	2.7	2.7	2.1	1.8	0.9	26.7	3.0	-
1年未満	5	-	20.0	40.0	20.0	-	-	-	-	-	20.0	-	-	-	-	-
1～3年未満	16	18.8	12.5	12.5	12.5	6.3	6.3	-	-	-	-	-	-	31.3	-	-
3～5年未満	17	23.5	5.9	17.6	11.8	-	-	5.9	-	-	-	11.8	-	23.5	-	-
5～10年未満	44	18.2	18.2	11.4	9.1	6.8	4.5	2.3	4.5	2.3	-	6.8	-	15.9	-	-
10～15年未満	25	12.0	16.0	8.0	8.0	12.0	-	4.0	4.0	8.0	-	-	-	28.0	-	-
15～20年未満	20	15.0	10.0	15.0	-	15.0	10.0	5.0	-	-	-	-	-	30.0	-	-
20～30年未満	64	18.8	12.5	4.7	3.1	3.1	3.1	7.8	3.1	1.6	1.6	-	1.6	32.8	6.3	-
30～40年未満	60	13.3	11.7	8.3	5.0	10.0	5.0	3.3	3.3	1.7	1.7	-	1.7	28.3	6.7	-
40年以上	81	19.8	11.1	11.1	4.9	1.2	4.9	2.5	2.5	4.9	4.9	1.2	1.2	27.2	2.5	-

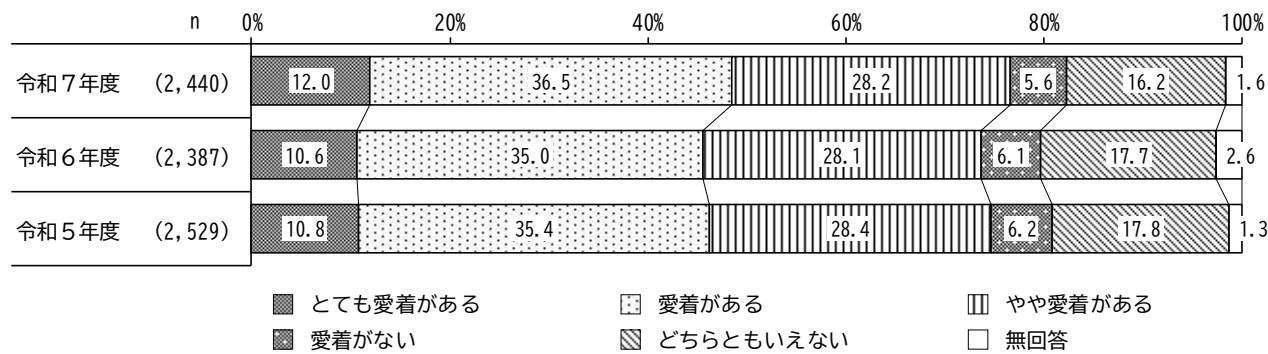
2. 越谷市への愛着度と魅力発信について

(1) 越谷市への愛着

◇『愛着がある』が7割半ば

問 10. あなたは、越谷市に対して、どのくらい愛着がありますか。(〇は1つ)

図表2-1-1 越谷市への愛着



越谷市への愛着については、「愛着がある」(36.5%)が最も多く、次いで「やや愛着がある」(28.2%)、「どちらともいえない」(16.2%)、「とても愛着がある」(12.0%)、「愛着がない」(5.6%)となっている。「とても愛着がある」「愛着がある」「やや愛着がある」を合わせた『愛着がある』(76.6%)は7割半ばとなっている。

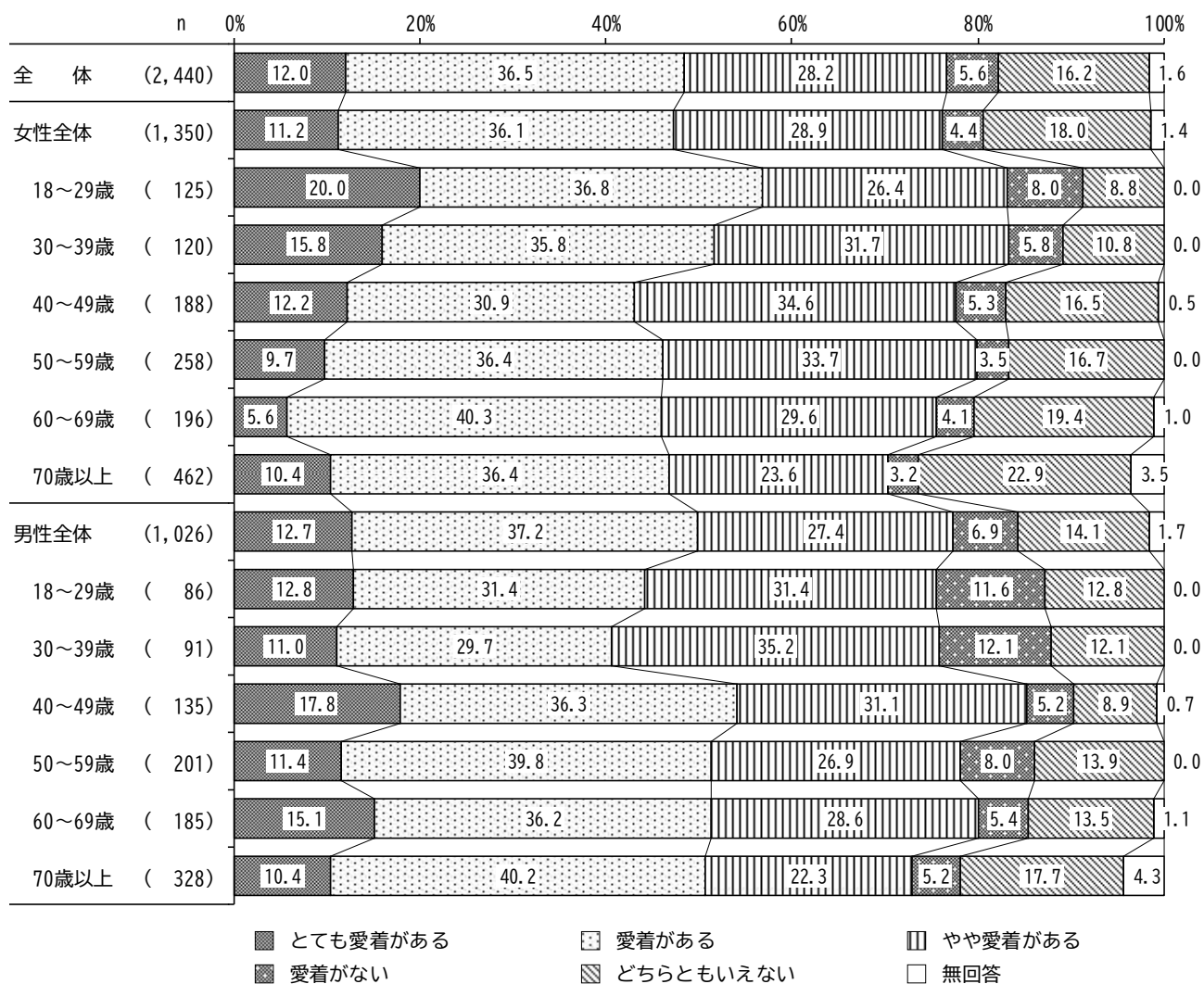
過去2回の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっている。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、『愛着がある』は男性 40 歳代（85.2%）が 8 割半ばで最も多く、女性 18～29 歳（83.2%）、30 歳代（83.3%）も 8 割強となっている。一方、女性 70 歳以上（70.3%）は『愛着がある』が約 7 割と、全体を 6.3 ポイント下回っている。また、「愛着がない」は男性 18～29 歳（11.6%）、30 歳代（12.1%）で 1 割台と多くなっている。

図表 2-1-2 性・年齢別 越谷市への愛着



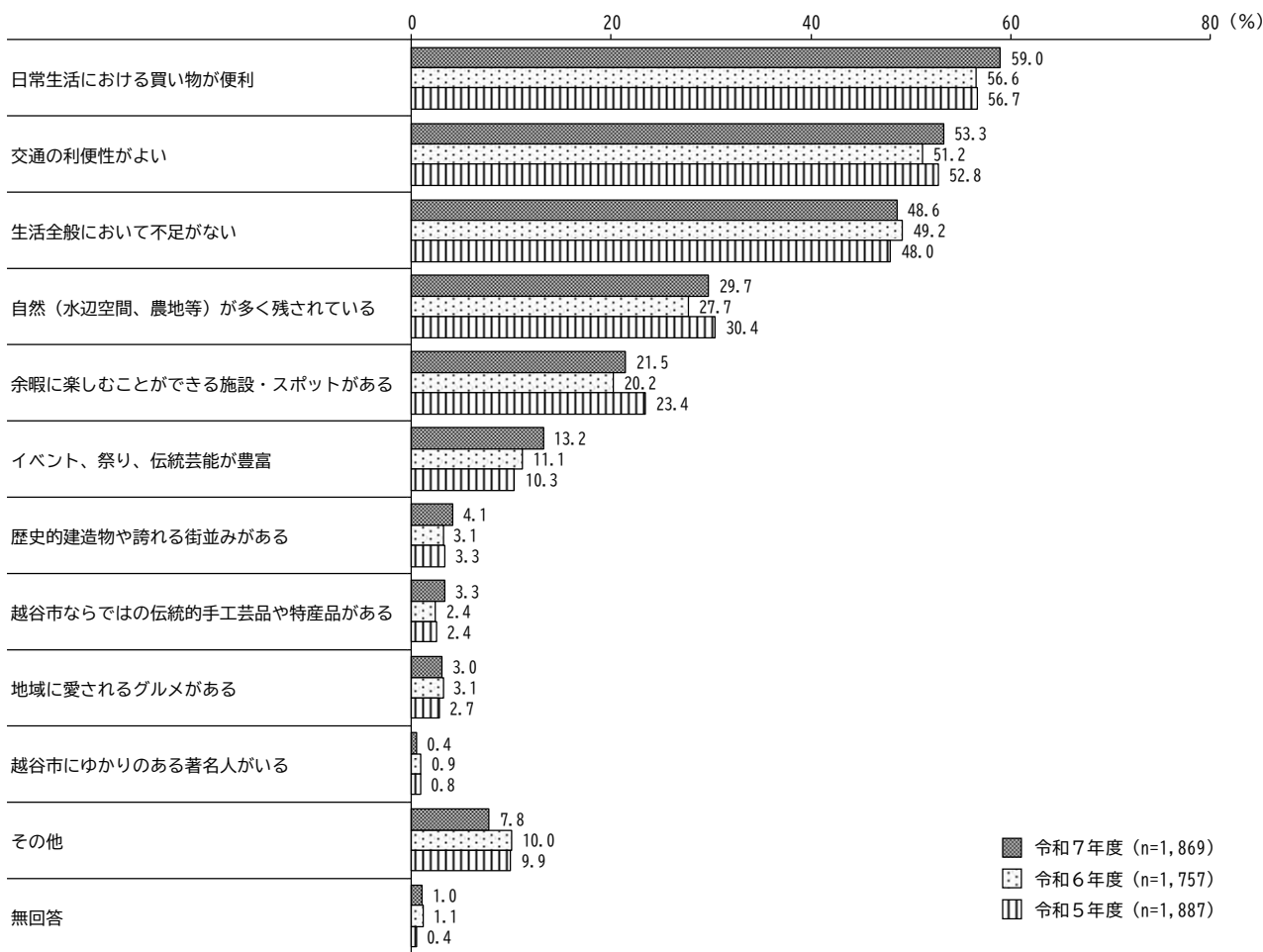
(2) 愛着がある理由

◇「日常生活における買い物が便利」が最も多く、約6割

問 10-2. 問 10 で「1」から「3」(愛着がある)と答えた方に伺います。

愛着がある理由は何ですか。(〇はいくつでも)

図表 2-2-1 愛着がある理由



越谷市に対して『愛着がある』と回答した1,869人に、愛着がある理由を聞いたところ、「日常生活における買い物が便利」(59.0%)が最も多く、次いで「交通の利便性がよい」(53.3%)、「生活全般において不足がない」(48.6%)、「自然（水辺空間、農地等）が多く残されている」(29.7%)、「余暇に楽しむことができる施設・スポットがある」(21.5%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっている。

性別でみると、男女とも「日常生活における買い物が便利」が最も多く、女性（61.5％）は男性（55.7％）を5.8ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「日常生活における買い物が便利」は女性18～29歳（66.3％）が6割半ばで最も多く、男性18～29歳（49.2％）、30歳代（49.3％）を除き5割以上となっている。「交通の利便性がよい」は男性40歳代（47.8％）を除き5割台となっている。「生活全般において不足がない」は女性30歳代（66.0％）、40歳代（63.7％）、男性18～29歳（63.1％）で6割台となる一方、女性70歳以上（33.5％）は3割強と少なくなっている。また、「余暇に楽しむことができる施設・スポットがある」は女性18～29歳（37.5％）、男性18～29歳（38.5％）、「イベント、祭り、伝統芸能が豊富」は女性30歳代（25.0％）、男性30歳代（23.2％）で全体を1割以上上回っている。

図表2-2-2 性・年齢別 愛着がある理由

(%)

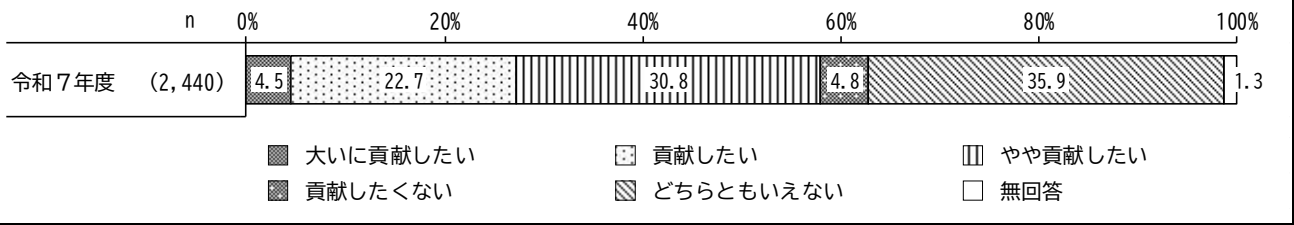
	調査数（人）	日常生活における買い物が便利	交通の利便性がよい	生活全般において不足がない	自然（水辺空間、農地等）が多く残されている	余暇に楽しむことができる施設・スポットがある	イベント、祭り、伝統芸能が豊富	歴史的建造物や誇れる街並みがある	特産品がある	越谷市ならではの伝統的手工芸品や地域に愛されるグルメがある	越谷市にゆかりのある著名人がいる	その他	無回答
全 体	1,869	59.0	53.3	48.6	29.7	21.5	13.2	4.1	3.3	3.0	0.4	7.8	1.0
女性全体	1,029	61.5	52.4	47.6	29.4	22.9	13.6	4.6	4.3	3.2	0.5	6.9	1.1
18～29歳	104	66.3	57.7	55.8	17.3	37.5	20.2	1.9	2.9	2.9	-	4.8	-
30～39歳	100	60.0	53.0	66.0	24.0	31.0	25.0	5.0	6.0	4.0	-	7.0	-
40～49歳	146	65.1	50.0	63.7	27.4	26.0	13.7	6.2	1.4	5.5	1.4	8.9	0.7
50～59歳	206	61.7	51.5	49.0	22.8	17.0	10.7	3.9	2.9	3.9	1.5	6.8	1.0
60～69歳	148	60.1	52.7	42.6	37.8	20.9	17.6	6.1	5.4	3.4	-	10.1	-
70歳以上	325	59.4	52.0	33.5	36.3	19.1	8.0	4.3	5.8	1.5	-	5.2	2.5
男性全体	793	55.7	54.7	51.5	30.6	19.9	13.0	3.7	1.8	2.6	0.4	8.8	0.6
18～29歳	65	49.2	56.9	63.1	18.5	38.5	15.4	1.5	1.5	1.5	-	7.7	-
30～39歳	69	49.3	53.6	53.6	23.2	24.6	23.2	7.2	2.9	4.3	1.4	10.1	-
40～49歳	115	54.8	47.8	59.1	25.2	20.0	12.2	2.6	0.9	6.1	0.9	13.9	0.9
50～59歳	157	52.9	56.1	56.7	27.4	20.4	15.3	3.2	1.3	1.9	-	9.6	-
60～69歳	148	59.5	58.1	52.0	35.1	18.2	14.2	4.7	1.4	2.7	-	8.1	-
70歳以上	239	59.4	54.8	40.2	38.1	14.2	7.5	3.3	2.5	1.3	0.4	6.3	1.7

(3) 地域への貢献意欲

◇『貢献したい』が6割弱

問 11. あなたの住んでいる地域をより魅力的にするために貢献したいと思いますか。(〇は1つ)

図表 2-3-1 地域への貢献意欲



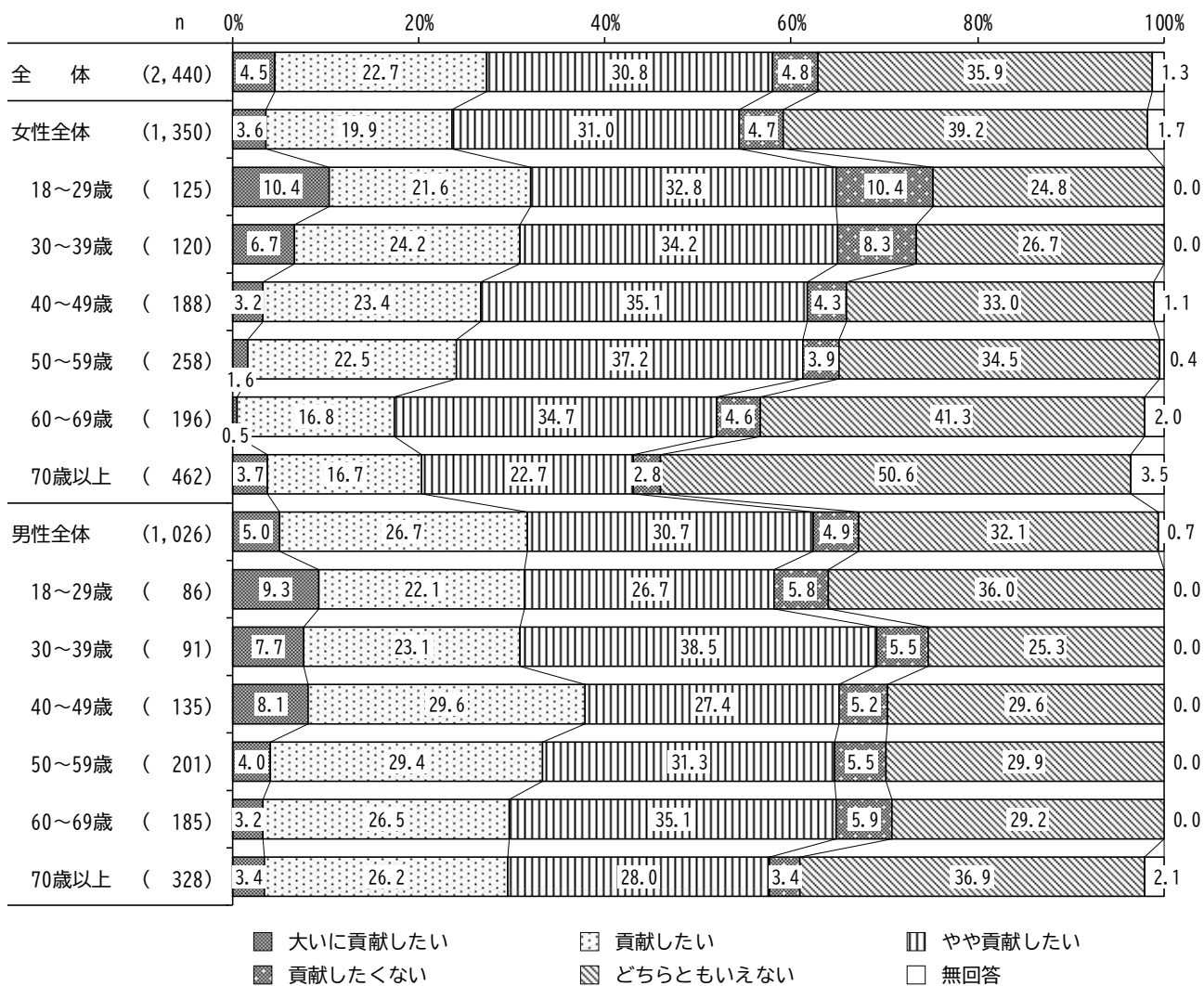
地域への貢献意欲については、「どちらともいえない」(35.9%)が最も多く、次いで「やや貢献したい」(30.8%)、「貢献したい」(22.7%)、「貢献したくない」(4.8%)、「大いに貢献したい」(4.5%)となっている。「大いに貢献したい」「貢献したい」「やや貢献したい」を合わせた『貢献したい』(58.0%)は6割弱となっている。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

性別でみると、『貢献したい』は男性（62.4%）が女性（54.4%）を8.0ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、『貢献したい』は30歳代が女性（65.0%）、男性（69.2%）とも最も多く、男性は約7割となっている。一方、女性70歳以上（43.1%）は全体を14.9ポイント下回っている。また、18～29歳を除き、男性が女性より多くなっている。

図表2-3-2 性・年齢別 地域への貢献意欲

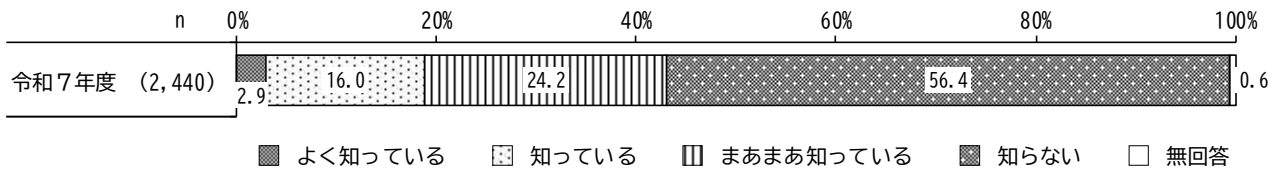


(4) ブランドメッセージ「水遊都市 KOSHIGAYA」の認知度

◇『知っている』が4割強

問 12. ブランドメッセージ「水遊都市 KOSHIGAYA」を策定し、市の魅力を発信していることを知っていますか。(○は1つ)

図表2-4-1 ブランドメッセージ「水遊都市 KOSHIGAYA」の認知度



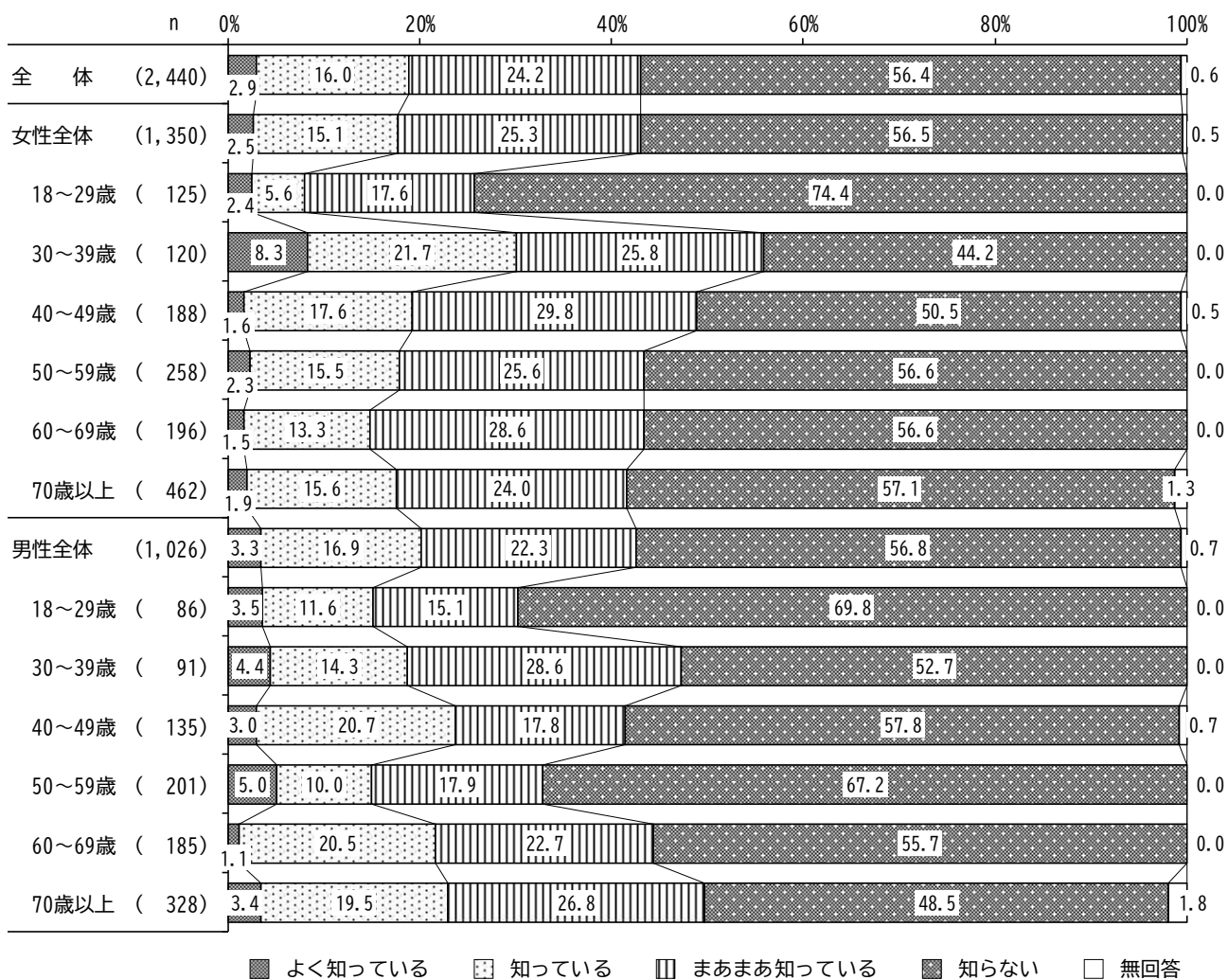
ブランドメッセージ「水遊都市 KOSHIGAYA」の認知度については、「知らない」(56.4%)が最も多く、次いで「まあまあ知っている」(24.2%)、「知っている」(16.0%)、「よく知っている」(2.9%)となっている。「よく知っている」「知っている」「まあまあ知っている」を合わせた『知っている』(43.0%)は4割強となっている。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、『知っている』は女性 30 歳代（55.8%）が 5 割半ばで最も多く、唯一 5 割以上となっている。一方、女性 18～29 歳（25.6%）は 2 割半ば、男性 18～29 歳（30.2%）、50 歳代（32.8%）は 3 割台で、全体を 1 割以上下回っている。

図表 2-4-2 性・年齢別 ブランドメッセージ「水遊都市 KOSHIGAYA」の認知度



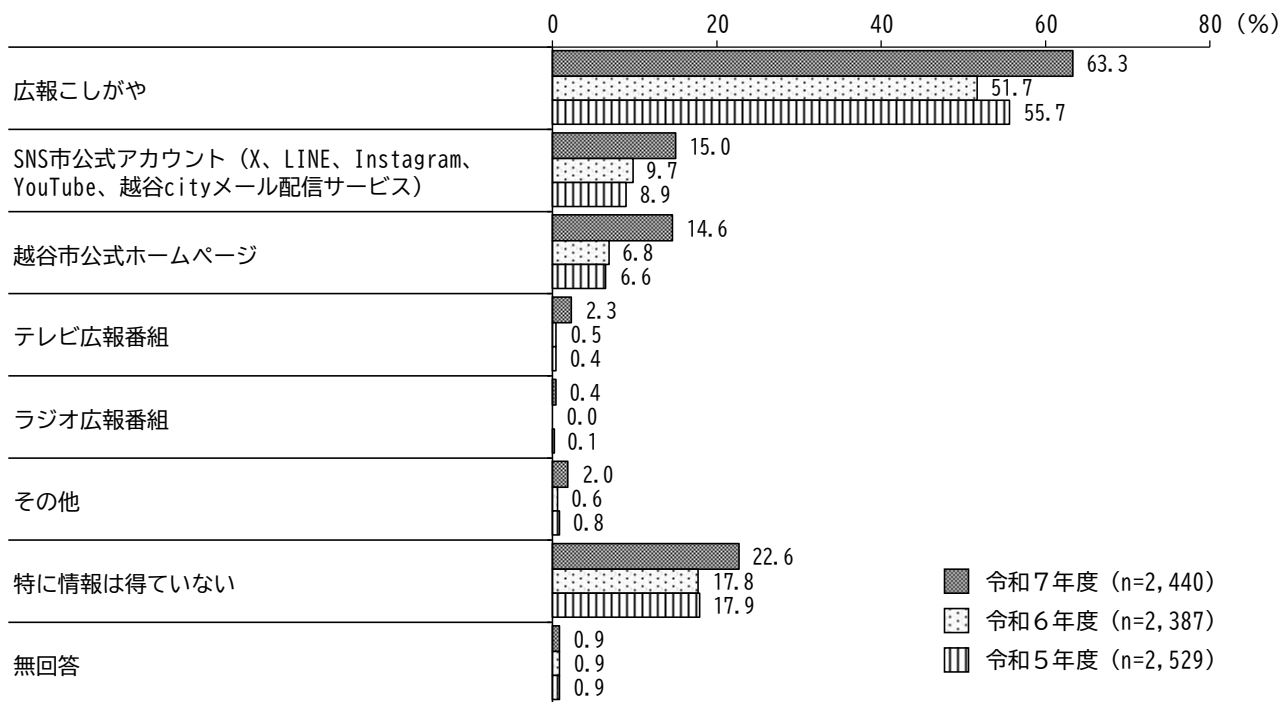
3. 広報について

(1) 市政情報の入手先

◇「広報こしがや」が最も多く、6割強

問 13. あなたは、市政情報を主に何から得ていますか。(〇はいくつでも)

図表3-1-1 市政情報の入手先



(※1) 令和7年度から「越谷 city メール配信サービス」「X (旧 Twitter)」「LINE」「Instagram」を「SNS 市公式アカウント (X、LINE、Instagram、YouTube、越谷 city メール配信サービス)」に統合

(※2) 令和7年度から「ラジオ広報番組 越谷のダイジなお知らせ」「ラジオ広報番組「ようこそ！住みよいまち越谷へ！～福田市長のラジオ談話室～」を「ラジオ広報番組」に統合

(※3) 「テレビ広報番組」は、令和6年度までは「テレビ広報番組 Koshigaya Collection」

市政情報の入手先は、「広報こしがや」(63.3%) が最も多く、次いで「SNS 市公式アカウント (X、LINE、Instagram、YouTube、越谷 city メール配信サービス)」(15.0%)、「越谷市公式ホームページ」(14.6%)、「テレビ広報番組」(2.3%)、「ラジオ広報番組」(0.4%) の順となっている。一方、「特に情報は得ていない」(22.6%) は2割強となっている。

過去2回の調査と比較すると、「広報こしがや」は令和6年度(51.7%)と比べ11.6ポイント増加し、突出する傾向が続いている。「SNS 市公式アカウント (X、LINE、Instagram、YouTube、越谷 city メール配信サービス)」「越谷市公式ホームページ」も令和6年度(9.7%、6.8%)と比べ5ポイント以上増加している。

性別でみると、「広報こしがや」は女性（66.3%）が男性（59.1%）を7.2ポイント上回っている。一方、「特に情報は得ていない」は男性（26.6%）が女性（20.1%）を6.5ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「広報こしがや」は男女とも年齢が上がるにつれ増加する傾向となっており、女性50歳代以上（71.3%、78.6%、78.8%）、男性70歳以上（78.7%）で7割台と多くなっている。一方、18～29歳は女性（19.2%）、男性（16.3%）とも1割台で、「特に情報は得ていない」（59.2%、65.1%）が5割以上となっている。「SNS市公式アカウント（X、LINE、Instagram、YouTube、越谷cityメール配信サービス）」は女性40歳代（45.2%）が4割半ばで最も多く、女性30歳代（39.2%）、男性30歳代（27.5%）も全体を1割以上上回っている。また、「越谷市公式ホームページ」は女性50歳代（22.5%）、男性40歳代（20.7%）、60歳代（21.6%）で2割台となっており、女性50歳代以上、男性40歳代以上では「SNS市公式アカウント（X、LINE、Instagram、YouTube、越谷cityメール配信サービス）」より多くなっている。

図表3-1-2 性・年齢別 市政情報の入手先

	調査数（人）	広報こしがや	SNS市公式アカウント（X、LINE、Instagram、YouTube、越谷cityメール配信サービス）	越谷市公式ホームページ	テレビ広報番組	ラジオ広報番組	その他	特に情報は得ていない	無回答
全 体	2,440	63.3	15.0	14.6	2.3	0.4	2.0	22.6	0.9
女性全体	1,350	66.3	17.6	13.5	2.1	0.1	1.6	20.1	1.0
18～29歳	125	19.2	16.0	10.4	1.6	-	4.0	59.2	-
30～39歳	120	53.3	39.2	17.5	-	0.8	0.8	25.8	-
40～49歳	188	55.3	45.2	14.9	2.7	-	1.6	16.5	-
50～59歳	258	71.3	21.7	22.5	1.6	-	0.8	14.7	-
60～69歳	196	78.6	7.1	12.2	1.0	0.5	-	15.3	0.5
70歳以上	462	78.8	3.2	8.2	3.2	-	2.4	14.5	2.6
男性全体	1,026	59.1	11.9	16.0	2.2	0.6	2.2	26.6	0.7
18～29歳	86	16.3	14.0	8.1	-	-	4.7	65.1	-
30～39歳	91	44.0	27.5	16.5	2.2	1.1	6.6	27.5	-
40～49歳	135	47.4	17.8	20.7	0.7	1.5	1.5	34.1	-
50～59歳	201	50.7	14.9	19.4	2.5	-	3.0	32.3	-
60～69歳	185	69.2	8.1	21.6	1.6	1.1	2.2	19.5	0.5
70歳以上	328	78.7	4.9	10.7	3.7	0.3	0.3	13.7	1.8

(2) 活用されている「広報こしがや」の媒体

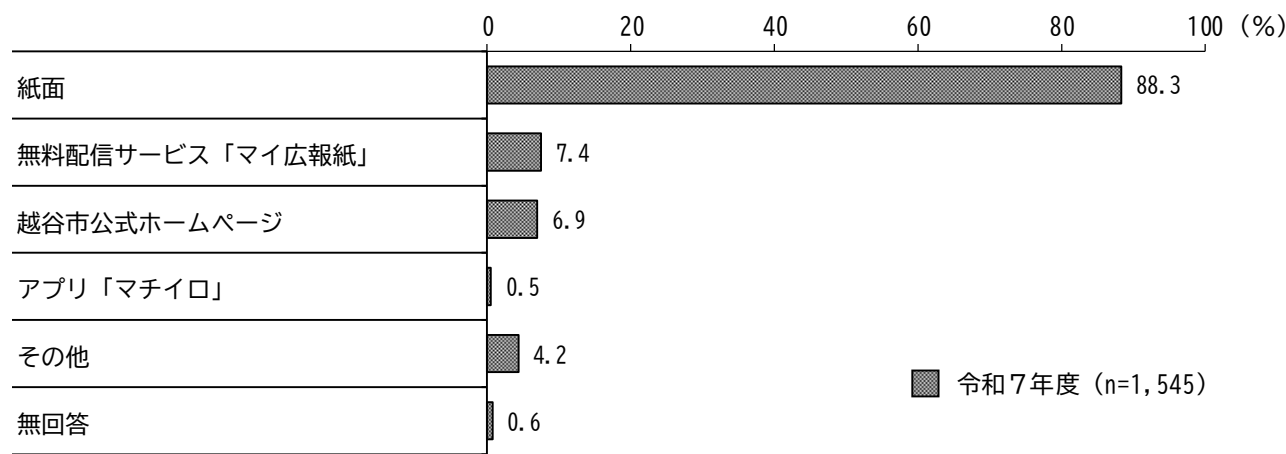
◇「紙面」が最も多く、9割弱

問 13-2. 問 13 で「1」と答えた方に伺います。

あなたは、「広報こしがや」の情報をどのように入手して読んでいますか。

(〇はいくつでも)

図表3-2-1 活用されている「広報こしがや」の媒体



活用されている「広報こしがや」の媒体は、「紙面」(88.3%)が最も多く、次いで「無料配信サービス「マイ広報紙」(7.4%)、「越谷市公式ホームページ」(6.9%)、「アプリ「マチイロ」(0.5%)の順となっている。

性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「紙面」は男女とも70歳以上を除き9割台となっている。「無料配信サービス「マイ広報紙」」は70歳以上で女性（13.7%）、男性（16.7%）とも1割台、「越谷市公式ホームページ」は女性50歳代（10.3%）、男性40歳代（12.5%）で1割台となっている。

図表3-2-2 性・年齢別 活用されている「広報こしがや」の媒体

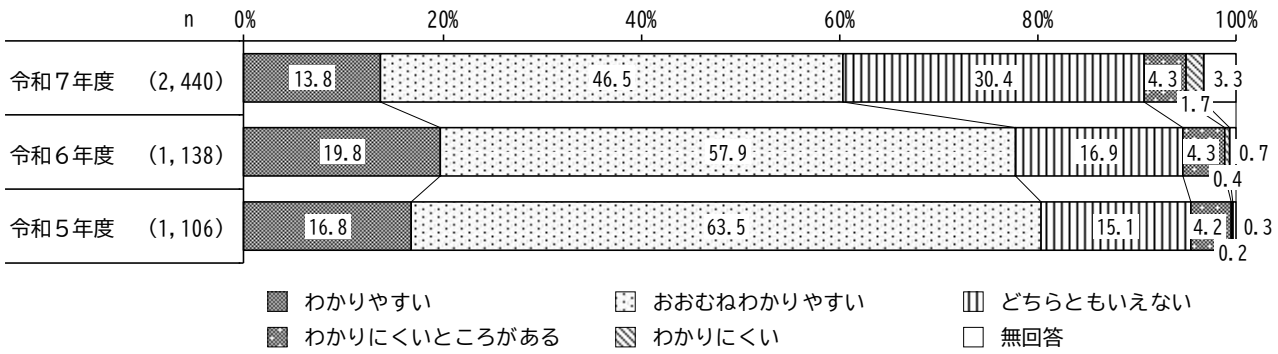
							(%)
	調査数（人）	紙面	無料配信サービス「マイ広報紙」	越谷市公式ホームページ	アプリ「マチイロ」	その他	無回答
全 体	1,545	88.3	7.4	6.9	0.5	4.2	0.6
女性全体	895	88.9	6.5	7.3	0.4	4.2	0.7
18～29歳	24	95.8	-	4.2	4.2	-	-
30～39歳	64	95.3	-	4.7	-	1.6	1.6
40～49歳	104	92.3	-	9.6	-	2.9	-
50～59歳	184	94.6	1.1	10.3	0.5	2.7	-
60～69歳	154	94.2	3.9	3.9	0.6	2.6	-
70歳以上	364	81.3	13.7	7.1	0.3	6.9	1.4
男性全体	606	87.6	8.4	6.3	0.5	4.1	0.5
18～29歳	14	92.9	-	7.1	-	7.1	-
30～39歳	40	92.5	-	7.5	-	5.0	-
40～49歳	64	92.2	3.1	12.5	-	1.6	1.6
50～59歳	102	98.0	2.9	3.9	2.0	-	-
60～69歳	128	93.8	2.3	7.0	-	3.1	-
70歳以上	258	78.3	16.7	5.0	0.4	6.6	0.8

(3)「広報こしがや」のわかりやすさ

◇『わかりやすい』が約6割

問 14. 広報こしがやについて伺います。「広報こしがや」は、わかりやすいと思いますか。(〇は1つ)

図表3－3－1 広報こしがやのわかりやすさ



(※) 令和6年度までは、市政情報を得る手段として「広報こしがや」を活用したことがあると回答した方を対象としていた。

「広報こしがや」のわかりやすさは、「わかりやすい」(13.8%)と「おおむねわかりやすい」(46.5%)を合わせた『わかりやすい』(60.3%)は約6割となっている。

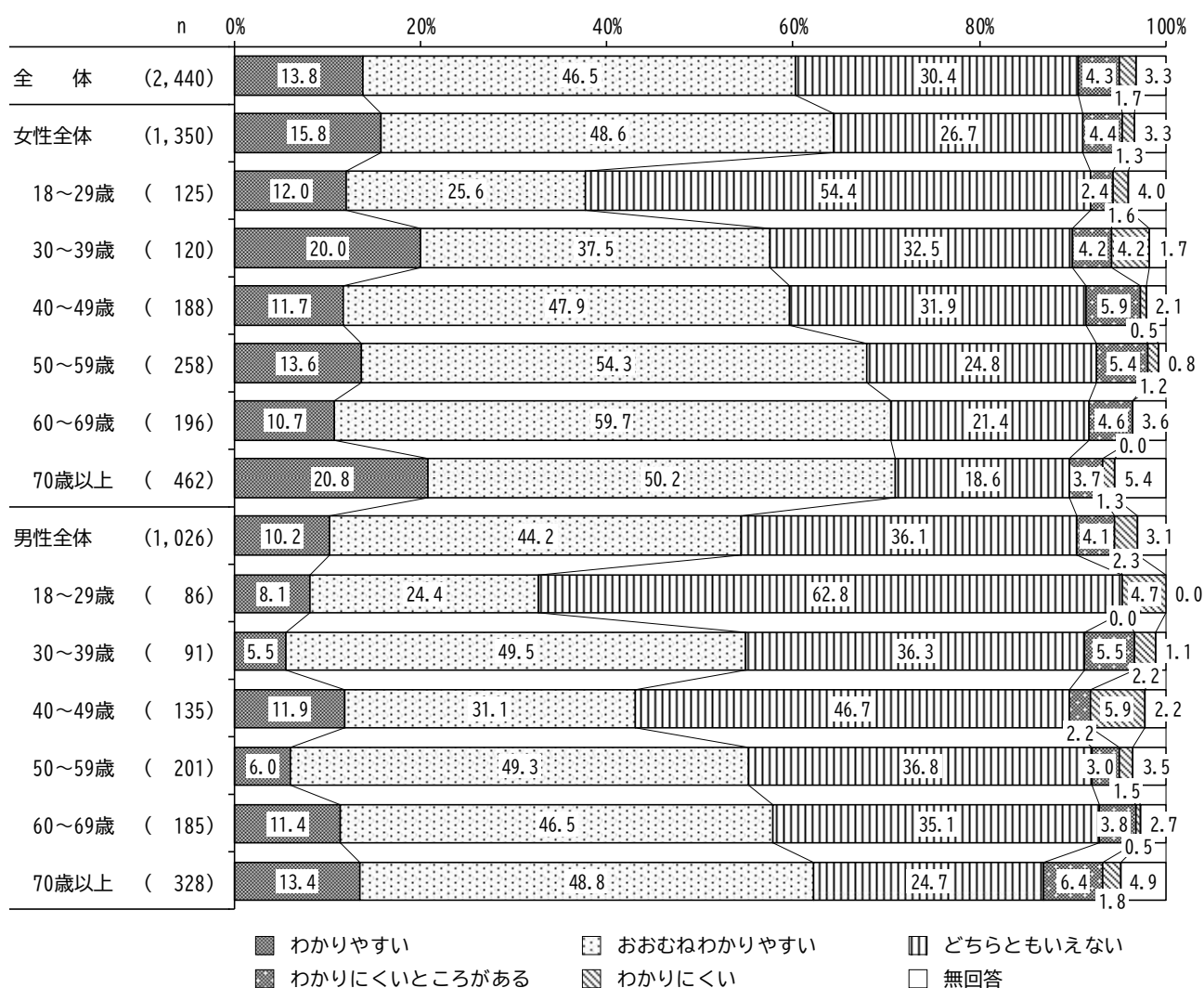
一方、「わかりにくいところがある」(4.3%)と「わかりにくい」(1.7%)を合わせた『わかりにくい』(6.0%)は1割未満となっている。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

性別でみると、『わかりやすい』は女性（64.4%）が男性（54.4%）を10.0ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、『わかりやすい』は女性70歳以上（71.0%）が最も多く、女性60歳代（70.4%）も約7割となっている。一方、18～29歳は女性（37.6%）、男性（32.6%）とも3割台、男性40歳代（43.0%）は4割強で、全体を1割以上下回っている。また、『わかりにくい』はすべての年齢で1割未満となっている。

図表3-3-2 性・年齢別 広報こしがやのわかりやすさ

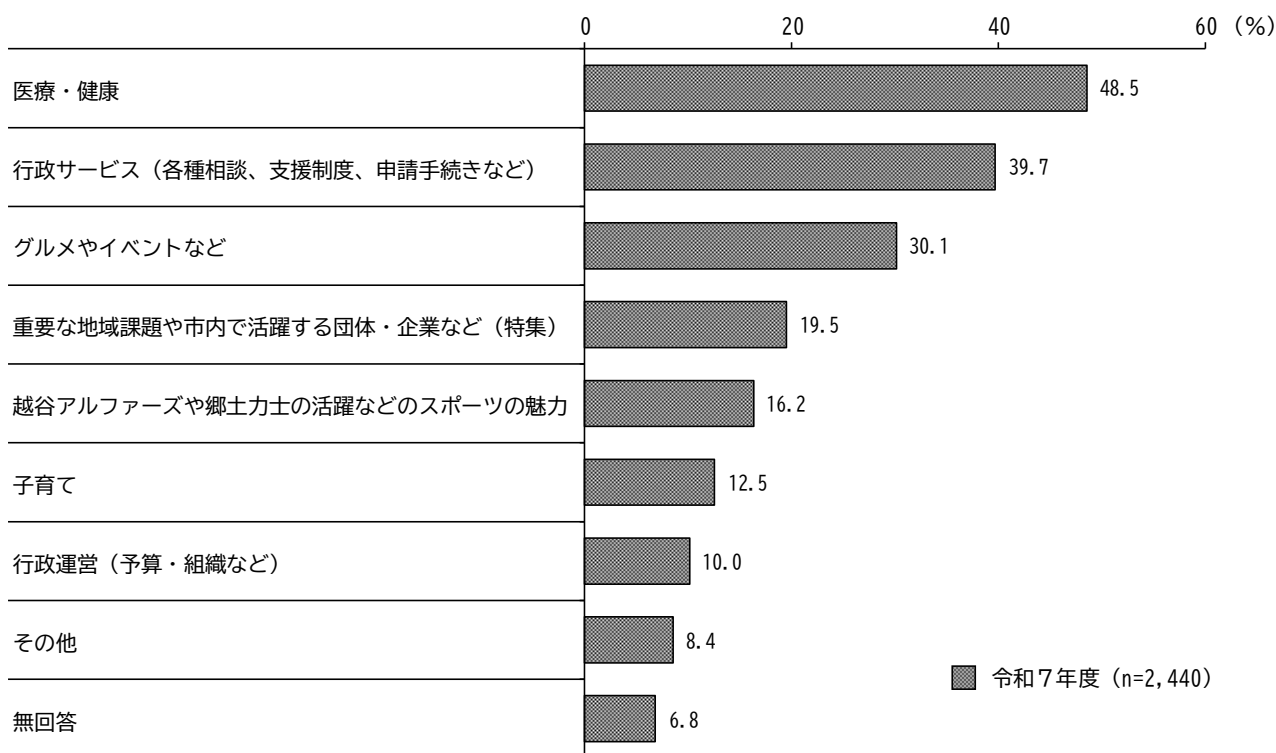


(4)「広報こしがや」で興味をもった記事

◇「医療・健康」が最も多く、5割弱

問 15. 「広報こしがや」で興味をもった記事は何ですか。(〇はいくつでも)

図表3-4-1 「広報こしがや」で興味をもった記事



「広報こしがや」で興味をもった記事は、「医療・健康」(48.5%)が最も多く、次いで「行政サービス（各種相談、支援制度、申請手続きなど）」(39.7%)、「グルメやイベントなど」(30.1%)、「重要な地域課題や市内で活躍する団体・企業など（特集）」(19.5%)、「越谷アルファーズや郷土力士の活躍などのスポーツの魅力」(16.2%)の順となっている。

性別でみると、「医療・健康」は女性（53.6％）が男性（41.4％）を 12.2 ポイント上回り、「グルメやイベントなど」（34.1％、25.4％）も 8.7 ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「医療・健康」は女性 60 歳代以上（66.8％、64.9％）で 6 割台、女性 50 歳代（59.7％）、男性 60 歳代以上（51.9％、57.3％）も 5 割台と多くなっている。「行政サービス（各種相談、支援制度、申請手続きなど）」は男性 60 歳代以上（53.5％、51.8％）で 5 割台と多くなっている。一方、女性 40 歳代以下（44.8％、49.2％、45.7％）、男性 30 歳代（40.7％）は「グルメやイベントなど」が 4 割台で最も多くなっている。また、「子育て」は女性 30 歳代（45.8％）で 4 割半ば、女性 40 歳代（31.9％）、男性 30 歳代（38.5％）も 3 割台と多くなっている。

図表3-4-2 性・年齢別 「広報こしがや」で興味をもった記事

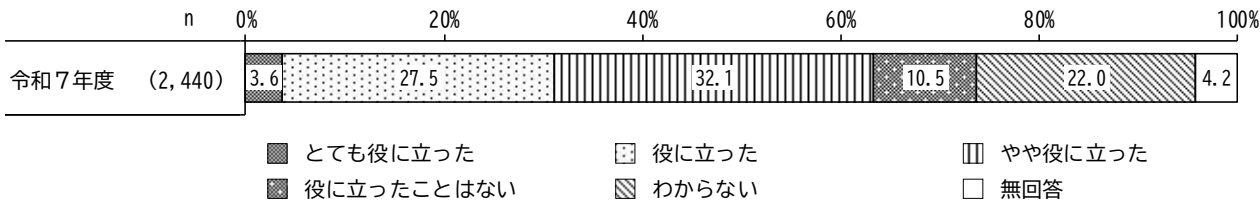
	調査数（人）	医療・健康	行政サービス（各種相談、支援制度、申請手続きなど）	グルメやイベントなど	重要な地域課題や市内で活躍する団体・企業など（特集）	越谷のスポーツや郷土力士の活躍などのアルファーズの魅力	子育て	行政運営（予算・組織など）	その他	無回答
全体	2,440	48.5	39.7	30.1	19.5	16.2	12.5	10.0	8.4	6.8
女性全体	1,350	53.6	39.1	34.1	18.6	15.6	14.0	6.7	6.5	6.7
18～29歳	125	17.6	14.4	44.8	12.8	13.6	16.0	3.2	17.6	8.8
30～39歳	120	30.8	25.0	49.2	14.2	10.8	45.8	7.5	9.2	4.2
40～49歳	188	42.6	35.6	45.7	16.5	17.6	31.9	6.4	7.4	4.3
50～59歳	258	59.7	41.9	43.4	20.9	15.5	12.8	5.8	6.6	5.0
60～69歳	196	66.8	46.9	31.1	22.4	17.9	4.6	8.2	5.6	4.1
70歳以上	462	64.9	46.1	18.6	19.3	15.8	2.6	7.4	2.6	10.0
男性全体	1,026	41.4	40.5	25.4	19.8	17.0	11.1	14.2	10.5	7.1
18～29歳	86	9.3	20.9	24.4	14.0	16.3	10.5	12.8	22.1	5.8
30～39歳	91	17.6	25.3	40.7	15.4	17.6	38.5	17.6	13.2	7.7
40～49歳	135	26.7	34.1	32.6	22.2	20.0	23.7	11.9	11.9	6.7
50～59歳	201	40.3	29.9	33.8	18.4	16.4	10.0	13.4	14.4	5.5
60～69歳	185	51.9	53.5	23.2	19.5	15.7	4.9	11.4	10.8	4.3
70歳以上	328	57.3	51.8	14.6	22.6	16.8	2.7	16.8	3.7	10.1

(5)「広報こしがや」等が役立ったことがあるか

◇『役に立った』が6割強

問 16. 「広報こしがや」などの市政情報は、役に立ったことがありますか。(○は1つ)

図表3-5-1 「広報こしがや」等が役立ったことがあるか



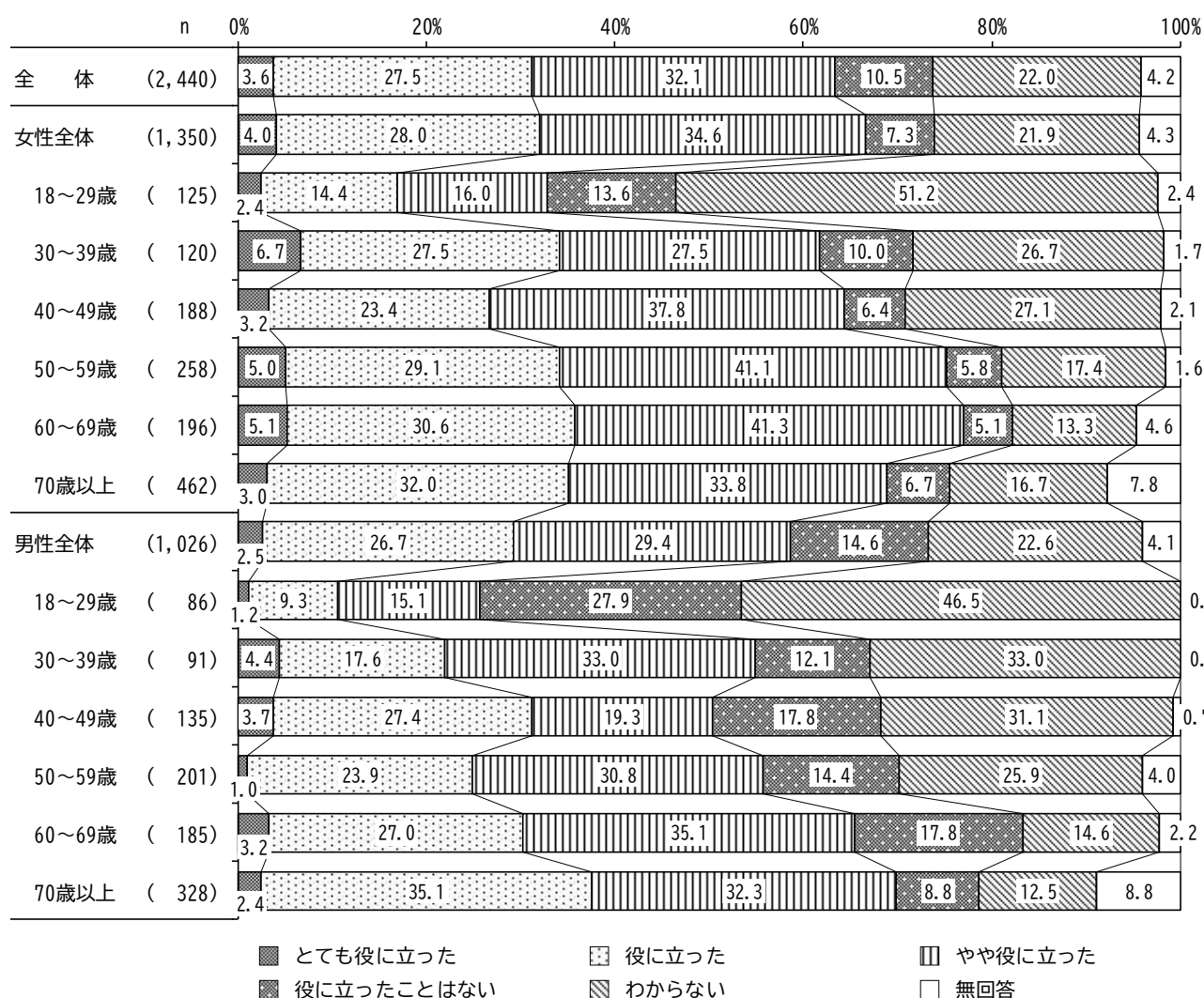
「広報こしがや」等が役立ったことがあるかについては、「やや役に立った」(32.1%)が最も多く、次いで「役に立った」(27.5%)、「役に立ったことはない」(10.5%)、「とても役に立った」(3.6%)の順となっている。「とても役に立った」「役に立った」「やや役に立った」を合わせた『役に立った』(63.3%)は6割強となっている。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

性別でみると、『役に立った』は女性（66.6％）が男性（58.7％）を7.9ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、『役に立った』は女性60歳代（77.0％）が最も多く、女性50歳代（75.2％）も7割半ばと多くなっている。一方、18～29歳は女性（32.8％）、男性（25.6％）とも全体を3割以上下回り、「わからない」が4割半ば～約5割と多くなっている。

図表3-5-2 性・年齢別 「広報こしがや」等が役立ったことがあるか

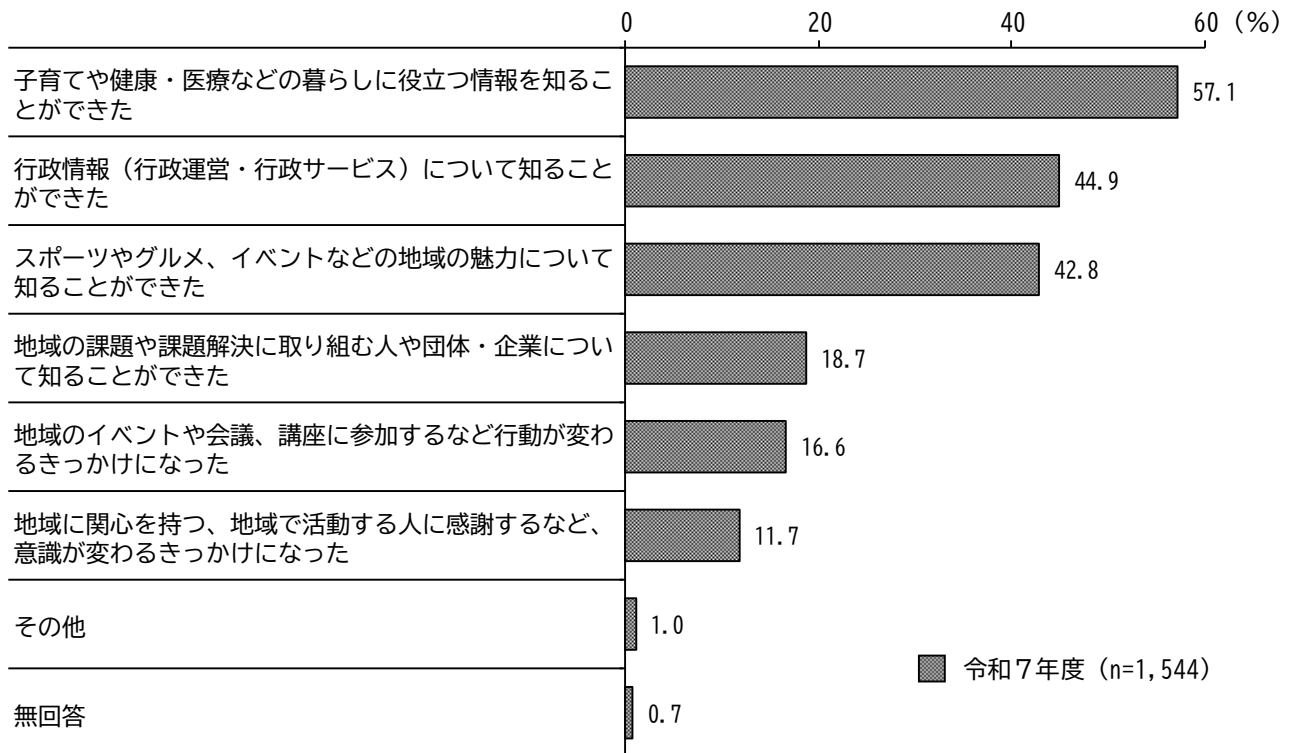


(6)「広報こしがや」などの市政情報で役立った点

◇「子育てや健康・医療などの暮らしに役立つ情報を知ることができた」が最も多く、6割弱

問 16-2. 問 16 で「1」から「3」(役に立った)と答えた方に伺います。
どのような点についてそう感じましたか。(〇はいくつでも)

図表3-6-1 「広報こしがや」などの市政情報で役立った点



「広報こしがや」等が『役に立った』と回答した1,544人に、役に立った理由を聞いたところ、「子育てや健康・医療などの暮らしに役立つ情報を知ることができた」(57.1%)が最も多く、次いで「行政情報（行政運営・行政サービス）について知ることができた」(44.9%)、「スポーツやグルメ、イベントなどの地域の魅力について知ることができた」(42.8%)、「地域の課題や課題解決に取り組む人や団体・企業について知ることができた」(18.7%)、「地域のイベントや会議、講座に参加するなど行動が変わるきっかけになった」(16.6%)の順となっている。

性別でみると、「子育てや健康・医療などの暮らしに役立つ情報を知ることができた」は女性（64.0%）が男性（48.0%）を16.0ポイント上回っている。一方、「行政情報（行政運営・行政サービス）について知ることができた」は男性（54.8%）が女性（38.4%）を16.4ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「子育てや健康・医療などの暮らしに役立つ情報を知ることができた」は女性30歳代（74.3%）が7割半ばで最も多く、女性40歳代（70.2%）、50歳代（72.7%）も7割台と多くなっている。「行政情報（行政運営・行政サービス）について知ることができた」は男性60歳代（62.0%）で6割強、男性70歳以上（59.0%）で約6割、「スポーツやグルメ、イベントなどの地域の魅力について知ることができた」は女性18～29歳（51.2%）、男性30歳代（52.0%）、50歳代（50.0%）で5割台と多くなっている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については、記述の対象としない。

図表3-6-2 性・年齢別 「広報こしがや」等が役立ったことがあるか

(%)

	調査数（人）	子育てや健康・医療などの暮らしに役立つ情報を知られた	行政情報（行政運営・行政サービス）について知れた	スポーツやグルメ、イベントなどの地域の魅力について知れた	地域課題や企業課題について知り組むことができた	地域のイベントや会議、講座に参加した	地域に関心を持つ、地域で活動するきっかけになった	その他	無回答
全 体	1,544	57.1	44.9	42.8	18.7	16.6	11.7	1.0	0.7
女性全体	899	64.0	38.4	43.2	15.7	17.7	11.6	0.9	0.7
18～29歳	41	26.8	41.5	51.2	19.5	2.4	19.5	-	-
30～39歳	74	74.3	29.7	47.3	13.5	16.2	14.9	-	-
40～49歳	121	70.2	36.4	49.6	12.4	15.7	9.1	1.7	-
50～59歳	194	72.7	34.0	48.5	14.4	17.5	12.4	1.5	0.5
60～69歳	151	68.2	44.4	39.7	15.9	16.6	7.3	-	0.7
70歳以上	318	56.6	40.6	37.1	17.6	21.4	12.3	0.9	1.3
男性全体	602	48.0	54.8	43.5	22.1	14.8	10.6	0.7	0.7
18～29歳	22	27.3	59.1	40.9	31.8	13.6	-	-	-
30～39歳	50	56.0	38.0	52.0	26.0	16.0	16.0	-	-
40～49歳	68	58.8	48.5	45.6	19.1	20.6	14.7	-	1.5
50～59歳	112	45.5	49.1	50.0	22.3	8.9	8.9	-	-
60～69歳	121	49.6	62.0	44.6	19.0	17.4	12.4	-	0.8
70歳以上	229	45.4	59.0	37.6	22.7	14.4	9.2	1.7	0.9

4. 市内の公共交通について

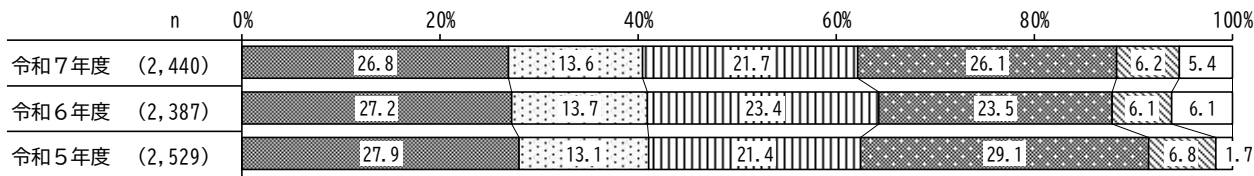
(1) 公共交通の利用状況

◇鉄道は「常に利用している」が2割半ば、バスは「全く利用しない」が4割弱、タクシーは「全く利用しない」が5割弱

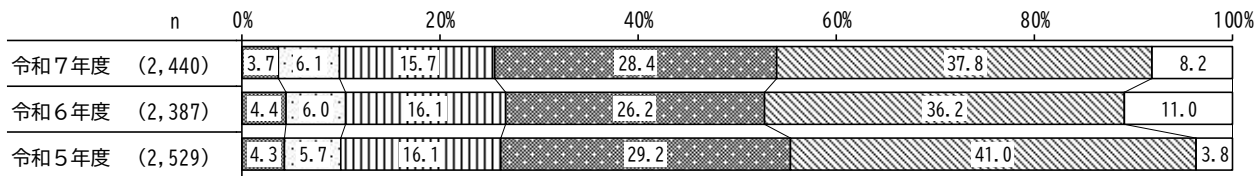
問 17. あなたは、公共交通(鉄道・バス・タクシー)を利用していますか。(それぞれ〇は1つずつ)

図表4-1-1 公共交通の利用状況

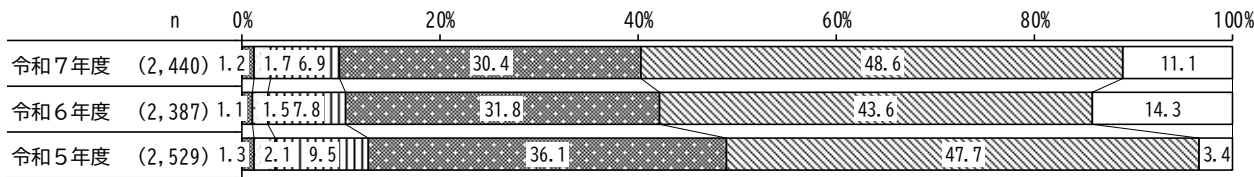
鉄道



バス



タクシー



■ 常に利用している ▨ よく利用している ▤ ときどき利用している
■ たまに利用している ▩ 全く利用しない □ 無回答

鉄道の利用については、「常に利用している」(26.8%)が最も多く、次いで「たまに利用している」(26.1%)、「ときどき利用している」(21.7%)、「よく利用している」(13.6%)、「全く利用しない」(6.2%)の順となっている。

バスの利用については、「全く利用しない」(37.8%)が最も多く、次いで「たまに利用している」(28.4%)、「ときどき利用している」(15.7%)、「よく利用している」(6.1%)、「常に利用している」(3.7%)の順となっている。

タクシーの利用については、「全く利用しない」(48.6%)が最も多く、次いで「たまに利用している」(30.4%)、「ときどき利用している」(6.9%)、「よく利用している」(1.7%)、「常に利用している」(1.2%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、タクシー「全く利用しない」は令和6年度(43.6%)と比べ5.0ポイント増加している。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

鉄道の利用について性別でみると、「常に利用している」は男性（32.4%）が女性（23.5%）を8.9ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「常に利用している」は女性18～29歳（67.2%）が7割弱で最も多く、男性18～29歳（60.5%）も約6割で、全体を3割以上上回っている。一方、女性60歳代以上（16.8%、10.4%）、男性70歳以上（12.2%）は1割台と少なくなっている。

バスの利用について性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「常に利用している」「よく利用している」は男女ともすべての年齢で1割未満、「ときどき利用している」は女性30歳代以下（20.0%、20.0%）で2割となっている。一方、「全く利用しない」は男性30歳代（58.2%）が最も多くなっている。

タクシーの利用について性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「常に利用している」「よく利用している」は男女ともすべての年齢、「ときどき利用している」は女性30歳代（10.0%）を除き1割未満となっている。一方、「全く利用しない」は女性60歳代以上（46.9%、30.1%）、男性70歳以上（35.1%）を除き5割以上となっており、18～29歳は女性（71.2%）、男性（73.3%）とも7割台と多くなっている。

図表4-1-2 性・年齢別 公共交通の利用状況

		(%)																	
		鉄道						バス						タクシー					
	調査数（人）	常に利用している	よく利用している	ときどき利用している	たまに利用している	全く利用しない	無回答	常に利用している	よく利用している	ときどき利用している	たまに利用している	全く利用しない	無回答	常に利用している	よく利用している	ときどき利用している	たまに利用している	全く利用しない	無回答
全 体	2,440	26.8	13.6	21.7	26.1	6.2	5.4	3.7	6.1	15.7	28.4	37.8	8.2	1.2	1.7	6.9	30.4	48.6	11.1
女性全体	1,350	23.5	15.0	23.0	26.6	6.2	5.8	3.6	7.1	15.6	28.8	37.2	7.6	1.3	2.1	6.7	31.6	48.1	10.3
18～29歳	125	67.2	13.6	6.4	8.0	4.8	-	4.8	5.6	20.0	24.8	44.0	0.8	-	-	4.8	23.2	71.2	0.8
30～39歳	120	27.5	15.8	25.8	21.7	8.3	0.8	2.5	5.0	20.0	23.3	46.7	2.5	1.7	3.3	10.0	30.0	53.3	1.7
40～49歳	188	33.0	13.8	18.1	31.4	3.7	-	1.6	6.4	13.3	33.0	43.6	2.1	-	1.1	4.3	34.6	58.0	2.1
50～59歳	258	22.1	15.9	22.5	32.9	5.0	1.6	3.1	5.0	10.1	33.3	46.1	2.3	0.4	1.6	4.7	29.5	60.1	3.9
60～69歳	196	16.8	18.4	32.7	25.5	5.1	1.5	1.5	7.7	16.8	36.7	31.1	6.1	0.5	2.0	7.1	36.7	46.9	6.6
70歳以上	462	10.4	13.6	24.7	27.9	8.2	15.2	5.6	9.3	16.9	23.6	27.9	16.7	3.0	3.0	8.2	32.0	30.1	23.6
男性全体	1,026	32.4	11.8	20.0	25.6	6.5	3.7	3.5	4.6	15.7	28.4	40.6	7.2	0.9	1.3	6.9	29.5	51.4	10.0
18～29歳	86	60.5	14.0	12.8	8.1	4.7	-	3.5	4.7	11.6	29.1	47.7	3.5	1.2	1.2	-	19.8	73.3	4.7
30～39歳	91	46.2	8.8	15.4	23.1	6.6	-	3.3	1.1	16.5	20.9	58.2	-	1.1	1.1	7.7	29.7	60.4	-
40～49歳	135	45.9	13.3	16.3	18.5	5.2	0.7	2.2	7.4	12.6	31.1	43.0	3.7	-	1.5	5.2	27.4	61.5	4.4
50～59歳	201	42.3	10.0	15.4	22.9	8.0	1.5	5.0	4.0	13.9	27.4	46.8	3.0	0.5	-	7.0	29.9	57.2	5.5
60～69歳	185	27.6	14.1	20.5	32.4	3.8	1.6	3.2	4.3	16.8	34.6	36.8	4.3	-	1.1	5.9	34.6	51.9	6.5
70歳以上	328	12.2	11.3	27.1	31.7	8.2	9.5	3.4	4.9	18.3	26.2	31.4	15.9	1.8	2.1	9.8	29.9	35.1	21.3

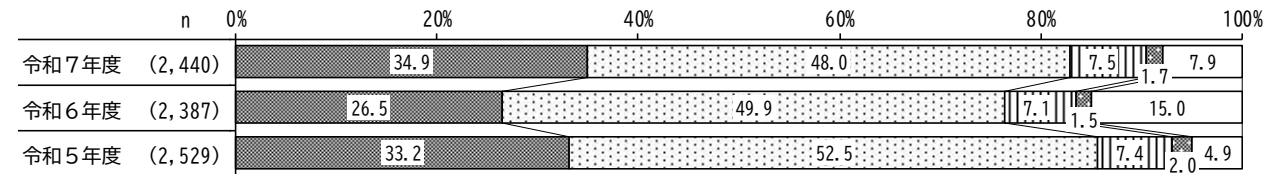
(2) 公共交通の満足度

◇『満足』は鉄道が8割強、バスが5割、タクシーが約5割

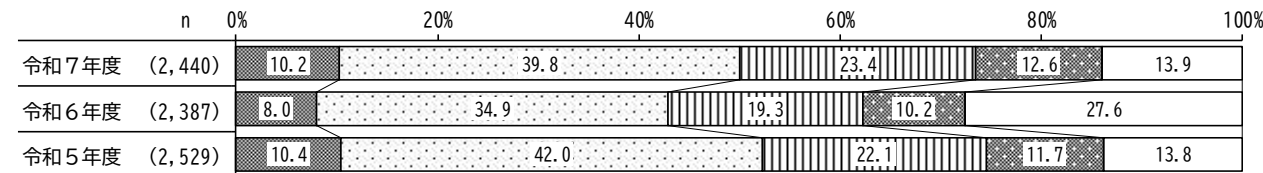
問 18. あなたは、公共交通(鉄道・バス・タクシー)にどの程度満足していますか。
(それぞれ〇は1つずつ)

図表4-2-1 公共交通の満足度

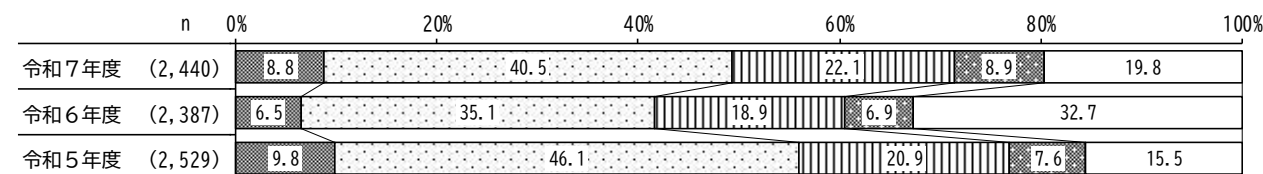
鉄道



バス



タクシー



■ とても満足している □ やや満足している ▨ やや不満である
■ とても不満である □ 無回答

鉄道の満足度については、「とても満足している」(34.9%)と「やや満足している」(48.0%)を合わせた『満足』(82.9%)は8割強となっている。

バスの満足度については、「とても満足している」(10.2%)と「やや満足している」(39.8%)を合わせた『満足』(50.0%)は5割となっている。

タクシーの満足度については、「とても満足している」(8.8%)と「やや満足している」(40.5%)を合わせた『満足』(49.3%)は約5割となっている。

過去2回の調査と比較すると、『満足』はいずれも令和6年度を上回り、鉄道(令和6年度76.5%)は6.4ポイント、バス(令和6年度42.9%)は7.1ポイント、タクシー(令和6年度41.6%)は7.7ポイント増加している。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

鉄道の満足度について性別でみると、『満足』は女性（81.5％）で約8割、男性（85.2％）で8割半ばとなっている。

性・年齢別でみると、『満足』は女性18～29歳（89.6％）が最も多く、女性70歳以上（71.2％）を除き8割台となっている。

バスの満足度について性別でみると、『満足』は女性（48.1％）で5割弱、男性（52.6％）で5割強となっている。

性・年齢別でみると、『満足』は女性18～29歳（66.4％）が最も多く、女性30歳代（61.7％）、男性30歳代以下（61.6％、63.7％）も6割台と多くなっている。一方、女性40歳代以上（45.2％、45.7％、48.0％、42.0％）、男性50歳代（49.3％）、70歳以上（47.9％）は4割台となっている。

タクシーの満足度について性別でみると、『満足』は女性（51.3％）で約5割、男性（48.0％）で5割弱となっている。

性・年齢別でみると、『満足』は女性18～29歳（74.4％）が最も多く、男性18～29歳（73.3％）も7割強、女性30歳代（63.3％）、男性30歳代（64.8％）も6割台と多くなっている。一方、70歳以上は女性（38.7％）、男性（39.3％）とも3割台となっている。

図表4-2-2 性・年齢別 公共交通の満足度

		鉄道					バス					タクシー				
	調査数（人）	とても満足している	やや満足している	やや不満である	とても不満である	無回答	とても満足している	やや満足している	やや不満である	とても不満である	無回答	とても満足している	やや満足している	やや不満である	とても不満である	無回答
全 体	2,440	34.9	48.0	7.5	1.7	7.9	10.2	39.8	23.4	12.6	13.9	8.8	40.5	22.1	8.9	19.8
女性全体	1,350	33.9	47.6	8.1	1.7	8.7	9.4	38.7	24.8	13.6	13.5	8.7	42.5	20.3	9.3	19.2
18～29歳	125	41.6	48.0	9.6	-	0.8	16.0	50.4	21.6	8.0	4.0	20.8	53.6	14.4	4.0	7.2
30～39歳	120	33.3	47.5	12.5	2.5	4.2	12.5	49.2	23.3	9.2	5.8	13.3	50.0	20.0	10.8	5.8
40～49歳	188	35.6	53.7	8.0	2.1	0.5	8.0	37.2	32.4	16.0	6.4	8.0	48.9	24.5	10.1	8.5
50～59歳	258	34.5	51.2	8.9	1.9	3.5	5.0	40.7	32.6	15.9	5.8	5.8	50.8	22.9	10.9	9.7
60～69歳	196	36.2	51.5	7.1	2.0	3.1	10.2	37.8	25.0	15.3	11.7	8.2	38.3	24.5	10.7	18.4
70歳以上	462	30.1	41.1	6.7	1.5	20.6	9.5	32.5	18.6	13.4	26.0	6.5	32.3	17.1	8.2	35.9
男性全体	1,026	36.4	48.8	6.9	1.6	6.3	10.6	42.0	22.1	11.7	13.5	9.0	39.0	24.7	8.7	18.7
18～29歳	86	47.7	38.4	10.5	2.3	1.2	17.4	44.2	19.8	12.8	5.8	23.3	50.0	11.6	8.1	7.0
30～39歳	91	34.1	54.9	5.5	3.3	2.2	8.8	54.9	12.1	20.9	3.3	7.7	57.1	17.6	12.1	5.5
40～49歳	135	39.3	48.1	11.1	-	1.5	11.9	46.7	28.1	7.4	5.9	8.9	45.9	25.2	9.6	10.4
50～59歳	201	41.3	44.8	8.5	1.5	4.0	9.5	39.8	24.9	13.4	12.4	9.5	33.3	32.3	8.0	16.9
60～69歳	185	33.5	54.6	7.0	1.1	3.8	13.0	37.8	28.6	9.2	11.4	7.6	36.2	30.3	10.3	15.7
70歳以上	328	31.4	49.4	3.7	1.8	13.7	8.2	39.6	17.7	11.0	23.5	6.1	33.2	22.0	7.0	31.7

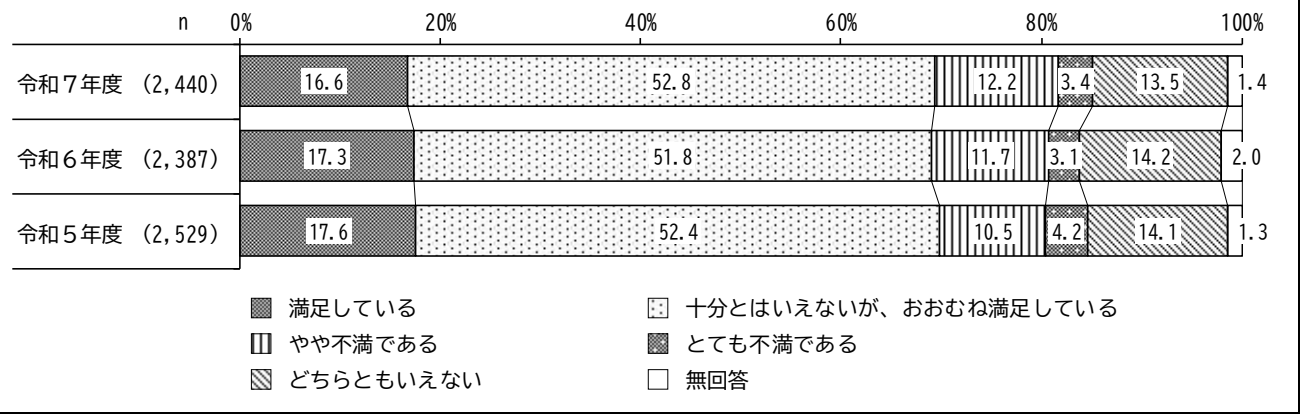
5. 景観（風景）について

(1) 景観（風景）の満足度

◇『満足』が約7割

問 19. あなたは、お住まいの地区の景観(風景)に満足していますか。(○は1つ)

図表5－1－1 景観（風景）の満足度



住まいの地区の景観（風景）については、「満足している」（16.6％）と「十分とはいえないが、おおむね満足している」（52.8％）を合わせた『満足』（69.4％）は約7割、「やや不満である」（12.2％）と「とても不満である」（3.4％）を合わせた『不満』（15.6％）は1割半ばとなっている。

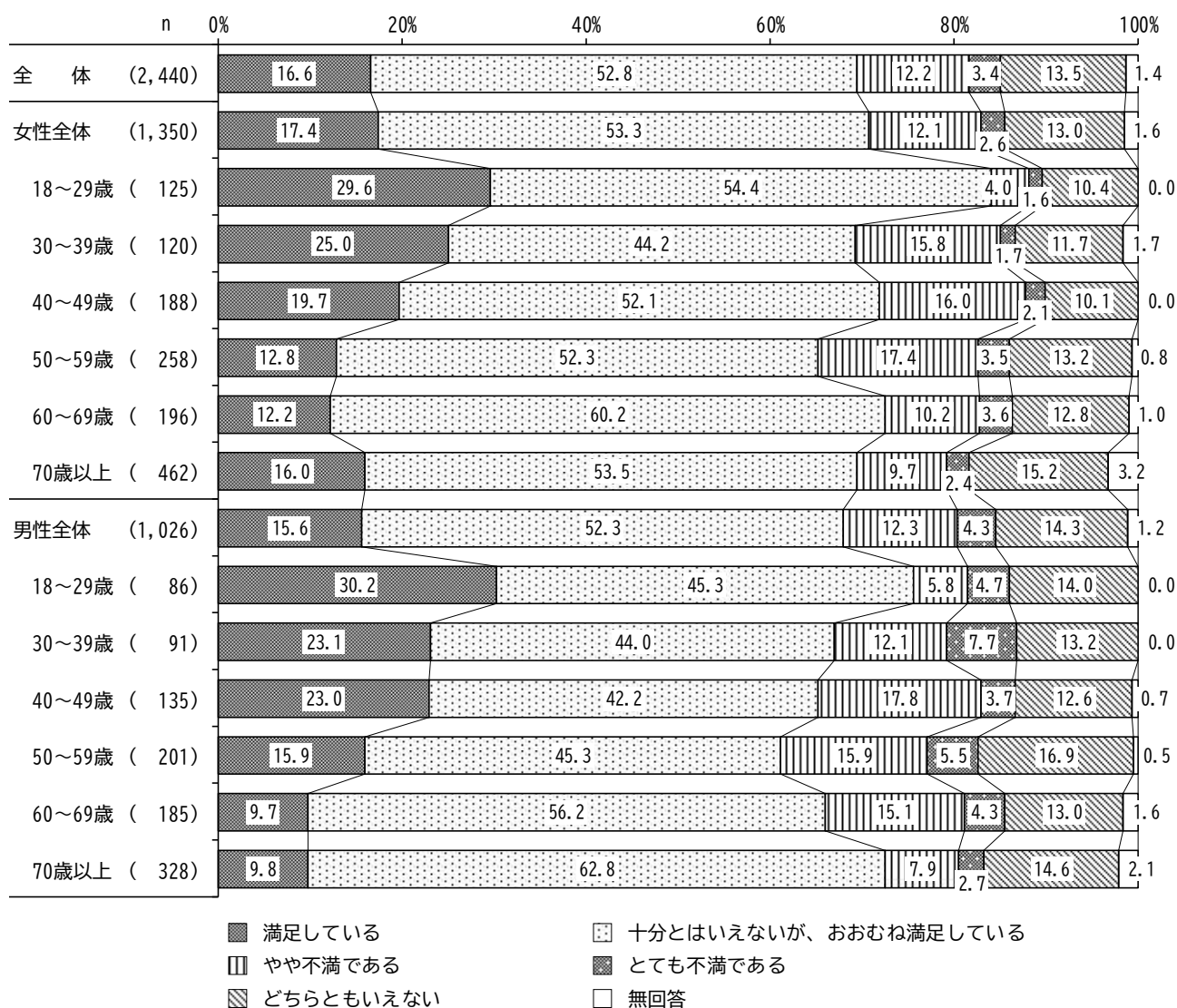
過去2回の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっている。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、『満足』は女性 18～29 歳（84.0%）が最も多く、男性 18～29 歳（75.6%）も 7 割半ばと多くなっている。一方、男性 50 歳代（61.2%）は全体を 8.2 ポイント下回っている。また、『不満』は女性 50 歳代（20.9%）、男性 40 歳代（21.5%）、50 歳代（21.4%）で約 2 割と多くなっている。

図表 5-1-2 性・年齢別 景観（風景）の満足度

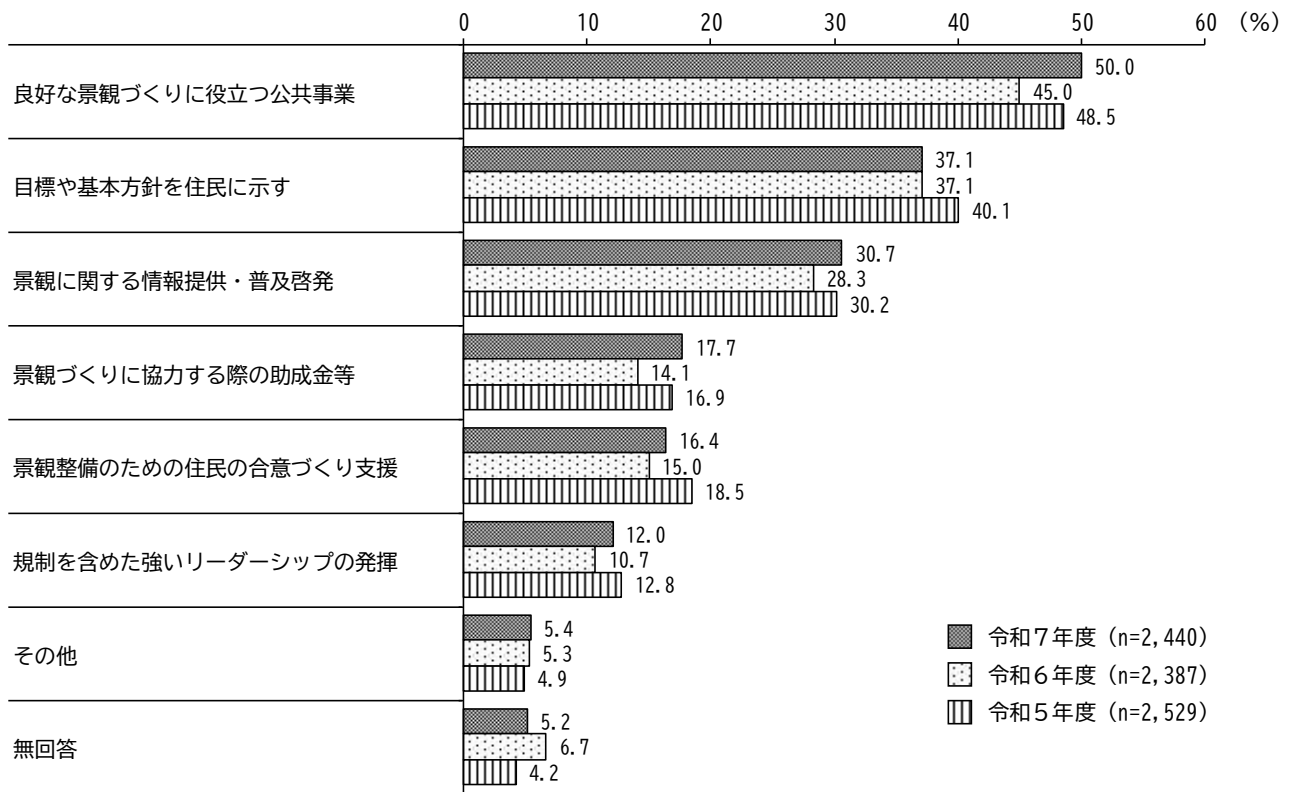


(2) 行政に望むこと

◇「良好な景観づくりに役立つ公共事業」が最も多く、5割

問 20. あなたは、良い景観(風景)のまちをつくるために行政に何を望みますか。(〇は3つまで)

図表5-2-1 行政に望むこと



良い景観(風景)のまちをつくるため、行政に望むことは、「良好な景観づくりに役立つ公共事業」(50.0%)が最も多く、次いで「目標や基本方針を住民に示す」(37.1%)、「景観に関する情報提供・普及啓発」(30.7%)、「景観づくりに協力する際の助成金等」(17.7%)、「景観整備のための住民の合意づくり支援」(16.4%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、「良好な景観づくりに役立つ公共事業」は令和6年度(45.0%)から5.0ポイント増加している。

性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「良好な景観づくりに役立つ公共事業」は女性 30 歳代（59.2%）が最も多く、男性 18～29 歳（58.1%）、30 歳代（58.2%）も 6 割弱と多くなっている。一方、女性 70 歳以上（41.8%）は全体を 8.2 ポイント下回っている。また、「景観づくりに協力する際の助成金等」は 40 歳代以下で女性（25.6%、21.7%、23.4%）、男性（22.1%、27.5%、23.0%）とも 2 割台となっている。男性 40 歳代は「規制を含めた強いリーダーシップの発揮」（21.5%）も約 2 割と多くなっている。

図表5-2-2 性・年齢別 行政に望むこと

	調査数（人）	良好な景観づくりに役立つ公共事業	目標や基本方針を住民に示す	景観に関する情報提供・普及啓発	景観づくりに協力する際の助成金等	景観整備のための住民の合意づくり支援	規制を含めた強いリーダーシップの発揮	その他	無回答
全 体	2,440	50.0	37.1	30.7	17.7	16.4	12.0	5.4	5.2
女性全体	1,350	49.8	36.4	31.0	17.6	15.2	9.9	5.0	5.8
18～29歳	125	52.0	35.2	20.0	25.6	17.6	8.0	7.2	-
30～39歳	120	59.2	41.7	31.7	21.7	18.3	15.0	3.3	0.8
40～49歳	188	52.7	37.2	37.8	23.4	16.5	10.6	5.9	1.1
50～59歳	258	54.7	36.0	33.3	19.4	14.7	10.1	3.5	2.3
60～69歳	196	52.0	37.8	32.7	17.3	9.7	10.2	6.6	3.6
70歳以上	462	41.8	34.8	29.0	11.0	15.8	8.4	4.8	13.4
男性全体	1,026	51.5	38.1	30.6	17.9	18.2	15.1	5.4	3.8
18～29歳	86	58.1	41.9	30.2	22.1	11.6	12.8	4.7	-
30～39歳	91	58.2	38.5	28.6	27.5	18.7	16.5	6.6	1.1
40～49歳	135	47.4	34.8	34.1	23.0	21.5	21.5	6.7	3.0
50～59歳	201	48.3	37.3	24.9	18.4	16.4	14.9	6.5	1.5
60～69歳	185	54.1	37.8	33.5	16.8	24.9	13.5	3.8	3.2
70歳以上	328	50.0	39.0	31.7	12.5	15.9	13.7	4.9	7.6

6. 地場農産物や地産地消について

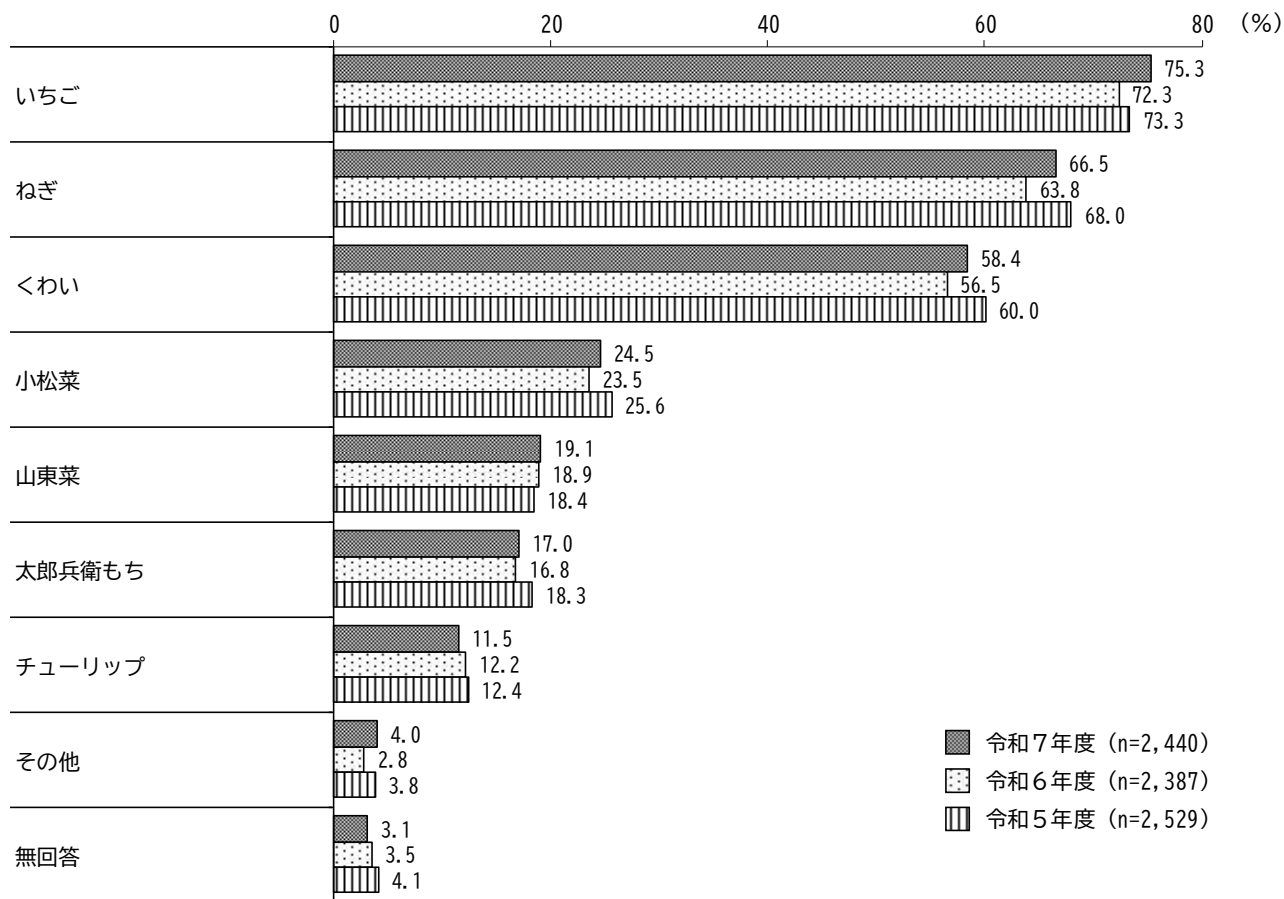
(1) 越谷の農業特産物の認知度

◇「いちご」が最も多く、7割半ば

問 21. 越谷を代表する農産物について、あなたが知っているものを選んでください。

(○はいくつでも)

図表6-1-1 越谷の農業特産物の認知度



越谷の農業特産物の認知度については、「いちご」(75.3%)が最も多く、次いで「ねぎ」(66.5%)、「くわい」(58.4%)、「小松菜」(24.5%)、「山東菜」(19.1%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっている。

性別でみると、7項目すべてで女性が男性より5ポイント以上多く、「くわい」(女性64.8%、男性51.0%)は13.8ポイント、「小松菜」(女性29.3%、男性18.2%)は11.1ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「ねぎ」は男女ともすべての年齢で5割以上となっており、女性40歳代(76.6%)は7割半ば、女性30歳代(70.0%)、50歳代(75.2%)、男性18～29歳(70.9%)も7割台となっている。「いちご」は男性18～29歳(44.2%)以外、「くわい」は男性30歳代(40.7%)、40歳代(40.0%)以外で5割以上となっている。「小松菜」は女性60歳代以上(30.1%、38.7%)で3割台、女性18～29歳(21.6%)、50歳代(27.9%)、男性70歳以上(24.1%)で2割台、「山東菜」「太郎兵衛もち」は女性50歳代以上、男性70歳以上2割台となっており、女性70歳以上は「小松菜」「太郎兵衛もち」が全体を1割以上上回っている。年齢による認知度の差は、「いちご」(女性60歳代88.8%、男性18～29歳44.2%)で44.6ポイント、「くわい」(女性50歳代74.4%、男性40歳代40.0%)で34.4ポイント、「チューリップ」(女性70歳代17.5%、男性50歳代4.5%)で13.0ポイント、その他4項目は2割台となっている。

図表6-1-2 性・年齢別 越谷の農業特産物の認知度

	調査数(人)	いちご	ねぎ	くわい	小松菜	山東菜	太郎兵衛もち	チューリップ	その他	無回答
全 体	2,440	75.3	66.5	58.4	24.5	19.1	17.0	11.5	4.0	3.1
女性全体	1,350	78.7	70.1	64.8	29.3	21.3	19.8	14.1	3.2	2.7
18～29歳	125	56.0	69.6	67.2	21.6	3.2	3.2	9.6	0.8	4.0
30～39歳	120	74.2	70.0	50.8	17.5	11.7	10.0	10.8	2.5	5.0
40～49歳	188	83.0	76.6	59.0	19.7	14.4	14.4	9.0	3.7	1.1
50～59歳	258	79.1	75.2	74.4	27.9	22.9	20.5	13.6	5.0	1.2
60～69歳	196	88.8	66.3	68.4	30.1	26.0	23.5	16.3	2.0	1.5
70歳以上	462	79.7	66.5	63.2	38.7	28.6	27.1	17.5	3.2	3.9
男性全体	1,026	70.3	62.0	51.0	18.2	15.8	13.3	7.8	4.9	3.6
18～29歳	86	44.2	70.9	67.4	15.1	4.7	8.1	11.6	4.7	3.5
30～39歳	91	63.7	62.6	40.7	17.6	6.6	4.4	5.5	6.6	6.6
40～49歳	135	74.1	68.1	40.0	17.0	8.1	8.1	8.9	6.7	1.5
50～59歳	201	70.6	66.2	50.2	12.9	11.9	11.9	4.5	6.0	1.0
60～69歳	185	71.4	55.7	52.4	16.2	18.9	13.0	9.2	4.3	4.9
70歳以上	328	76.5	57.9	53.7	24.1	25.0	20.1	8.2	3.4	4.6

(2) 越谷の農業特産物の購入経験・購入場所

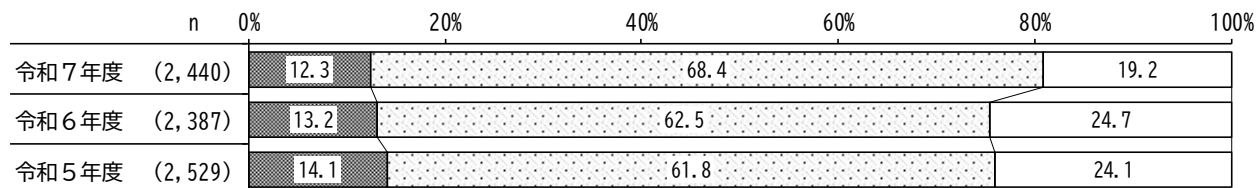
◇購入経験は「ねぎ」が6割半ば、購入場所は「ねぎ」「いちご」「チューリップ」「小松菜」で「市内スーパーマーケット」が最も多い

問 22. あなたは、越谷を代表する農産物を購入したことがありますか。

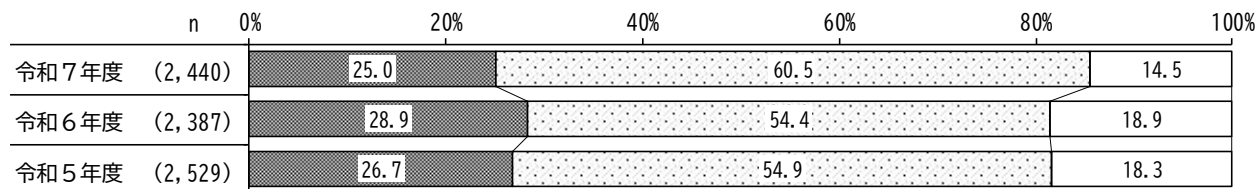
ある場合は、どこで購入しましたか。(ア～ク それぞれ横に○はいくつでも)

図表 6-2-1 越谷の農業特産物の購入経験・購入場所

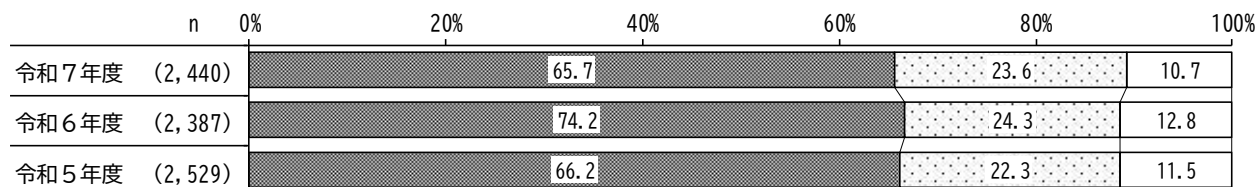
ア 太郎兵衛もち



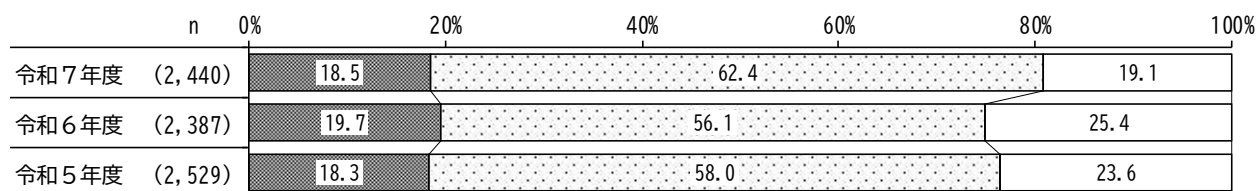
イ くわい



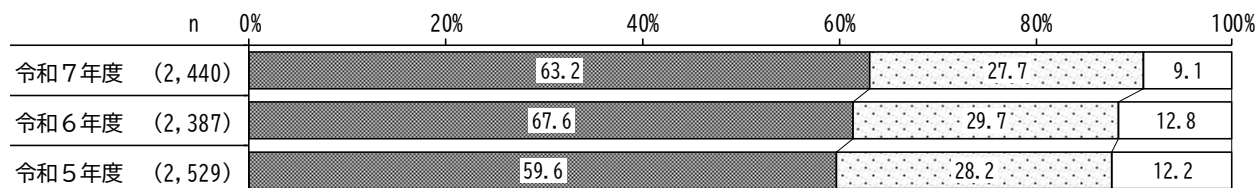
ウ ねぎ



エ 山東菜

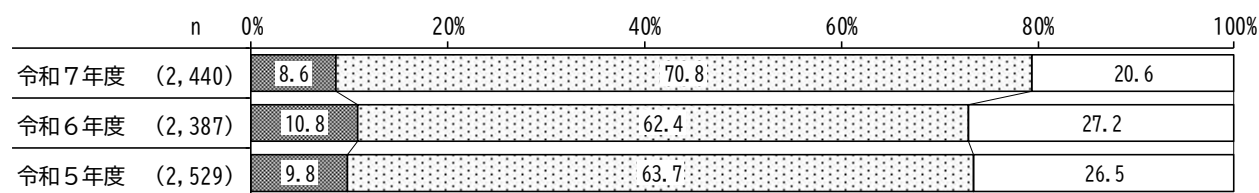


オ いちご

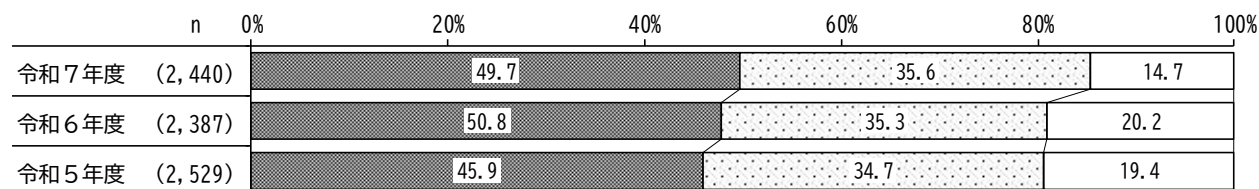


■ 購入したことがある ▨ 購入したことがない □ 無回答

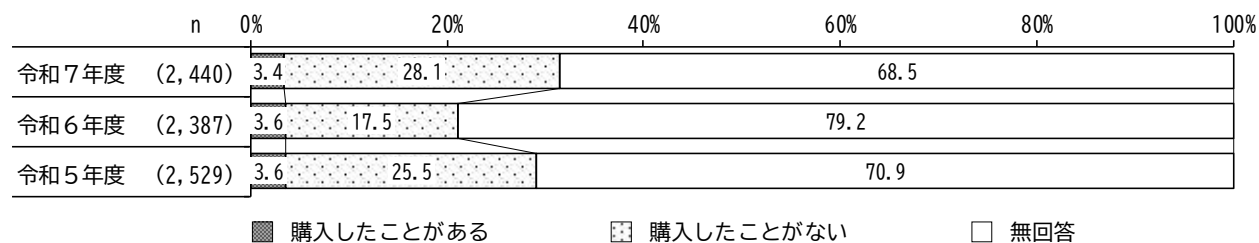
カ チューリップ



キ 小松菜



ク その他



越谷の農業特産物の購入経験については、「ねぎ」(65.7%)が最も多く、次いで「いちご」(63.2%)、「小松菜」(49.7%)、「くわい」(25.0%)、「山東菜」(18.5%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、7項目すべてで令和6年度と同等か下回っており、「ねぎ」(令和6年度74.2%)は8.5ポイント、「いちご」(令和6年度67.6%)は4.4ポイント、「くわい」(令和6年度28.9%)は3.9ポイント減少している。

購入した場所については、「太郎兵衛もち」(5.9%)は「市民まつりなどイベント」、「くわい」(9.6%)、「山東菜」(8.6%)は「農産物直売所」、「ねぎ」(46.3%)、「いちご」(35.1%)、「チューリップ」(2.5%)、「小松菜」(39.8%)は「市内スーパーマーケット」がそれぞれ最も多くなっている。

「太郎兵衛もち」について性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「購入したことがある」は女性 60 歳代 (20.4%) が約 2 割で最も多くなっている。一方、60 歳代以下は男女とも「購入したことがない」が 6 割以上となっている。

「くわい」について性別でみると、「購入したことがある」は女性 (27.3%) が男性 (21.8%) を 5.5 ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「購入したことがある」は女性 70 歳以上 (36.8%) が最も多く、女性 60 歳代 (32.1%)、男性 70 歳以上 (31.1%) も 3 割台と多くなっている。一方、60 歳代以下は男女とも「購入したことがない」が 5 割以上となっている。

「ねぎ」について性別でみると、「購入したことがある」は女性 (70.2%) が男性 (59.6%) を 10.6 ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「購入したことがある」は女性 60 歳代 (76.5%)、50 歳代 (76.4%) が 7 割半ばで特に多く、男性 18~29 歳 (48.8%) を除き 5 割以上となっている。

「山東菜」について性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「購入したことがある」は女性 70 歳以上 (28.1%) が最も多く、男女とも 60 歳代以上で 2 割台となっている。一方、60 歳以下は男女とも「購入したことがない」が 5 割以上となっている。

「いちご」について性別でみると、「購入したことがある」は女性 (67.3%) が男性 (57.8%) を 9.5 ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「購入したことがある」は女性 60 歳代 (72.4%) が最も多く、男性 30 歳代以下 (37.2%、49.5%) を除き 5 割以上となっている。一方、男性 18~29 歳は「購入したことがない」(60.5%) が全体を 32.8 ポイント上回っている。

「チューリップ」について性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「購入したことがある」は女性 60 歳代以上 (13.8%、14.5%) を除き 1 割未満となっている。一方、「購入したことがない」は女性 70 歳以上 (47.6%) を除き 5 割以上となっている。

「小松菜」について性別でみると、「購入したことがある」は女性 (57.9%) が男性 (39.9%) を 18.0 ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「購入したことがある」は女性 50 歳代以上 (61.6%、65.8%、64.3%) で 6 割台と多くなっている。一方、「購入したことがない」は女性 30 歳代以下 (52.0%、55.8%)、男性 30 歳代以下 (61.6%、59.3%)、50 歳代 (58.2%) で 5 割以上となっている。

図表6-2-2 性・年齢別 越谷の農業特産物の購入経験・購入場所

(%)

		ア 太郎兵衛もち							イ くわい							ウ ねぎ							エ 山東菜							(%)
	調査数（人）	購入したことがある	市民まつりなどイベント	農産物直売所	市内スーパーマーケット	その他	購入したことがない	無回答	購入したことがある	市民まつりなどイベント	農産物直売所	市内スーパーマーケット	その他	購入したことがない	無回答	購入したことがある	市民まつりなどイベント	農産物直売所	市内スーパーマーケット	その他	購入したことがない	無回答	購入したことがある	市民まつりなどイベント	農産物直売所	市内スーパーマーケット	その他	購入したことがない	無回答	
全 体	2,440	12.3	5.9	3.2	1.1	3.0	68.4	19.2	25.0	5.6	9.6	7.7	4.5	60.5	14.5	65.7	7.9	21.7	46.3	3.2	23.6	10.7	18.5	1.0	8.6	7.5	2.8	62.4	19.1	
女性全体	1,350	13.3	7.0	3.6	0.7	2.9	68.5	18.1	27.3	7.4	10.9	7.3	5.0	60.1	12.5	70.2	8.8	24.0	49.0	2.8	20.3	9.5	19.3	0.6	10.1	7.4	3.0	63.1	17.6	
18～29歳	125	2.4	0.8	0.8	1.6	-	95.2	2.4	15.2	1.6	4.8	7.2	4.0	83.2	1.6	62.4	2.4	12.8	54.4	2.4	35.2	2.4	4.8	-	1.6	2.4	0.8	92.0	3.2	
30～39歳	120	6.7	3.3	-	0.8	3.3	87.5	5.8	15.0	4.2	5.8	1.7	5.0	80.8	4.2	60.0	8.3	20.8	42.5	0.8	36.7	3.3	10.8	-	6.7	3.3	2.5	81.7	7.5	
40～49歳	188	6.9	4.8	1.6	-	0.5	88.8	4.3	16.5	4.8	5.9	2.7	3.7	80.3	3.2	68.1	6.9	21.8	48.4	4.8	29.8	2.1	9.6	-	3.7	3.2	3.7	85.1	5.3	
50～59歳	258	13.6	7.4	3.9	0.8	2.7	78.3	8.1	26.0	8.9	10.5	5.4	5.8	69.0	5.0	76.4	12.4	29.1	54.3	3.9	19.8	3.9	18.2	0.4	10.5	7.0	2.7	74.8	7.0	
60～69歳	196	20.4	9.2	6.1	1.0	4.6	62.8	16.8	32.1	7.1	11.7	9.7	6.6	57.7	10.2	76.5	9.2	29.6	55.1	1.0	16.8	6.6	24.0	1.0	11.7	8.2	4.6	59.7	16.3	
70歳以上	462	17.5	9.5	5.0	0.6	3.9	45.0	37.4	36.8	10.0	15.8	10.8	4.5	36.6	26.6	69.9	9.3	23.6	44.2	2.8	10.0	20.1	28.1	1.1	14.9	11.5	3.0	36.4	35.5	
男性全体	1,026	10.8	4.2	2.6	1.5	3.1	70.2	19.0	21.8	3.3	7.8	7.9	4.0	63.2	15.0	59.6	6.5	18.8	42.8	3.7	28.7	11.8	16.7	1.1	6.4	7.4	2.7	63.5	19.9	
18～29歳	86	8.1	3.5	-	5.8	1.2	86.0	5.8	12.8	3.5	4.7	4.7	2.3	82.6	4.7	48.8	7.0	10.5	43.0	5.8	46.5	4.7	5.8	-	1.2	2.3	2.3	89.5	4.7	
30～39歳	91	8.8	2.2	1.1	4.4	1.1	86.8	4.4	13.2	3.3	2.2	5.5	2.2	83.5	3.3	56.0	4.4	13.2	41.8	4.4	41.8	2.2	7.7	-	1.1	3.3	3.3	85.7	6.6	
40～49歳	135	7.4	2.2	2.2	0.7	2.2	83.7	8.9	11.9	1.5	3.7	3.7	3.7	81.5	6.7	69.6	8.9	19.3	54.8	3.0	28.1	2.2	11.9	1.5	4.4	5.9	0.7	77.0	11.1	
50～59歳	201	7.5	3.0	1.0	0.5	3.0	83.6	9.0	20.4	2.0	8.0	7.5	3.5	72.1	7.5	59.2	7.5	19.4	40.3	4.0	37.3	3.5	11.4	1.0	4.5	5.0	2.0	76.1	12.4	
60～69歳	185	9.7	3.8	1.6	0.5	3.8	73.0	17.3	22.7	4.3	7.6	7.6	4.3	62.2	15.1	63.2	4.9	23.8	43.8	3.2	25.4	11.4	20.5	0.5	5.9	10.8	4.3	62.2	17.3	
70歳以上	328	16.2	6.7	5.5	0.9	4.3	46.0	37.8	31.1	4.3	11.9	11.6	5.2	39.9	29.0	57.3	6.4	19.2	39.0	3.4	17.1	25.6	25.0	1.8	11.6	10.1	3.0	37.8	37.2	

		オ いちご						カ チューリップ						キ 小松菜						ク その他									
	調査数（人）	購入したことがある	市民まつりなどイベント	農産物直売所	市内スーパーマーケット	その他	購入したことがない	無回答	購入したことがある	市民まつりなどイベント	農産物直売所	市内スーパーマーケット	その他	購入したことがない	無回答	購入したことがある	市民まつりなどイベント	農産物直売所	市内スーパーマーケット	その他	購入したことがない	無回答	購入したことがある	市民まつりなどイベント	農産物直売所	市内スーパーマーケット	その他	購入したことがない	無回答
全 体	2,440	63.2	3.6	30.2	35.1	6.5	27.7	9.1	8.6	2.2	2.3	2.5	1.8	70.8	20.6	49.7	1.3	13.9	39.8	2.3	35.6	14.7	3.4	0.1	1.4	1.6	0.7	28.1	68.5
女性全体	1,350	67.3	4.1	32.2	37.6	6.6	24.7	8.0	10.4	1.9	3.1	3.6	2.1	71.0	18.6	57.9	1.6	16.4	47.0	2.3	30.1	12.0	3.9	0.1	1.8	1.7	0.4	23.7	72.4
18～29歳	125	55.2	4.8	20.8	38.4	4.8	43.2	1.6	8.0	1.6	0.8	4.8	1.6	88.0	4.0	45.6	1.6	7.2	44.0	0.8	52.0	2.4	0.8	-	-	-	0.8	45.6	53.6
30～39歳	120	65.8	5.0	35.0	30.8	10.0	32.5	1.7	5.8	3.3	1.7	0.8	-	86.7	7.5	37.5	2.5	11.7	31.7	0.8	55.8	6.7	-	-	-	-	-	45.8	54.2
40～49歳	188	66.0	5.3	31.9	35.1	10.1	33.0	1.1	3.7	1.6	0.5	1.1	0.5	90.4	5.9	49.5	1.1	11.2	43.6	1.6	45.7	4.8	1.6	-	1.1	0.5	-	42.0	56.4
50～59歳	258	68.6	4.3	34.5	37.6	8.5	28.3	3.1	8.5	1.2	3.5	3.1	0.8	84.1	7.4	61.6	2.3	20.5	50.0	2.7	33.3	5.0	5.4	-	2.7	3.5	-	27.9	66.7
60～69歳	196	72.4	5.1	32.7	42.3	6.1	20.4	7.1	13.8	2.6	4.6	4.1	2.6	69.9	16.3	65.8	2.6	17.9	53.6	3.1	22.4	11.7	3.6	-	1.0	2.6	-	14.3	82.1
70歳以上	462	68.6	2.6	33.1	38.3	3.9	14.1	17.3	14.5	1.9	4.3	5.0	3.9	47.6	37.9	64.3	0.6	19.5	48.7	2.8	12.8	22.9	5.8	0.4	2.8	1.7	1.1	6.3	87.9
男性全体	1,026	57.8	3.0	27.4	32.1	6.8	32.7	9.6	5.9	2.3	1.2	1.3	1.4	72.9	21.2	39.9	0.8	11.0	31.2	2.3	43.5	16.7	2.8	-	0.7	1.4	1.0	34.4	62.8
18～29歳	86	37.2	4.7	11.6	23.3	2.3	60.5	2.3	5.8	3.5	-	1.2	1.2	89.5	4.7	33.7	-	3.5	30.2	4.7	61.6	4.7	3.5	-	-	3.5	-	51.2	45.3
30～39歳	91	49.5	-	19.8	31.9	9.9	46.2	4.4	5.5	2.2	-	2.2	1.1	87.9	6.6	35.2	1.1	9.9	28.6	-	59.3	5.5	1.1	-	-	1.1	-	63.7	35.2
40～49歳	135	65.9	5.9	31.9	35.6	8.1	30.4	3.7	4.4	0.7	2.2	-	1.5	83.7	11.9	47.4	-	10.4	40.0	1.5	44.4	8.1	3.7	-	-	1.5	2.2	40.7	55.6
50～59歳	201	53.2	1.5	30.3	26.4	7.0	42.3	4.5	4.5	2.5	0.5	1.5	-	85.6	10.0	33.8	0.5	10.4	27.9	1.0	58.2	8.0	1.5	-	0.5	0.5	0.5	49.3	49.3
60～69歳	185	61.6	3.8	29.2	37.3	7.0	29.2	9.2	7.6	3.2	1.6	1.1	1.6	74.1	18.4	44.3	1.6	12.4	35.1	3.2	41.6	14.1	2.7	-	1.6	2.2	-	30.8	66.5
70歳以上	328	62.8	2.7	29.0	33.5	6.4	18.6	18.6	6.7	2.1	1.5	1.5	2.1	51.5	41.8	40.9	0.9	13.1	28.4	3.0	25.9	33.2	3.7	-	0.9	0.9	1.8	12.2	84.1

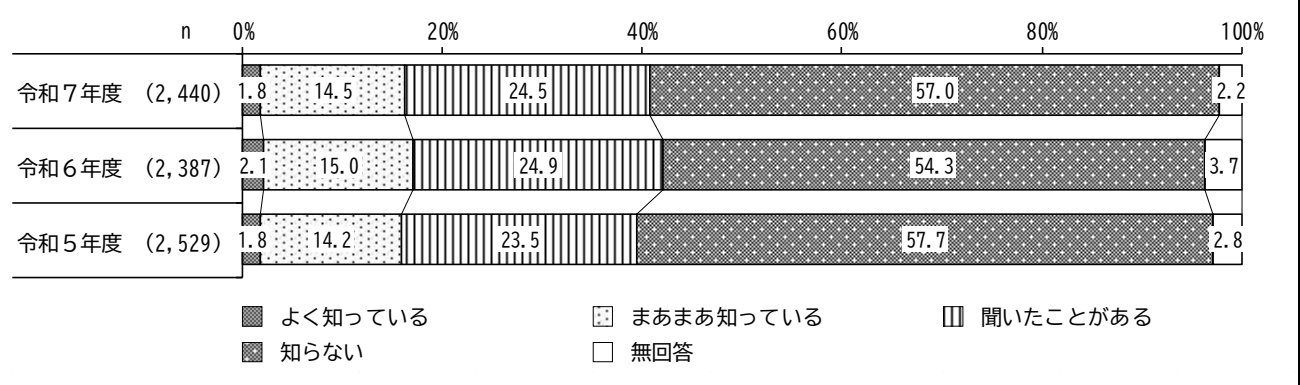
7. 参加と協働のまちづくりについて

(1) 「参加と協働のまちづくり」の認知度

◇『知っている』が1割半ば

問 23. 越谷市では、市民の市政への参加が可能となるような機会の充実や、地域コミュニティ組織との協働に取り組んでいます。あなたは、越谷市がこのような「参加と協働のまちづくり」をすすめていることを知っていますか。(〇は1つ)

図表7-1-1 「参加と協働のまちづくり」の認知度



「参加と協働のまちづくり」の認知度については、「よく知っている」(1.8%)と「まあまあ知っている」(14.5%)を合わせた『知っている』(16.3%)は1割半ば、「聞いたことがある」(24.5%)は2割半ば、「知らない」(57.0%)は6割弱となっている。

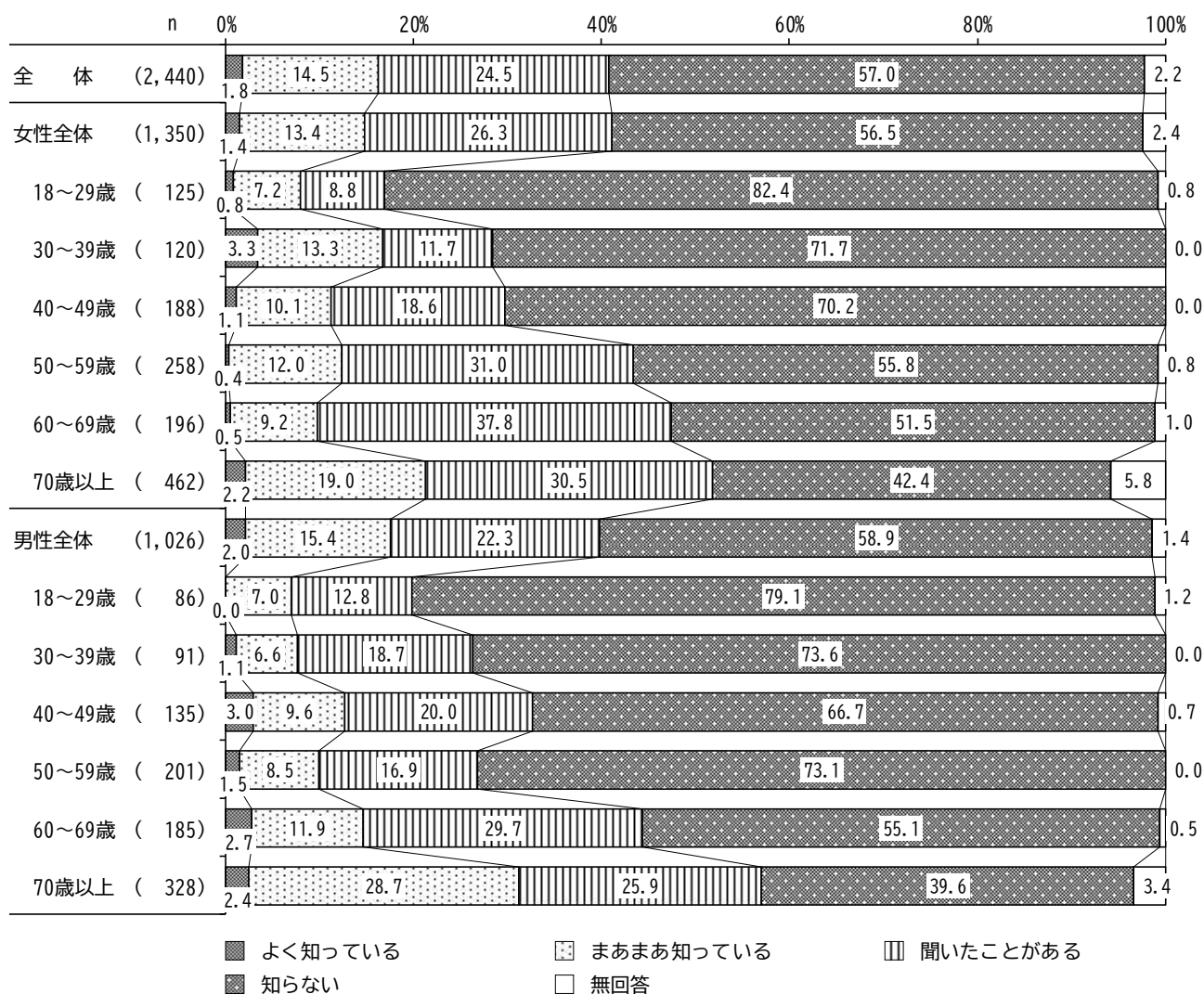
過去2回の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっている。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、『知っている』は男性 70 歳以上 (31.1%) が約 3 割で最も多く、女性 70 歳以上 (21.2%) も約 2 割となっている。一方、「知らない」は男女とも 70 歳以上を除き 5 割以上となっており、女性 18～29 歳 (82.4%) は 8 割強、女性 30 歳代 (71.7%)、40 歳代 (70.2%)、男性 18～29 歳 (79.1%)、30 歳代 (73.6%)、50 歳代 (73.1%) は 7 割台と多くなっている。

図表 7-1-2 性・年齢別 「参加と協働のまちづくり」の認知度

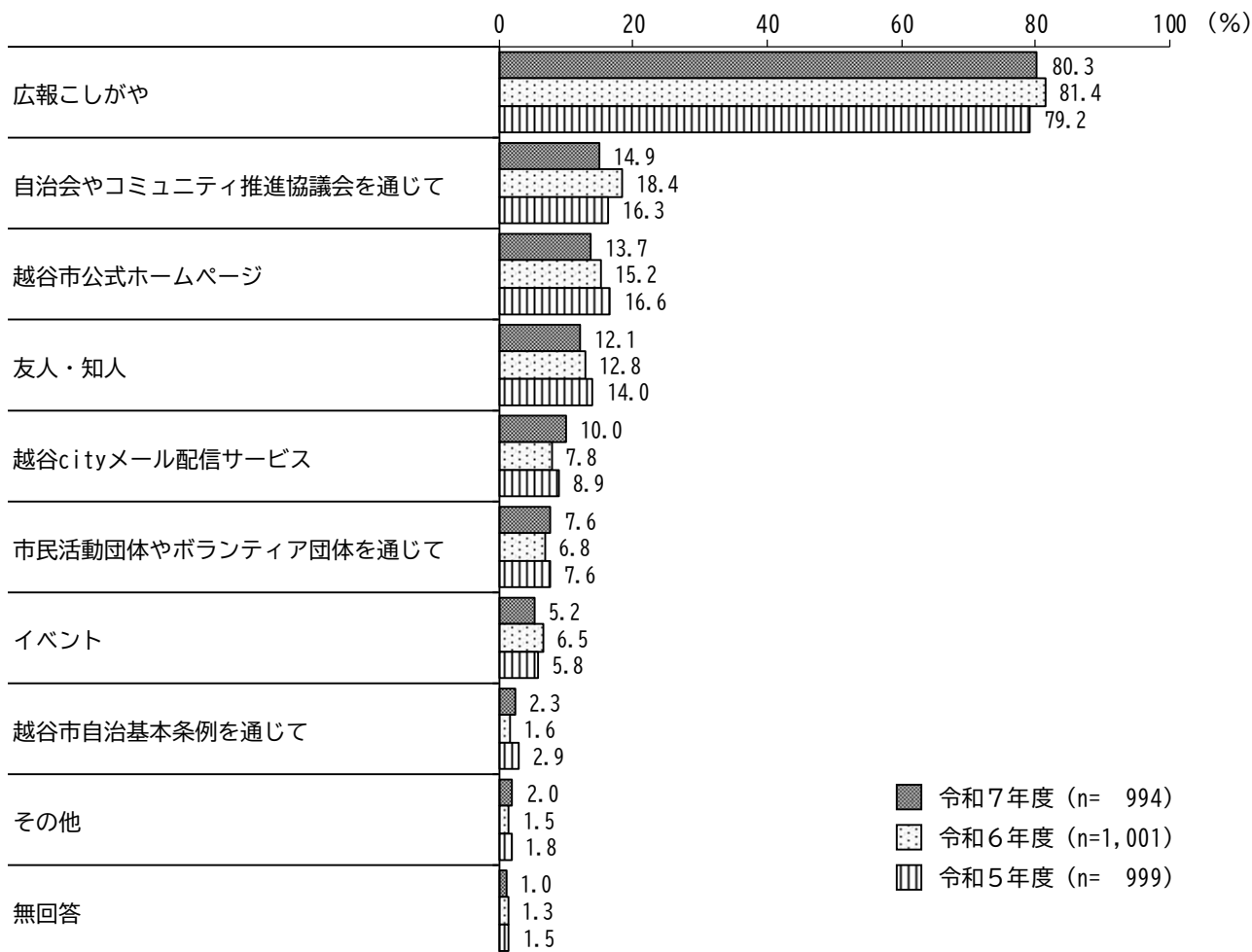


(2) 「参加と協働のまちづくり」を知ったきっかけ

◇「広報こしがや」が最も多く、約8割

問 23-2. 問 23 で「1」から「3」と答えた方に伺います。越谷市が「参加と協働のまちづくり」をすすめていることをどのようにして知り(聞き)ましたか。(〇はいくつでも)

図表 7-2-1 「参加と協働のまちづくり」を知ったきっかけ



「参加と協働のまちづくり」を「知っている」または「聞いたことがある」と回答した 994 人に、知ったきっかけを聞いたところ、「広報こしがや」(80.3%) が最も多く、次いで「自治会やコミュニティ推進協議会を通じて」(14.9%)、「越谷市公式ホームページ」(13.7%)、「友人・知人」(12.1%)、「越谷 city メール配信サービス」(10.0%) の順となっている。

過去 2 回の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっており、「広報こしがや」が突出する傾向が続いている。

性別でみると、「自治会やコミュニティ推進協議会を通じて」（男性 19.6%、女性 11.9%）は 7.7 ポイント、「越谷市公式ホームページ」（男性 16.4%、女性 11.2%）は 5.2 ポイント、男性が女性を上回っている。

性・年齢別でみると、「広報こしがや」は男性 70 歳以上（86.6%）が 8 割半ばで最も多く、男女ともほとんどの年齢で 5 割以上となっている。「自治会やコミュニティ推進協議会を通じて」は男性 70 歳以上（27.8%）、「越谷市公式ホームページ」は男性 50 歳代（25.9%）、「越谷 city メール配信サービス」は 40 歳代で女性（25.0%）、男性（20.5%）とも 2 割台と多くなっている。

※調査数が少ないもの（本調査では 30 人未満とする）については、記述の対象としない。

図表 7-2-2 性・年齢別 「参加と協働のまちづくり」を知ったきっかけ

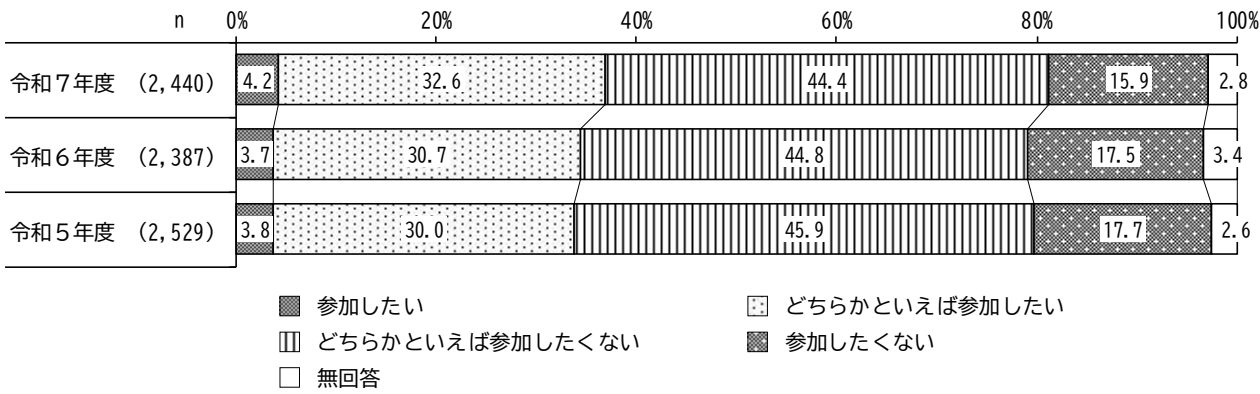
	調査数（人）	広報こしがや	自治会やコミュニティ推進協議会を通じて	越谷市公式ホームページ	友人・知人	越谷 city メール配信サービス	市民活動団体やボランティア団体を通じて	イベント	越谷市自治基本条例を通じて	その他	無回答
全体	994	80.3	14.9	13.7	12.1	10.0	7.6	5.2	2.3	2.0	1.0
女性全体	555	81.3	11.9	11.2	14.1	11.0	7.4	5.6	1.4	1.4	0.7
18～29歳	21	52.4	-	9.5	14.3	9.5	-	19.0	4.8	4.8	-
30～39歳	34	76.5	5.9	8.8	8.8	17.6	5.9	2.9	2.9	5.9	-
40～49歳	56	80.4	3.6	10.7	8.9	25.0	7.1	8.9	-	3.6	-
50～59歳	112	77.7	9.8	19.6	8.9	18.8	7.1	4.5	0.9	0.9	-
60～69歳	93	84.9	8.6	9.7	11.8	7.5	7.5	6.5	2.2	1.1	-
70歳以上	239	84.9	18.0	8.4	19.2	4.6	8.4	4.2	1.3	0.4	1.7
男性全体	408	79.7	19.6	16.4	10.0	9.1	7.6	4.7	3.2	2.5	1.0
18～29歳	17	47.1	5.9	11.8	11.8	11.8	5.9	5.9	5.9	23.5	-
30～39歳	24	70.8	8.3	20.8	4.2	8.3	4.2	4.2	4.2	4.2	-
40～49歳	44	59.1	11.4	13.6	9.1	20.5	4.5	9.1	4.5	4.5	2.3
50～59歳	54	83.3	14.8	25.9	13.0	11.1	5.6	1.9	5.6	-	-
60～69歳	82	81.7	14.6	13.4	8.5	8.5	8.5	6.1	1.2	1.2	2.4
70歳以上	187	86.6	27.8	15.5	10.7	5.9	9.1	3.7	2.7	1.1	0.5

(3)「参加と協働のまちづくり」への参加意向

◇『参加したい』が3割半ば

問 24. 皆さんに伺います。あなたはこのようなまちづくりに参加したいと思いますか。(○は1つ)

図表 7-3-1 「参加と協働のまちづくり」への参加意向



「参加と協働のまちづくり」への参加意向については、「参加したい」(4.2%)と「どちらかといえば参加したい」(32.6%)を合わせた『参加したい』(36.8%)は3割半ばとなっている。一方、「どちらかといえば参加したくない」(44.4%)と「参加したくない」(15.9%)を合わせた『参加したくない』(60.4%)は約6割となっている。

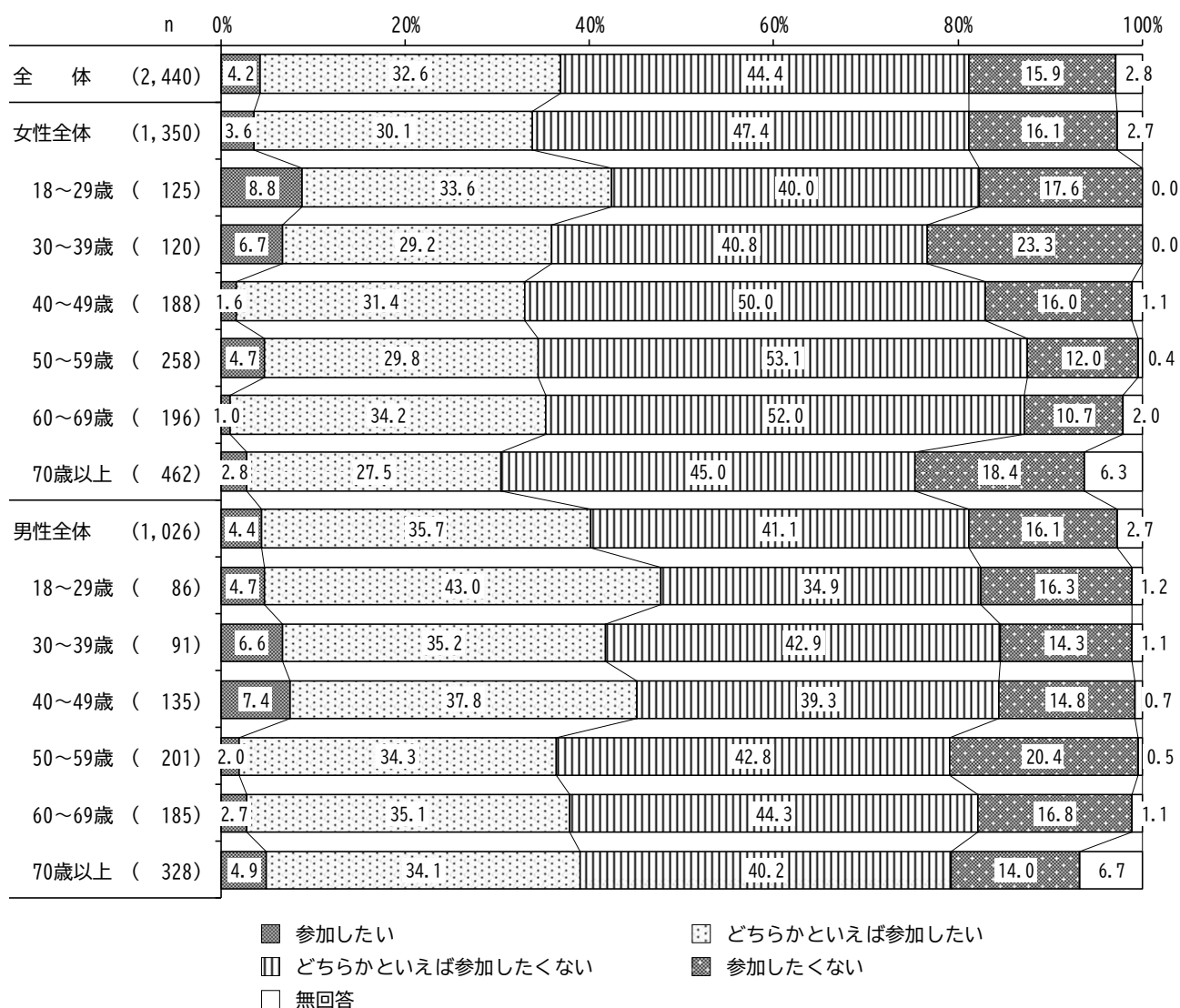
過去2回の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっている。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

性別でみると、『参加したい』は男性（40.1%）が女性（33.8%）を6.3ポイント上回っている。一方、『参加したくない』は女性（63.6%）が男性（57.2%）を6.4ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、『参加したい』は男性18～29歳（47.7%）が最も多く、女性18～29歳（42.4%）、男性30歳代（41.8%）、40歳代（45.2%）も4割台と多くなっている。一方、『参加したくない』は女性40歳代（66.0%）が最も多く、男女ともすべての年齢で5割以上となっている。

図表7-3-2 性・年齢別 「参加と協働のまちづくり」への参加意向

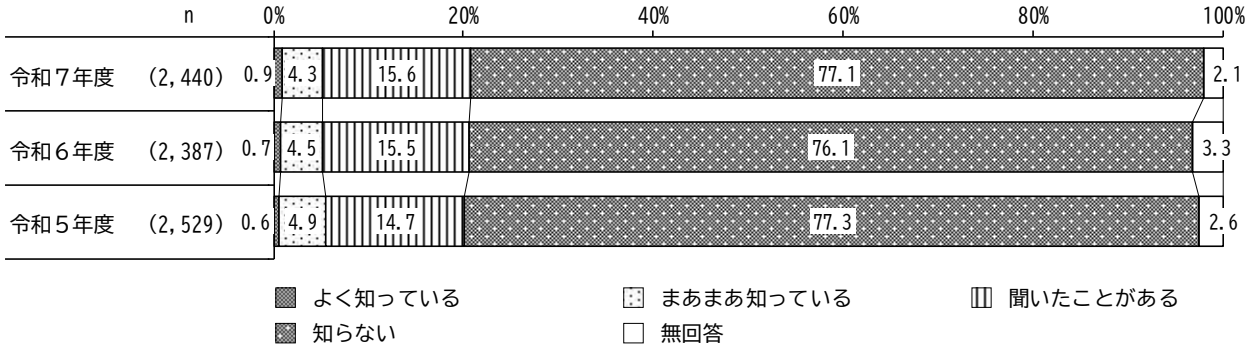


(4)「越谷市自治基本条例」の認知度

◇『知っている』は1割未満

問 25. 皆さんに伺います。あなたは参加と協働のまちづくりに必要なルールなどが書かれている「越谷市自治基本条例」を知っていますか。(○は1つ)

図表 7-4-1 「越谷市自治基本条例」の認知度



「越谷市自治基本条例」の認知度については、「よく知っている」(0.9%)と「まあまあ知っている」(4.3%)を合わせた『知っている』(5.2%)は1割未満となっている。一方、「聞いたことがある」(15.6%)は1割半ば、「知らない」(77.1%)は8割弱となっている。

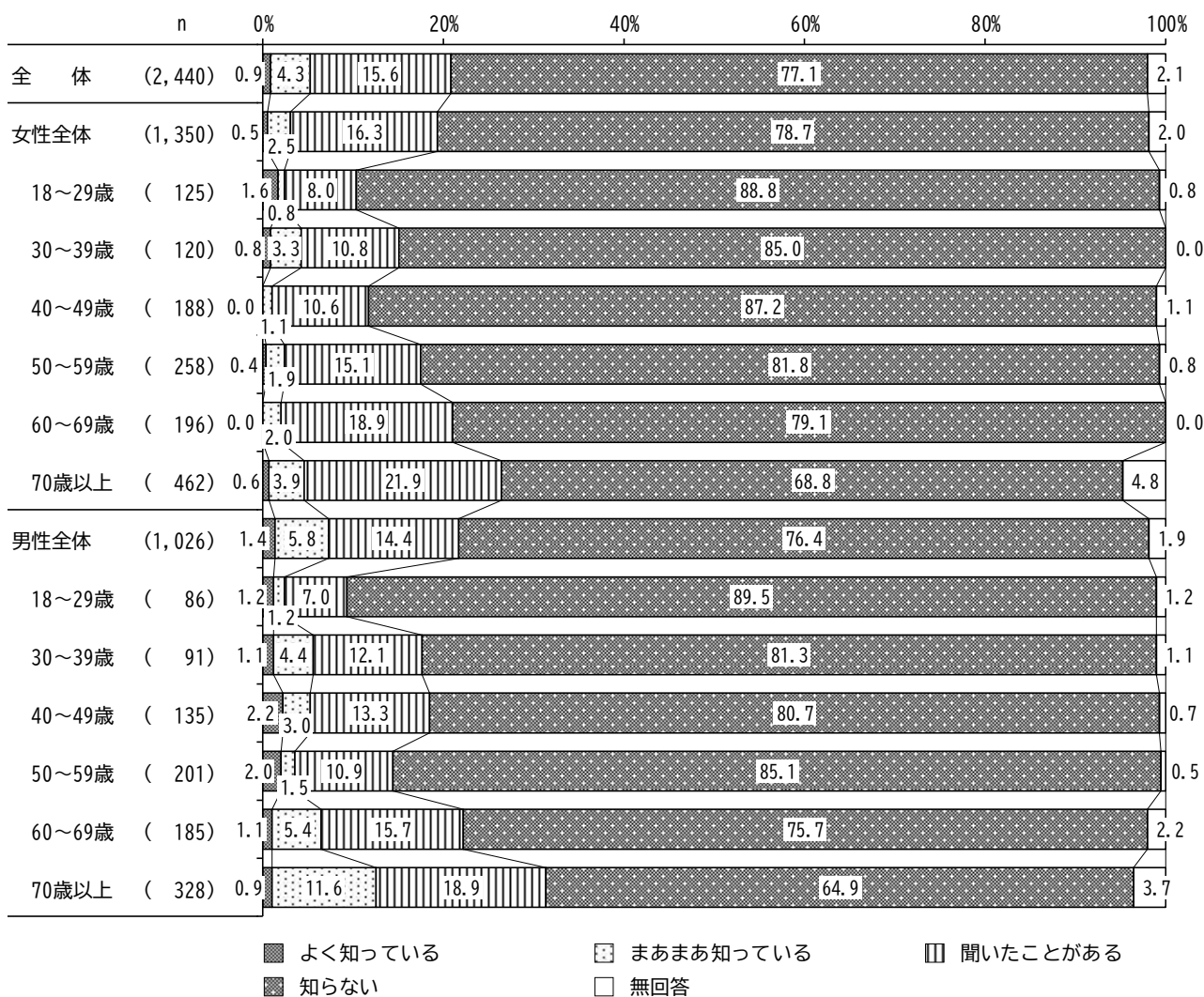
過去2回の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっている。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、『知っている』は男性 70 歳以上（12.5%）が 1 割強で最も多く、それ以外は 1 割未満となっている。また、「聞いたことがある」は女性 70 歳以上（21.9%）で約 2 割となっている。一方、「知らない」は男性 18～29 歳（89.5%）が約 9 割で最も多く、男女ともすべての年齢で 6 割以上となっている。

図表 7-4-2 性・年齢別 「越谷市自治基本条例」の認知度



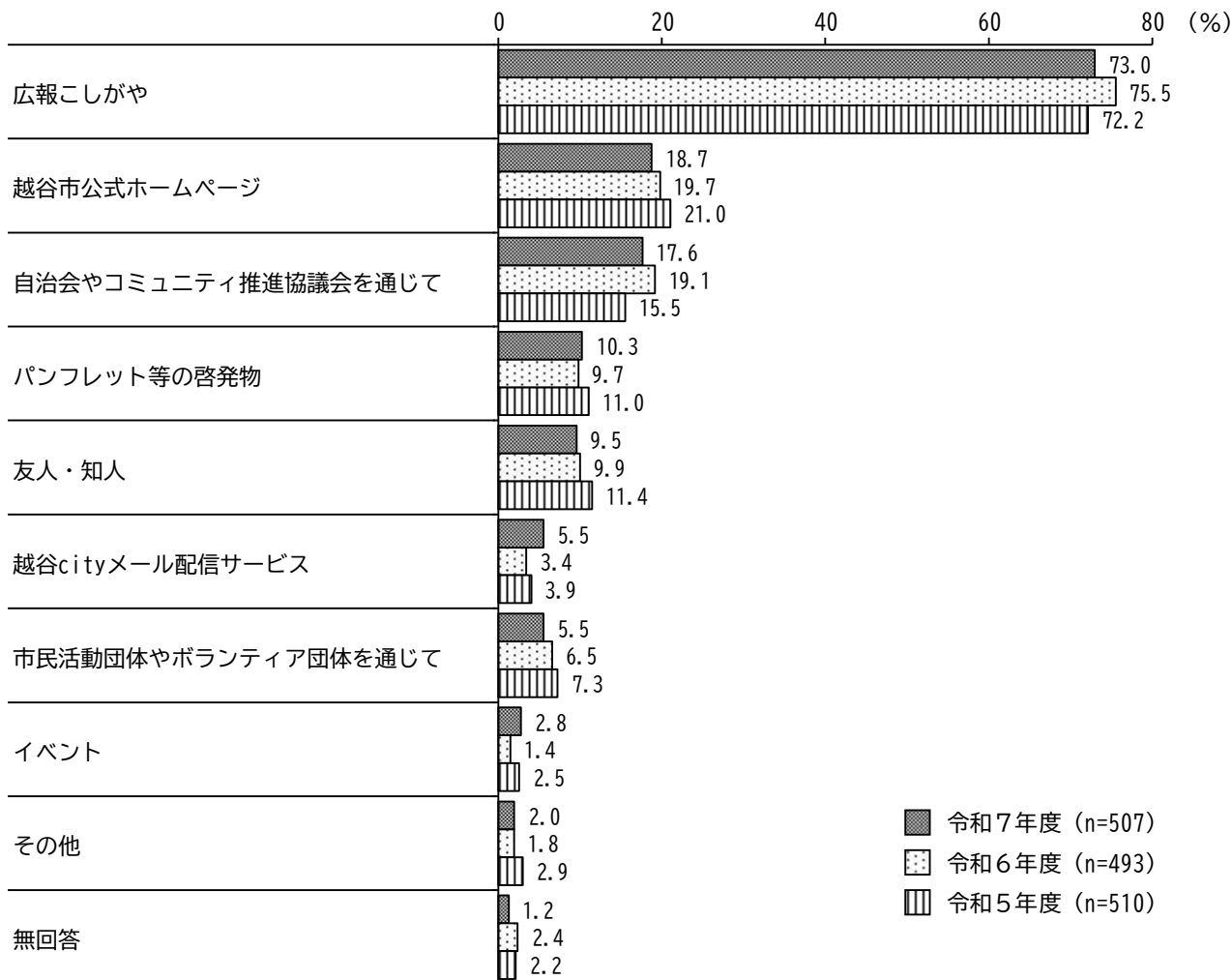
(5) 「越谷市自治基本条例」を知ったきっかけ

◇「広報こしがや」が最も多く、7割強

問 25-2. 問 25 で「1」から「3」と答えた方に伺います。

「越谷市自治基本条例」のことをどのようにして知り(聞き)ましたか。(〇はいくつでも)

図表 7-5-1 「越谷市自治基本条例」を知ったきっかけ



「越谷市自治基本条例」を「知っている」または「聞いたことがある」と回答した 507 人に、知ったきっかけを聞いたところ、「広報こしがや」(73.0%)が最も多く、次いで「越谷市公式ホームページ」(18.7%)、「自治会やコミュニティ推進協議会を通じて」(17.6%)、「パンフレット等の啓発物」(10.3%)、「友人・知人」(9.5%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっており、「広報こしがや」が突出する傾向が続いている。

性別でみると、「越谷市公式ホームページ」は男性（23.0%）が女性（15.3%）を7.7ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「広報こしがや」は女性70歳以上（80.3%）が約8割で最も多く、女性50歳代（77.8%）、60歳代（78.0%）、男性60歳代以上（75.6%、79.6%）なども7割台と多くなっている。「越谷市公式ホームページ」は女性50歳代（26.7%）、男性60歳代（26.8%）で2割半ばとなっているが、それ以上の年代では減少傾向となっている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については、記述の対象としない。

図表7-5-2 性・年齢別 「越谷市自治基本条例」を知ったきっかけ

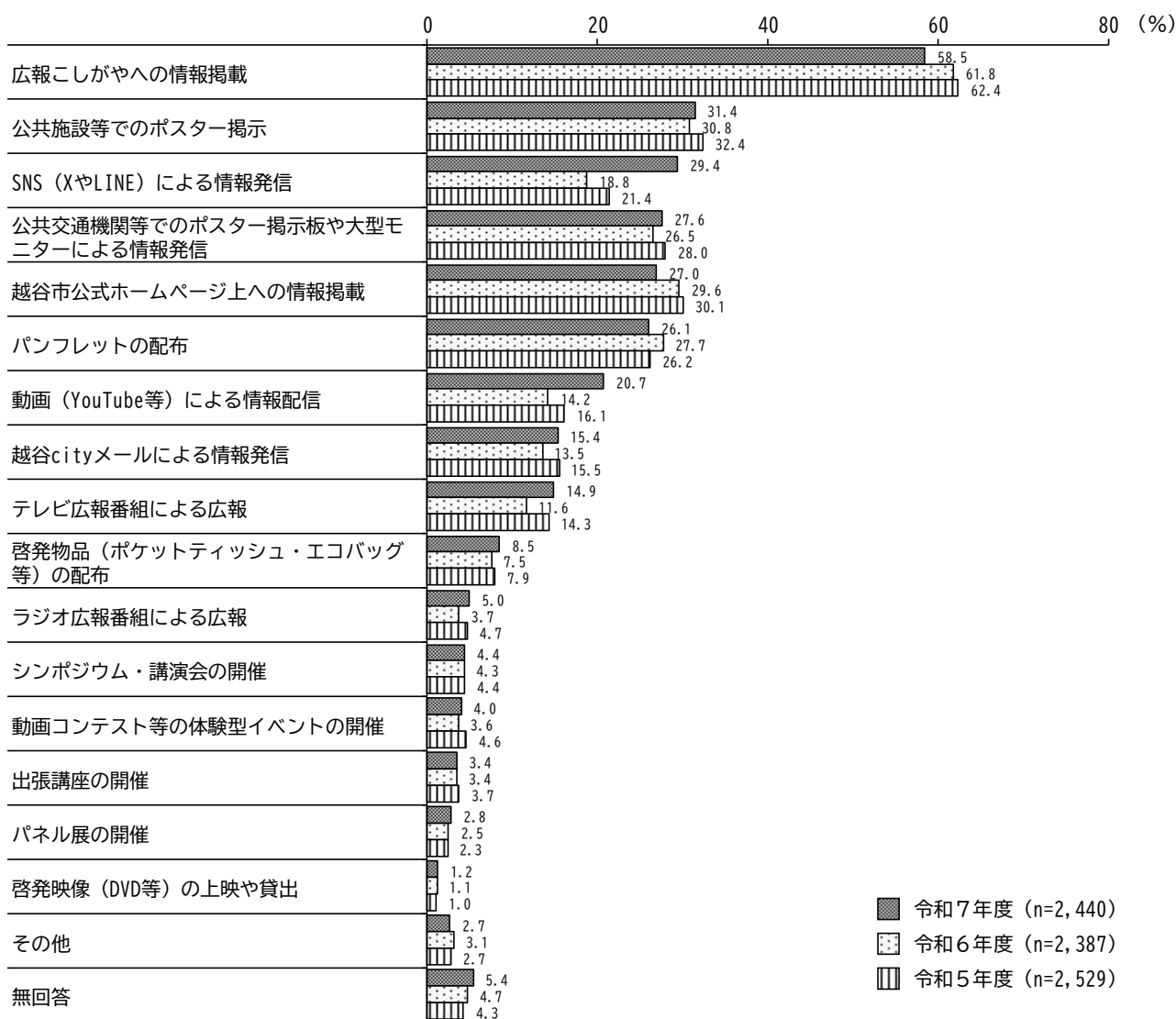
	調査数（人）	広報こしがや	越谷市公式ホームページ	自治会やコミュニティ推進協議会を通じて	パンフレット等の啓発物	友人・知人	越谷cityメール配信サービス	市民活動団体やボランティア団体を通じて	イベント	その他	無回答
全体	507	73.0	18.7	17.6	10.3	9.5	5.5	5.5	2.8	2.0	1.2
女性全体	261	73.6	15.3	15.7	11.5	10.0	5.4	5.4	3.1	2.3	1.1
18～29歳	13	30.8	38.5	7.7	15.4	-	-	-	-	15.4	-
30～39歳	18	50.0	27.8	5.6	11.1	11.1	11.1	-	-	-	-
40～49歳	22	63.6	13.6	4.5	4.5	4.5	18.2	-	4.5	4.5	4.5
50～59歳	45	77.8	26.7	15.6	11.1	6.7	8.9	4.4	-	-	-
60～69歳	41	78.0	12.2	14.6	9.8	12.2	4.9	9.8	2.4	4.9	-
70歳以上	122	80.3	8.2	20.5	13.1	12.3	1.6	6.6	4.9	0.8	1.6
男性全体	222	71.6	23.0	19.8	9.5	9.5	6.3	5.9	2.3	1.8	0.5
18～29歳	8	25.0	25.0	-	12.5	25.0	12.5	-	-	-	-
30～39歳	16	68.8	18.8	6.3	6.3	12.5	6.3	-	-	6.3	-
40～49歳	25	48.0	28.0	12.0	16.0	8.0	12.0	-	-	4.0	4.0
50～59歳	29	72.4	37.9	13.8	10.3	3.4	6.9	6.9	-	-	-
60～69歳	41	75.6	26.8	22.0	9.8	4.9	7.3	12.2	4.9	-	-
70歳以上	103	79.6	16.5	26.2	7.8	11.7	3.9	5.8	2.9	1.9	-

(6) 「越谷市自治基本条例」の普及・啓発方法

◇「広報こしがやへの情報掲載」が最も多く、6割弱

問 26. 皆さんに伺います。「参加と協働のまちづくり」を推進するために「越谷市自治基本条例」の普及・啓発を行っています。普及・啓発方法としてどのような方法が効果的だと思いますか。(〇はいくつでも)

図表 7-6-1 「越谷市自治基本条例」の普及・啓発方法



「越谷市自治基本条例」の普及・啓発方法については、「広報こしがやへの情報掲載」(58.5%)が最も多く、次いで「公共施設等でのポスター掲示」(31.4%)、「SNS (X や LINE) による情報発信」(29.4%)、「公共交通機関等でのポスター掲示板や大型モニターによる情報発信」(27.6%)、「越谷市公式ホームページ上への情報掲載」(27.0%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、「SNS (X や LINE) による情報発信」は令和6年度(18.8%)と比べ10.6ポイント、「動画 (YouTube 等) による情報配信」(20.7%)は令和6年度(14.2%)と比べ6.5ポイント増加した。

性別でみると、「動画（YouTube等）による情報配信」は男性（25.1%）が女性（17.8%）を7.3ポイント上回っている。一方、「広報こしがやへの情報掲載」（女性62.0%、男性54.3%）、「越谷cityメールによる情報発信」（女性18.4%、男性11.8%）、「公共施設等でのポスター掲示」（女性34.3%、男性28.5%）は、女性が男性を5ポイント以上上回っている。

性・年齢別でみると、「広報こしがやへの情報掲載」は女性70歳以上（74.2%）が最も多く、女性60歳代（70.4%）で約7割、女性50歳代（68.2%）、男性60歳代以上（61.6%、68.9%）も6割台と多くなっている。一方、40歳代以下は「SNS（XやLINE）による情報発信」が女性（59.2%、59.2%、51.6%）、男性（64.0%、60.4%、50.4%）とも5割以上で、「広報こしがやへの情報掲載」より多くなっている。また、女性30歳代以下は「公共施設等でのポスター掲示」（44.0%、42.5%）、「公共交通機関等でのポスター掲示板や大型モニターによる情報発信」（40.0%、45.8%）、男性30歳代以下は「動画（YouTube等）による情報配信」（44.2%、40.7%）が4割台と多くなっている。「越谷cityメールによる情報発信」は女性40歳代（35.6%）で全体を20.2ポイント上回り、女性30歳代（23.3%）、50歳代（29.8%）も2割台と多くなっている。

図表7-6-2 性・年齢別 「越谷市自治基本条例」の普及・啓発方法

																			(%)
	調査数（人）	広報こしがやへの情報掲載	公共施設等でのポスター掲示	S N S（XやLINE）による情報発信	公共交通機関等でのポスター掲示板や大型モニターによる情報発信	越谷市公式ホームページ上への情報掲載	パンフレットの配布	動画（YouTube等）による情報配信	越谷cityメールによる情報発信	テレビ広報番組による広報	啓発物品（ポケットティッシュ・エコバッグ等）の配布	ラジオ広報番組による広報	シンポジウム・講演会の開催	動画コンテンツ等の体験型イベントの開催	出張講座の開催	パネル展の開催	啓発映像（DVD等）の上映や貸出	その他	無回答
全 体	2,440	58.5	31.4	29.4	27.6	27.0	26.1	20.7	15.4	14.9	8.5	5.0	4.4	4.0	3.4	2.8	1.2	2.7	5.4
女性全体	1,350	62.0	34.3	29.1	29.6	25.6	25.6	17.8	18.4	13.8	8.9	3.8	3.6	3.9	2.5	2.7	1.3	1.8	4.7
18～29歳	125	28.8	44.0	59.2	40.0	26.4	16.0	32.8	8.8	17.6	14.4	2.4	1.6	4.0	1.6	4.0	1.6	2.4	0.8
30～39歳	120	43.3	42.5	59.2	45.8	35.8	20.0	27.5	23.3	10.0	8.3	5.0	-	7.5	0.8	4.2	1.7	3.3	4.2
40～49歳	188	48.4	36.2	51.6	31.9	29.3	19.1	28.2	35.6	12.2	10.6	3.7	0.5	5.3	2.1	2.7	1.6	2.7	1.6
50～59歳	258	68.2	32.2	36.4	37.6	33.3	19.4	21.3	29.8	12.4	8.5	6.6	2.3	4.3	4.3	1.6	1.2	1.9	0.8
60～69歳	196	70.4	31.1	15.8	34.2	30.6	29.1	17.9	17.3	15.3	11.7	5.1	4.1	4.6	3.6	3.6	2.6	2.0	4.1
70歳以上	462	74.2	31.2	5.6	15.2	14.5	34.2	5.0	6.7	14.3	5.8	1.7	6.7	1.9	1.9	2.4	0.6	0.6	9.7
男性全体	1,026	54.3	28.5	30.9	25.4	29.3	26.0	25.1	11.8	16.2	8.5	6.5	5.5	4.3	4.8	2.8	1.2	3.5	5.6
18～29歳	86	25.6	27.9	64.0	34.9	19.8	16.3	44.2	10.5	15.1	14.0	8.1	-	7.0	4.7	2.3	1.2	7.0	2.3
30～39歳	91	49.5	35.2	60.4	30.8	19.8	12.1	40.7	11.0	13.2	11.0	8.8	2.2	6.6	3.3	1.1	1.1	3.3	3.3
40～49歳	135	45.9	25.2	50.4	34.1	31.9	16.3	33.3	18.5	13.3	6.7	8.9	4.4	5.2	-	3.7	-	3.7	2.2
50～59歳	201	43.8	32.8	37.8	32.3	35.3	22.9	37.8	17.4	17.9	9.0	8.5	5.0	5.0	4.0	3.5	1.5	4.5	2.5
60～69歳	185	61.6	27.0	21.6	27.6	37.3	27.6	18.4	13.5	20.0	9.7	5.4	9.7	4.3	5.4	2.7	1.1	1.6	5.9
70歳以上	328	68.9	26.2	7.0	12.5	25.3	37.5	8.5	5.2	15.2	6.1	4.0	6.1	2.1	7.3	2.7	1.5	3.0	10.1

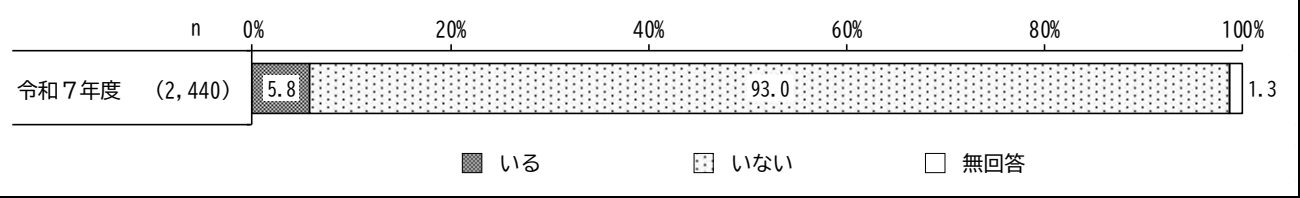
8. ひきこもりについて

(1) 自身、または家族の中に『ひきこもり』の状態に当てはまる人の有無

◇「いない」が9割強

問 27. あなた自身、または家族の中に、仕事や学校等に行けず、家族以外の人と交流をほとんどしていない等、『ひきこもり』の状態に当てはまる人がいますか。(○は1つ)

図表8－1－1 自身、または家族の中に『ひきこもり』の状態に当てはまる人の有無



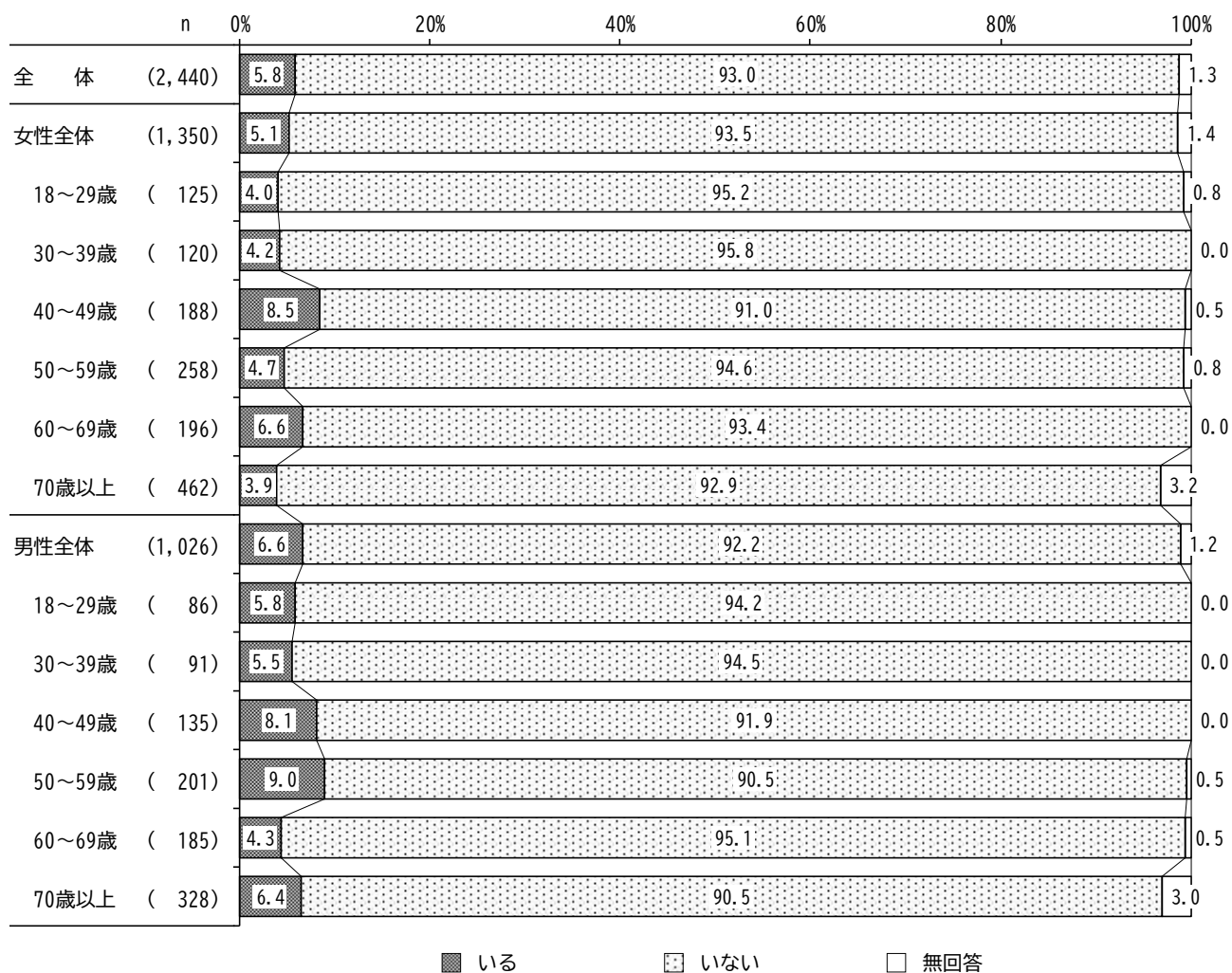
自身、または家族の中に『ひきこもり』の状態に当てはまる人がいるかどうかについては、「いる」(5.8%)が1割未満、「いない」(93.0%)が9割強となっている。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「いる」は男性 50 歳代（9.0%）が最も多く、男女ともすべての年齢で 1 割未満となっている。

図表8－1－2 性・年齢別 自身、または家族の中に『ひきこもり』の状態に当てはまる人の有無



(2)『ひきこもり』の状態にある方の年齢、期間、相談の状況

◇年齢は「20歳代」が2割弱、期間は「10年以上20年未満」が2割半ば、相談の状況は「相談したことがある」が約4割

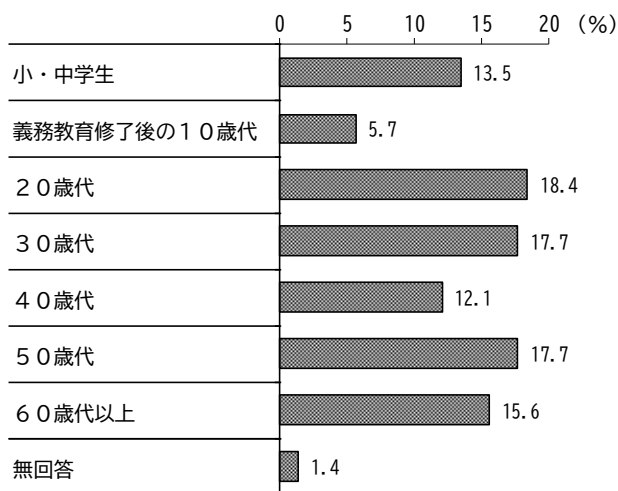
問27-2. 問27で「1. いる」と答えた方に伺います。

『ひきこもり』の状態にある方の①年齢、②期間、③相談の状況について教えてください。

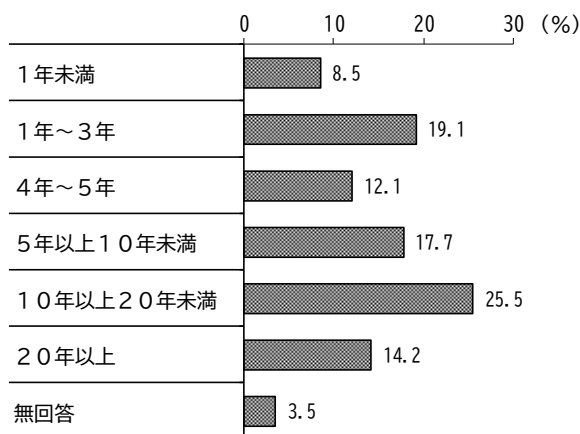
(〇はいくつでも)

図表8-2-1 『ひきこもり』の状態にある方の年齢、期間、相談の状況

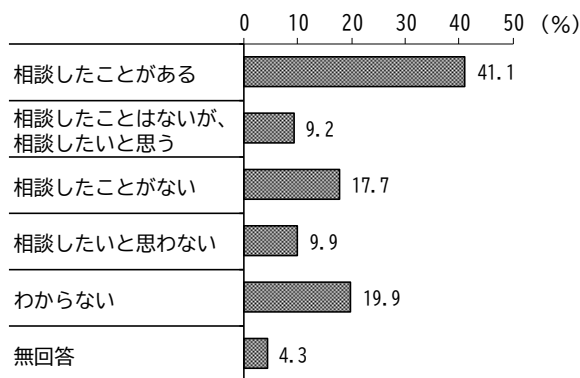
①年齢



②期間



③相談の状況



■ 令和7年度 (n=141)

『ひきこもり』の状態にある方の年齢については、「20歳代」(18.4%)が最も多く、次いで「30歳代」「50歳代」(各17.7%)、「60歳代以上」(15.6%)、「小・中学生」(13.5%)の順となっている。

『ひきこもり』の状態にある方の期間については、「10年以上20年未満」(25.5%)が最も多く、次いで「1年～3年」(19.1%)、「5年以上10年未満」(17.7%)、「20年以上」(14.2%)、「4年～5年」(12.1%)、「1年未満」(8.5%)の順となっている。

『ひきこもり』の状態にある方の相談の状況については、「相談したことがある」(41.1%)が最も多く、次いで「わからない」(19.9%)、「相談したことがない」(17.7%)、「相談したいと思わない」(9.9%)、「相談したことはないが、相談したいと思う」(9.2%)の順となっている。

『ひきこもり』の状態にある方の年齢について性別でみると、「40歳代」は男性(14.7%)が女性(8.7%)を6.0ポイント上回っている。

『ひきこもり』の状態にある方の期間について性別でみると、「20年以上」は女性(17.4%)が男性(11.8%)を5.6ポイント上回っている。一方、「10年以上20年未満」は男性(29.4%)が女性(23.2%)を6.2ポイント上回っている。

『ひきこもり』の状態にある方の相談の状況について性別でみると、「相談したことがある」は女性(44.9%)が男性(38.2%)を6.7ポイント上回っている。一方、「相談したことがない」(男性20.6%、女性14.5%)は6.1ポイント、「相談したいと思わない」(男性16.2%、女性4.3%)は11.9ポイント、男性が女性を上回っている。

※調査数が少ないもの(本調査では30人未満とする)については、記述の対象としない。

図表8-2-2 性・年齢別 『ひきこもり』の状態にある方の年齢、期間、相談の状況

(%)

	調査数(人)	①年齢								②期間							③相談の状況					
		小・中学生	義務教育修了後の10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代以上	無回答	1年未満	1年～3年	4年～5年	5年以上10年未満	10年以上20年未満	20年以上	無回答	相談したことがある	相談したことはないが、相談したいと思う	相談したことがない	相談したいと思わない	わからない	無回答
全 体	141	13.5	5.7	18.4	17.7	12.1	17.7	15.6	1.4	8.5	19.1	12.1	17.7	25.5	14.2	3.5	41.1	9.2	17.7	9.9	19.9	4.3
女性全体	69	14.5	5.8	15.9	18.8	8.7	18.8	15.9	1.4	10.1	20.3	7.2	17.4	23.2	17.4	4.3	44.9	8.7	14.5	4.3	23.2	5.8
18～29歳	5	-	20.0	80.0	-	-	-	-	-	20.0	40.0	-	-	40.0	-	-	60.0	20.0	20.0	-	-	-
30～39歳	5	-	-	-	80.0	20.0	-	-	-	20.0	20.0	-	20.0	40.0	-	-	-	60.0	20.0	-	20.0	-
40～49歳	16	25.0	12.5	6.3	12.5	25.0	12.5	6.3	-	12.5	37.5	6.3	12.5	18.8	12.5	-	62.5	12.5	-	-	25.0	-
50～59歳	12	8.3	-	33.3	-	-	50.0	8.3	-	8.3	16.7	16.7	25.0	8.3	25.0	-	50.0	-	25.0	8.3	16.7	-
60～69歳	13	7.7	-	7.7	46.2	-	-	38.5	-	-	7.7	-	30.8	38.5	23.1	-	53.8	-	7.7	7.7	30.8	7.7
70歳以上	18	22.2	5.6	5.6	5.6	5.6	27.8	22.2	5.6	11.1	11.1	11.1	11.1	16.7	22.2	16.7	27.8	-	22.2	5.6	27.8	16.7
男性全体	68	13.2	5.9	19.1	17.6	14.7	17.6	14.7	1.5	7.4	19.1	11.8	19.1	29.4	11.8	2.9	38.2	8.8	20.6	16.2	16.2	2.9
18～29歳	5	60.0	20.0	40.0	40.0	-	-	-	-	-	40.0	-	60.0	20.0	-	-	20.0	20.0	-	20.0	40.0	-
30～39歳	5	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	20.0	-	60.0	20.0	-	60.0	-	20.0	20.0	20.0	-
40～49歳	11	27.3	-	9.1	9.1	36.4	18.2	-	-	9.1	27.3	9.1	18.2	36.4	-	-	45.5	-	18.2	36.4	9.1	-
50～59歳	18	5.6	11.1	22.2	11.1	-	44.4	5.6	-	5.6	16.7	22.2	11.1	22.2	22.2	-	50.0	5.6	16.7	16.7	5.6	5.6
60～69歳	8	-	-	50.0	-	-	-	50.0	-	12.5	12.5	25.0	25.0	25.0	-	-	37.5	12.5	12.5	12.5	25.0	-
70歳以上	21	9.5	4.8	9.5	9.5	28.6	9.5	23.8	4.8	9.5	19.0	-	19.0	28.6	14.3	9.5	23.8	14.3	33.3	4.8	19.0	4.8

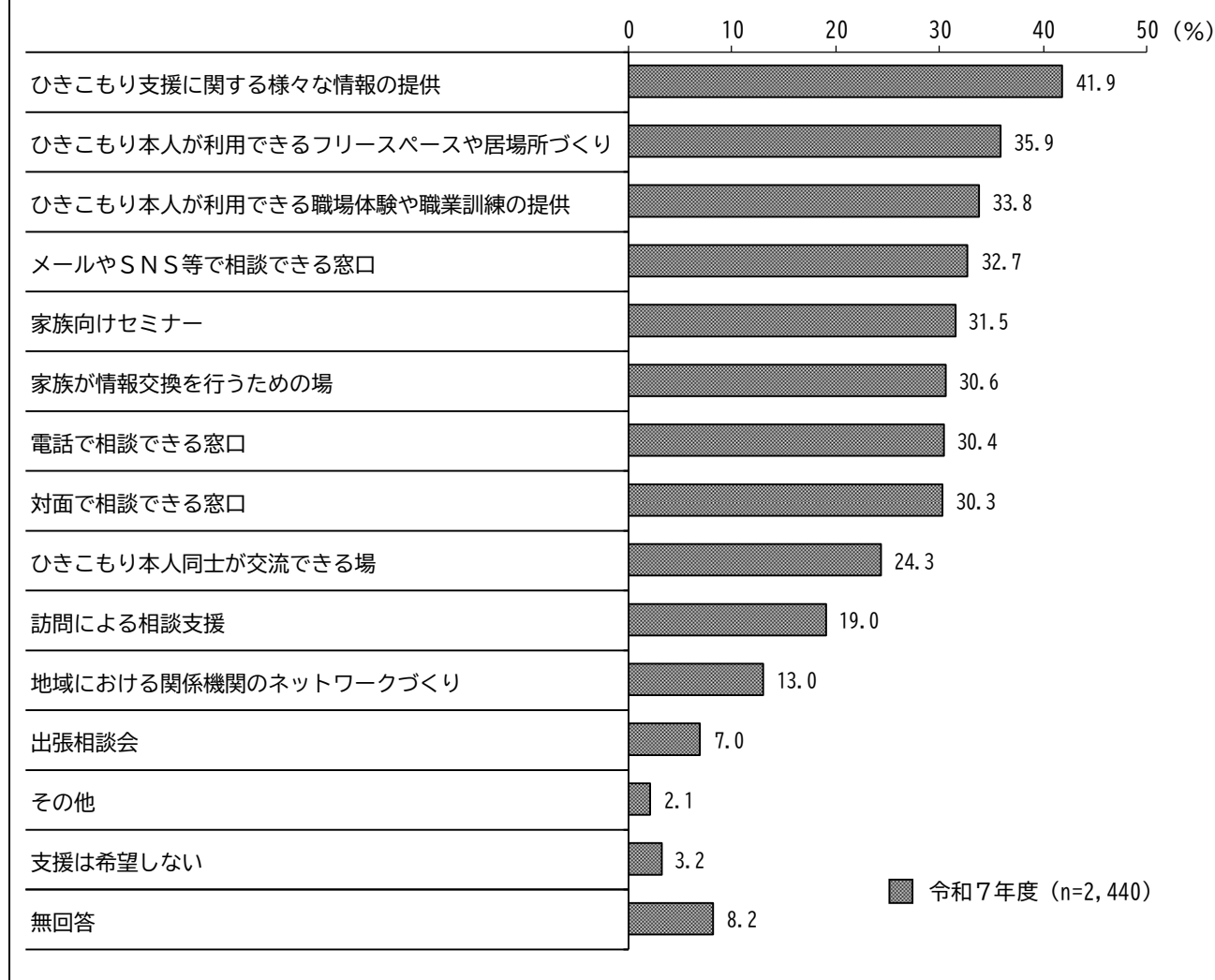
(3) ひきこもり支援として必要なもの

◇「ひきこもり支援に関する様々な情報の提供」が最も多く、約4割

問 28. ひきこもりに悩む方への支援として、どのようなものがあると良いと思いますか。

(〇はいくつでも)

図表8-3-1 ひきこもり支援として必要なもの



ひきこもり支援として必要なものは、「ひきこもり支援に関する様々な情報の提供」(41.9%)が最も多く、次いで「ひきこもり本人が利用できるフリースペースや居場所づくり」(35.9%)、「ひきこもり本人が利用できる職場体験や職業訓練の提供」(33.8%)、「メールやSNS等で相談できる窓口」(32.7%)、「家族向けセミナー」(31.5%)の順となっている。

性別でみると、「ひきこもり本人が利用できるフリースペースや居場所づくり」（女性 40.4%、男性 30.1%）は 10.3 ポイント、「家族が情報交換を行うための場」「ひきこもり本人が利用できる職場体験や職業訓練の提供」「メールやSNS等で相談できる窓口」も 5 ポイント以上、女性が男性を上回っている。一方、「対面で相談できる窓口」は男性（33.4%）が女性（28.4%）を 5.0 ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「ひきこもり支援に関する様々な情報の提供」は女性 50 歳代（53.9%）が最も多く、女性 40 歳代（50.0%）、60 歳代（51.5%）も 5 割台と多くなっている。女性 60 歳代は「ひきこもり本人が利用できるフリースペースや居場所づくり」（51.5%）も同率となっている。一方、「メールやSNS等で相談できる窓口」は 30 歳代以下で女性（56.0%、59.2%）、男性（50.0%、53.8%）とも 5 割台と多くなっている。また、「家族向けセミナー」は女性 30 歳代（47.5%）、40 歳代（43.6%）、「家族が情報交換を行うための場」は女性 40 歳代（43.1%）、50 歳代（41.5%）、「電話で相談できる窓口」は女性 60 歳代（41.8%）、「対面で相談できる窓口」は男性 40 歳代（40.0%）で 4 割台と多くなっている。

図表 8-3-2 性・年齢別 ひきこもり支援として必要なもの

(%)

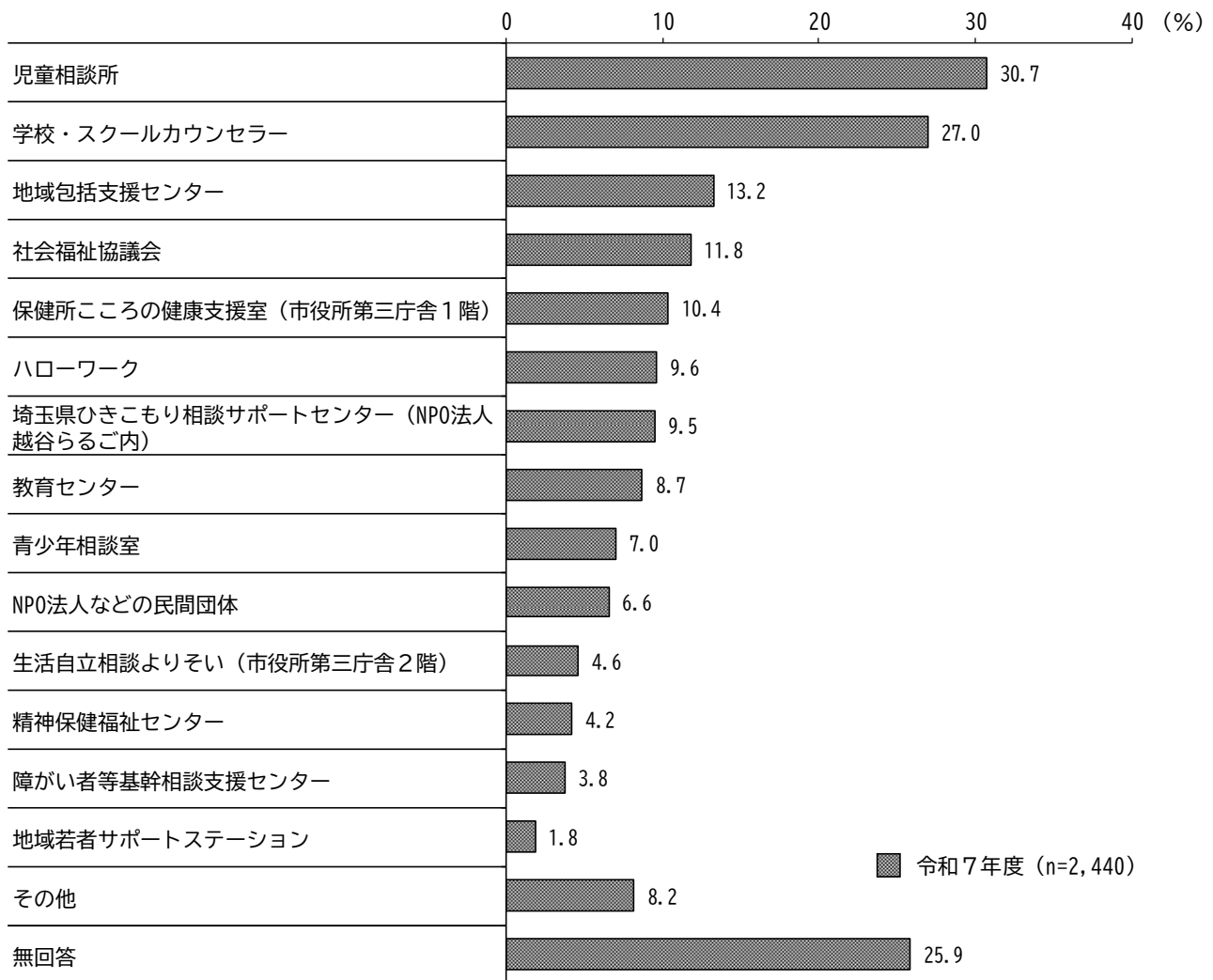
	調査数（人）	ひきこもり支援に関する様々な情報の提供	ひきこもり本人が利用できるフリースペースや居場所づくり	ひきこもり本人が利用できる職場体験や職業訓練の提供	メールやSNS等で相談できる窓口	家族向けセミナー	家族が情報交換を行うための場	電話で相談できる窓口	対面で相談できる窓口	ひきこもり本人同士が交流できる場	訪問による相談支援	地域における関係機関のネットワーク	出張相談会	その他	支援は希望しない	無回答
全 体	2,440	41.9	35.9	33.8	32.7	31.5	30.6	30.4	30.3	24.3	19.0	13.0	7.0	2.1	3.2	8.2
女性全体	1,350	44.0	40.4	37.2	35.7	33.0	35.1	32.7	28.4	25.2	18.4	13.3	6.4	1.6	2.3	7.7
18～29歳	125	26.4	40.8	36.8	56.0	39.2	31.2	33.6	20.8	30.4	14.4	14.4	4.0	1.6	4.8	0.8
30～39歳	120	40.0	48.3	49.2	59.2	47.5	34.2	35.0	29.2	34.2	22.5	18.3	6.7	2.5	3.3	0.8
40～49歳	188	50.0	47.9	43.6	49.5	43.6	43.1	31.4	26.6	26.1	26.6	13.8	8.0	2.1	2.1	0.5
50～59歳	258	53.9	41.9	40.7	48.1	35.7	41.5	36.0	34.1	25.6	20.9	16.3	5.0	-	3.1	2.3
60～69歳	196	51.5	51.5	45.4	34.7	36.7	39.8	41.8	33.2	25.5	18.4	14.3	8.7	2.6	1.0	5.1
70歳以上	462	38.5	29.4	26.0	11.9	20.1	27.5	26.6	25.5	20.6	13.9	9.3	6.1	1.7	1.5	18.4
男性全体	1,026	39.7	30.1	29.9	30.2	30.7	25.4	27.9	33.4	23.6	20.2	13.0	7.8	2.7	4.2	7.7
18～29歳	86	29.1	29.1	27.9	50.0	25.6	24.4	33.7	25.6	23.3	11.6	15.1	5.8	2.3	10.5	1.2
30～39歳	91	36.3	28.6	31.9	53.8	33.0	27.5	28.6	27.5	25.3	20.9	19.8	13.2	5.5	4.4	1.1
40～49歳	135	38.5	29.6	32.6	45.9	37.8	34.8	29.6	40.0	29.6	21.5	16.3	10.4	2.2	5.2	3.0
50～59歳	201	39.3	26.4	33.8	33.8	33.3	27.4	29.4	38.3	21.9	17.9	10.9	6.5	3.0	6.0	3.5
60～69歳	185	41.6	40.0	36.2	28.6	36.8	22.2	28.6	35.7	29.7	20.5	11.4	10.3	2.2	3.8	2.7
70歳以上	328	43.0	27.7	22.9	10.7	23.5	22.0	24.1	30.2	18.3	22.9	11.3	5.2	2.4	1.2	18.6

(4) ひきこもり相談窓口として知っている窓口・団体

◇「児童相談所」が最も多く、約3割

問 29. あなたは、ひきこもりに関して相談できる窓口として、どの窓口・団体等を知っていますか。
(〇はいくつでも)

図表8-4-1 ひきこもり相談窓口として知っている窓口・団体



ひきこもり相談窓口として知っている窓口・団体は、「児童相談所」（30.7%）が最も多く、次いで「学校・スクールカウンセラー」（27.0%）、「地域包括支援センター」（13.2%）、「社会福祉協議会」（11.8%）、「保健所こころの健康支援室（市役所第三庁舎1階）」（10.4%）の順となっている。

性別でみると、「学校・スクールカウンセラー」は女性（33.3%）が男性（19.1%）を14.2ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「児童相談所」は女性18～29歳（48.8%）が5割弱で最も多く、全体を18.1ポイント上回っている。「学校・スクールカウンセラー」は女性40歳代以下（57.6%、50.8%、55.3%）で5割台、女性50歳代（45.7%）で4割半ばと多くなっており、女性50歳代以下は「児童相談所」を上回っている。一方、70歳以上は女性（8.4%）、男性（9.1%）とも1割未満となっている。また、「ハローワーク」は18～29歳で女性（26.4%）、男性（24.4%）とも2割半ばとなり、全体を1割以上上回っている。

図表8-4-2 性・年齢別 ひきこもり相談窓口として知っている窓口・団体

	調査数（人）	児童相談所	学校・スクールカウンセラー	地域包括支援センター	社会福祉協議会	保健所（第三庁舎1階）の健康支援室（市役所）	ハローワーク	埼玉県ひきこもり相談サポートセンター（NPO法人越谷らるご内）	教育センター	青少年相談室	NPO法人などの民間団体	生活自立相談よりそい（市役所第三庁舎2階）	精神保健福祉センター	障がい者等基幹相談支援センター	地域若者サポートステーション	その他	無回答
全 体	2,440	30.7	27.0	13.2	11.8	10.4	9.6	9.5	8.7	7.0	6.6	4.6	4.2	3.8	1.8	8.2	25.9
女性全体	1,350	32.1	33.3	14.1	10.6	11.2	8.8	9.3	10.4	7.2	6.7	4.5	4.7	3.9	1.9	6.9	23.8
18～29歳	125	48.8	57.6	9.6	10.4	8.0	26.4	5.6	15.2	15.2	10.4	4.0	8.0	4.0	4.8	2.4	13.6
30～39歳	120	37.5	50.8	6.7	6.7	10.8	19.2	7.5	17.5	12.5	9.2	3.3	6.7	6.7	4.2	1.7	20.0
40～49歳	188	33.5	55.3	9.0	5.3	10.1	8.0	8.0	17.6	5.9	4.8	3.7	4.3	4.3	2.7	5.9	17.0
50～59歳	258	31.8	45.7	14.3	11.6	10.5	4.7	6.2	16.3	2.7	8.5	6.2	4.7	2.7	1.2	6.2	15.9
60～69歳	196	33.2	28.6	17.9	12.2	16.8	9.7	13.8	8.2	6.1	8.2	5.1	4.1	6.1	1.0	9.2	19.9
70歳以上	462	25.3	8.4	17.7	12.6	10.6	3.7	11.3	2.2	7.1	4.1	4.1	3.7	2.6	1.1	9.1	36.4
男性全体	1,026	29.2	19.1	12.1	13.6	9.3	10.9	9.6	6.6	6.9	6.6	4.8	3.4	3.7	1.9	10.2	27.7
18～29歳	86	36.0	36.0	9.3	14.0	5.8	24.4	8.1	8.1	9.3	14.0	3.5	5.8	5.8	1.2	5.8	22.1
30～39歳	91	29.7	25.3	5.5	7.7	8.8	17.6	6.6	7.7	6.6	11.0	3.3	9.9	4.4	2.2	8.8	29.7
40～49歳	135	37.0	31.9	11.9	11.1	8.1	10.4	9.6	8.1	8.1	5.9	3.0	3.0	4.4	2.2	5.9	23.0
50～59歳	201	33.3	20.4	9.0	11.9	9.0	9.5	10.0	8.0	8.0	9.5	5.0	3.5	4.0	2.5	13.9	23.4
60～69歳	185	30.3	15.1	14.1	11.4	10.8	9.2	8.1	8.6	6.5	4.3	5.9	2.7	2.2	1.6	12.4	25.9
70歳以上	328	21.0	9.1	15.5	18.6	10.1	7.6	11.6	3.4	5.5	3.4	5.5	1.5	3.4	1.5	10.1	34.1

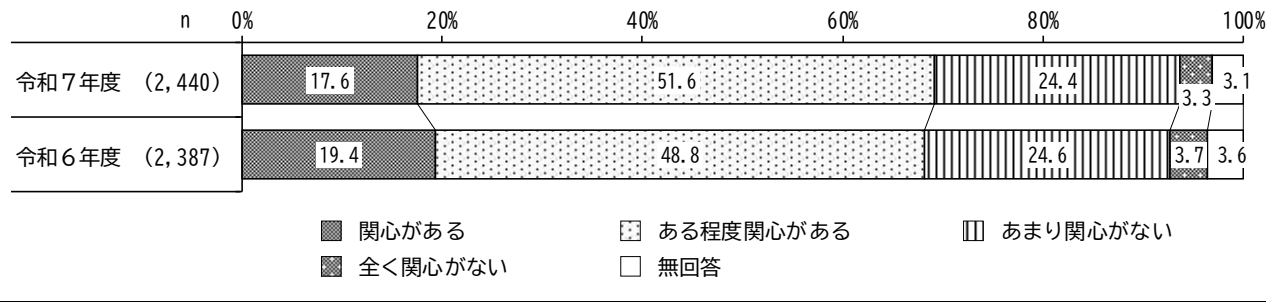
9. 環境政策について

(1) 環境や環境の取組への関心度

◇『関心がある』が約7割

問 30. 越谷市では様々な環境問題への取組を進めています。
あなたは、環境や環境の取組に関心がありますか。(○は1つ)

図表9-1-1 環境や環境の取組への関心度



環境や環境の取組への関心度については、「関心がある」(17.6%)と「ある程度関心がある」(51.6%)を合わせた『関心がある』(69.2%)は約7割となっている。一方、「あまり関心がない」(24.4%)と「全く関心がない」(3.3%)を合わせた『関心がない』(27.7%)は3割弱となっている。

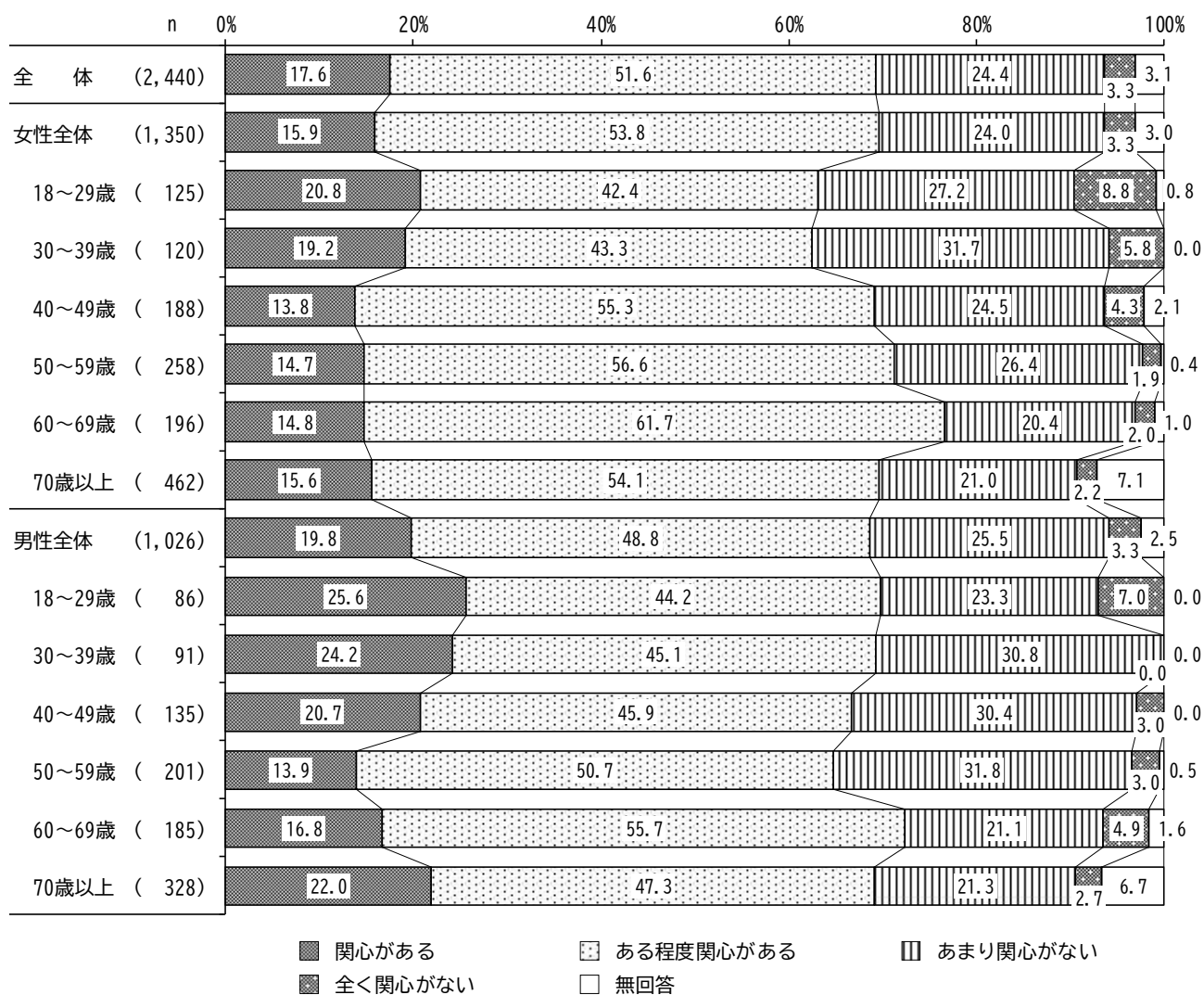
過去の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっている。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、『関心がある』は女性 60 歳代 (76.5%) が最も多く、女性 50 歳代 (71.3%)、男性 60 歳代 (72.4%) も 7 割台と多くなっている。一方、『関心がない』は女性 30 歳代 (37.5%) が最も多く、女性 18～29 歳 (36.0%)、男性 50 歳代 (34.8%) も 3 割半ばと多くなっている。

図表 9-1-2 性・年齢別 環境や環境の取組への関心度

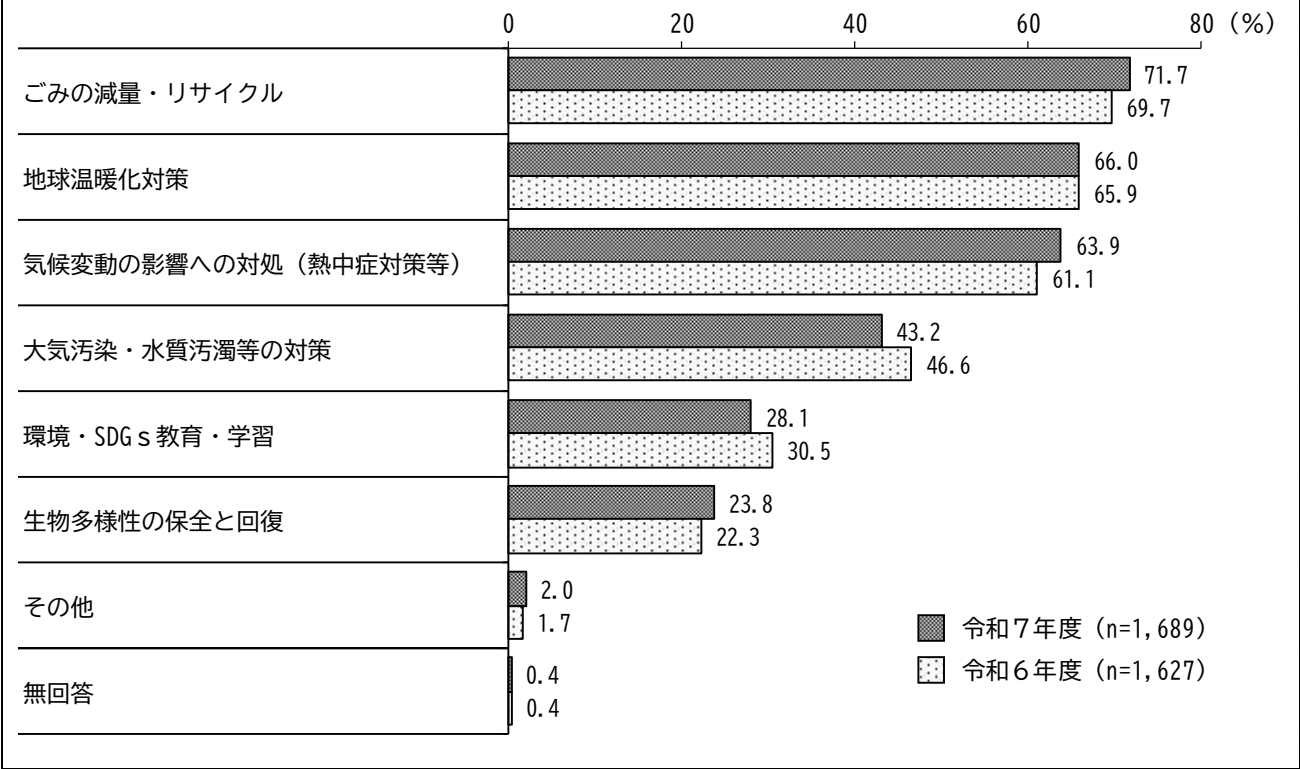


(2) 関心がある環境の取組

◇「ごみの減量・リサイクル」が最も多く、約7割

問 30-2. 問 30 で「1」または「2」と答えた方に伺います。
関心がある項目を教えてください。(〇はいくつでも)

図表9-2-1 関心がある環境の取組



環境や環境への取組に『関心がある』と回答した1,689人に、関心がある項目を聞いたところ、「ごみの減量・リサイクル」(71.7%)が最も多く、次いで「地球温暖化対策」(66.0%)、「気候変動の影響への対処(熱中症対策等)」(63.9%)、「大気汚染・水質汚濁等の対策」(43.2%)、「環境・SDGs教育・学習」(28.1%)の順となっている。

過去の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっている。

性別でみると、「気候変動の影響への対処（熱中症対策等）」は女性（68.0%）が男性（59.5%）を8.5ポイント上回っている。一方、「生物多様性の保全と回復」は男性（28.8%）が女性（19.9%）を8.9ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「ごみの減量・リサイクル」「気候変動の影響への対処（熱中症対策等）」は男女ともすべての年齢、「地球温暖化対策」は男性30歳代（49.2%）を除き5割以上となっている。また、「大気汚染・水質汚濁等の対策」は男性30歳代（52.4%）、「環境・SDGs教育・学習」は女性30歳代（53.3%）で5割台と多くなっている。

図表9-2-2 性・年齢別 関心がある環境の取組

(%)

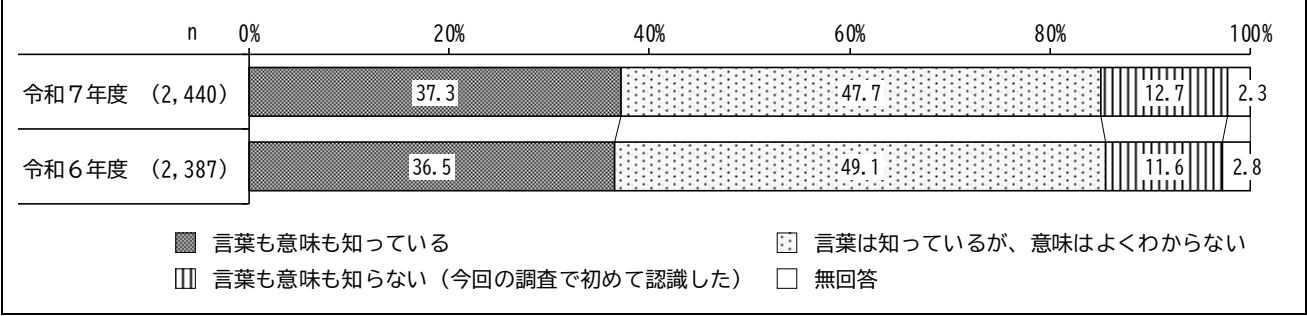
	調査数（人）	ごみの減量・リサイクル	地球温暖化対策	気候変動の影響への対処 （熱中症対策等）	大気汚染・水質汚濁等の対策	環境・SDGs教育・学習	生物多様性の保全と回復	その他	無回答
全 体	1,689	71.7	66.0	63.9	43.2	28.1	23.8	2.0	0.4
女性全体	940	73.4	67.9	68.0	41.8	29.7	19.9	1.9	0.4
18～29歳	79	63.3	65.8	59.5	38.0	40.5	34.2	—	—
30～39歳	75	69.3	65.3	65.3	41.3	53.3	30.7	—	—
40～49歳	130	71.5	64.6	72.3	41.5	43.1	26.2	0.8	0.8
50～59歳	184	70.7	70.1	73.4	46.2	29.9	22.3	0.5	0.5
60～69歳	150	74.0	73.3	72.0	43.3	28.0	16.7	5.3	—
70歳以上	322	78.9	66.5	64.0	39.8	16.8	11.5	2.5	0.6
男性全体	704	69.0	63.9	59.5	44.9	26.8	28.8	1.8	0.1
18～29歳	60	55.0	61.7	58.3	48.3	28.3	38.3	—	—
30～39歳	63	55.6	49.2	58.7	52.4	30.2	28.6	1.6	—
40～49歳	90	60.0	57.8	65.6	47.8	38.9	35.6	1.1	1.1
50～59歳	130	63.1	70.8	63.1	38.5	23.1	29.2	0.8	—
60～69歳	134	77.6	68.7	59.7	44.8	32.1	32.1	1.5	—
70歳以上	227	78.4	64.3	55.5	44.5	19.8	21.6	3.5	—

(3)「脱炭素社会」の認知度

◇『言葉を知っている』が8割半ば

問 31. 「脱炭素社会」とは、人間の活動による温室効果ガスの排出量と森林などによる吸収量が等しくなり、排出実質ゼロとなる社会をいいます。あなたは、「脱炭素社会」についてどの程度知っていますか。(〇は1つ)

図表 9-3-1 「脱炭素社会」の認知度



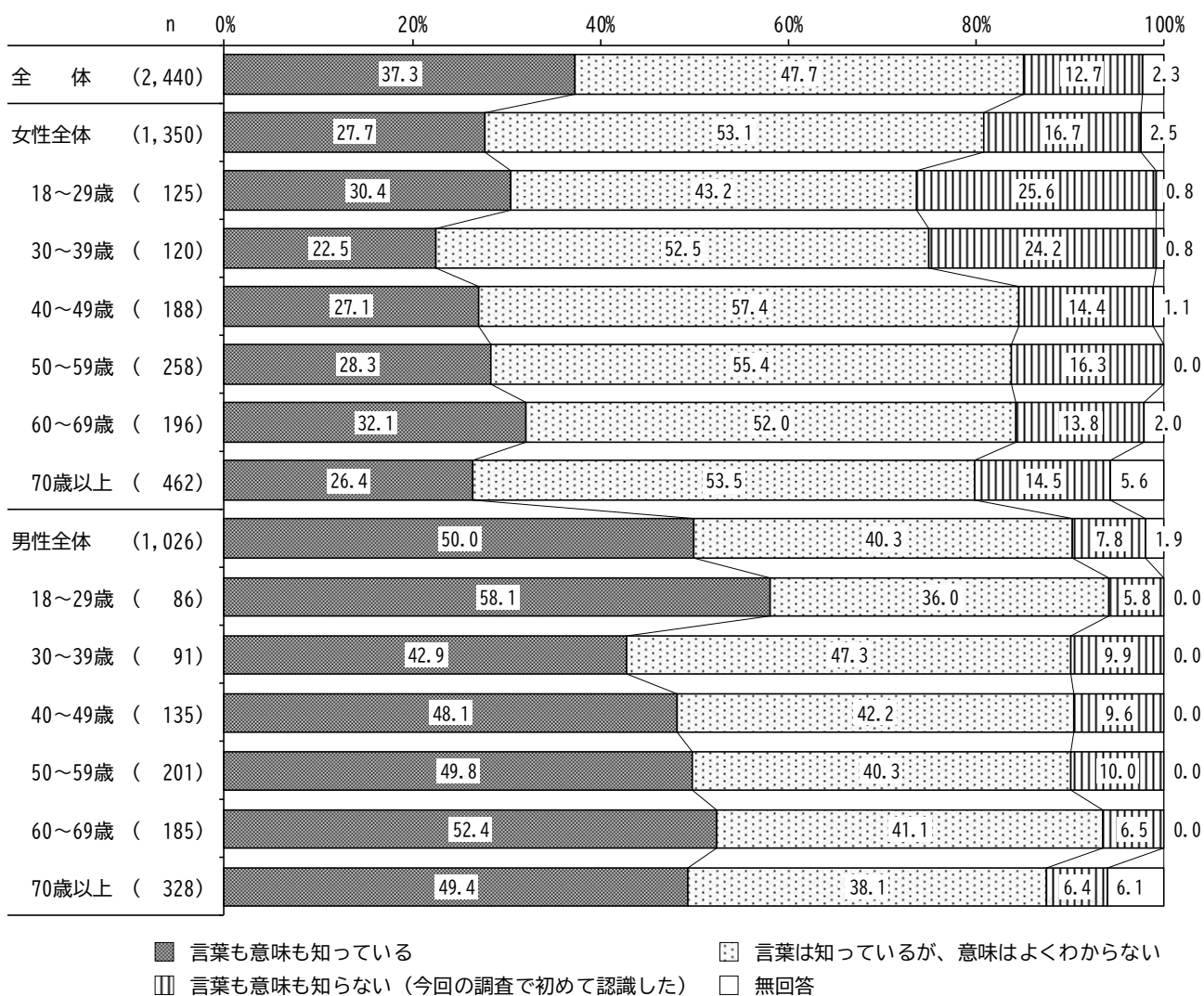
「脱炭素社会」の認知度については、「言葉は知っているが、意味はよくわからない」(47.7%)が最も多く、次いで「言葉も意味も知っている」(37.3%)、「言葉も意味も知らない（今回の調査で初めて認識した）」(12.7%)となっている。「言葉も意味も知っている」「言葉は知っているが、意味はよくわからない」を合わせた『言葉を知っている』(85.0%)は8割半ばとなっている。

過去の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっている。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

性別でみると、『言葉を知っている』は男性（90.3%）が女性（80.8%）を9.5ポイント上回っている。
 性・年齢別でみると、『言葉を知っている』は男性18～29歳（94.2%）が最も多く、男性は70歳以上（87.5%）を除き9割台となっている。一方、女性は40～60歳代（84.6%、83.7%、84.2%）で8割台、それ以外は7割台となっている。

図表9-3-2 性・年齢別 「脱炭素社会」の認知度

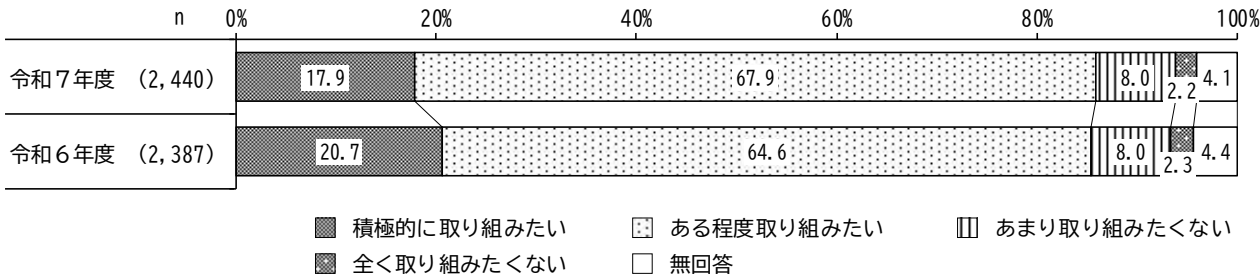


(4) 脱炭素社会の実現への取組意向

◇『取り組みたい』が8割半ば

問 32. 脱炭素社会の実現に向け、一人一人が二酸化炭素などの排出を減らす取組についてどのように考えますか。(政府は、2050 年に温室効果ガス排出量実質ゼロとし、脱炭素社会の構築を目指すことを宣言しました。それに伴い、越谷市は 2030 年度市域の温室効果ガス削減目標について、2013 年度比 46%以上削減を掲げています。) (〇は1つ)

図表 9-4-1 脱炭素社会の実現への取組意向



脱炭素社会の実現への取組意向については、「積極的に取り組みたい」(17.9%)と「ある程度取り組みたい」(67.9%)を合わせた『取り組みたい』(85.8%)は8割半ばとなっている。一方、「あまり取り組みたくない」(8.0%)と「全く取り組みたくない」(2.2%)を合わせた『取り組みたくない』(10.2%)は約1割となっている

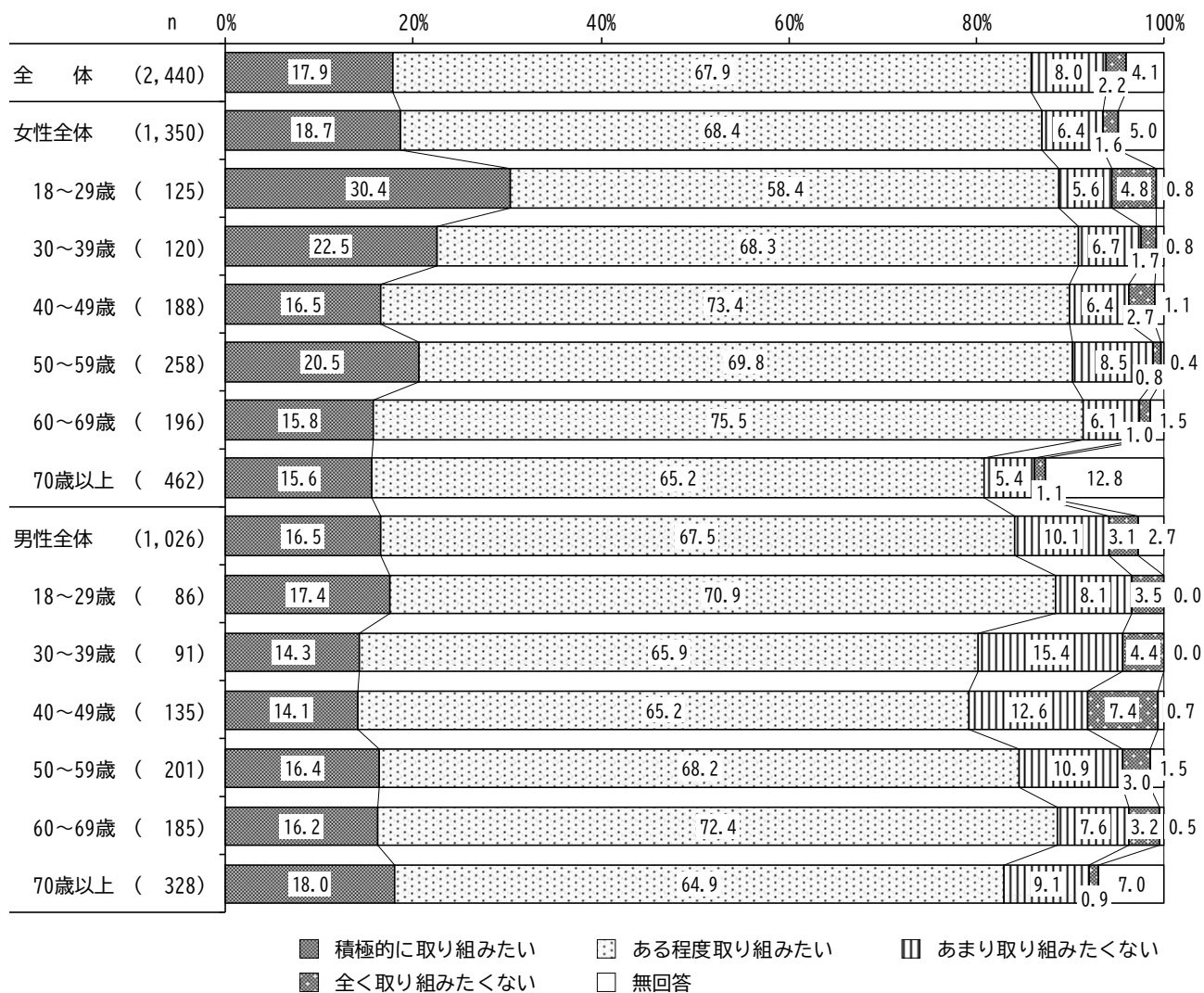
過去の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっている。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、『取り組みたい』は女性 60 歳代（91.3%）が最も多く、女性 30 歳代（90.8%）、50 歳代（90.3%）も約 9 割と多くなっている。一方、『取り組みたくない』は男性 40 歳代（20.0%）で 2 割、男性 30 歳代（19.8%）で約 2 割と多くなっている。

図表 9-4-2 性・年齢別 脱炭素社会の実現への取組意向



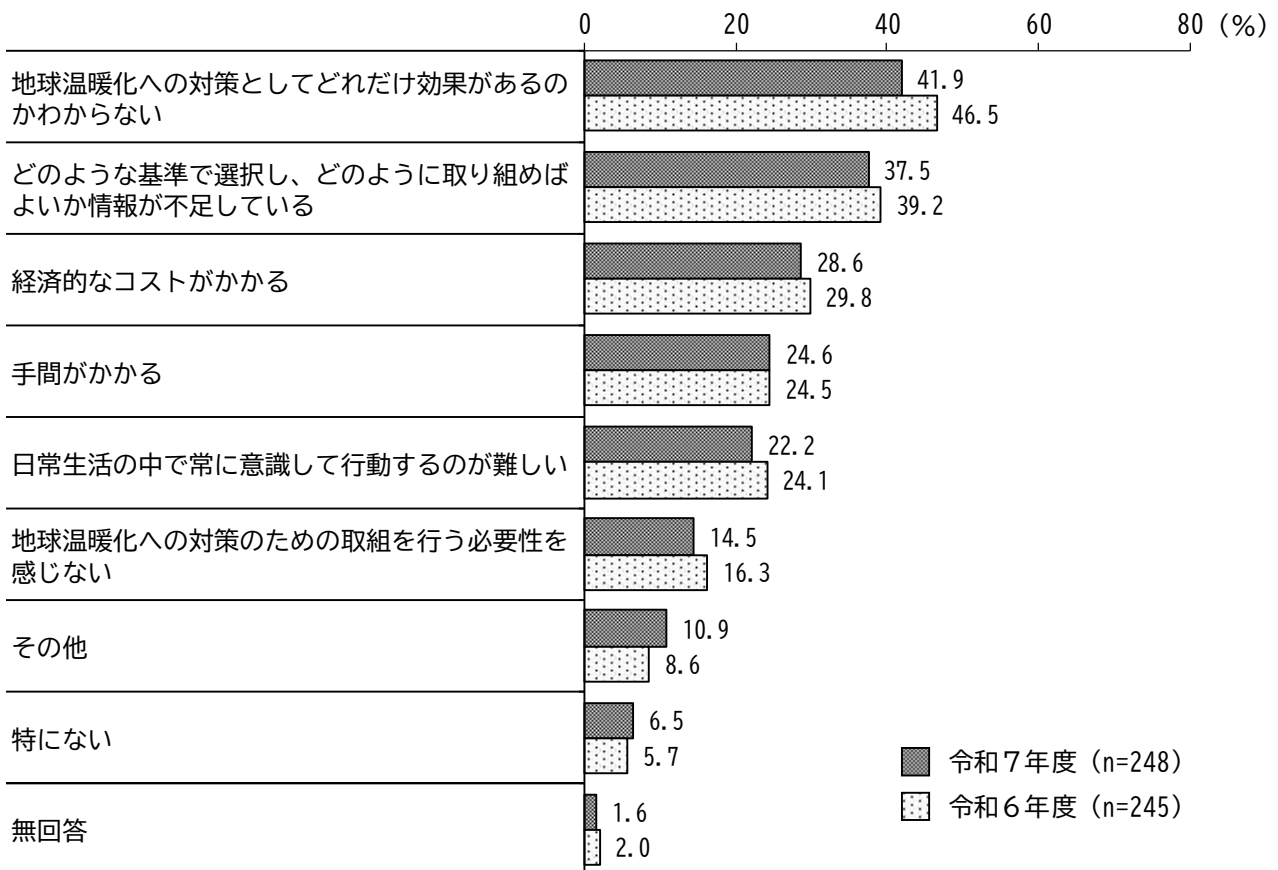
(5) 脱炭素社会の実現に取り組みたくない理由

◇「地球温暖化への対策としてどれだけ効果があるのかわからない」が最も多く、約4割

問 32-2. 問 32 で「3」または「4」と答えた方に伺います。その理由を教えてください。

(○はいくつでも)

図表9-5-1 脱炭素社会の実現に取り組みたくない理由



脱炭素社会の実現に『取り組みたくない』と回答した 248 人に、取り組みたくない理由を聞いたところ、「地球温暖化への対策としてどれだけ効果があるのかわからない」(41.9%) が最も多く、次いで「どのような基準で選択し、どのように取り組めばよいか情報が不足している」(37.5%)、「経済的なコストがかかる」(28.6%)、「手間がかかる」(24.6%)、「日常生活の中で常に意識して行動するのが難しい」(22.2%) の順となっている。

過去の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっている。

性別でみると、「どのような基準で選択し、どのように取り組めばよいか情報が不足している」（女性 42.6%、男性 33.1%）は 9.5 ポイント、「日常生活の中で常に意識して行動するのが難しい」（女性 26.9%、男性 18.4%）は 8.5 ポイント、女性が男性を上回っている。一方、「地球温暖化への対策のための取組を行う必要性を感じない」（男性 19.1%、女性 9.3%）は 9.8 ポイント、「経済的なコストがかかる」（男性 32.4%、女性 25.0%）は 7.4 ポイント、男性が女性を上回っている。

※調査数が少ないもの（本調査では 30 人未満とする）については、記述の対象としない。

図表 9-5-2 性・年齢別 脱炭素社会の実現に取り組みたくない理由

	調査数（人）	地球温暖化への対策としてどれだけ	どのような基準で選択し、どのよう	経済的なコストがかかる	手間がかかる	日常生活の中で常に意識して行動する	地球温暖化への対策のための取組を	その他	特にな	無回答
全 体	248	41.9	37.5	28.6	24.6	22.2	14.5	10.9	6.5	1.6
女性全体	108	41.7	42.6	25.0	22.2	26.9	9.3	5.6	8.3	3.7
18～29歳	13	30.8	38.5	23.1	23.1	23.1	7.7	-	23.1	-
30～39歳	10	50.0	50.0	30.0	20.0	40.0	-	10.0	-	-
40～49歳	17	35.3	35.3	23.5	29.4	17.6	17.6	-	11.8	-
50～59歳	24	41.7	45.8	33.3	25.0	25.0	12.5	8.3	4.2	-
60～69歳	14	64.3	42.9	14.3	7.1	14.3	7.1	7.1	7.1	-
70歳以上	30	36.7	43.3	23.3	23.3	36.7	6.7	6.7	6.7	13.3
男性全体	136	43.4	33.1	32.4	27.2	18.4	19.1	14.0	5.1	-
18～29歳	10	60.0	40.0	60.0	50.0	30.0	20.0	-	-	-
30～39歳	18	61.1	38.9	33.3	33.3	22.2	38.9	27.8	-	-
40～49歳	27	66.7	40.7	37.0	25.9	11.1	29.6	14.8	-	-
50～59歳	28	21.4	25.0	35.7	28.6	7.1	17.9	17.9	7.1	-
60～69歳	20	45.0	30.0	15.0	20.0	25.0	15.0	10.0	5.0	-
70歳以上	33	27.3	30.3	27.3	21.2	24.2	3.0	9.1	12.1	-

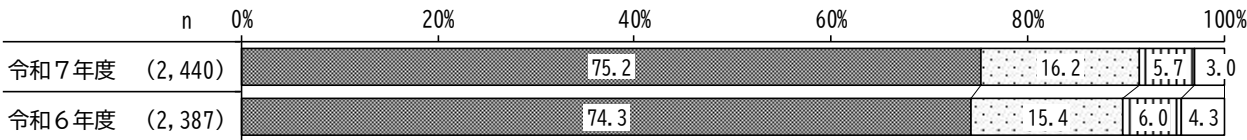
(6) 脱炭素社会の実現につながる行動の実践状況

◇「実践している」は、「レジ袋等の使用量を削減するため、買い物にはマイバッグやかごを持参する」が最も多く、8割半ば

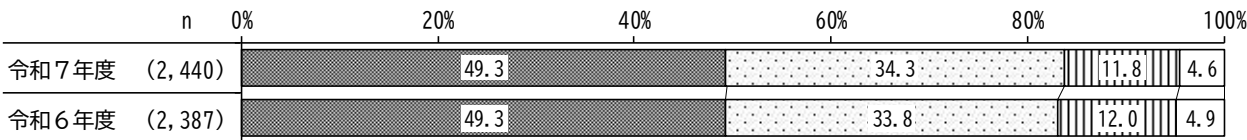
問 33. あなたは、脱炭素社会の実現につながる以下の各項目の行動を実践していますか。
(ア～セ それぞれ横に○は1つずつ)

図表9-6-1 脱炭素社会の実現につながる行動の実践状況

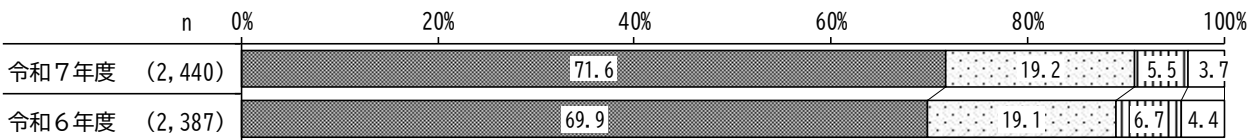
ア こまめな消灯やエアコンの設定温度の適切な管理など、省エネ・節電行動をとる



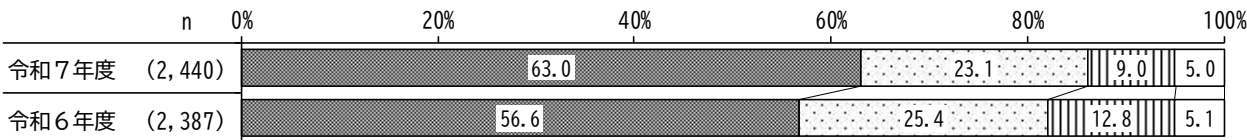
イ 冷蔵庫、エアコン等の家電製品や給湯空調設備は、省エネ性能の高いものを使用する



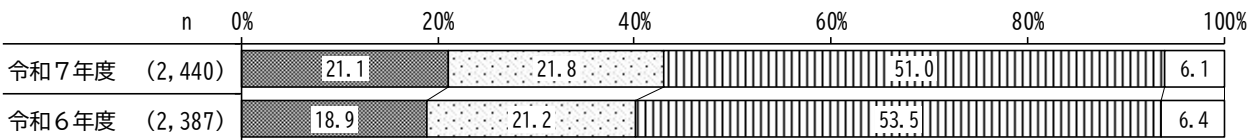
ウ 照明器具はLEDを使用する



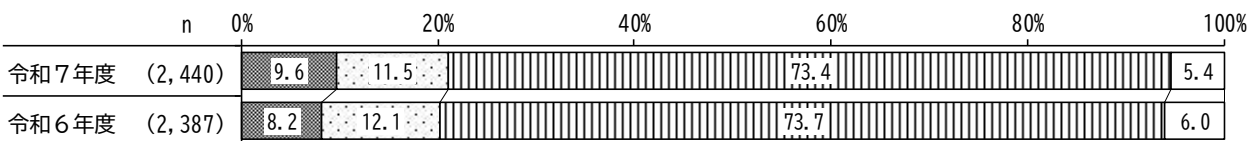
エ 宅配便の1回での受取り、または宅配ボックスでの受取りなど再配達を防止する



オ 部屋の温度を快適に保つ高断熱などの省エネ住宅へ居住する、またはリフォームを行う

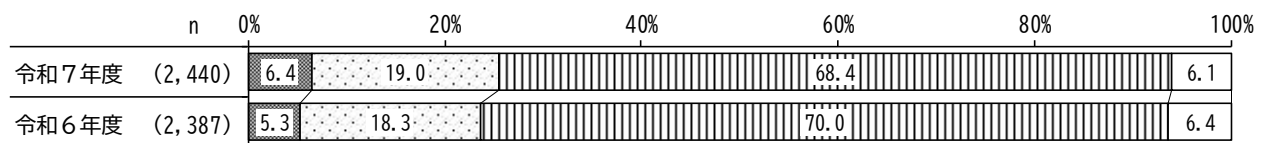


カ 太陽光発電パネルなどの再生可能エネルギー設備を設置する

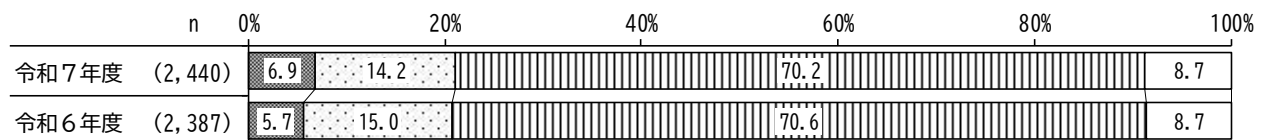


■ 実践している ▨ 実践を検討している ▤ 検討もしていない □ 無回答

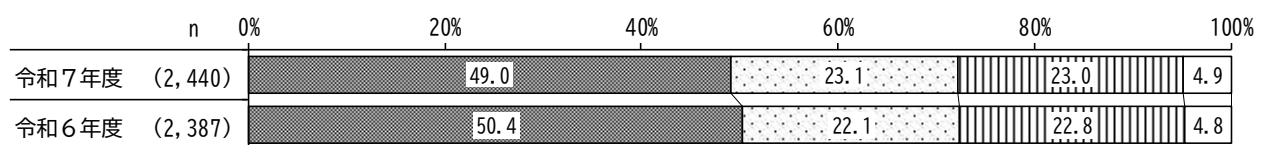
キ 自宅の電気プランを再生可能エネルギーメニューに切り替える



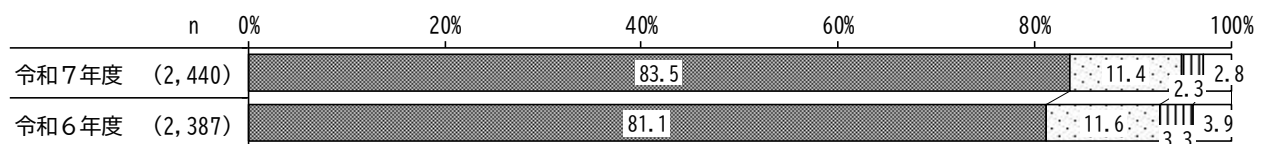
ク 自動車をEV・PHEVに乗り換える



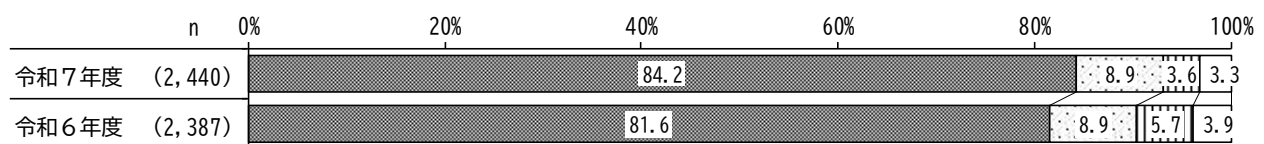
ケ 移動時には、なるべく徒歩・自転車・公共交通機関を利用する



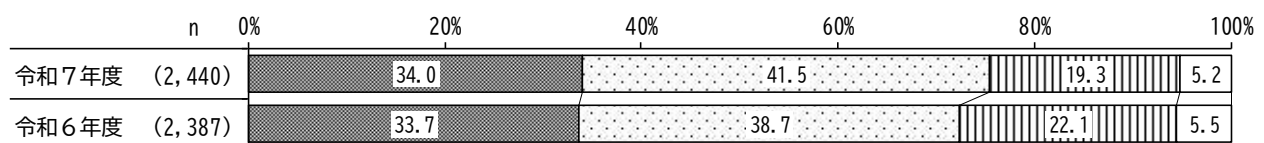
コ ごみの正しい分別や資源のリサイクルを積極的に行う



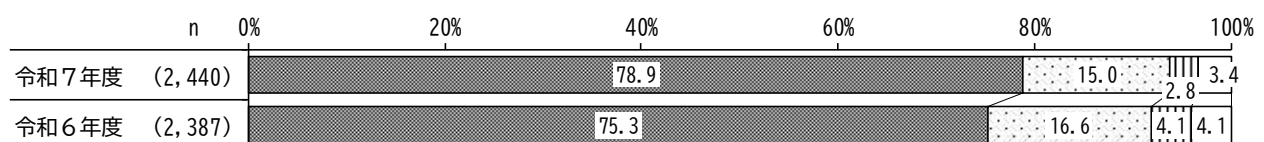
サ レジ袋等の使用量を削減するため、買い物にはマイバッグやかごを持参する



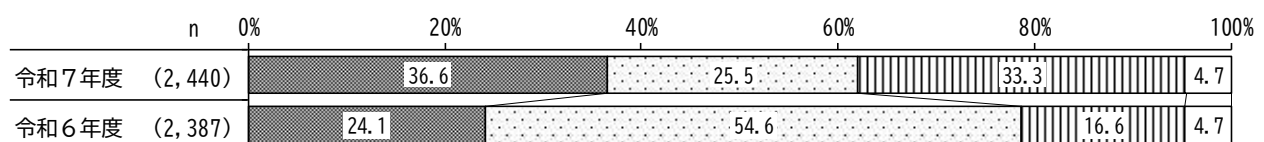
シ 環境に配慮された商品を選んで購入する



ス 食べ残しを減らす



セ 自宅に庭木や緑のカーテンを取り入れる



■ 実践している ▨ 実践を検討している ▤ 検討もしていない □ 無回答

脱炭素社会の実現につながる行動について「実践している」は、「レジ袋等の使用量を削減するため、買い物にはマイバッグやかごを持参する」(84.2%)が最も多く、次いで、「ごみの正しい分別や資源のリサイクルを積極的に行う」(83.5%)、「食べ残しを減らす」(78.9%)、「こまめな消灯やエアコンの設定温度の適切な管理など、省エネ・節電行動をとる」(75.2%)、「照明器具はLEDを使用する」(71.6%)の順となっている。

過去の調査と比較すると、「自宅に庭木や緑のカーテンを取り入れる」(36.6%)は令和6年度(24.1%)と比べ12.5ポイント、「宅配便の1回での受取り、または宅配ボックスでの受取りなど再配達を防止する」(63.0%)は令和6年度(56.6%)と比べ6.4ポイント増加している。

「こまめな消灯やエアコンの設定温度の適切な管理など、省エネ・節電行動をとる」について性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「実践している」は女性60歳代(82.7%)が最も多く、男女ともすべての年齢で5割以上となっている。

「冷蔵庫、エアコン等の家電製品や給湯空調設備は、省エネ性能の高いものを使用する」について性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「実践している」は男性60歳代(60.5%)が最も多く、女性30～60歳代(50.8%、50.0%、55.0%、55.6%)、男性50歳代(50.2%)、70歳以上(51.5%)も5割台と多くなっている。一方、18～29歳は「検討もしていない」が女性(22.4%)、男性(22.1%)とも2割強と多くなっている。

「照明器具はLEDを使用する」について性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「実践している」は女性30歳代(84.2%)が最も多く、男女ともすべての年齢で6割以上となっている。

「宅配便の1回での受取り、または宅配ボックスでの受取りなど再配達を防止する」について性別でみると、「実践している」は女性(66.3%)が男性(59.9%)を6.4ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「実践している」は女性40歳代(80.3%)、次いで女性30歳代(80.0%)で8割台と多くなっており、男性70歳以上(49.4%)を除き5割以上となっている。

「部屋の温度を快適に保つ高断熱などの省エネ住宅へ居住する、またはリフォームを行う」について性別でみると、「実践を検討している」は男性(24.9%)が女性(19.9%)を5.0ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「実践している」は男性30歳代(29.7%)、「実践を検討している」は男性18～29歳(33.7%)が最も多くなっている。一方、女性60歳代以下、男性18～29歳、40歳代、50歳代は「検討もしていない」が5割以上となっている。

「太陽光発電パネルなどの再生可能エネルギー設備を設置する」について性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、男女ともすべての年齢で「検討もしていない」が6割以上となっている。

「自宅の電気プランを再生可能エネルギーメニューに切り替える」について性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「実践を検討している」は女性18～29歳(24.0%)で2割半ばとなっている。一方、男女ともすべての年齢で「検討もしていない」が6割以上となっている。

「自動車をEV・PHEVに乗り換える」について性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「実践を検討している」は女性18～29歳（24.0%）で2割半ばとなっている。一方、男女ともすべての年齢で「検討もしていない」が6割以上となっている。

「移動時には、なるべく徒歩・自転車・公共交通機関を利用する」について性別でみると、「実践している」は女性（51.9%）が男性（45.6%）を6.3ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「実践している」は女性18～29歳（56.0%）が最も多く、女性30歳代（50.0%）、50歳代以上（51.2%、50.5%、56.3%）、男性18～29歳（51.2%）も5割台と多くなっている。一方、「検討もしていない」は男性50歳代（34.3%）が最も多く、男性40歳代（30.4%）も約3割と多くなっている。

「ごみの正しい分別や資源のリサイクルを積極的に行う」について性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、男女ともすべての年齢で「実践している」が6割以上となっているが、男性30歳代（69.2%）は全体を14.3ポイント下回っている。

「レジ袋等の使用量を削減するため、買い物にはマイバッグやかごを持参する」について性別でみると、「実践している」は女性（87.5%）が男性（80.3%）を7.2ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、男女ともすべての年齢で「実践している」が7割以上となっているが、男性18～29歳（73.3%）は全体を10.9ポイント下回っている。

「環境に配慮された商品を選んで購入する」について性別でみると、「実践している」は女性（38.4%）が男性（28.3%）を10.1ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「実践している」は女性70歳以上（47.2%）が最も多く、女性50歳代（39.1%）、60歳代（39.3%）、男性60歳代以上（33.0%、36.6%）で3割台となっている。

「食べ残しを減らす」について性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、男女ともすべての年齢で「実践している」が7割以上となっている。

「自宅に庭木や緑のカーテンを取り入れる」について性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「実践している」は女性70歳以上（47.6%）が最も多く、女性60歳代（44.4%）、男性70歳以上（47.3%）も4割台と多くなっている。一方、「検討もしていない」は男性18～29歳（53.5%）が最も多く、女性40歳代以下（45.6%、40.0%、45.2%）、男性50歳代（46.8%）も4割台と多くなっている。

図表9-6-2 性・年齢別 脱炭素社会の実現につながる行動の実践状況

(%)

	調査数（人）	ア こまめな消灯やエアコンの設定温度の適切な管理など、省エネ・節電行動をとる				イ 冷蔵庫、エアコン等の家電製品や給湯空調設備は、省エネ性能の高いものを使用する				ウ 照明器具はLEDを使用する				エ 宅配便の1回での受取り、または宅配ボックスでの受取りなど再配達を防止する			
		実践している	実践を検討している	検討もしていない	無回答	実践している	実践を検討している	検討もしていない	無回答	実践している	実践を検討している	検討もしていない	無回答	実践している	実践を検討している	検討もしていない	無回答
全 体	2,440	75.2	16.2	5.7	3.0	49.3	34.3	11.8	4.6	71.6	19.2	5.5	3.7	63.0	23.1	9.0	5.0
女性全体	1,350	75.9	16.0	4.5	3.6	48.8	35.3	10.9	5.0	72.7	18.1	5.0	4.1	66.3	21.3	7.5	5.0
18～29歳	125	68.0	24.0	7.2	0.8	40.0	36.8	22.4	0.8	73.6	17.6	8.0	0.8	69.6	20.8	8.8	0.8
30～39歳	120	72.5	17.5	9.2	0.8	50.8	37.5	11.7	-	84.2	10.8	5.0	-	80.0	17.5	2.5	-
40～49歳	188	72.9	19.1	6.9	1.1	50.0	34.0	13.8	2.1	79.3	13.8	4.8	2.1	80.3	12.8	5.3	1.6
50～59歳	258	78.7	15.9	4.7	0.8	55.0	35.3	9.3	0.4	73.6	21.3	4.7	0.4	75.2	18.2	6.2	0.4
60～69歳	196	82.7	14.3	2.6	0.5	55.6	34.7	6.6	3.1	69.4	24.5	3.6	2.6	65.3	25.5	7.1	2.0
70歳以上	462	75.8	13.0	2.4	8.9	43.9	34.8	9.1	12.1	68.0	17.3	5.2	9.5	51.5	25.8	10.2	12.6
男性全体	1,026	74.2	17.0	7.3	1.6	50.1	33.4	13.2	3.3	70.5	20.9	6.1	2.5	59.9	25.4	10.8	3.8
18～29歳	86	59.3	29.1	11.6	-	36.0	41.9	22.1	-	67.4	20.9	11.6	-	69.8	26.7	3.5	-
30～39歳	91	59.3	25.3	15.4	-	41.8	38.5	19.8	-	81.3	13.2	5.5	-	76.9	15.4	7.7	-
40～49歳	135	69.6	17.0	12.6	0.7	46.7	33.3	18.5	1.5	75.6	19.3	5.2	-	63.7	25.2	10.4	0.7
50～59歳	201	79.1	13.9	6.5	0.5	50.2	38.3	10.4	1.0	70.6	22.9	6.0	0.5	62.2	24.4	11.9	1.5
60～69歳	185	75.7	16.8	7.0	0.5	60.5	25.9	11.9	1.6	73.0	18.9	5.4	2.7	60.5	26.5	10.8	2.2
70歳以上	328	80.2	13.4	2.4	4.0	51.5	31.1	9.1	8.2	64.6	23.5	5.8	6.1	49.4	28.0	13.1	9.5

(%)

	調査数（人）	オ 部屋の温度を快適に保つ高断熱などの省エネ住宅へ居住する、またはリフォームを行う				カ 太陽光発電パネルなどの再生可能エネルギー設備を設置する				キ 自宅の電気プランを再生可能エネルギーメニューに切り替える				ク 自動車をEV・PHEVに乗り換える			
		実践している	実践を検討している	検討もしていない	無回答	実践している	実践を検討している	検討もしていない	無回答	実践している	実践を検討している	検討もしていない	無回答	実践している	実践を検討している	検討もしていない	無回答
全 体	2,440	21.1	21.8	51.0	6.1	9.6	11.5	73.4	5.4	6.4	19.0	68.4	6.1	6.9	14.2	70.2	8.7
女性全体	1,350	21.6	19.9	51.9	6.7	9.6	11.0	74.0	5.3	5.7	19.6	68.4	6.2	6.0	13.7	70.7	9.6
18～29歳	125	12.8	26.4	60.0	0.8	9.6	17.6	72.0	0.8	6.4	24.0	68.8	0.8	6.4	24.0	68.8	0.8
30～39歳	120	24.2	17.5	58.3	-	13.3	15.0	71.7	-	10.0	17.5	72.5	-	7.5	13.3	79.2	-
40～49歳	188	24.5	20.2	52.7	2.7	16.0	10.1	71.8	2.1	4.8	19.7	72.9	2.7	5.3	16.0	76.6	2.1
50～59歳	258	24.0	22.1	53.1	0.8	10.5	8.9	80.2	0.4	3.9	19.4	76.4	0.4	7.0	15.5	77.1	0.4
60～69歳	196	19.9	23.5	51.5	5.1	5.6	12.8	78.1	3.6	5.1	20.9	70.4	3.6	5.1	13.8	72.4	8.7
70歳以上	462	21.6	15.8	47.0	15.6	7.4	9.1	70.8	12.8	6.1	18.6	60.2	15.2	5.6	9.1	62.1	23.2
男性全体	1,026	20.8	24.9	50.2	4.2	9.9	12.3	73.4	4.4	7.1	18.7	69.6	4.6	7.9	15.3	70.6	6.2
18～29歳	86	12.8	33.7	53.5	-	15.1	17.4	67.4	-	10.5	23.3	66.3	-	5.8	16.3	77.9	-
30～39歳	91	29.7	23.1	47.3	-	15.4	11.0	73.6	-	11.0	15.4	73.6	-	1.1	16.5	81.3	1.1
40～49歳	135	23.7	22.2	52.6	1.5	15.6	12.6	69.6	2.2	8.9	21.5	67.4	2.2	5.9	20.0	72.6	1.5
50～59歳	201	22.4	19.9	56.7	1.0	9.0	12.4	77.6	1.0	5.5	17.4	76.1	1.0	12.9	16.9	69.2	1.0
60～69歳	185	23.2	29.7	43.2	3.8	9.2	9.2	78.4	3.2	7.0	17.8	71.9	3.2	9.2	16.8	70.8	3.2
70歳以上	328	16.8	24.4	49.1	9.8	5.8	12.8	71.0	10.4	5.5	18.6	64.9	11.0	7.3	11.0	65.5	16.2

第4章 調査結果の詳細

(%)

	調査数(人)	ケ 移動時には、なるべく徒歩・自転車・公共交通機関を利用する				コ ごみの正しい分別や資源のリサイクルを積極的に行う				サ レジ袋等の使用量を削減するため、買い物にはマイバッグやかごを持参する				シ 環境に配慮された商品を選んで購入する			
		実践している	実践を検討している	検討もしていない	無回答	実践している	実践を検討している	検討もしていない	無回答	実践している	実践を検討している	検討もしていない	無回答	実践している	実践を検討している	検討もしていない	無回答
全 体	2,440	49.0	23.1	23.0	4.9	83.5	11.4	2.3	2.8	84.2	8.9	3.6	3.3	34.0	41.5	19.3	5.2
女性全体	1,350	51.9	22.5	20.4	5.2	84.7	10.1	1.9	3.3	87.5	6.8	2.1	3.6	38.4	41.6	14.6	5.4
18～29歳	125	56.0	23.2	20.0	0.8	75.2	18.4	5.6	0.8	78.4	18.4	2.4	0.8	27.2	49.6	22.4	0.8
30～39歳	120	50.0	20.8	29.2	-	78.3	20.0	1.7	-	83.3	11.7	5.0	-	27.5	47.5	25.0	-
40～49歳	188	42.0	27.7	28.2	2.1	83.0	11.7	3.2	2.1	89.4	5.3	3.2	2.1	29.3	46.3	22.3	2.1
50～59歳	258	51.2	28.7	19.8	0.4	87.6	10.1	1.2	1.2	89.5	7.8	2.3	0.4	39.1	46.5	14.0	0.4
60～69歳	196	50.5	26.5	19.4	3.6	86.2	12.2	1.0	0.5	92.9	5.6	1.0	0.5	39.3	44.4	10.7	5.6
70歳以上	462	56.3	15.6	15.8	12.3	87.4	3.9	1.1	7.6	86.8	3.0	1.3	8.9	47.2	32.3	8.4	12.1
男性全体	1,026	45.6	24.0	26.9	3.5	82.7	13.0	2.8	1.6	80.3	11.7	5.8	2.2	28.3	42.0	25.9	3.8
18～29歳	86	51.2	19.8	29.1	-	74.4	20.9	4.7	-	73.3	17.4	9.3	-	22.1	38.4	39.5	-
30～39歳	91	40.7	31.9	27.5	-	69.2	23.1	7.7	-	80.2	8.8	11.0	-	20.9	45.1	34.1	-
40～49歳	135	43.7	24.4	30.4	1.5	80.7	12.6	6.7	-	77.0	11.1	11.1	0.7	25.2	39.3	34.1	1.5
50～59歳	201	41.3	23.9	34.3	0.5	84.1	14.9	1.0	-	77.6	14.9	7.0	0.5	18.4	47.3	32.8	1.5
60～69歳	185	44.9	24.9	27.6	2.7	88.1	7.6	2.7	1.6	87.6	8.1	3.2	1.1	33.0	45.4	20.0	1.6
70歳以上	328	49.4	22.3	19.8	8.5	85.4	10.1	0.6	4.0	81.1	11.3	1.8	5.8	36.6	38.1	15.9	9.5

(%)

	調査数(人)	ス 食べ残しを減らす				セ 自宅に庭木や緑のカーテンを取り入れる			
		実践している	実践を検討している	検討もしていない	無回答	実践している	実践を検討している	検討もしていない	無回答
全 体	2,440	78.9	15.0	2.8	3.4	36.6	25.5	33.3	4.7
女性全体	1,350	79.2	14.7	2.7	3.3	38.2	25.2	31.7	4.9
18～29歳	125	81.6	13.6	4.0	0.8	24.0	29.6	45.6	0.8
30～39歳	120	76.7	20.0	3.3	-	33.3	26.7	40.0	-
40～49歳	188	75.0	18.6	4.8	1.6	29.8	22.9	45.2	2.1
50～59歳	258	83.3	14.0	2.7	-	32.2	31.4	36.0	0.4
60～69歳	196	82.7	14.3	1.5	1.5	44.4	26.0	25.0	4.6
70歳以上	462	77.1	12.8	1.9	8.2	47.6	20.8	20.6	11.0
男性全体	1,026	78.9	15.4	3.0	2.6	34.7	26.1	35.9	3.3
18～29歳	86	88.4	11.6	-	-	15.1	31.4	53.5	-
30～39歳	91	78.0	16.5	5.5	-	29.7	34.1	36.3	-
40～49歳	135	77.8	15.6	5.9	0.7	28.1	31.9	39.3	0.7
50～59歳	201	81.6	14.4	3.0	1.0	26.9	25.4	46.8	1.0
60～69歳	185	81.6	16.2	1.1	1.1	37.3	23.8	36.8	2.2
70歳以上	328	74.1	16.2	3.0	6.7	47.3	22.0	22.6	8.2

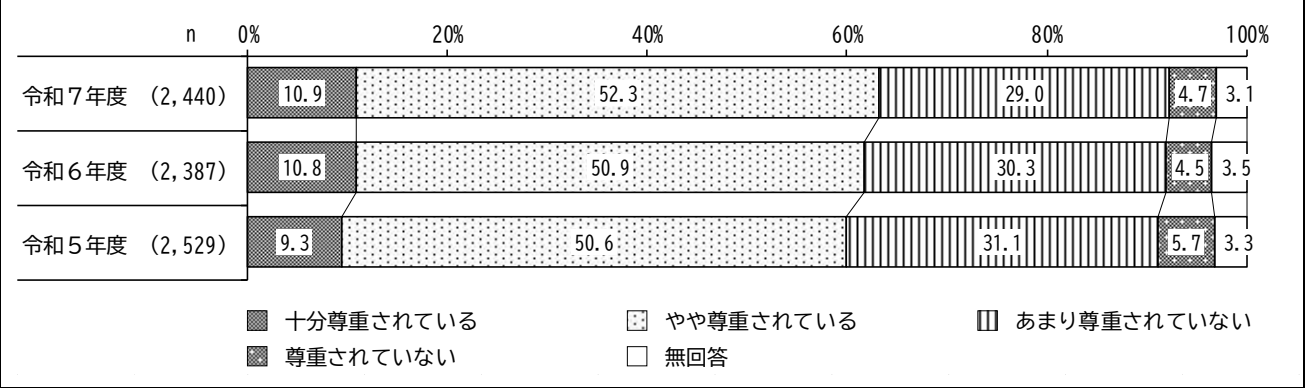
10. 人権全般に関する意識について

(1) 基本的人権の意識

◇『尊重されている』が6割強

問 34. あなたは、今の日本社会において、どのくらい基本的人権が尊重されていると思いますか。
(○は1つ)

図表 10-1-1 基本的人権の意識



今の日本社会における基本的人権の意識については、「やや尊重されている」(52.3%)が最も多く、次いで「あまり尊重されていない」(29.0%)、「十分尊重されている」(10.9%)、「尊重されていない」(4.7%)の順となっている。「十分尊重されている」と「やや尊重されている」を合わせた『尊重されている』(63.2%)は6割強となっている。一方、「あまり尊重されていない」と「尊重されていない」を合わせた『尊重されていない』(33.7%)は3割強となっている。

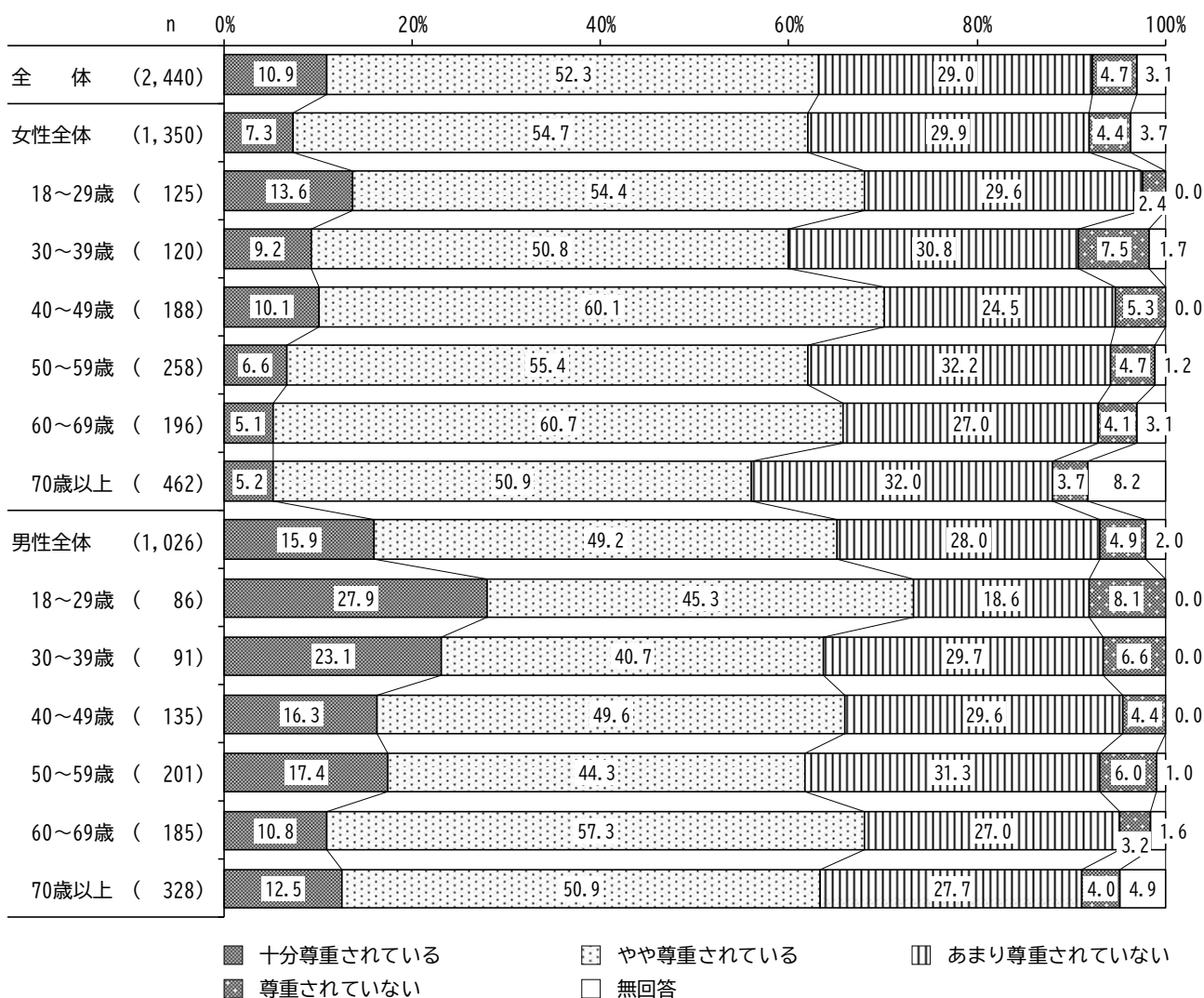
過去2回の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっている。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、『尊重されている』は男性 18～29 歳 (73.3%) が最も多く、女性 40 歳代 (70.2%) も約 7 割と多くなっている。男女ともすべての年齢で『尊重されている』が 5 割以上となっている。一方、『尊重されていない』は女性 30 歳代 (38.3%) が 4 割弱で最も多くなっている。

図表 10-1-2 性・年齢別 基本的人権の意識

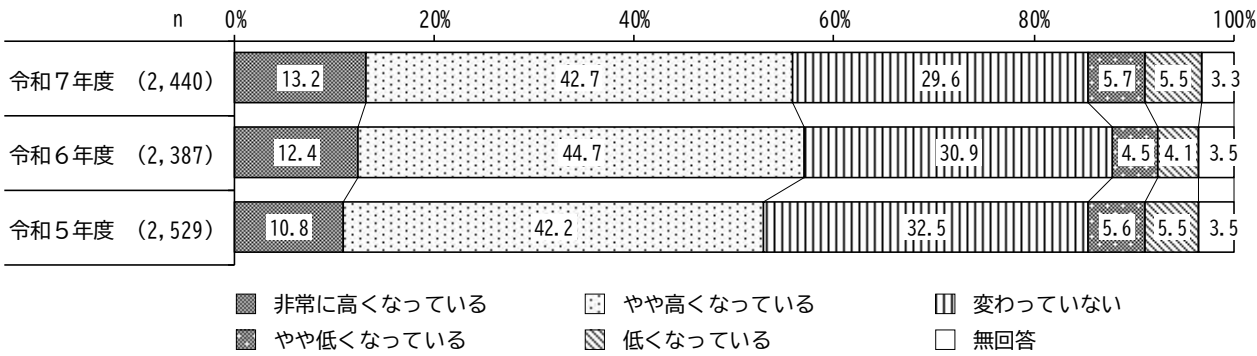


(2) 人権意識の変化

◇『高くなっている』が5割半ば

問 35. 一人ひとりの人権意識は、10年前に比べて高くなっていると思いますか。(〇は1つ)

図表 10-2-1 人権意識の変化



10年前と比べた人権意識の変化については、「やや高くなっている」(42.7%)が最も多く、次いで「変わっていない」(29.6%)、「非常に高くなっている」(13.2%)、「やや低くなっている」(5.7%)、「低くなっている」(5.5%)の順となっている。「非常に高くなっている」と「やや高くなっている」を合わせた『高くなっている』(55.8%)は5割半ばとなっている。一方、「やや低くなっている」と「低くなっている」を合わせた『低くなっている』(11.3%)は約1割となっている。

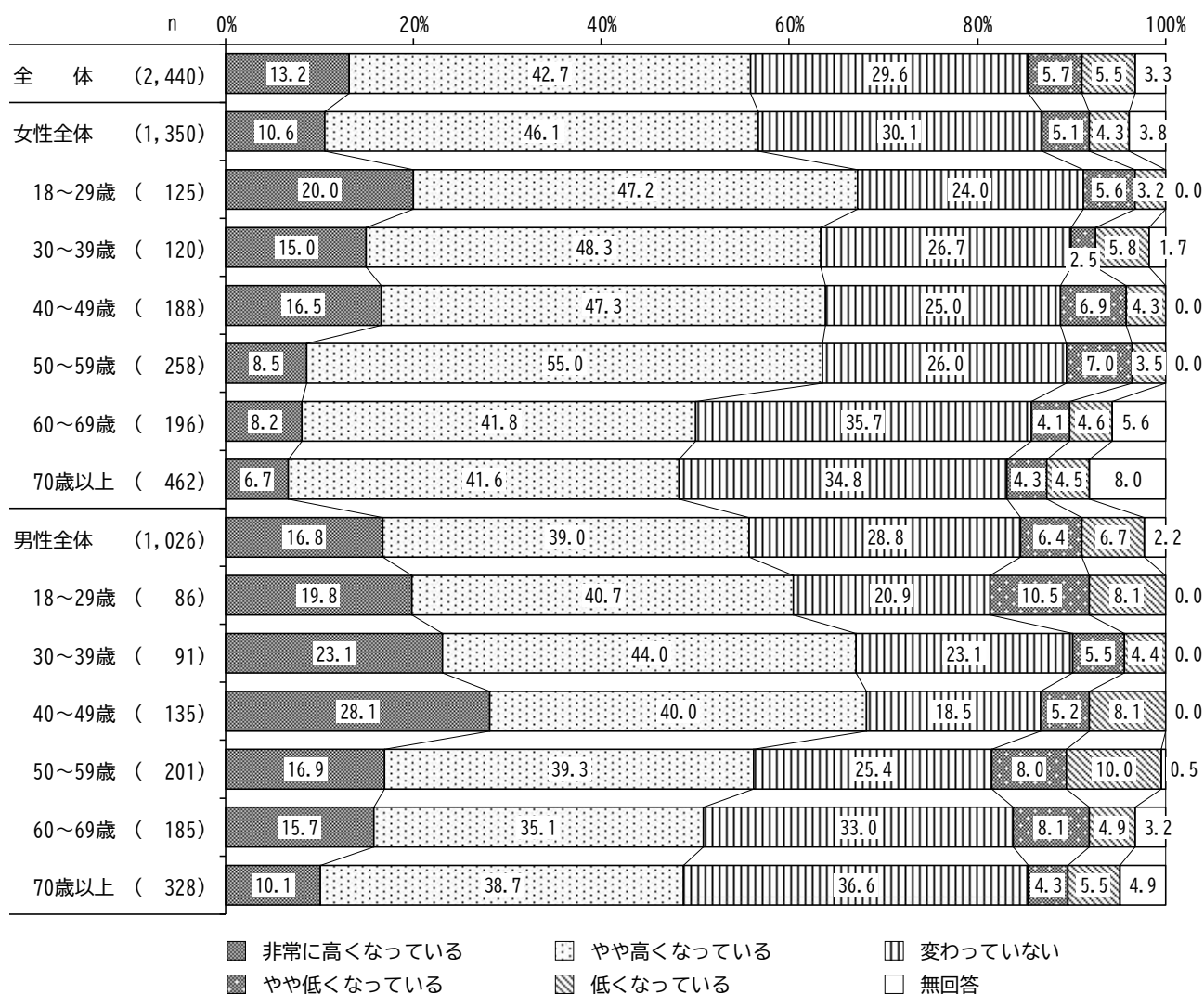
過去2回の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっている。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、『高くなっている』は男性 40 歳代 (68.1%) が最も多く、女性 18～29 歳 (67.2%)、男性 30 歳代 (67.0%) も 7 割弱と多くなっている。一方、70 歳以上は女性 (48.3%)、男性 (48.8%) とともに 5 割弱と少なくなっている。また、『低くなっている』は男性 18～29 歳 (18.6%) が最も多く、男性 50 歳代 (17.9%) も 2 割弱となっている。

図表 10-2-2 性・年齢別 人権意識の変化



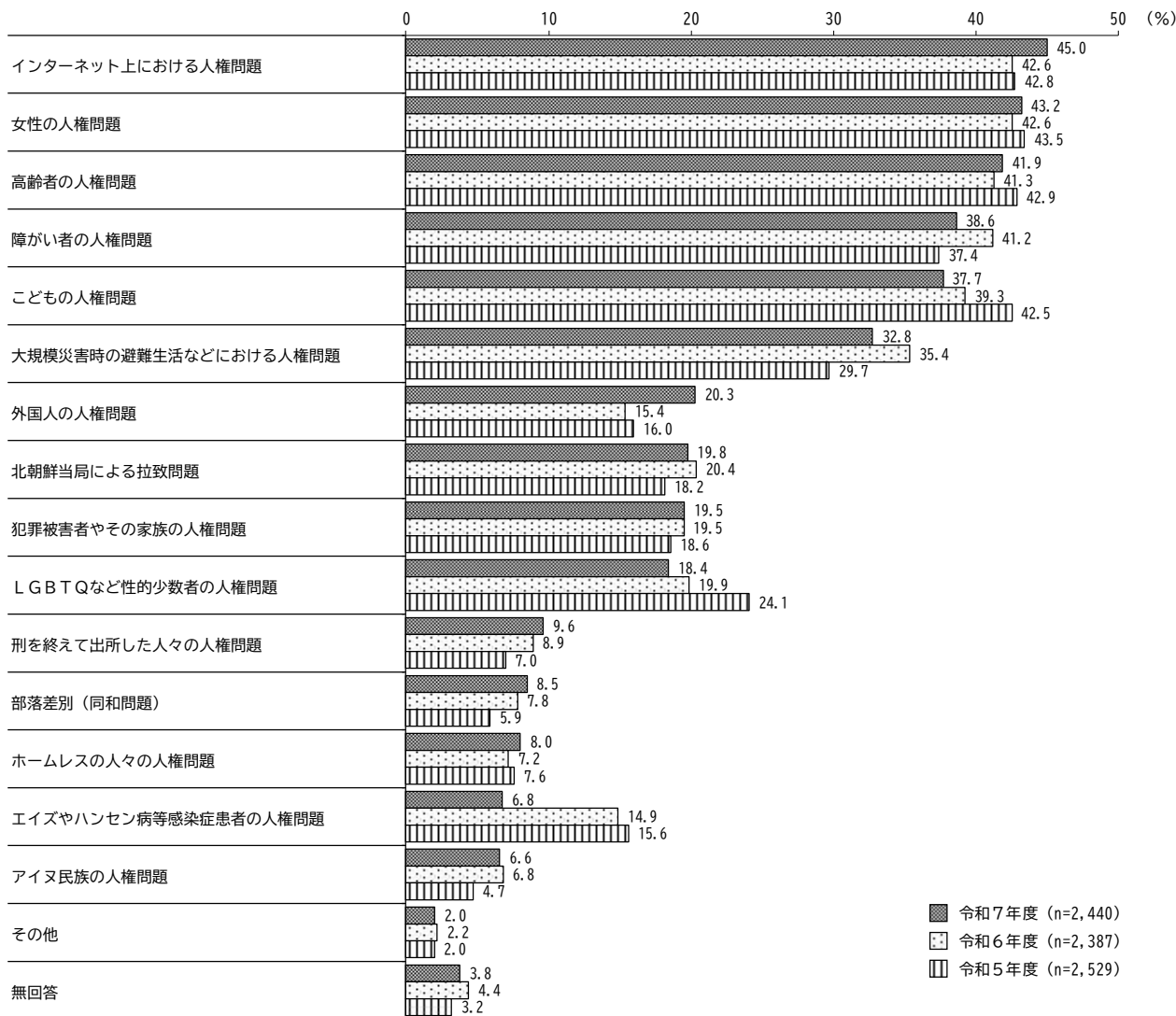
(3) 関心のある人権問題

◇「インターネット上における人権問題」が最も多く、4割半ば

問 36. 今の日本の社会に様々な人権問題がありますが、あなたが関心のあるものはどれですか。

(〇はいくつでも)

図表 10-3-1 関心のある人権問題



(※1) 「こどもの人権問題」は、令和6年度までは「子どもの人権問題」

(※2) 「部落差別（同和問題）」は、令和6年度までは「同和問題（部落差別）」

(※3) 「エイズやハンセン病等感染症患者の人権問題」は、令和6年度までは「エイズやハンセン病、新型コロナウイルス等感染症患者やその家族の人権問題」

(※4) 「LGBTQなど性的少数者の人権問題」は、令和5年度までは「LGBTなど性的少数者の人権問題」

関心のある人権問題については、「インターネット上における人権問題」(45.0%)が最も多く、次いで「女性の人権問題」(43.2%)、「高齢者の人権問題」(41.9%)、「障がい者の人権問題」(38.6%)、「こどもの人権問題」(37.7%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、「エイズやハンセン病等感染症患者の人権問題」(6.8%)は令和6年度(14.9%)から8.1ポイント、令和5年度(15.6%)から8.8ポイント、調査ごとに減少しており、「こどもの人権問題」(37.7%)、「LGBTQなど性的少数者の人権問題」(18.4%)も減少傾向となっている。

性別でみると、「女性の人権問題」（女性 52.1%、男性 32.3%）は 19.8 ポイント、「大規模災害時の避難生活などにおける人権問題」（女性 35.6%、男性 29.1%）は 6.5 ポイント、女性が男性を上回っている。一方、「外国人の人権問題」は男性（23.2%）が女性（18.2%）を 5.0 ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「女性の人権問題」は女性 50 歳代以下で最も多く、女性 18～29 歳（72.8%）、30 歳代（70.8%）は 7 割台と多くなっている。「インターネット上における人権問題」は男性 60 歳代以下で最も多く、女性 30 歳代（50.0%）、50 歳代（57.4%）、男性 40～60 歳代（55.6%、54.2%、53.5%）は 5 割台と多くなっている。「高齢者の人権問題」は女性 60 歳代以上（53.6%、61.0%）、男性 70 歳以上（61.6%）で最も多く、男性 60 歳代（50.8%）も約 5 割と多くなっている。また、「こどもの人権問題」は女性 40 歳代以下（50.4%、57.5%、50.0%）で 5 割台、「大規模災害時の避難生活などにおける人権問題」は女性 60 歳代（46.4%）で 4 割半ば、「北朝鮮当局による拉致問題」は女性 70 歳以上（31.0%）で約 3 割、「LGBTQ など性的少数者の人権問題」は女性 30 歳代以下（35.2%、30.0%）で 3 割台、「刑を終えて出所した人々の人権問題」は男性 18～29 歳（20.9%）で約 2 割と、それぞれ全体を 1 割以上上回っている。

図表 10-3-2 性・年齢別 関心のある人権問題

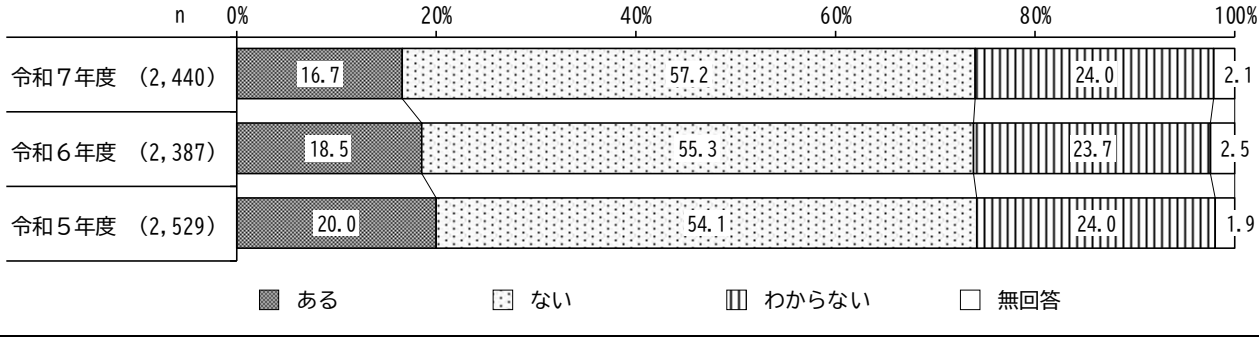
	調査数（人）	インターネット上における人権問題	女性の人権問題	高齢者の人権問題	障がい者の人権問題	こどもの人権問題	大規模災害時の避難生活などにおける人権問題	外国人の人権問題	北朝鮮当局による拉致問題	犯罪被害者やその家族の人権問題	LGBTQ など性的少数者の人権問題	刑を終えて出所した人々の人権問題	部落差別（同和問題）	ホームレスの人々の人権問題	エイズやハンセン病等感染症患者の人権問題	アイヌ民族の人権問題	その他	無回答
全 体	2,440	45.0	43.2	41.9	38.6	37.7	32.8	20.3	19.8	19.5	18.4	9.6	8.5	8.0	6.8	6.6	2.0	3.8
女性全体	1,350	44.2	52.1	42.6	39.0	38.2	35.6	18.2	18.0	18.5	19.7	8.7	8.3	7.7	7.0	6.2	1.4	3.9
18～29歳	125	47.2	72.8	16.8	33.6	50.4	22.4	22.4	6.4	22.4	35.2	10.4	6.4	9.6	5.6	5.6	-	-
30～39歳	120	50.0	70.8	20.8	31.7	57.5	20.8	18.3	5.8	15.0	30.0	9.2	5.8	5.0	1.7	5.0	-	1.7
40～49歳	188	47.9	57.4	21.3	37.8	50.0	35.6	22.3	7.4	20.2	25.5	9.6	5.9	6.4	8.0	7.4	2.7	2.1
50～59歳	258	57.4	62.8	39.5	44.6	42.2	35.7	20.5	14.3	20.5	24.4	8.1	14.0	6.6	8.9	7.0	0.8	1.2
60～69歳	196	49.0	49.0	53.6	44.9	36.7	46.4	16.8	17.3	22.4	16.3	8.7	8.2	10.7	6.6	6.6	1.5	1.0
70歳以上	462	31.2	34.8	61.0	37.4	23.6	38.3	14.7	31.0	14.9	9.3	8.2	7.4	7.8	7.4	5.6	1.9	8.7
男性全体	1,026	46.6	32.3	40.5	38.0	37.8	29.1	23.2	21.5	20.6	16.8	10.1	8.5	8.2	6.2	6.7	2.5	3.2
18～29歳	86	47.7	31.4	14.0	25.6	40.7	24.4	23.3	18.6	25.6	23.3	20.9	5.8	14.0	5.8	7.0	5.8	2.3
30～39歳	91	49.5	27.5	13.2	19.8	48.4	23.1	28.6	6.6	17.6	18.7	12.1	9.9	3.3	4.4	5.5	4.4	-
40～49歳	135	55.6	28.1	18.5	34.8	43.7	25.9	24.4	12.6	23.0	21.5	10.4	9.6	7.4	4.4	5.9	1.5	1.5
50～59歳	201	54.2	32.3	35.3	35.8	33.8	25.9	25.9	20.9	22.4	20.4	9.0	10.0	10.0	9.5	7.5	4.5	1.0
60～69歳	185	53.5	39.5	50.8	44.9	40.0	35.7	25.4	25.9	23.2	16.8	8.6	9.2	7.6	6.5	4.3	1.1	2.2
70歳以上	328	33.2	31.4	61.6	45.1	32.9	31.7	18.3	28.0	16.5	10.4	8.2	7.0	7.6	5.5	8.2	1.2	7.0

(4) 人権侵害を感じたこと

◇「ある」が1割半ば

問 37. あなたは、日常生活の中であなた自身またはあなたの周りの人の人権が侵害されたと感じたことはありますか。(○は1つ)

図表 10-4-1 人権侵害を感じたこと

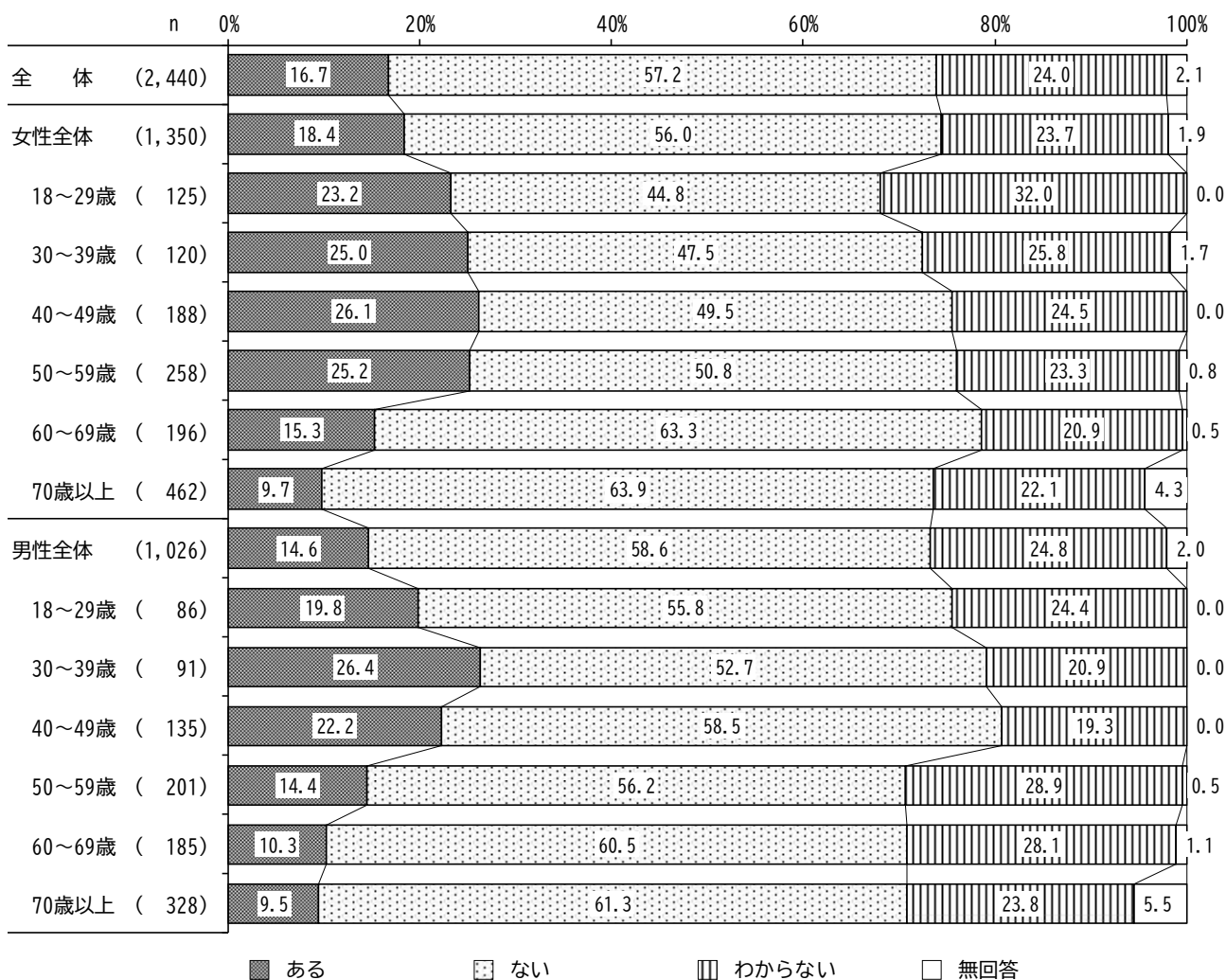


日常生活の中で、自身や周りの人の人権が侵害されたと感じたことがあるかを聞いたところ、「ある」(16.7%)は1割半ば、「ない」(57.2%)は6割弱となっている。
過去2回の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっている。

性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「ある」は男性 30 歳代 (26.4%) が最も多く、女性 50 歳代以下 (23.2%、25.0%、26.1%、25.2%)、男性 40 歳代 (22.2%) も 2 割台となっている。一方、70 歳以上は女性 (9.7%)、男性 (9.5%) とともに 1 割未満となっている。また、「ない」は女性 50 歳代以上 (50.8%、63.3%、63.9%)、男性全年齢で 5 割以上となっている。

図表 10-4-2 性・年齢別 人権侵害を感じたこと



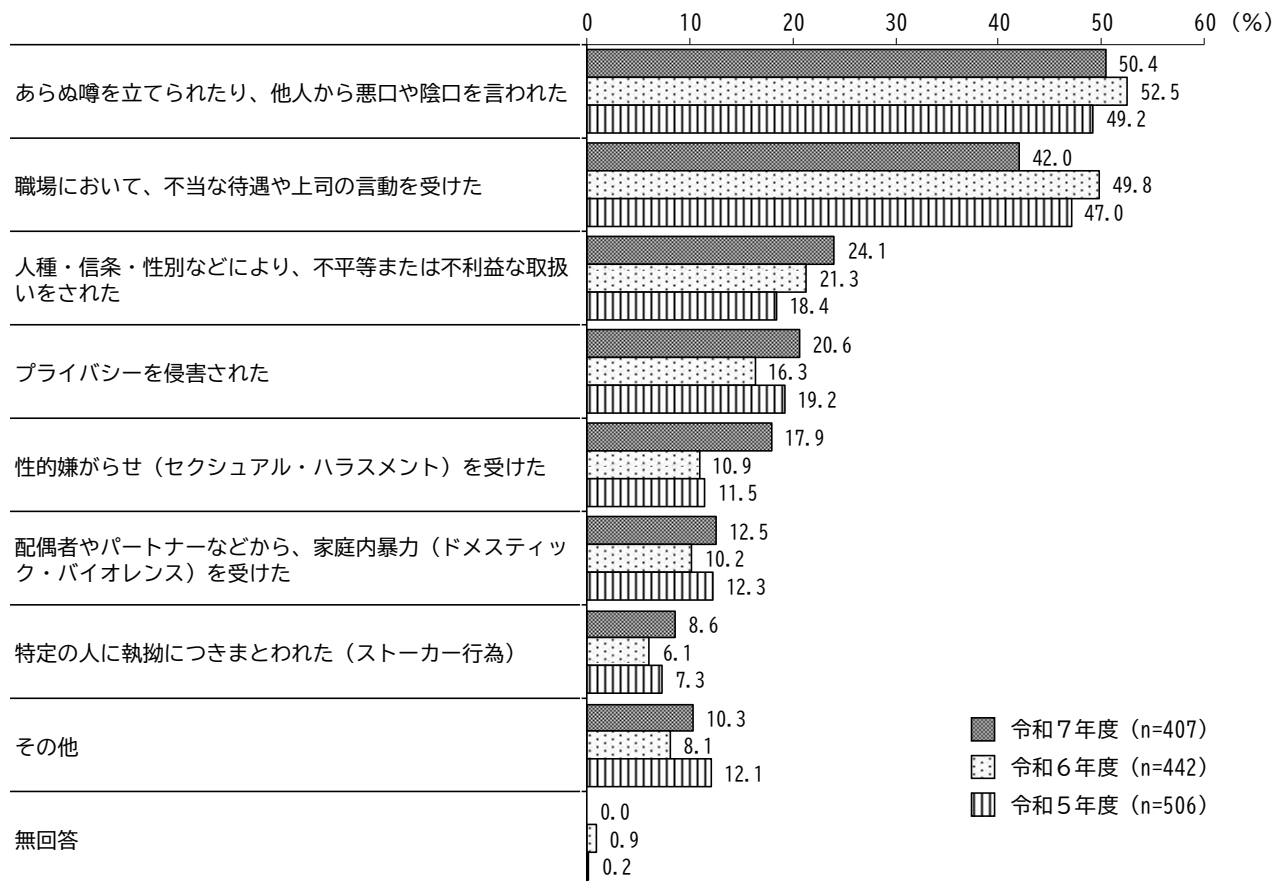
(5) 人権侵害を感じた内容

◇「あらぬ噂を立てられたり、他人から悪口や陰口を言われた」が最も多く、約5割

問 37-2. 問 37 で「1.ある」と答えた方に伺います。

人権が侵害されたと感じたことは、どのような内容ですか。(〇はいくつでも)

図表 10-5-1 人権侵害を感じた内容



人権が侵害されたと感じたことが「ある」と回答した 407 人に、人権侵害を感じた内容について聞いたところ、「あらぬ噂を立てられたり、他人から悪口や陰口を言われた」（50.4%）が最も多く、次いで「職場において、不当な待遇や上司の言動を受けた」（42.0%）、「人種・信条・性別などにより、不平等または不利益な取扱いをされた」（24.1%）、「プライバシーを侵害された」（20.6%）、「性的嫌がらせ（セクシュアル・ハラスメント）を受けた」（17.9%）の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、「職場において、不当な待遇や上司の言動を受けた」は令和6年度（49.8%）と比べ7.8ポイント減少した。一方、「性的嫌がらせ（セクシュアル・ハラスメント）を受けた」は令和6年度（10.9%）と比べ7.0ポイント増加し、「人種・信条・性別などにより、不平等または不利益な取扱いをされた」も増加傾向となっている。

性別でみると、「性的嫌がらせ（セクシュアル・ハラスメント）を受けた」（女性 21.8%、男性 12.0%）は 9.8 ポイント、「配偶者やパートナーなどから、家庭内暴力（ドメスティック・バイオレンス）を受けた」（女性 14.5%、男性 8.0%）は 6.5 ポイント、女性が男性を上回っている。一方、「特定の人に執拗につきまとわれた（ストーカー行為）」（男性 12.7%、女性 6.5%）は 6.2 ポイント、「職場において、不当な待遇や上司の言動を受けた」（男性 45.3%、女性 39.5%）は 5.8 ポイント、「プライバシーを侵害された」（男性 24.0%、女性 19.0%）は 5.0 ポイント、男性が女性を上回っている。

性・年齢別でみると、「あらぬ噂を立てられたり、他人から悪口や陰口を言われた」は女性 60 歳代以上（53.3%、53.3%）、男性 40 歳代（50.0%）、70 歳以上（58.1%）、「職場において、不当な待遇や上司の言動を受けた」は女性 60 歳代（56.7%）、男性 40 歳代（53.3%）などで 5 割台と多くなっている。「性的嫌がらせ（セクシュアル・ハラスメント）を受けた」は女性 30 歳代（43.3%）が全体を 25.4 ポイント上回り、女性 40 歳代（32.7%）も 3 割強と多くなっている。また、「配偶者やパートナーなどから、家庭内暴力（ドメスティック・バイオレンス）を受けた」は女性 40 歳代（20.4%）が約 2 割で最も多くなっている。

※調査数が少ないもの（本調査では 30 人未満とする）については、記述の対象としない。

図表 10-5-2 性・年齢別 人権侵害を感じた内容

(%)

	調査数（人）	からあらぬ噂を立てられたり、他人	職場において、不当な待遇や上司の言動を受けた	人種・信条・性別などに取扱いをされ平等な権利を享受できなかった	プライバシーを侵害された	性的嫌がらせ（セクシュアル・ハラスメント）を受けた	配偶者やパートナーなどから、家庭内暴力（ドメスティック・バイオレンス）を受けた	特定の人に執拗につきまとわれた（ストーカー行為）	その他	無回答
全 体	407	50.4	42.0	24.1	20.6	17.9	12.5	8.6	10.3	-
女性全体	248	48.8	39.5	24.6	19.0	21.8	14.5	6.5	11.7	-
18～29歳	29	69.0	24.1	41.4	20.7	20.7	6.9	3.4	3.4	-
30～39歳	30	46.7	46.7	20.0	13.3	43.3	13.3	10.0	16.7	-
40～49歳	49	40.8	46.9	32.7	22.4	32.7	20.4	2.0	12.2	-
50～59歳	65	41.5	44.6	16.9	18.5	9.2	16.9	9.2	10.8	-
60～69歳	30	53.3	56.7	30.0	6.7	23.3	6.7	10.0	13.3	-
70歳以上	45	53.3	17.8	15.6	26.7	13.3	15.6	4.4	13.3	-
男性全体	150	52.7	45.3	23.3	24.0	12.0	8.0	12.7	6.7	-
18～29歳	17	52.9	41.2	35.3	11.8	23.5	17.6	23.5	-	-
30～39歳	24	41.7	50.0	20.8	37.5	12.5	12.5	12.5	8.3	-
40～49歳	30	50.0	53.3	20.0	33.3	10.0	6.7	10.0	10.0	-
50～59歳	29	58.6	65.5	24.1	17.2	24.1	3.4	13.8	-	-
60～69歳	19	52.6	52.6	15.8	21.1	-	-	5.3	15.8	-
70歳以上	31	58.1	12.9	25.8	19.4	3.2	9.7	12.9	6.5	-

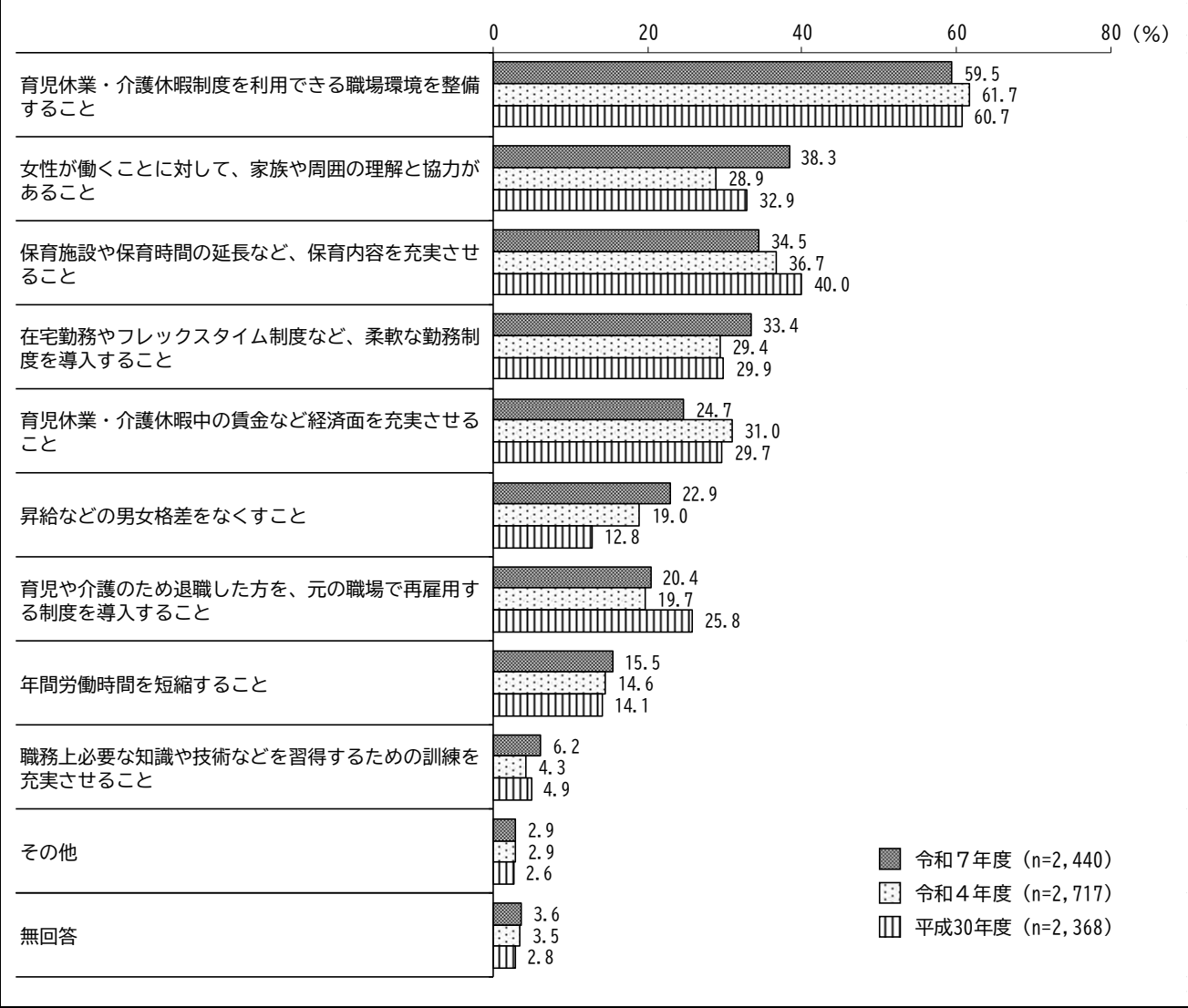
11. 男女共同参画について

(1) 男女がともに仕事と家庭を両立するための条件

◇「育児休業・介護休暇制度を利用できる職場環境を整備すること」が最も多く、約6割

問 38. 一般的に、男女がともに仕事と家庭を両立していくためには、どのような条件が必要だと思いますか。(〇は3つまで)

図表 11-1-1 男女がともに仕事と家庭を両立するための条件



男女がともに仕事と家庭を両立するための条件については、「育児休業・介護休暇制度を利用できる職場環境を整備すること」(59.5%)が最も多く、次いで「女性が働くことに対して、家族や周囲の理解と協力があること」(38.3%)、「保育施設や保育時間の延長など、保育内容を充実させること」(34.5%)、「在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること」(33.4%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、「女性が働くことに対して、家族や周囲の理解と協力があること」は令和4年度(28.9%)と比べ9.4ポイント増加し、「昇給などの男女格差をなくすこと」(22.9%)も増加傾向となっている。一方、「育児休業・介護休暇中の賃金など経済面を充実させること」(24.7%)は令和4年度(31.0%)と比べ6.3ポイント減少している。

性別でみると、「女性が働くことに対して、家族や周囲の理解と協力があること」（女性 42.9%、男性 31.7%）は 11.2 ポイント、「昇給などの男女格差をなくすこと」（女性 26.1%、男性 19.0%）は 7.1 ポイント、女性が男性を上回っている。一方、「年間労働時間を短縮すること」は男性（18.6%）が女性（13.6%）を 5.0 ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「育児休業・介護休暇制度を利用できる職場環境を整備すること」は男女ともすべての年齢で5割以上となっており、女性 18～29 歳（71.2%）は約7割と多くなっている。「女性が働くことに対して、家族や周囲の理解と協力があること」は女性は 18～29 歳（28.8%）を除き4割台となる一方、男性は 40 歳代以下（25.6%、23.1%、29.6%）で2割台、50 歳代以上（34.3%、33.5%、33.8%）で3割台と差が生じている。また、「在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること」は 40 歳代以下で女性（48.0%、43.3%、41.5%）、男性（43.0%、48.4%、46.7%）とも4割台と多くなっている。

図表 11-1-2 性・年齢別 男女がともに仕事と家庭を両立するための条件

	調査数（人）	育児休業・介護休暇制度を整備すること	女性が働くことに対して、家族や周囲の理解と協力があること	保育施設や保育時間の延長など、保育内容を充実させること	在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること	育児休業・介護休暇中の賃金など経済面を充実させること	昇給などの男女格差をなくすこと	元の職場で再雇用する職制を導入すること	年間労働時間を短縮すること	職務上必要な知識や技術などを習得するための訓練を充実させること	その他	無回答
全 体	2,440	59.5	38.3	34.5	33.4	24.7	22.9	20.4	15.5	6.2	2.9	3.6
女性全体	1,350	58.7	42.9	32.6	32.6	23.3	26.1	20.4	13.6	6.6	2.4	3.6
18～29歳	125	71.2	28.8	33.6	48.0	37.6	29.6	10.4	20.0	2.4	3.2	-
30～39歳	120	58.3	45.8	40.0	43.3	26.7	30.0	10.0	23.3	1.7	4.2	0.8
40～49歳	188	56.9	45.2	36.7	41.5	21.3	23.4	19.1	19.7	8.0	3.7	-
50～59歳	258	60.5	46.5	33.3	38.4	17.1	28.3	16.7	15.5	5.8	1.6	0.4
60～69歳	196	65.3	44.4	37.8	28.1	29.6	28.1	21.9	9.2	5.1	1.0	1.0
70歳以上	462	52.6	42.4	26.2	20.8	20.1	23.2	27.9	7.6	9.5	2.2	9.5
男性全体	1,026	61.1	31.7	37.4	35.7	26.8	19.0	20.2	18.6	5.7	3.5	3.3
18～29歳	86	68.6	25.6	33.7	43.0	36.0	10.5	11.6	38.4	1.2	2.3	-
30～39歳	91	54.9	23.1	42.9	48.4	30.8	14.3	11.0	31.9	5.5	11.0	-
40～49歳	135	62.2	29.6	39.3	46.7	26.7	14.1	15.6	25.9	5.9	5.2	0.7
50～59歳	201	52.7	34.3	34.8	39.8	28.4	22.4	19.9	16.4	6.0	3.0	1.0
60～69歳	185	67.0	33.5	40.0	34.1	23.2	21.1	20.0	15.1	5.9	3.2	0.5
70歳以上	328	62.2	33.8	36.3	24.1	24.4	21.3	27.1	10.1	6.4	1.5	9.1

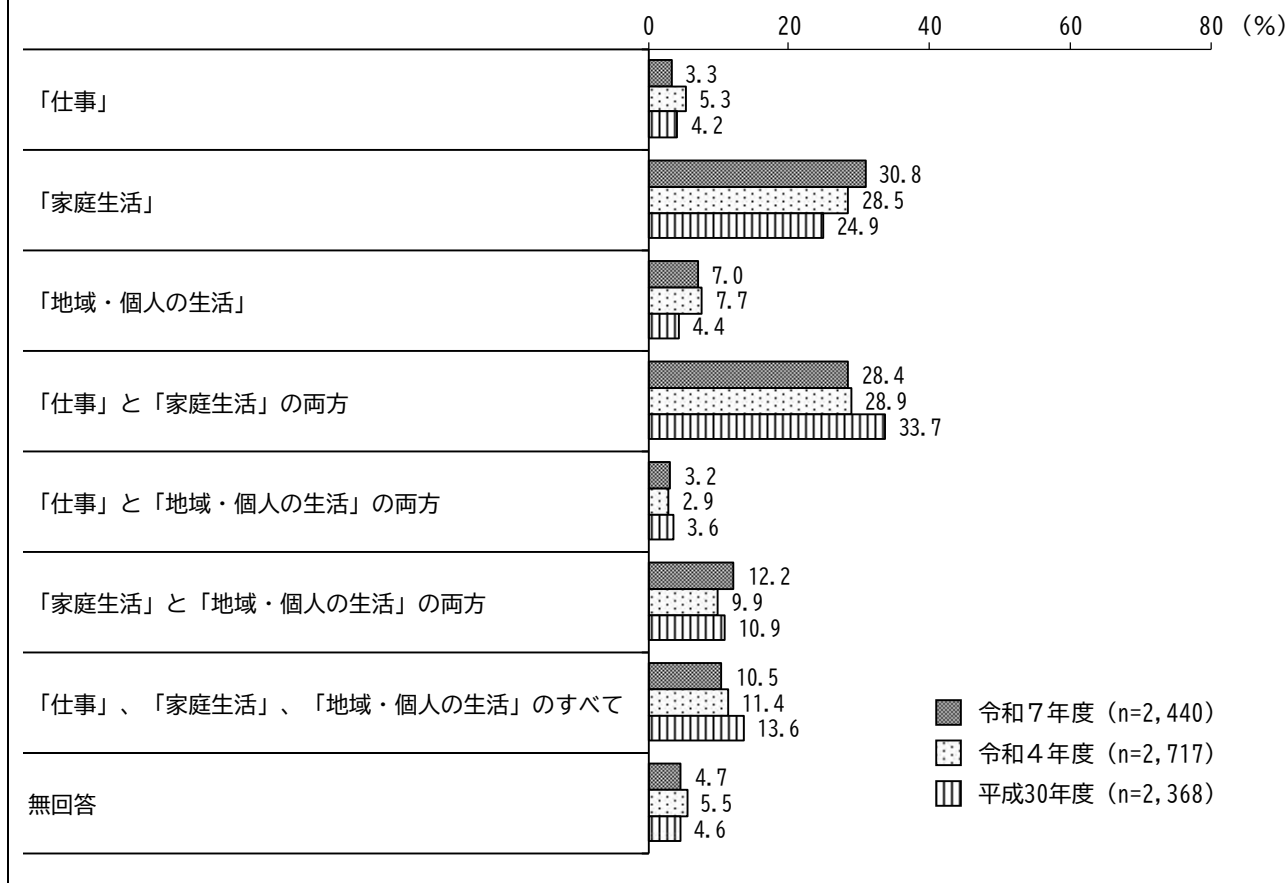
(2) 日常生活のなかでの優先度（希望）

◇優先したいと希望するものは、「家庭生活」が最も多く、約3割

問 39. 日常生活のなかでの、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度について伺います。あなたの希望と現実(現状)に最も近いものを選んでください。

(○はそれぞれ1つずつ)

図表 11-2-1 日常生活のなかでの優先度（希望）



日常生活での「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度について、優先したいと希望するものは、「家庭生活」(30.8%)が最も多く、次いで「「仕事」と「家庭生活」の両方」(28.4%)、「「家庭生活」と「地域・個人の生活」の両方」(12.2%)、「「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」のすべて」(10.5%)、「地域・個人の生活」(7.0%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、「家庭生活」は令和4年度(28.5%)と比べ2.3ポイント、平成30年度(24.9%)と比べ5.9ポイント、調査ごとに増加している。一方、「「仕事」と「家庭生活」の両方」は令和4年度(28.9%)と比べ0.5ポイント、平成30年度(33.7%)と比べ5.3ポイント、調査ごとに減少している。

性別でみると、「家庭生活」は女性（33.3%）が男性（27.6%）を 5.7 ポイント上回っている。女性は「家庭生活」、男性は「仕事」と「家庭生活」の両方（31.1%）が最も多くなっている。

性・年齢別でみると、「家庭生活」は女性 30 歳代（39.2%）が最も多く、女性 70 歳以上（37.7%）も 4 割弱と多くなっている。一方、男性 40 歳代（17.0%）は全体を 13.8 ポイント下回り、「仕事」と「家庭生活」の両方（42.2%）が 13.8 ポイント、「仕事」（9.6%）が 6.3 ポイント、全体を上回っている。「仕事」と「家庭生活」の両方」は男性 30 歳（40.7%）も約 4 割と多くなっている。

図表 11-2-2 性・年齢別 日常生活のなかでの優先度（希望）

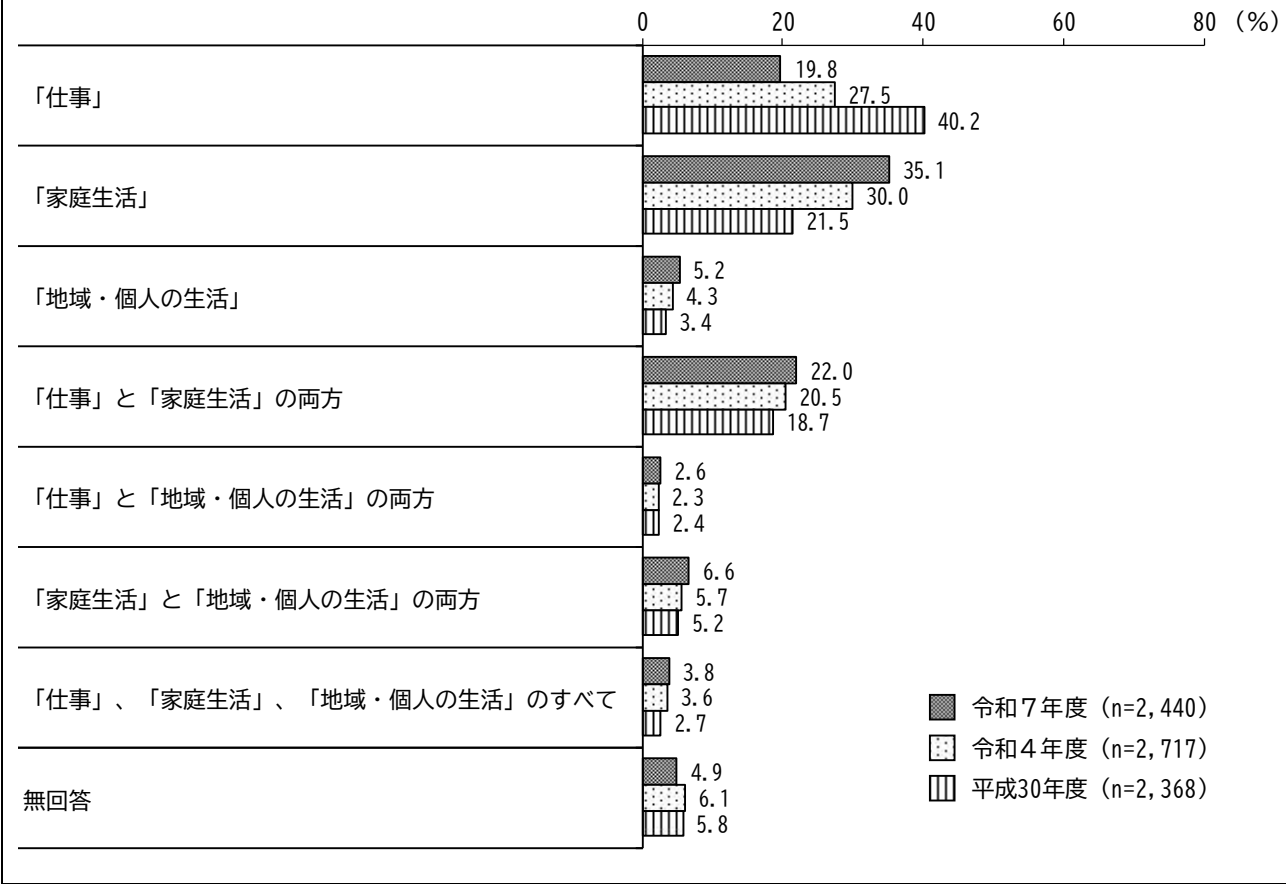
	調査数（人）	「仕事」	「家庭生活」	「地域・個人の生活」	「仕事」と「家庭生活」の両方	「仕事」と「地域・個人の生活」の両方	「家庭生活」と「地域・個人の生活」の両方	「仕事」、「家庭生活」のすべて 「地域・個人の生活」	無回答
全 体	2,440	3.3	30.8	7.0	28.4	3.2	12.2	10.5	4.7
女性全体	1,350	1.9	33.3	6.0	27.0	3.0	13.4	10.4	4.9
18～29歳	125	4.8	23.2	10.4	29.6	5.6	8.8	17.6	-
30～39歳	120	-	39.2	5.0	33.3	5.0	6.7	10.8	-
40～49歳	188	2.7	32.4	3.2	32.4	3.2	12.2	12.8	1.1
50～59歳	258	1.6	30.6	2.7	36.8	4.7	9.3	13.6	0.8
60～69歳	196	2.0	30.6	4.6	36.2	0.5	15.3	8.2	2.6
70歳以上	462	1.5	37.7	8.7	13.0	1.9	18.4	6.5	12.3
男性全体	1,026	4.9	27.6	8.3	31.1	3.3	10.5	10.6	3.7
18～29歳	86	3.5	30.2	12.8	30.2	4.7	3.5	15.1	-
30～39歳	91	3.3	29.7	4.4	40.7	2.2	6.6	13.2	-
40～49歳	135	9.6	17.0	8.1	42.2	4.4	5.9	11.9	0.7
50～59歳	201	4.0	31.3	7.0	35.3	4.0	5.0	12.4	1.0
60～69歳	185	4.9	23.8	6.5	36.8	2.2	10.8	12.4	2.7
70歳以上	328	4.3	30.5	10.1	18.3	3.0	18.6	6.1	9.1

(3) 日常生活のなかでの優先度（現実）

◇現実に優先しているものは、「家庭生活」が最も多く、3割半ば

問 39. 日常生活のなかでの、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度について伺います。あなたの希望と現実(現状)に最も近いものを選んでください。
(〇はそれぞれ1つずつ)

図表 11-3-1 日常生活のなかでの優先度（現実）



現実に優先しているものは、「家庭生活」（35.1％）が最も多く、次いで「「仕事」と「家庭生活」の両方」（22.0％）、「仕事」（19.8％）、「「家庭生活」と「地域・個人の生活」の両方」（6.6％）、「地域・個人の生活」（5.2％）の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、「家庭生活」は令和4年度（30.0％）と比べ5.1ポイント、平成30年度（21.5％）と比べ13.6ポイント、調査ごとに増加している。一方、「仕事」は令和4年度（27.5％）と比べ7.7ポイント、平成30年度（40.2％）と比べ20.4ポイント、調査ごとに減少している。

性別でみると、「家庭生活」は女性（41.7%）が男性（26.3%）を 15.4 ポイント上回っている。一方、「仕事」は男性（26.5%）が女性（15.1%）を 11.4 ポイント上回っている。女性は「家庭生活」、男性は「仕事」が最も多くなっている。

性・年齢別でみると、「家庭生活」は女性 70 歳以上（49.8%）が最も多く、女性 30 歳代（42.5%）、60 歳代（44.9%）、男性 70 歳以上（42.4%）は 4 割台、女性 40 歳代（36.7%）、50 歳代（36.0%）は 3 割半ばと多くなっている。一方、「仕事」は男性 40 歳代（50.4%）が最も多く、女性 18～29 歳（30.4%）、男性 30 歳代以下（39.5%、30.8%）、50 歳代（36.8%）も 3 割台と多くなっている。また、「仕事」と「家庭生活」の両方」は女性 40 歳代（32.4%）、男性 30 歳代（34.1%）、60 歳代（36.8%）で 3 割台と多くなっている。

図表 11-3-2 性・年齢別 日常生活のなかでの優先度（現実）

（%）

	調査数（人）	「仕事」	「家庭生活」	「地域・個人の生活」	「仕事」と「家庭生活」の両方	「仕事」と「地域・個人の生活」の両方	「家庭生活」と「地域・個人の生活」の両方	「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」のすべて	無回答
全 体	2,440	19.8	35.1	5.2	22.0	2.6	6.6	3.8	4.9
女性全体	1,350	15.1	41.7	4.3	20.1	2.5	7.1	3.6	5.5
18～29歳	125	30.4	25.6	5.6	21.6	8.8	2.4	4.8	0.8
30～39歳	120	23.3	42.5	4.2	23.3	2.5	0.8	3.3	-
40～49歳	188	21.3	36.7	1.1	32.4	1.1	3.7	3.2	0.5
50～59歳	258	25.2	36.0	1.2	25.2	1.9	5.0	4.7	0.8
60～69歳	196	11.2	44.9	3.1	24.5	2.6	5.1	5.6	3.1
70歳以上	462	2.4	49.8	7.4	9.3	1.7	13.4	2.2	13.9
男性全体	1,026	26.5	26.3	6.5	24.8	2.7	5.8	3.7	3.6
18～29歳	86	39.5	15.1	10.5	22.1	8.1	2.3	2.3	-
30～39歳	91	30.8	24.2	3.3	34.1	1.1	1.1	5.5	-
40～49歳	135	50.4	11.9	5.2	25.9	1.5	1.5	3.7	-
50～59歳	201	36.8	20.4	4.0	28.9	3.5	1.5	4.5	0.5
60～69歳	185	22.7	21.1	5.4	36.8	1.6	6.5	4.3	1.6
70歳以上	328	7.9	42.4	9.1	13.1	2.4	12.2	2.7	10.1

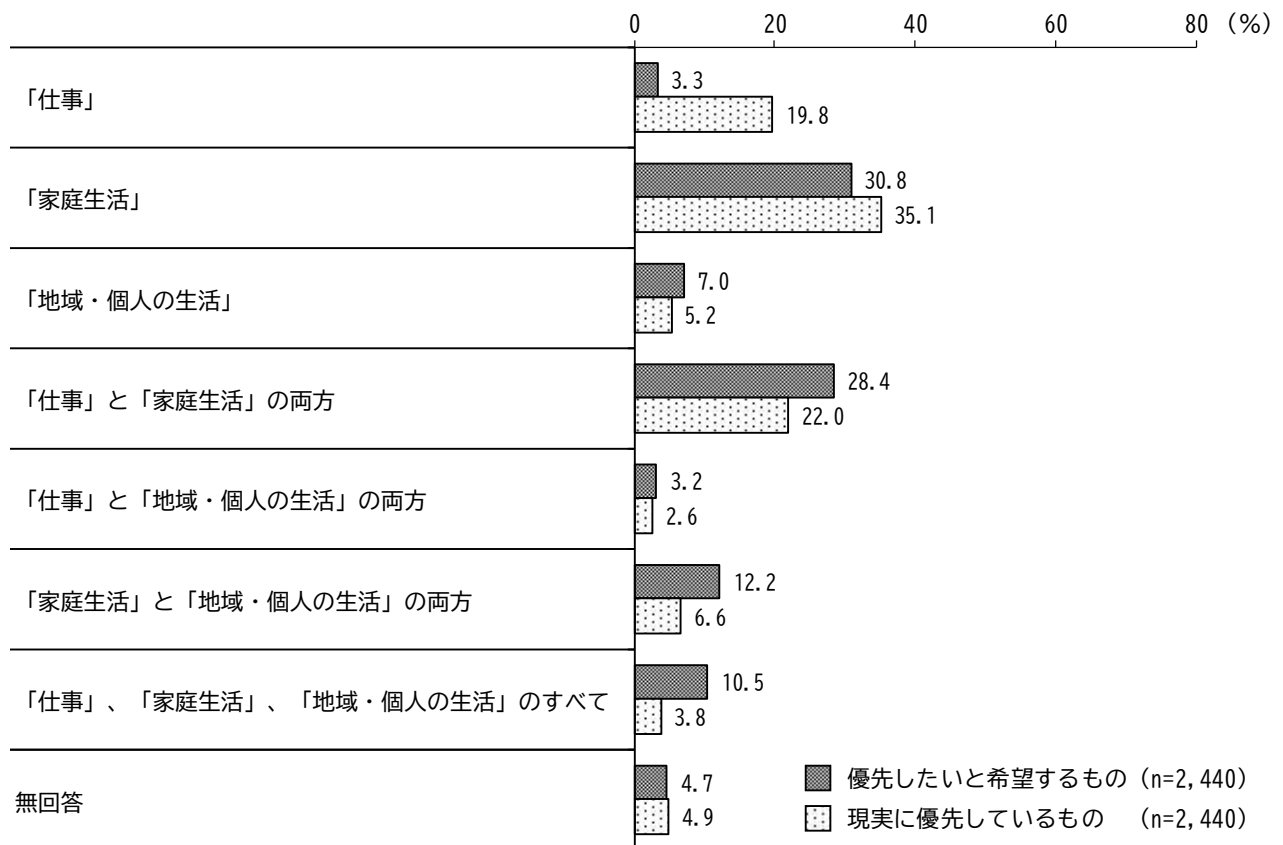
(4) 日常生活のなかでの優先度（比較）

◇「仕事」は現実が希望を 16.5 ポイント上回っている

問 39. 日常生活のなかでの、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度について伺います。あなたの希望と現実(現状)に最も近いものを選んでください。

(○はそれぞれ1つずつ)

図表 11-4-1 日常生活のなかでの優先度（比較）



優先したいと希望するものと現実に優先しているものを比較すると、「「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」のすべて」（希望 10.5%、現実 3.8%）は 6.7 ポイント、「「仕事」と「家庭生活」の両方」（希望 28.4%、現実 22.0%）は 6.4 ポイント、「「家庭生活」と「地域・個人の生活」の両方」（希望 12.2%、現実 6.6%）は 5.6 ポイント、優先したいと希望するものが現実に優先しているものを上回っている。一方、「仕事」は現実に優先しているもの（19.8%）が優先したいと希望するもの（3.3%）を 16.5 ポイント上回っている。

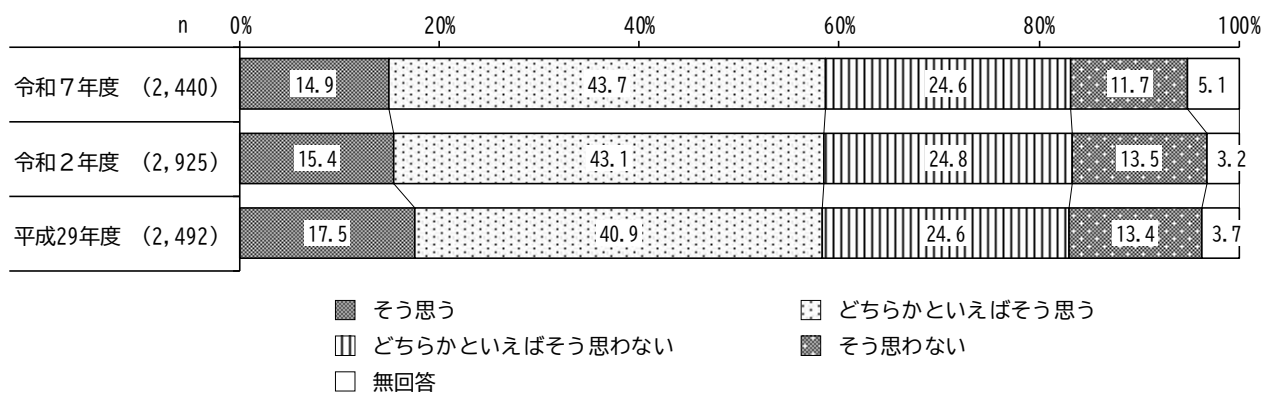
(5) 1日の生活で希望どおりの時間配分ができているか

◇『そう思う』が6割弱

問 40. 仕事、家事・育児・介護、地域活動、学習、娯楽など、1つの生活の中で行うさまざまな活動について、あなたは概ね自分が希望するとおりの配分で時間を使えていると思いますか。

(○は1つ)

図表 11-5-1 1日の生活で希望どおりの時間配分ができているか



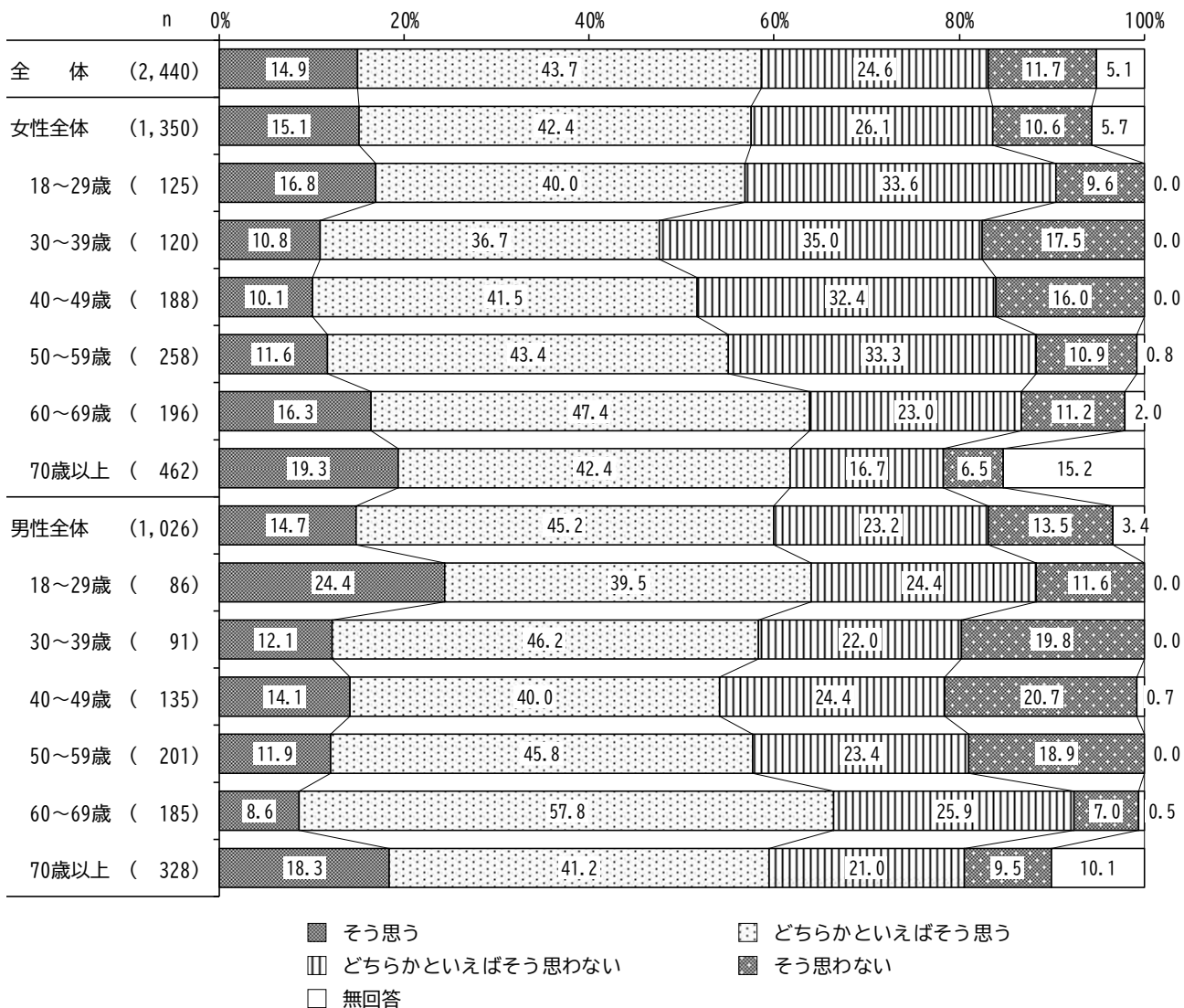
1日の生活で希望どおりの時間配分ができているか聞いたところ、「そう思う」(14.9%)と「どちらかといえばそう思う」(43.7%)を合わせた『そう思う』(58.6%)は6割弱となっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(24.6%)と「そう思わない」(11.7%)を合わせた『そう思わない』(36.3%)は3割半ばとなっている。

過去2回の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっている。

性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、『そう思う』は男性 60 歳代（66.5%）が最も多く、女性 60 歳代（63.8%）、男性 18～29 歳（64.0%）も 6 割台と多くなっている。一方、女性 30 歳代（47.5%）は全体を 11.1 ポイント、女性 40 歳代（51.6%）は 7.0 ポイント下回っている。

図表 11-5-2 性・年齢別 1日の生活で希望どおりの時間配分ができているか

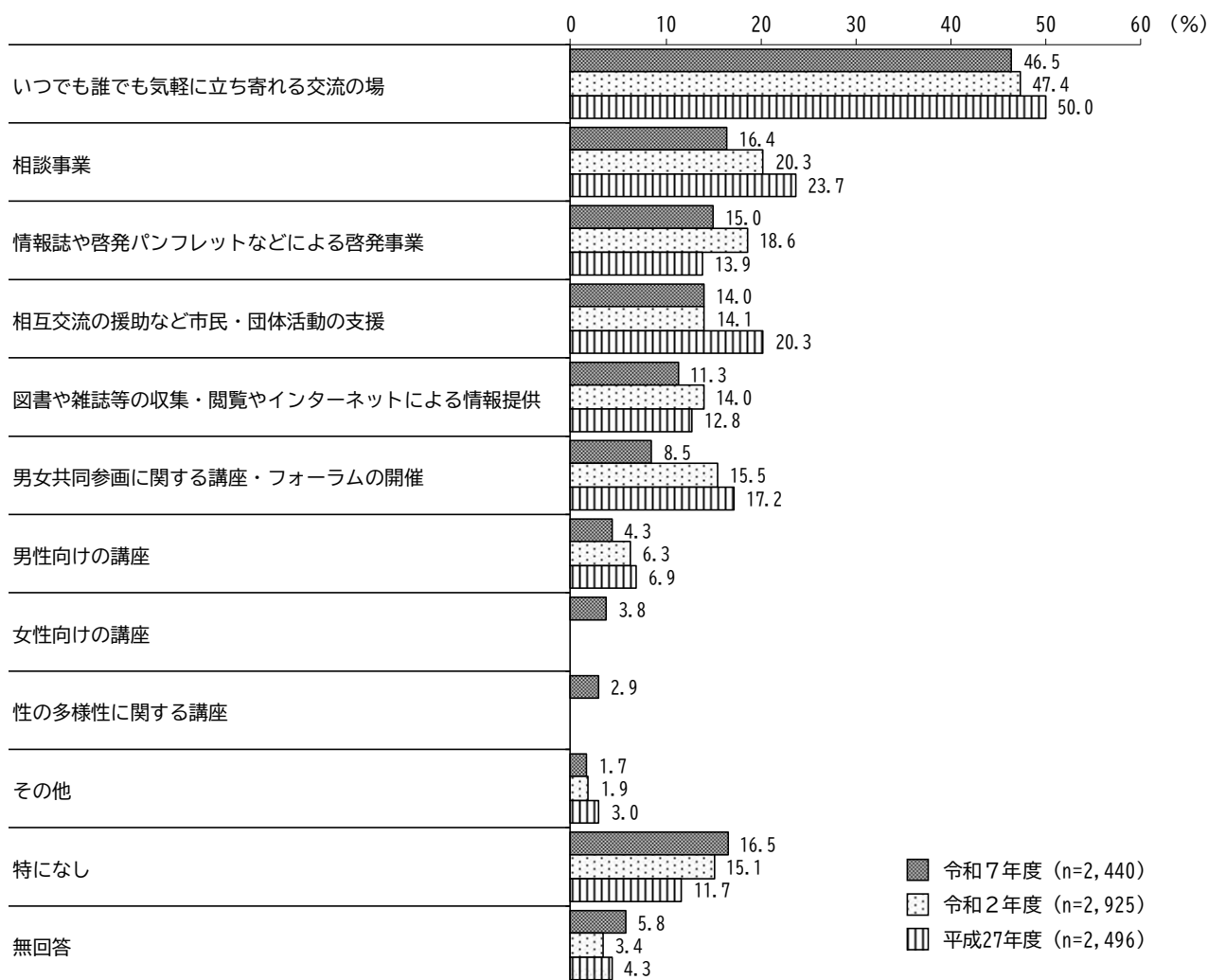


(6) 男女共同参画施設が今後力を入れること

◇「いつでも誰でも気軽に立ち寄れる交流の場」が最も多く、4割半ば

問 41. 越谷市には、男女共同参画を推進する拠点施設として「男女共同参画支援センター(ほっと越谷)」があります。あなたは、男女共同参画施設が今後どのような内容に特に力を入れる必要があると思いますか。(〇は2つまで)

図表 11-6-1 男女共同参画施設が今後力を入れること



(※)「女性向けの講座」「性の多様性に関する講座」は令和7年度新規項目

男女共同参画施設が今後力を入れることについて聞いたところ、「いつでも誰でも気軽に立ち寄れる交流の場」(46.5%)が最も多く、次いで「相談事業」(16.4%)、「情報誌や啓発パンフレットなどによる啓発事業」(15.0%)、「相互交流の援助など市民・団体活動の支援」(14.0%)、「図書や雑誌等の収集・閲覧やインターネットによる情報提供」(11.3%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、「男女共同参画に関する講座・フォーラムの開催」(8.5%)は令和2年度(15.5%)から7.0ポイント減少し、「相談事業」なども減少傾向となっている。

性別でみると、「いつでも誰でも気軽に立ち寄れる交流の場」は女性（48.7%）が男性（43.2%）を5.5ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「いつでも誰でも気軽に立ち寄れる交流の場」は女性60歳代以上（各54.1%）が5割半ばで最も多く、女性はすべての年齢で4割以上、男性は3割以上と多くなっている。「相談事業」は男性18～29歳（25.6%）、「情報誌や啓発パンフレットなどによる啓発事業」は男性70歳以上（21.0%）で最も多くなっており、「図書や雑誌等の収集・閲覧やインターネットによる情報提供」は男性30歳代（22.0%）で全体を10.7ポイント上回っている。

図表 11-6-2 性・年齢別 男女共同参画施設が今後力を入れること

	調査数（人）	いつでも誰でも気軽に立ち寄れる交流の場	相談事業	情報誌や啓発パンフレットなどによる啓発事業	相互交流の援助など市民・団体活動の支援	図書や雑誌等の収集・閲覧やインターネットによる情報提供	男女共同参画に関する講座・フォーラムの開催	男性向けの講座	女性向けの講座	性の多様性に関する講座	その他	特になし	無回答
													(%)
全 体	2,440	46.5	16.4	15.0	14.0	11.3	8.5	4.3	3.8	2.9	1.7	16.5	5.8
女性全体	1,350	48.7	18.3	13.0	13.8	11.4	8.0	3.7	5.3	2.4	1.3	15.3	5.7
18～29歳	125	49.6	22.4	12.8	15.2	19.2	4.8	4.0	3.2	10.4	1.6	12.0	-
30～39歳	120	47.5	24.2	15.8	13.3	18.3	5.0	5.8	7.5	4.2	1.7	15.8	0.8
40～49歳	188	41.5	19.7	13.8	11.7	17.0	6.9	7.4	6.4	3.2	1.1	19.1	1.1
50～59歳	258	40.7	24.0	13.6	16.3	12.8	10.5	4.3	8.5	2.3	1.6	14.3	2.3
60～69歳	196	54.1	19.4	13.3	13.8	12.8	11.2	3.1	2.6	-	2.0	15.3	4.1
70歳以上	462	54.1	11.5	11.7	13.0	3.9	7.4	1.5	4.1	0.6	0.4	14.9	13.0
男性全体	1,026	43.2	14.3	17.7	14.3	11.8	9.3	5.4	1.9	3.5	2.1	18.6	4.9
18～29歳	86	39.5	25.6	18.6	8.1	15.1	1.2	5.8	2.3	5.8	2.3	23.3	1.2
30～39歳	91	39.6	12.1	13.2	8.8	22.0	7.7	11.0	3.3	4.4	5.5	17.6	1.1
40～49歳	135	39.3	11.1	17.8	15.6	14.8	9.6	5.2	3.0	3.7	2.2	23.0	3.7
50～59歳	201	35.3	14.9	13.4	12.4	11.9	10.4	6.0	2.5	6.5	4.0	23.9	1.0
60～69歳	185	48.1	17.3	18.4	17.3	9.7	11.9	2.7	1.1	2.7	1.6	16.8	2.2
70歳以上	328	48.8	11.3	21.0	16.5	7.9	9.5	4.9	1.2	1.2	0.3	13.7	11.3

12. 行政のデジタル化について

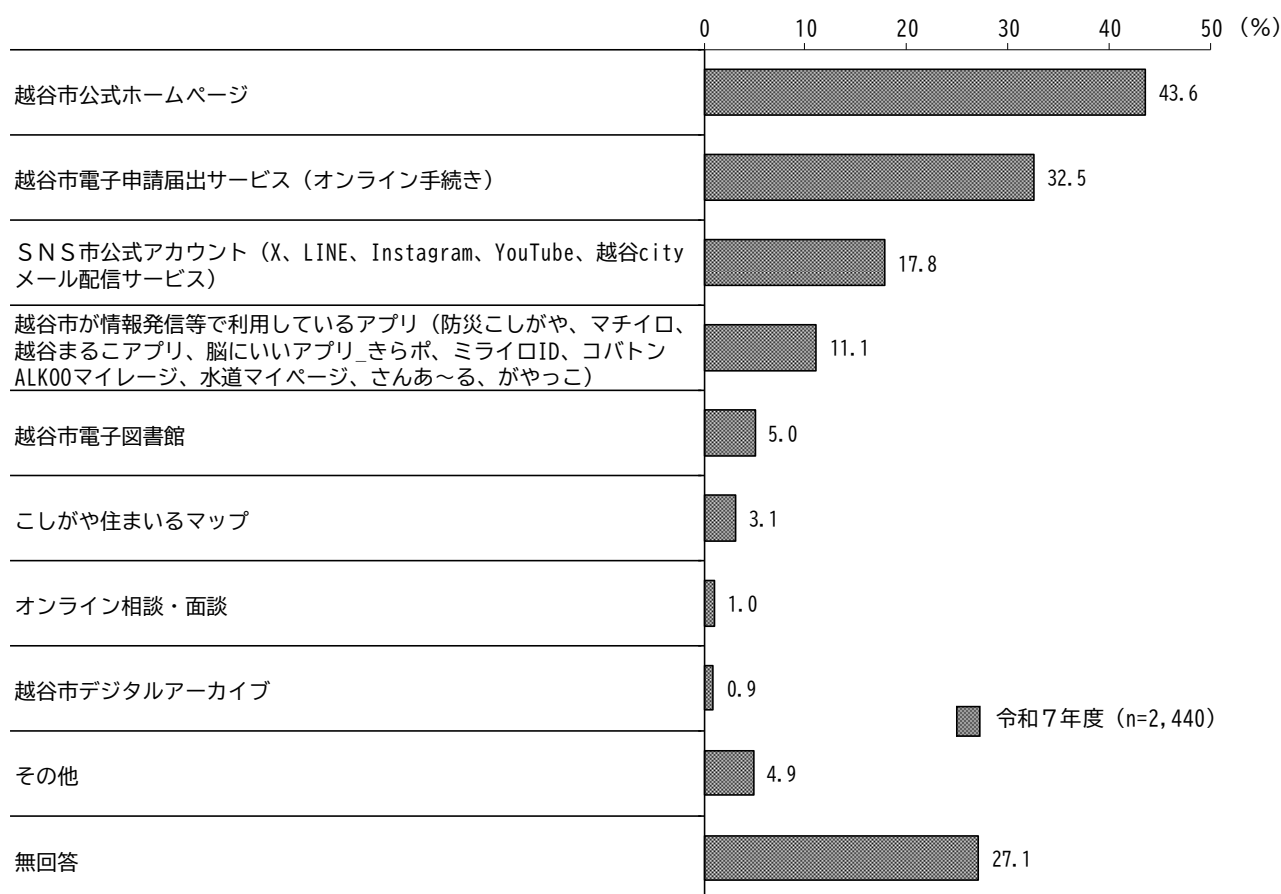
(1) デジタル行政サービスで利用したことがあるもの

◇「越谷市公式ホームページ」が最も多く、4割強

問 42. デジタル化された行政サービスのうち、利用したことがあるものはどれですか。

(〇はいくつでも)

図表 12-1-1 デジタル行政サービスで利用したことがあるもの



デジタル行政サービスで利用したことがあるものについては、「越谷市公式ホームページ」(43.6%)が最も多く、次いで「越谷市電子申請届出サービス (オンライン手続き)」(32.5%)、「S N S市公式アカウント (X、LINE、Instagram、YouTube、越谷 city メール配信サービス)」(17.8%)、「越谷市が情報発信等で利用しているアプリ (防災こしがや、マチイロ、越谷まるこアプリ、脳にいいアプリ_きらぽ、ミライロ ID、コバトン ALK00 マイレージ、水道マイページ、さんあ〜る、がやっこ)」(11.1%)、「越谷市電子図書館」(5.0%)の順となっている。

性別でみると、「SNS市公式アカウント（X、LINE、Instagram、YouTube、越谷 city メール配信サービス）」は女性（21.6%）が男性（13.3%）を 8.3 ポイント上回っている。一方、「越谷市電子申請届出サービス（オンライン手続き）」は男性（37.4%）が女性（29.5%）を 7.9 ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「越谷市公式ホームページ」は女性 40 歳代（63.8%）が最も多く、女性 50 歳代（63.2%）は 6 割強、女性 30 歳代以下（56.0%、51.7%）、男性 30～60 歳代（51.6%、55.6%、56.7%、55.1%）も 5 割台と多くなっている。一方、女性 70 歳以上（18.4%）は 2 割弱と少なくなっている。「越谷市電子申請届出サービス（オンライン手続き）」は男性 30 歳代（58.2%）が最も多く、女性 30 歳代（55.0%）、男性 40 歳代（57.0%）は 5 割台、女性 40 歳代（47.9%）は 5 割弱と多くなっている。また、「SNS市公式アカウント（X、LINE、Instagram、YouTube、越谷 city メール配信サービス）」は女性 30 歳代（45.0%）、40 歳代（47.9%）で 4 割台、女性 50 歳代（32.6%）、男性 30 歳代（30.8%）で 3 割台と多くなっている。一方、70 歳以上は男女とも上位 3 項目いずれも全体を 1 割以上下回っている。

図表 12-1-2 性・年齢別 デジタル行政サービスで利用したことがあるもの

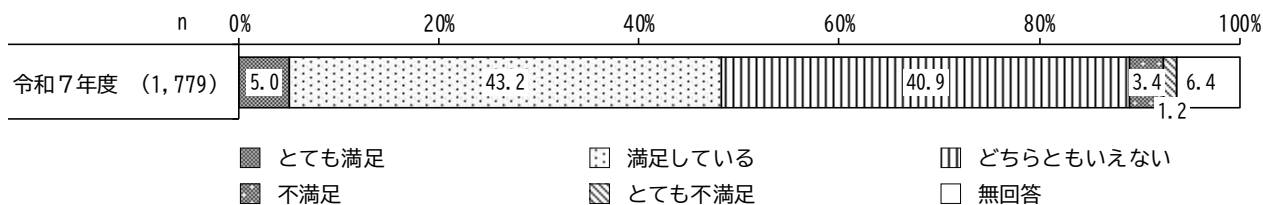
	調査数（人）	越谷市公式ホームページ	越谷市電子申請届出サービス（オンライン手続き）	SNS市公式アカウント（X、LINE、Instagram、YouTube、越谷 city メール配信サービス）	越谷市が情報発信等で利用しているアプリ（防災こしきらボ、マイページ、水道マイページ、さんあ、がやつこ）	越谷市電子図書館	こしがや住まいるマップ	オンライン相談・面談	越谷市デジタルアーカイブ	その他	無回答
全 体	2,440	43.6	32.5	17.8	11.1	5.0	3.1	1.0	0.9	4.9	27.1
女性全体	1,350	43.4	29.5	21.6	11.6	5.6	2.9	1.2	0.4	4.1	29.1
18～29歳	125	56.0	35.2	18.4	9.6	8.8	3.2	2.4	1.6	3.2	12.0
30～39歳	120	51.7	55.0	45.0	14.2	14.2	2.5	-	0.8	1.7	8.3
40～49歳	188	63.8	47.9	47.9	14.4	9.0	1.6	1.6	0.5	2.1	7.4
50～59歳	258	63.2	34.9	32.6	16.7	6.6	1.6	0.8	-	2.7	12.8
60～69歳	196	43.9	32.7	9.2	12.8	4.6	2.6	0.5	0.5	3.1	26.0
70歳以上	462	18.4	9.5	5.0	6.9	0.9	4.3	1.5	0.2	6.9	58.2
男性全体	1,026	45.0	37.4	13.3	10.8	4.4	3.1	0.8	1.7	5.9	22.8
18～29歳	86	32.6	38.4	20.9	10.5	3.5	4.7	-	3.5	8.1	18.6
30～39歳	91	51.6	58.2	30.8	23.1	5.5	4.4	1.1	1.1	-	11.0
40～49歳	135	55.6	57.0	24.4	9.6	6.7	2.2	0.7	1.5	3.0	9.6
50～59歳	201	56.7	40.3	14.9	10.9	6.0	0.5	1.5	1.5	8.0	10.9
60～69歳	185	55.1	40.5	7.0	11.9	3.2	1.6	0.5	3.2	3.2	16.8
70歳以上	328	29.3	19.8	4.3	7.3	3.0	5.2	0.6	0.6	8.5	43.3

(2) デジタル行政サービスの満足度

◇『満足』が5割弱

問 42-2. 問 42 で「1」～「9」のいずれか1つでも利用したことがある方に伺います。
利用したデジタル行政サービスに満足していますか。(〇は1つ)

図表 12-2-1 デジタル行政サービスの満足度



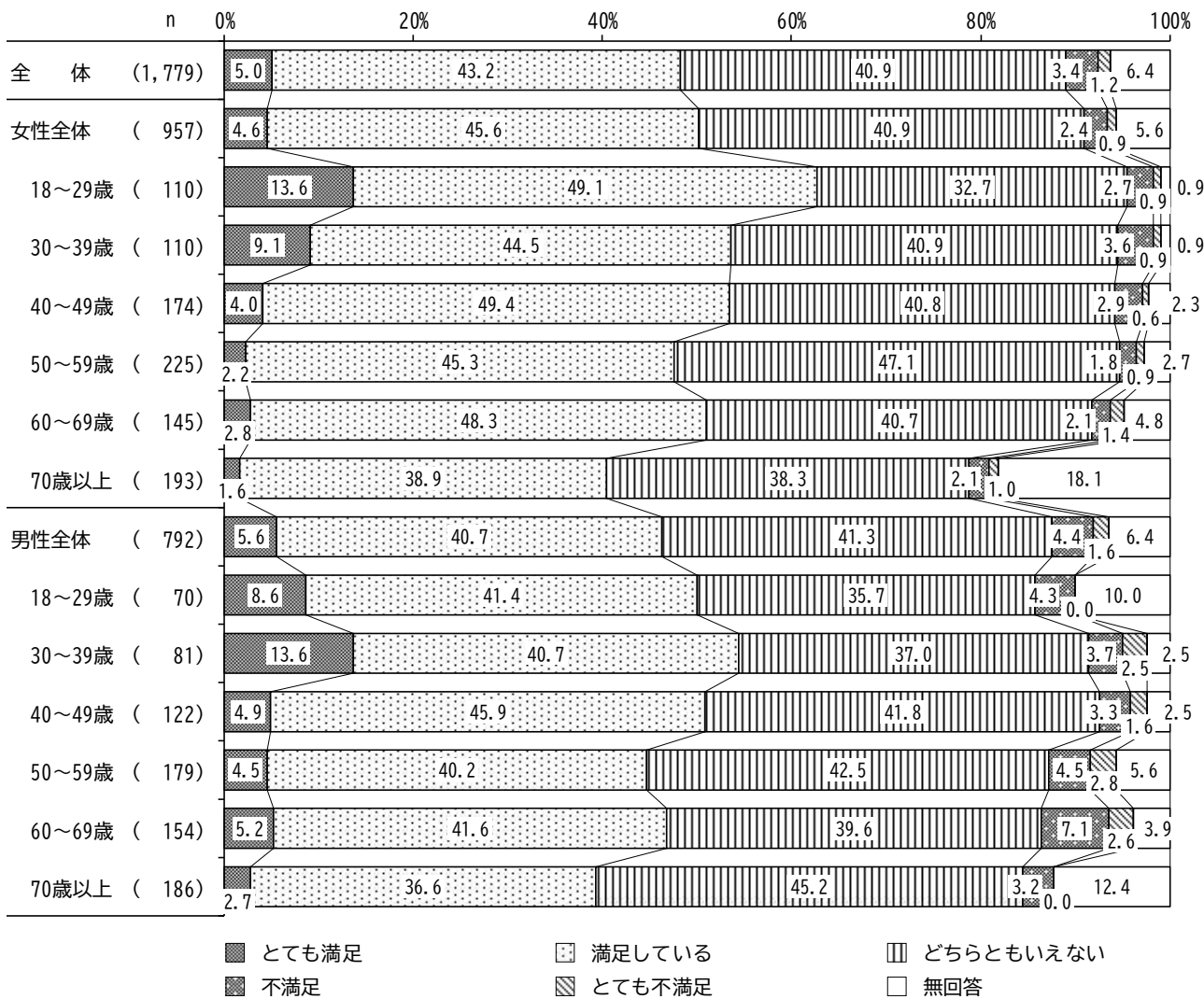
いずれかのデジタル行政サービスを利用したことがあると回答した 1,779 人に、デジタル行政サービスの満足度を聞いたところ、「とても満足」(5.0%)と「満足している」(43.2%)を合わせた『満足』(48.2%)は5割弱となっている。一方、「不満」(3.4%)と「とても不満」(1.2%)を合わせた『不満』(4.6%)は1割未滿となっている。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると『満足』は女性 18～29 歳（62.7%）が6割強で最も多く、全体を 14.5 ポイント上回っている。一方、70 歳以上は女性（40.4%）、男性（39.2%）とも約4割と少なくなっている。また、『不満』は男性 60 歳代（9.7%）が最も多く、男女ともすべての年齢で 1 割未満となっている。

図表 12-2-2 性・年齢別 デジタル行政サービスの満足度

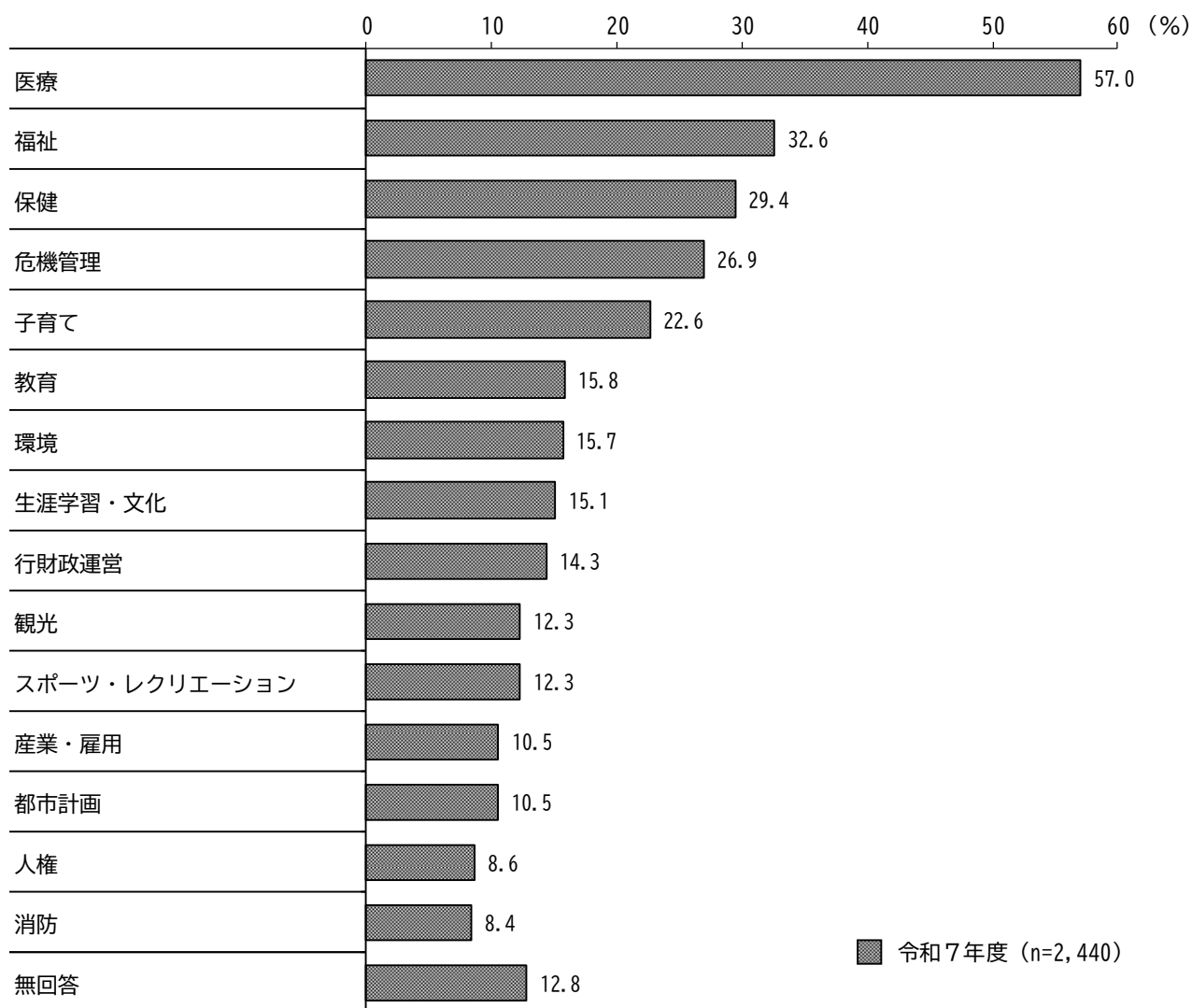


(3) 行政サービスのデジタル化で期待する分野

◇「医療」が最も多く、6割弱

問 43. 行政サービスのデジタル化について、期待する分野はどれですか。(〇はいくつでも)

図表 12-3-1 行政サービスのデジタル化で期待する分野



行政サービスのデジタル化で期待する分野については、「医療」(57.0%)が最も多く、次いで「福祉」(32.6%)、「保健」(29.4%)、「危機管理」(26.9%)、「子育て」(22.6%)の順となっている。

性別でみると、「行財政運営」(男性 20.1%、女性 10.0%)は 10.1 ポイント、「危機管理」(男性 30.6%、女性 24.6%)、「都市計画」(男性 13.9%、女性 7.9%)、「保健」(男性 32.9%、女性 27.1%)も 5 ポイント以上、男性が女性を上回っている、

性・年齢別でみると、「医療」は女性 40 歳代 (70.7%) が最も多く、女性 70 歳以上 (49.4%)、男性 18～29 歳 (48.8%) を除き 5 割以上となっている。「福祉」は男性 60 歳代 (42.2%)、「保健」は男性 30 歳代 (41.8%)、60 歳代 (40.5%) で 4 割台と多くなっている。一方、「子育て」は 30 歳代で女性 (65.8%) は 6 割半ば、男性 (53.8%) は 5 割強と特に多く、女性 30 歳代は「医療」(59.2%) を上回っている (男性は同率)。「子育て」「教育」は男女とも 40 歳代以下で多くなっている。また、男性 30 歳代は「行財政運営」(29.7%)、「観光」(25.3%)、「スポーツ・レクリエーション」(25.3%)、「消防」(18.7%) など、複数の分野で全体を 1 割以上上回っている。

図表 12-3-2 性・年齢別 行政サービスのデジタル化で期待する分野

	調 査 数 （ 人 ）	医 療	福 祉	保 健	危 機 管 理	子 育 て	教 育	環 境	生 涯 学 習 ・ 文 化	行 財 政 運 営	観 光	ス ポ ー ツ ・ レ ク リ エ ー シ ヨ ン	産 業 ・ 雇 用	都 市 計 画	人 権	消 防	無 回 答	(%)
全 体	2,440	57.0	32.6	29.4	26.9	22.6	15.8	15.7	15.1	14.3	12.3	12.3	10.5	10.5	8.6	8.4	12.8	
女性全体	1,350	59.0	32.8	27.1	24.6	23.5	15.6	14.7	15.9	10.0	11.9	10.3	9.9	7.9	7.9	7.4	13.8	
18～29歳	125	60.8	28.8	32.0	13.6	42.4	28.8	14.4	13.6	14.4	20.0	12.8	12.0	8.8	8.8	7.2	0.8	
30～39歳	120	59.2	34.2	25.0	24.2	65.8	31.7	10.0	11.7	13.3	15.0	10.0	12.5	9.2	8.3	12.5	0.8	
40～49歳	188	70.7	34.6	27.1	25.0	46.3	30.3	16.5	18.1	16.5	11.7	14.4	13.8	10.1	5.3	12.8	1.6	
50～59歳	258	69.8	36.4	31.8	31.4	20.9	15.1	14.3	17.4	11.6	17.4	12.4	11.6	8.9	7.4	7.0	4.7	
60～69歳	196	55.6	36.7	28.6	30.1	11.7	11.2	17.9	19.9	8.7	14.3	13.3	16.3	9.2	10.2	7.7	11.7	
70歳以上	462	49.4	29.2	23.2	21.4	4.5	4.1	14.3	14.3	5.0	4.8	5.6	3.2	5.2	8.0	4.1	31.4	
男性全体	1,026	55.6	32.6	32.9	30.6	22.0	16.3	16.4	14.3	20.1	13.2	15.2	11.6	13.9	9.1	9.6	10.3	
18～29歳	86	48.8	29.1	36.0	30.2	45.3	26.7	18.6	17.4	31.4	16.3	15.1	9.3	23.3	8.1	10.5	2.3	
30～39歳	91	53.8	29.7	41.8	33.0	53.8	29.7	18.7	11.0	29.7	25.3	25.3	19.8	18.7	11.0	18.7	3.3	
40～49歳	135	59.3	36.3	32.6	31.9	46.7	30.4	14.1	12.6	19.3	15.6	20.7	14.8	12.6	9.6	17.0	0.7	
50～59歳	201	57.2	34.3	32.3	30.8	15.4	11.4	13.4	11.4	24.9	12.4	13.9	16.9	9.5	8.0	6.5	6.0	
60～69歳	185	58.9	42.2	40.5	34.1	15.1	14.6	21.6	23.2	19.5	16.8	16.2	14.6	17.3	8.1	8.1	3.8	
70歳以上	328	53.4	26.2	25.9	27.4	4.9	7.9	14.9	11.9	12.2	6.4	10.4	3.7	11.6	9.8	6.7	24.7	

13. 地域医療体制について

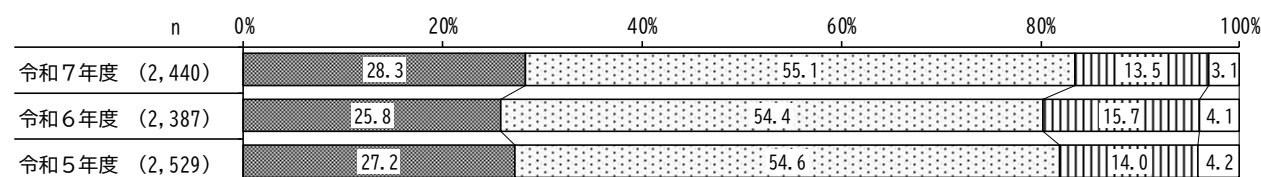
(1) 地域医療体制の認知度

◇『知っている』は「越谷市夜間急患診療所」が最も多く、8割強

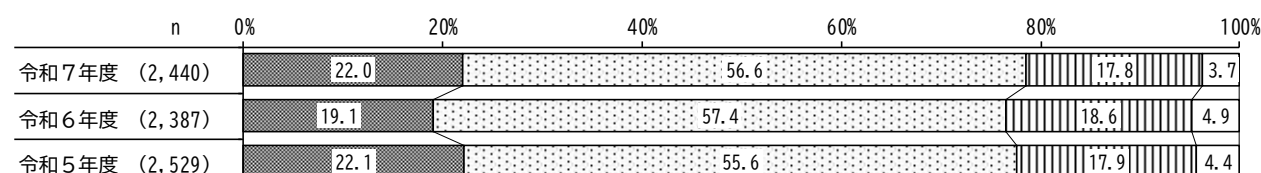
問 44. 次に掲げる「ことば」や「ことがら」を知っていますか。また、利用(実施)したことはありますか。(ア～オ それぞれ横に〇は1つずつ)

図表 13-1-1 地域医療体制の認知度

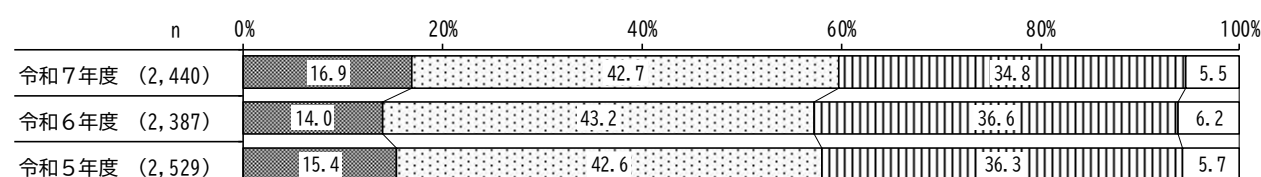
ア 越谷市夜間急患診療所



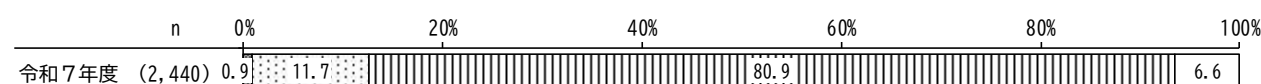
イ 休日当番医制度



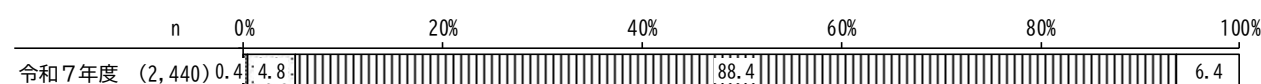
ウ 埼玉県救急電話相談(＃7119)



エ 医療情報ネット(ナビィ)



オ 人生会議(ACP:アドバンス・ケア・プランニング)



■ 利用(実施)したことがある ▨ 利用(実施)したことはないが知っている ▤ 知らない □ 無回答

地域医療体制の認知度については、「利用(実施)したことがある」と「利用(実施)したことはないが知っている」を合わせた『知っている』では、「越谷市夜間急患診療所」(83.4%)が最も多く、次いで「休日当番医制度」(78.5%)、「埼玉県救急電話相談(＃7119)」(59.7%)、「医療情報ネット(ナビィ)」(12.5%)、「人生会議(ACP:アドバンス・ケア・プランニング)」(5.2%)の順となっている。また、「利用したことがある」では、「越谷市夜間急患診療所」(28.3%)が3割弱、「休日当番医制度」(22.0%)が2割強、「埼玉県救急電話相談(＃7119)」(16.9%)が1割半ばとなっている。

過去2回の調査と比較すると、いずれも概ね同様の傾向となっている。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

「越谷市夜間急患診療所」について性別でみると、『知っている』は女性（86.6%）が男性（79.7%）を6.9ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、『知っている』は男女ともすべての年齢で6割以上となっており、女性50歳代（93.8%）、60歳代（93.9%）は9割強と特に多くなっている。また、「利用したことがある」は女性40歳代（45.2%）で4割半ばと多くなっている。一方、「知らない」は18～29歳で女性（32.0%）、男性（38.4%）とも3割台と多くなっている。

「休日当番医制度」について性別でみると、『知っている』は女性（82.7%）が男性（73.6%）を9.1ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、『知っている』は男女とも30歳代以上で5割以上となっており、女性50歳代（94.2%）、60歳代（94.4%）は9割半ばと特に多くなっている。また、「利用したことがある」は女性40歳代（41.0%）で約4割、女性50歳代（37.2%）で4割弱と多くなっている。一方、「知らない」は女性18～29歳（60.0%）が最も多く、男性18～29歳（58.1%）は6割弱、男性30歳代（48.4%）は5割弱と多くなっている。

「埼玉県救急電話相談（#7119）」について性別でみると、『知っている』は女性（66.4%）が男性（51.4%）を15.0ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、『知っている』は男性18～29歳（34.9%）、60歳代（45.4%）を除き5割以上となっており、女性30～50歳代（71.7%、74.5%、71.3%）は7割台と特に多くなっている。また、「利用したことがある」は女性30歳代（37.5%）で4割弱、女性40歳代（36.7%）で4割半ばと多くなっている。一方、「知らない」は男性18～29歳（64.0%）が最も多く、男性は70歳以上（35.1%）を除き4割以上となっている。

「医療情報ネット（ナビィ）」について性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、『知っている』は女性60歳代（17.3%）が2割弱で最も多く、男性18～29歳（5.8%）を除き1割台となっている。一方、「知らない」は男女ともすべての年齢で7割以上となっている。

「人生会議（ACP：アドバンス・ケア・プランニング）」について性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、『知っている』は女性60歳代（8.2%）が最も多く、男女ともすべての年齢で1割未満となっている。一方、「知らない」は男女ともすべての年齢で8割以上となっている。

図表 13-1-2 性・年齢別 地域医療体制の認知度

(%)

	調査数(人)	ア 越谷市夜間急患診療所				イ 休日当番医制度				ウ 埼玉県救急電話相談(＃7119)			
		が利用(実施)した こと	は利用(実施)が 知っていたこと	知らない	無回答	が利用(実施)した こと	は利用(実施)が 知っていたこと	知らない	無回答	が利用(実施)した こと	は利用(実施)が 知っていたこと	知らない	無回答
全 体	2,440	28.3	55.1	13.5	3.1	22.0	56.6	17.8	3.7	16.9	42.7	34.8	5.5
女性全体	1,350	29.3	57.3	10.4	3.0	23.1	59.6	13.8	3.5	20.8	45.6	28.5	5.0
18～29歳	125	25.6	42.4	32.0	-	16.0	24.0	60.0	-	16.0	39.2	44.8	-
30～39歳	120	38.3	45.8	15.0	0.8	26.7	44.2	27.5	1.7	37.5	34.2	26.7	1.7
40～49歳	188	45.2	41.0	13.8	-	41.0	43.6	15.4	-	36.7	37.8	24.5	1.1
50～59歳	258	38.0	55.8	5.4	0.8	37.2	57.0	4.7	1.2	26.0	45.3	27.1	1.6
60～69歳	196	28.1	65.8	5.1	1.0	23.0	71.4	4.6	1.0	12.8	53.1	30.1	4.1
70歳以上	462	17.3	68.0	6.9	7.8	9.1	76.2	6.1	8.7	11.9	50.6	26.2	11.3
男性全体	1,026	27.1	52.6	18.1	2.1	20.8	52.8	23.5	2.9	12.4	39.0	44.1	4.6
18～29歳	86	20.9	40.7	38.4	-	10.5	31.4	58.1	-	7.0	27.9	64.0	1.2
30～39歳	91	19.8	51.6	28.6	-	18.7	33.0	48.4	-	17.6	36.3	46.2	-
40～49歳	135	37.8	39.3	22.2	0.7	28.9	39.3	31.1	0.7	23.7	34.1	40.0	2.2
50～59歳	201	37.8	43.3	17.9	1.0	29.9	46.3	22.4	1.5	17.9	34.3	46.3	1.5
60～69歳	185	29.7	56.8	12.4	1.1	29.7	55.7	13.5	1.1	10.3	35.1	50.3	4.3
70歳以上	328	18.3	64.9	11.6	5.2	10.1	72.0	10.7	7.3	5.5	49.7	35.1	9.8

(%)

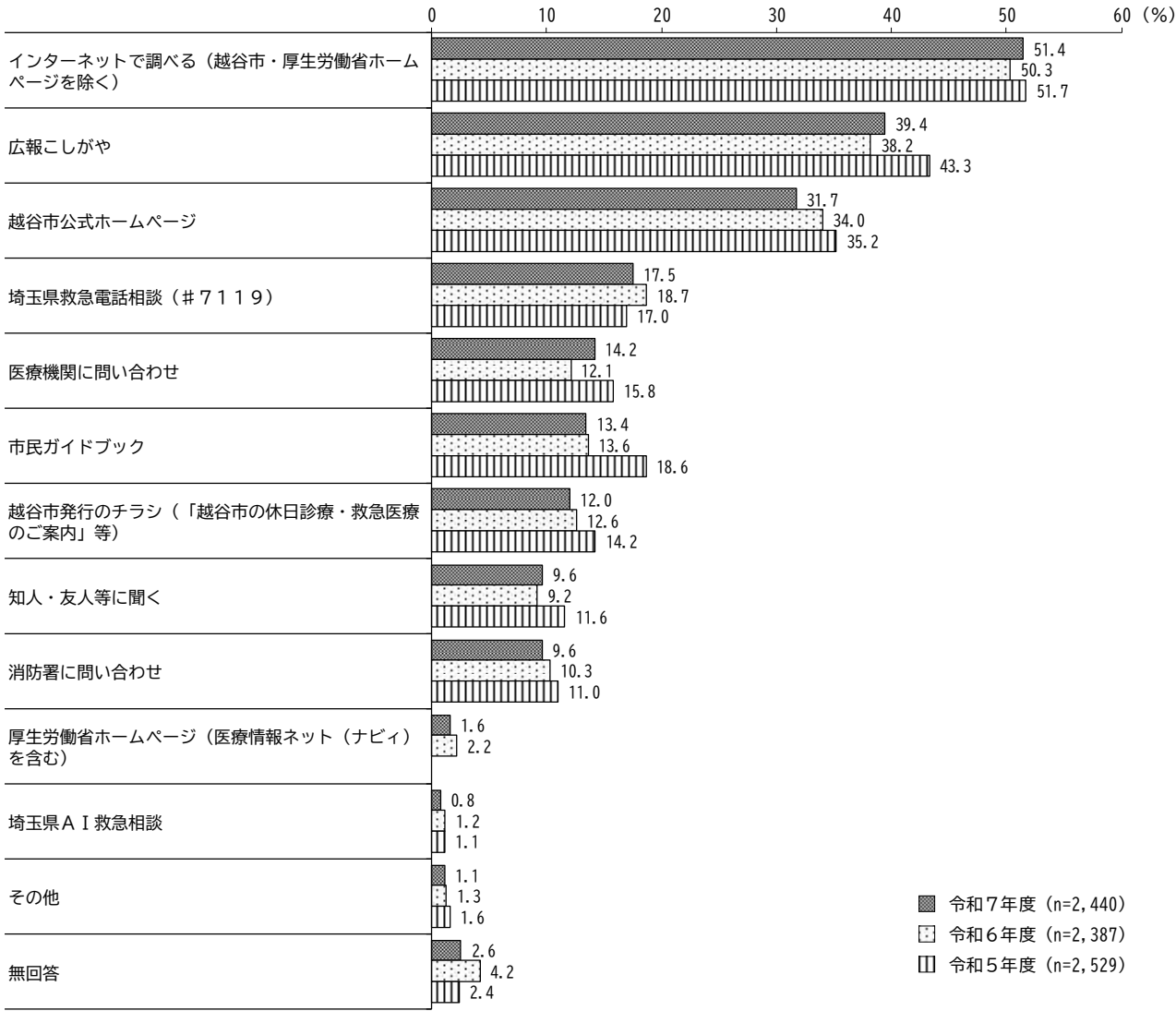
	調査数(人)	エ 医療情報ネット(ナビィ)				オ 人生会議(ACP:アドバンス・ケア・プランニング)			
		が利用(実施)した こと	は利用(実施)が 知っていたこと	知らない	無回答	が利用(実施)した こと	は利用(実施)が 知っていたこと	知らない	無回答
全 体	2,440	0.9	11.7	80.9	6.6	0.4	4.8	88.4	6.4
女性全体	1,350	0.9	12.1	80.4	6.6	0.6	5.0	88.1	6.3
18～29歳	125	-	11.2	88.8	-	-	5.6	94.4	-
30～39歳	120	1.7	10.0	86.7	1.7	0.8	3.3	94.2	1.7
40～49歳	188	1.6	8.5	88.3	1.6	1.1	4.3	93.1	1.6
50～59歳	258	1.9	14.0	82.2	1.9	1.2	4.7	92.6	1.6
60～69歳	196	1.0	16.3	78.6	4.1	0.5	7.7	87.8	4.1
70歳以上	462	-	11.7	72.9	15.4	0.2	4.5	80.5	14.7
男性全体	1,026	0.9	10.3	83.9	4.9	0.1	4.3	90.6	5.0
18～29歳	86	-	5.8	94.2	-	-	4.7	95.3	-
30～39歳	91	2.2	12.1	85.7	-	-	5.5	94.5	-
40～49歳	135	0.7	11.9	85.9	1.5	-	5.9	92.6	1.5
50～59歳	201	2.5	10.4	85.1	2.0	-	3.5	94.5	2.0
60～69歳	185	0.5	9.7	87.0	2.7	-	1.6	95.7	2.7
70歳以上	328	-	10.7	77.4	11.9	0.3	5.2	82.3	12.2

(2) 医療機関の情報の入手方法

◇「インターネットで調べる（越谷市・厚生労働省ホームページを除く）」が最も多く、約5割

問 45. あなたは、夜間や休日に利用できる医療機関の情報が必要な場合、どこから情報を入手しますか。次の中から選んでください。(〇はいくつでも)

図表 13-2-1 医療機関の情報の入手方法



(※1) 「厚生労働省ホームページ（医療情報ネット（ナビィ）を含む）」は
令和6年度までは「厚生労働省ホームページ（医療情報ネットを含む）」
(※2) 「厚生労働省ホームページ（医療情報ネットを含む）」は令和6年度新規項目
(※3) 「インターネットで調べる（越谷市・厚生労働省ホームページを除く）」は
令和5年度までは「インターネットで調べる（越谷市・埼玉県公式ホームページを除く）」

医療機関の情報の入手方法については、「インターネットで調べる（越谷市・厚生労働省ホームページを除く）」(51.4%) が最も多く、次いで「広報こしがや」(39.4%)、「越谷市公式ホームページ」(31.7%)、「埼玉県救急電話相談（＃7119）」(17.5%)、「医療機関に問い合わせ」(14.2%) の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、「市民ガイドブック」(13.4%) は令和6年度(13.6%) とほぼ同率であるが、令和5年度(18.6%) と比べ5.2ポイント減少している。

性別でみると、「埼玉県救急電話相談（＃７１１９）」（女性 21.3%、男性 12.7%）は 8.6 ポイント、「広報こしがや」（女性 41.9%、男性 35.5%）は 6.4 ポイント、女性が男性を上回っている。

性・年齢別でみると、「インターネットで調べる（越谷市・厚生労働省ホームページを除く）」は女性 18～29 歳（80.8%）が最も多く、女性 30 歳代（71.7%）、男性 40 歳代（78.5%）も 7 割台と多くなっている。「インターネットで調べる（越谷市・厚生労働省ホームページを除く）」は 70 歳以上（女性 22.7%、男性 29.9%）を除き 5 割以上となっており、女性全年齢、男性は 40 歳代以降で年齢が上がるにつれ減少する傾向となっている。一方、「広報こしがや」は女性 70 歳以上（56.9%）が最も多く、女性 60 歳代（55.6%）、男性 70 歳以上（53.0%）で 5 割台、女性 50 歳代（41.9%）、男性 60 歳代（41.6%）で約 4 割と高齢層を中心に多くなっている。また、「越谷市公式ホームページ」は女性 40 歳代（49.5%）、50 歳代（46.1%）、男性 40 歳代（41.5%）、60 歳代（45.9%）で 4 割台、「埼玉県救急電話相談（＃７１１９）」は女性 30 歳代（31.7%）で約 3 割、「市民ガイドブック」は男性 70 歳以上（25.6%）で 2 割半ばと多くなっている。

図表 13-2-2 性・年齢別 医療機関の情報の入手方法

	調査数（人）	厚生労働省ホームページで調べる（越谷市・除く）	広報こしがや	越谷市公式ホームページ	埼玉県救急電話相談（＃７１１９）	医療機関に問い合わせ	市民ガイドブック	越谷市発行のチラシ（「越谷市の休日診療・救急医療のご案内」等）	知人・友人等に聞く	消防署に問い合わせ	厚生労働省ホームページ（ナビイ）を含む	埼玉県 A I 救急相談	その他	無回答
全 体	2,440	51.4	39.4	31.7	17.5	14.2	13.4	12.0	9.6	9.6	1.6	0.8	1.1	2.6
女性全体	1,350	51.2	41.9	30.8	21.3	15.3	12.2	13.9	11.3	9.1	1.6	1.1	0.8	1.9
18～29歳	125	80.8	8.0	25.6	10.4	16.0	3.2	2.4	12.8	4.8	4.8	-	2.4	-
30～39歳	120	71.7	17.5	38.3	31.7	9.2	2.5	10.0	9.2	2.5	4.2	2.5	2.5	0.8
40～49歳	188	68.6	29.3	49.5	20.2	13.8	6.4	9.6	10.1	2.7	1.6	0.5	1.1	-
50～59歳	258	65.9	41.9	46.1	17.4	14.3	8.9	12.4	8.1	5.4	1.6	0.4	0.4	0.8
60～69歳	196	51.0	55.6	27.6	16.8	16.3	12.2	16.8	8.2	11.2	1.5	2.0	-	0.5
70歳以上	462	22.7	56.9	15.6	26.0	17.5	21.4	19.3	14.9	15.8	0.2	1.3	0.4	4.5
男性全体	1,026	53.4	35.5	34.0	12.7	12.6	14.6	9.5	7.3	10.0	1.8	0.4	1.5	2.8
18～29歳	86	67.4	10.5	20.9	3.5	9.3	2.3	-	15.1	3.5	7.0	-	2.3	2.3
30～39歳	91	69.2	17.6	33.0	11.0	8.8	5.5	3.3	3.3	5.5	3.3	2.2	1.1	1.1
40～49歳	135	78.5	24.4	41.5	12.6	14.1	7.4	5.2	7.4	5.2	4.4	-	-	1.5
50～59歳	201	60.7	27.4	38.3	11.4	11.4	9.0	8.5	7.0	7.5	1.0	0.5	2.5	1.0
60～69歳	185	54.6	41.6	45.9	11.9	13.5	16.8	6.5	4.9	11.9	0.5	0.5	0.5	1.6
70歳以上	328	29.9	53.0	25.3	16.8	14.0	25.6	17.7	7.9	15.5	-	-	1.8	5.8

14. 介護サービスについて

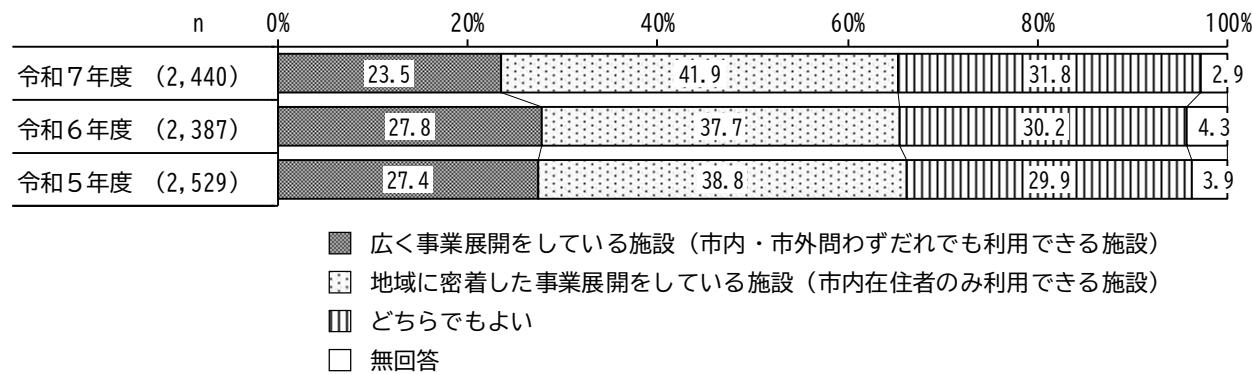
(1) 介護サービスの利用時に事業・事業所・従事者に求めるもの

- ◇事業の形態は「地域に密着した事業展開をしている施設（市内在住者のみ利用できる施設）」が最も多く、約4割
- 事業の種別は「施設・居住系サービス（施設に入所して介護を受けるサービス）」が最も多く、4割強
- 事業所の体制は「従事者のスキル向上や知識の取得に力を入れている」が最も多く、約6割
- 従事者の資質は「利用者の話をしっかり聞く」が最も多く、5割半ば

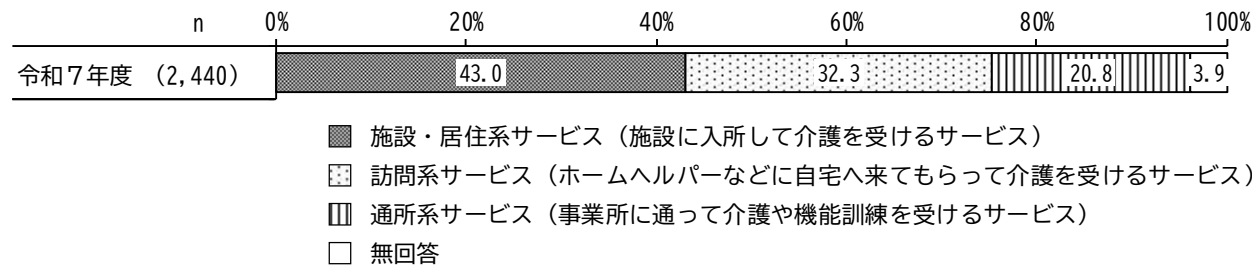
問 46. あなた又はあなたの家族が介護サービスを利用する際、事業・事業所・従事者に求めるものは何ですか。

図表 14-1-1 介護サービスの利用時に事業・事業所・従事者に求めるもの

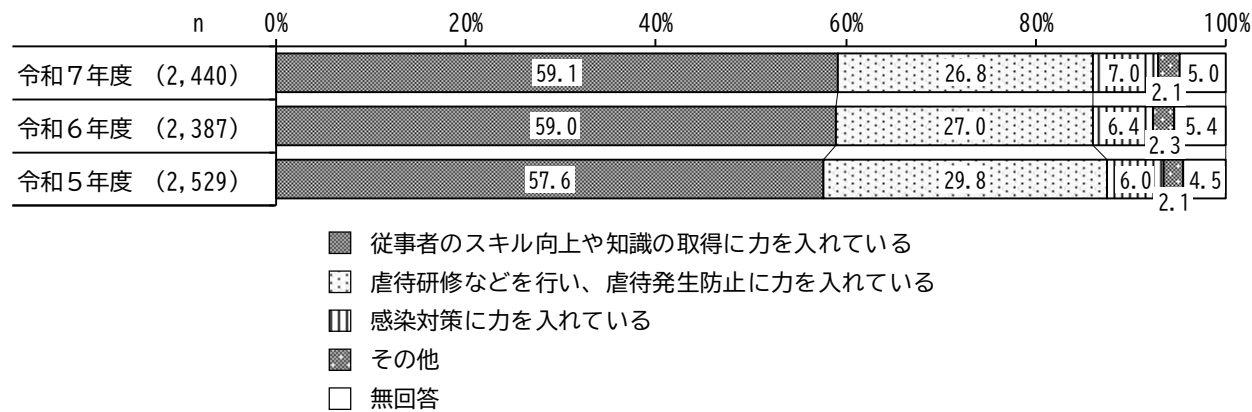
事業の形態

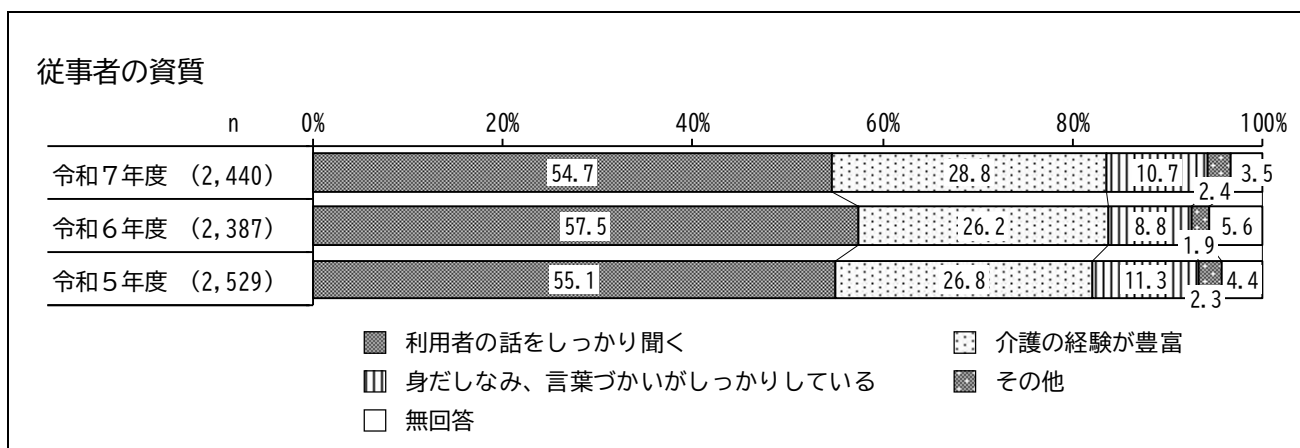


事業の種別



事業所の体制





※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

事業の形態については、「地域に密着した事業展開をしている施設（市内在住者のみ利用できる施設）」（41.9%）が最も多く、次いで「どちらでもよい」（31.8%）、「広く事業展開をしている施設（市内・市外問わずだれでも利用できる施設）」（23.5%）の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっている。

事業の種別については、「施設・居住系サービス（施設に入所して介護を受けるサービス）」（43.0%）が最も多く、次いで「訪問系サービス（ホームヘルパーなどに自宅へ来てもらって介護を受けるサービス）」（32.3%）、「通所系サービス（事業所に通って介護や機能訓練を受けるサービス）」（20.8%）の順となっている。

事業所の体制については、「従事者のスキル向上や知識の取得に力を入れている」（59.1%）が最も多く、次いで「虐待研修などを行い、虐待発生防止に力を入れている」（26.8%）、「感染対策に力を入れている」（7.0%）の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっている。

従事者の資質については、「利用者の話をしっかり聞く」（54.7%）が最も多く、次いで「介護の経験が豊富」（28.8%）、「身だしなみ、言葉づかいがしっかりしている」（10.7%）の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっている。

事業の形態について性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「地域に密着した事業展開をしている施設（市内在住者のみ利用できる施設）」は女性70歳以上（48.1%）が最も多く、男女ともすべての年齢で3割以上となっている。女性70歳以上、男性60歳代以上は、2割台の「広く事業展開をしている施設（市内・市外問わずだれでも利用できる施設）」「どちらでもよい」と比べ多くなっている。

事業の種別について性別でみると、「通所系サービス（事業所に通って介護や機能訓練を受けるサービス）」は女性（24.4%）が男性（17.0%）を、「施設・居住系サービス（施設に入所して介護を受けるサービス）」は男性（46.0%）が女性（40.7%）を5ポイント以上上回っている。

性・年齢別でみると、「施設・居住系サービス（施設に入所して介護を受けるサービス）」は男性 30 歳代（61.5%）が最も多く、女性 50 歳代以下、男性 60 歳代以下で 4 割以上と多くなっている。一方、70 歳以上は「訪問系サービス（ホームヘルパーなどに自宅へ来てもらって介護を受けるサービス）」（女性 34.2%、男性 41.8%）が上回っている。

事業所の体制について性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「従事者のスキル向上や知識の取得に力を入れている」は男性 60 歳代（68.6%）が最も多く、男女ともすべての年齢で 5 割以上となっている。「虐待研修などを行い、虐待発生防止に力を入れている」は女性 30 歳代（38.3%）が最も多く、男女とも 40 歳代以下で 3 割台となっている。

従事者の資質について性別でみると、「利用者の話をしっかり聞く」は女性（57.6%）が男性（51.6%）を 6.0 ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「利用者の話をしっかり聞く」は女性 50～60 歳代（各 61.2%）が最も多く、男性 30 歳代（44.0%）を除き 5 割以上となっている。

図表 14-1-2 性・年齢別 介護サービスの利用時に事業・事業所・従事者に求めるもの

(%)

	調査数（人）	事業の形態				事業の種別				事業所の体制					従事者の資質				
		幅広く事業展開をしている施設（市内・市外問	地域に密着した事業展開をしている施設（市	どちらでもよい	無回答	施設・居住系サービス（施設に入所して介護を受けるサービス）	訪問系サービス（ホームヘルパーなどに自宅へ来てもらって介護を受けるサービス）	通所系サービス（事業所に通って介護や機能訓練を受けるサービス）	無回答	従事者のスキル向上や知識の取得に力を入れている	虐待研修などを行い、虐待発生防止に力を入れている	感染対策に力を入れている	その他	無回答	利用者の話をしっかり聞く	介護の経験が豊富	身だしなみ、言葉づかいがしっかりしている	その他	無回答
全 体	2,440	23.5	41.9	31.8	2.9	43.0	32.3	20.8	3.9	59.1	26.8	7.0	2.1	5.0	54.7	28.8	10.7	2.4	3.5
女性全体	1,350	24.4	42.4	30.8	2.4	40.7	31.9	24.4	3.0	58.5	28.1	7.1	1.9	4.4	57.6	28.6	8.8	2.2	2.8
18～29歳	125	28.0	36.8	35.2	-	52.0	32.0	15.2	0.8	59.2	33.6	6.4	0.8	-	58.4	25.6	13.6	2.4	-
30～39歳	120	20.8	40.8	37.5	0.8	55.8	27.5	15.8	0.8	56.7	38.3	3.3	0.8	0.8	57.5	25.0	15.0	1.7	0.8
40～49歳	188	23.4	37.2	38.8	0.5	42.6	33.0	24.5	-	59.6	33.0	2.7	4.8	-	56.4	26.6	13.3	3.7	-
50～59歳	258	24.8	42.2	31.8	1.2	41.1	29.8	27.9	1.2	62.4	29.8	5.4	0.8	1.6	61.2	27.1	8.5	1.9	1.2
60～69歳	196	26.0	38.3	35.2	0.5	39.3	31.1	29.1	0.5	59.7	27.6	8.2	3.6	1.0	61.2	31.1	2.0	4.1	1.5
70歳以上	462	24.0	48.1	22.3	5.6	33.1	34.2	25.1	7.6	55.8	21.0	10.6	1.1	11.5	54.3	31.0	6.9	1.1	6.7
男性全体	1,026	22.3	41.1	33.5	3.0	46.0	32.7	17.0	4.3	61.4	25.1	6.5	2.1	4.8	51.6	29.2	12.8	2.6	3.8
18～29歳	86	29.1	36.0	34.9	-	58.1	24.4	17.4	-	60.5	33.7	2.3	2.3	1.2	60.5	23.3	12.8	3.5	-
30～39歳	91	19.8	40.7	39.6	-	61.5	20.9	17.6	-	62.6	30.8	3.3	3.3	-	44.0	33.0	15.4	7.7	-
40～49歳	135	23.0	33.3	43.0	0.7	52.6	28.1	17.8	1.5	60.0	31.1	3.7	3.0	2.2	51.1	29.6	14.1	3.0	2.2
50～59歳	201	19.4	38.8	40.8	1.0	42.8	36.8	17.9	2.5	57.7	29.4	8.0	3.5	1.5	50.7	28.4	16.4	3.0	1.5
60～69歳	185	24.9	47.0	25.9	2.2	52.4	25.4	20.0	2.2	68.6	22.2	5.4	1.6	2.2	54.1	29.2	13.0	1.6	2.2
70歳以上	328	21.3	43.9	27.4	7.3	34.1	41.8	14.0	10.1	60.1	18.0	9.5	0.9	11.6	50.6	30.2	9.1	1.2	8.8

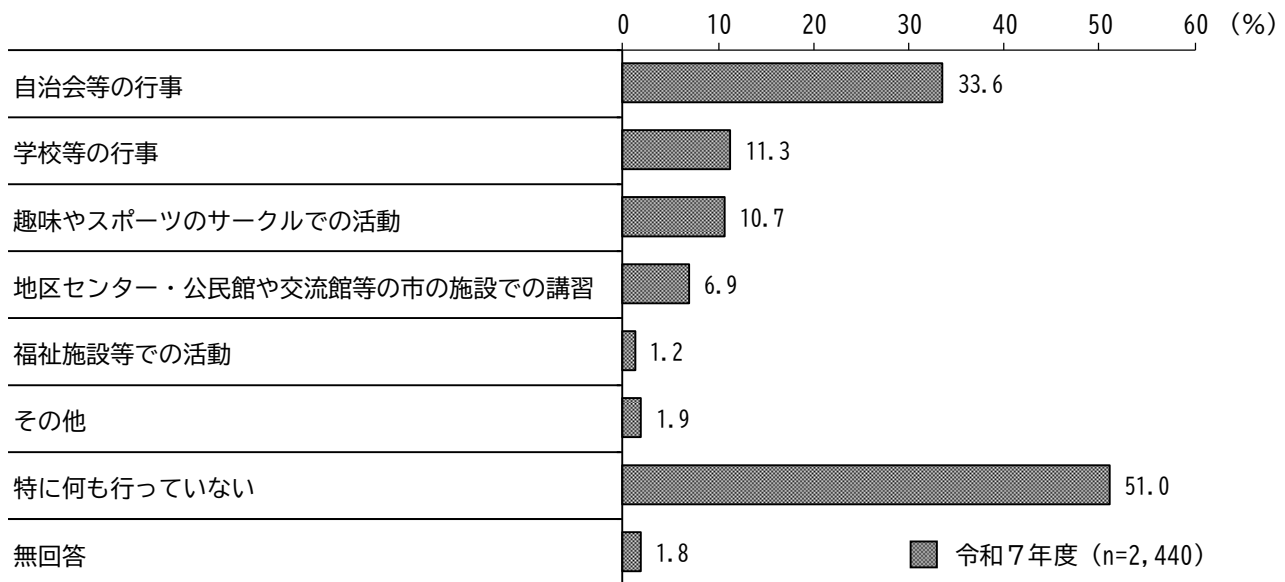
15. 地域活動への参加状況について

(1) 地域活動への参加状況

◇「自治会等の行事」が最も多く、3割強

問 47. あなたは、お住まいの地域でどのような活動に参加していますか。(〇はいくつでも)

図表 15－1－1 地域活動への参加状況



地域活動への参加状況については、「自治会等の行事」(33.6%)が最も多く、次いで「学校等の行事」(11.3%)、「趣味やスポーツのサークルでの活動」(10.7%)、「地区センター・公民館や交流館等の市の施設での講習」(6.9%)、「福祉施設等での活動」(1.2%)の順となっている。一方、「特に何も行っていない」(51.0%)は約5割となっている。

性別でみると、「特に何も行っていない」は男性（55.9%）が女性（47.6%）を8.3ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「自治会等の行事」は女性70歳以上（40.0%）が最も多く、女性30～60歳代（30.0%、33.0%、37.6%、39.8%）、男性50歳代以上（33.3%、38.4%、36.6%）で3割以上となっている。「学校等の行事」は女性40歳代（39.9%）が最も多く、女性30歳代（34.2%）、男性40歳代（35.6%）も3割台となる一方、40歳代以外の男性は1割未満となっている。また、「特に何も行っていない」は18～29歳で女性（75.2%）、男性（76.7%）とも7割半ばと特に多く、女性70歳以上（39.8%）を除き4割以上と多くなっている。

図表 15-1-2 性・年齢別 地域活動への参加状況

	調査数（人）	自治会等の行事	学校等の行事	趣味やスポーツのサークルでの活動	市区センター・公民館や交流館等の施設での講習	福祉施設等での活動	その他	特に何も行っていない	無回答
全 体	2,440	33.6	11.3	10.7	6.9	1.2	1.9	51.0	1.8
女性全体	1,350	35.0	13.2	12.3	8.5	1.4	1.8	47.6	1.5
18～29歳	125	11.2	14.4	4.8	-	0.8	0.8	75.2	-
30～39歳	120	30.0	34.2	3.3	5.8	1.7	2.5	49.2	-
40～49歳	188	33.0	39.9	6.9	5.3	1.1	1.1	43.6	1.1
50～59歳	258	37.6	12.4	6.2	7.4	0.4	0.8	51.2	0.4
60～69歳	196	39.8	4.6	15.3	7.1	1.0	3.1	46.9	1.0
70歳以上	462	40.0	0.6	21.0	14.1	2.4	2.2	39.8	3.2
男性全体	1,026	31.3	9.3	8.7	4.8	1.0	2.0	55.9	1.9
18～29歳	86	5.8	7.0	10.5	-	-	2.3	76.7	-
30～39歳	91	26.4	9.9	5.5	3.3	2.2	1.1	62.6	-
40～49歳	135	25.2	35.6	10.4	3.7	-	1.5	49.6	0.7
50～59歳	201	33.3	9.0	6.0	2.0	1.5	2.5	58.7	-
60～69歳	185	38.4	2.2	3.8	3.2	0.5	2.7	54.6	1.1
70歳以上	328	36.6	3.0	12.8	9.5	1.2	1.8	50.3	5.2

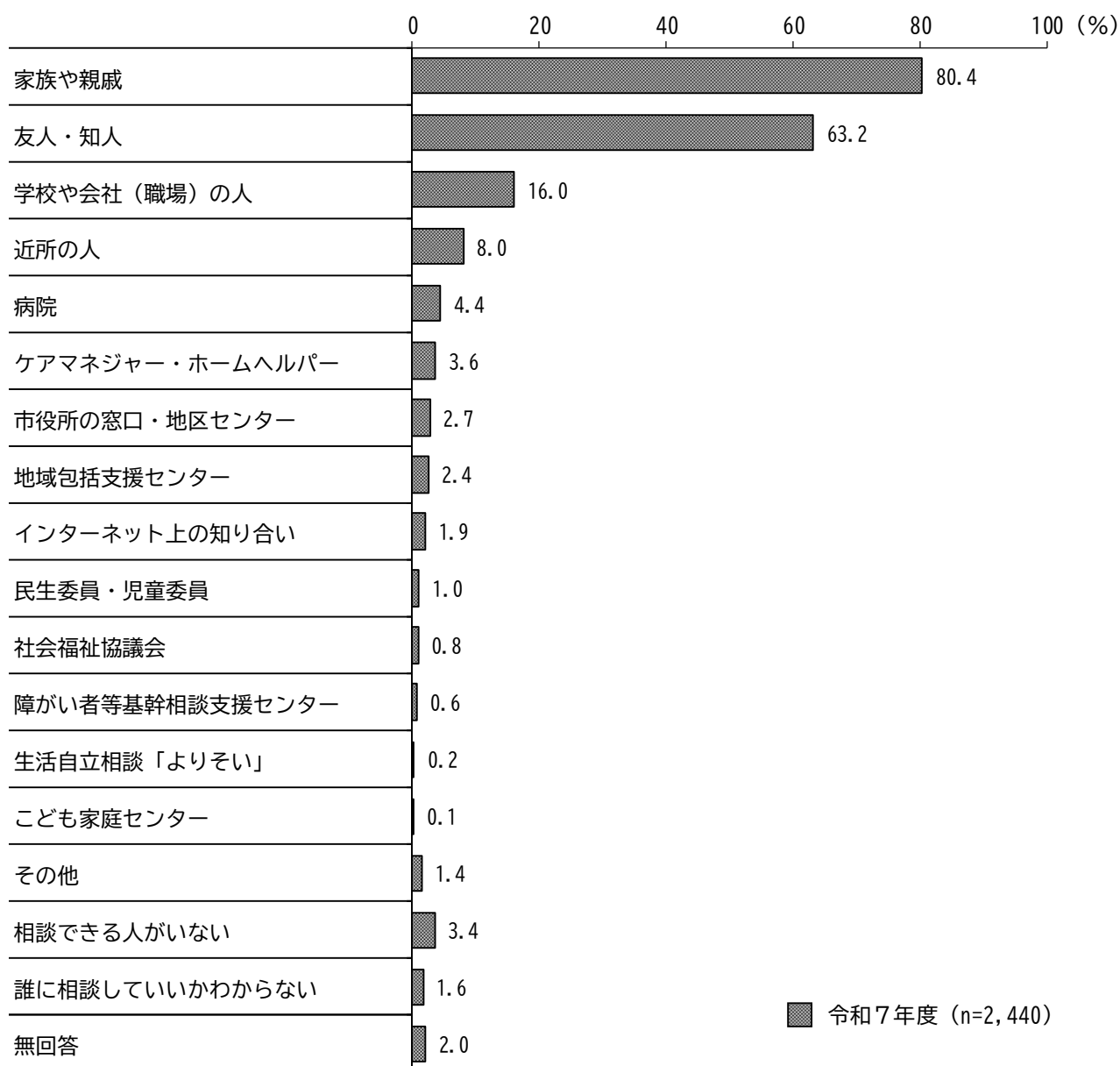
16. 相談できる相手や場所について

(1) 心配ごとや困りごとを相談できる相手や場所

◇「家族や親戚」が最も多く、約8割

問 48. あなたの心配ごとや困りごとを相談したり、愚痴(ぐち)を聞いてくれたりする人は誰ですか。あるいはそうした場所はどこですか。次の中から選んでください。(〇はいくつでも)

図表 16-1-1 心配ごとや困りごとを相談できる相手や場所



心配ごとや困りごとを相談できる相手や場所については、「家族や親戚」(80.4%)が最も多く、次いで「友人・知人」(63.2%)、「学校や会社(職場)の人」(16.0%)、「近所の人」(8.0%)、「病院」(4.4%)の順となっている。一方、「相談できる人がいない」(3.4%)、「誰に相談していいかわからない」(1.6%)は1割未満となっている。

性別でみると、「友人・知人」(女性 71.8%、男性 52.4%)は 19.4 ポイント、「家族や親戚」(女性 83.4%、男性 77.6%)は 5.8 ポイント、女性が男性を上回っている。

性・年齢別でみると、「家族や親戚」「友人・知人」は女性 30 歳代 (88.3%、83.3%) が最も多く、「家族や親戚」は男女ともすべての年齢で 7 割以上、「友人・知人」は男性 50 歳代 (49.3%)、70 歳以上 (43.0%) を除き 5 割以上となっている。「学校や会社 (職場) の人」は女性 30 歳代 (37.5%) が最も多く、女性 18 ～29 歳 (29.6%)、40 歳代 (29.3%)、男性 40 歳代 (31.9%) で約 3 割、男性 30 歳代以下 (27.9%、28.6%) で 3 割弱と多くなっている。また、「近所の人」は女性 70 歳以上 (16.2%)、「インターネット上の知り合い」は女性 30 歳代 (10.8%) で 1 割台と、他の年齢に比べ多くなっている。

図表 16-1-2 性・年齢別 心配ごとや困りごとを相談できる相手や場所

	調査数 (人)	家族や親戚	友人・知人	学校や会社 (職場) の人	近所の人	病院	ケアマネジャー・ホームヘルパー	市役所の窓口・地区センター	地域包括支援センター	インターネット上の知り合い	民生委員・児童委員	社会福祉協議会	障がい者等基幹相談支援センター	生活自立相談「よりそい」	こども家庭センター	その他	相談できる人がいない	誰に相談していいかわからない	無回答
全 体	2,440	80.4	63.2	16.0	8.0	4.4	3.6	2.7	2.4	1.9	1.0	0.8	0.6	0.2	0.1	1.4	3.4	1.6	2.0
女性全体	1,350	83.4	71.8	16.4	9.7	3.8	4.2	2.1	2.5	2.1	1.0	0.4	0.5	0.2	0.2	1.0	2.2	1.0	1.3
18～29歳	125	87.2	78.4	29.6	2.4	3.2	-	-	-	4.0	-	-	0.8	-	0.8	-	0.8	0.8	-
30～39歳	120	88.3	83.3	37.5	3.3	2.5	-	3.3	2.5	10.8	-	0.8	-	-	-	3.3	1.7	-	-
40～49歳	188	84.6	79.3	29.3	9.0	1.6	1.1	0.5	0.5	1.6	-	-	0.5	-	-	3.2	2.1	1.1	-
50～59歳	258	81.4	72.1	24.4	5.0	3.9	3.5	0.4	0.4	2.7	-	-	0.8	-	0.4	-	2.7	1.6	0.4
60～69歳	196	84.2	74.5	7.7	9.7	4.1	5.6	4.6	2.6	-	0.5	0.5	1.5	0.5	-	1.5	2.6	0.5	0.5
70歳以上	462	81.6	62.8	1.3	16.2	5.0	7.6	2.8	5.2	-	2.8	0.9	-	0.4	0.2	0.2	2.2	1.1	3.2
男性全体	1,026	77.6	52.4	16.4	5.0	4.8	2.6	2.8	2.1	1.7	0.7	1.2	0.7	0.3	-	1.7	5.1	2.3	2.2
18～29歳	86	72.1	81.4	27.9	-	1.2	-	-	-	5.8	-	-	1.2	-	-	3.5	3.5	2.3	-
30～39歳	91	85.7	63.7	28.6	3.3	2.2	-	2.2	-	4.4	-	-	1.1	1.1	-	2.2	5.5	2.2	-
40～49歳	135	81.5	57.0	31.9	4.4	3.7	1.5	1.5	0.7	2.2	-	-	-	-	-	1.5	3.7	2.2	0.7
50～59歳	201	77.1	49.3	23.4	2.0	2.0	1.0	1.5	0.5	1.5	-	-	0.5	-	-	2.0	6.5	2.5	-
60～69歳	185	78.9	50.3	12.4	3.8	4.3	2.7	3.8	1.1	0.5	0.5	1.1	1.1	0.5	-	1.1	7.0	2.7	1.6
70歳以上	328	74.7	43.0	1.5	9.5	8.8	5.5	4.6	5.5	0.3	1.8	3.0	0.6	0.3	-	1.2	4.0	2.1	5.8

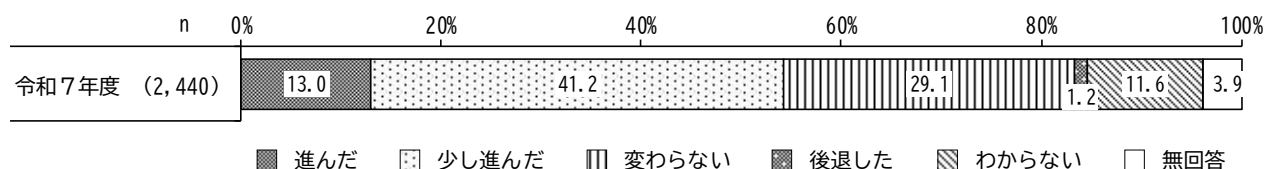
17. 障がいや障がいのある人に対する理解について

(1) 障がいや障がいのある人に対する理解の進捗

◇『進んだ』が5割半ば

問 49. あなたは、障がいや障がいのある人に対する理解が進んでいると思いますか。(○は1つ)

図表 17-1-1 障がいや障がいのある人に対する理解の進捗



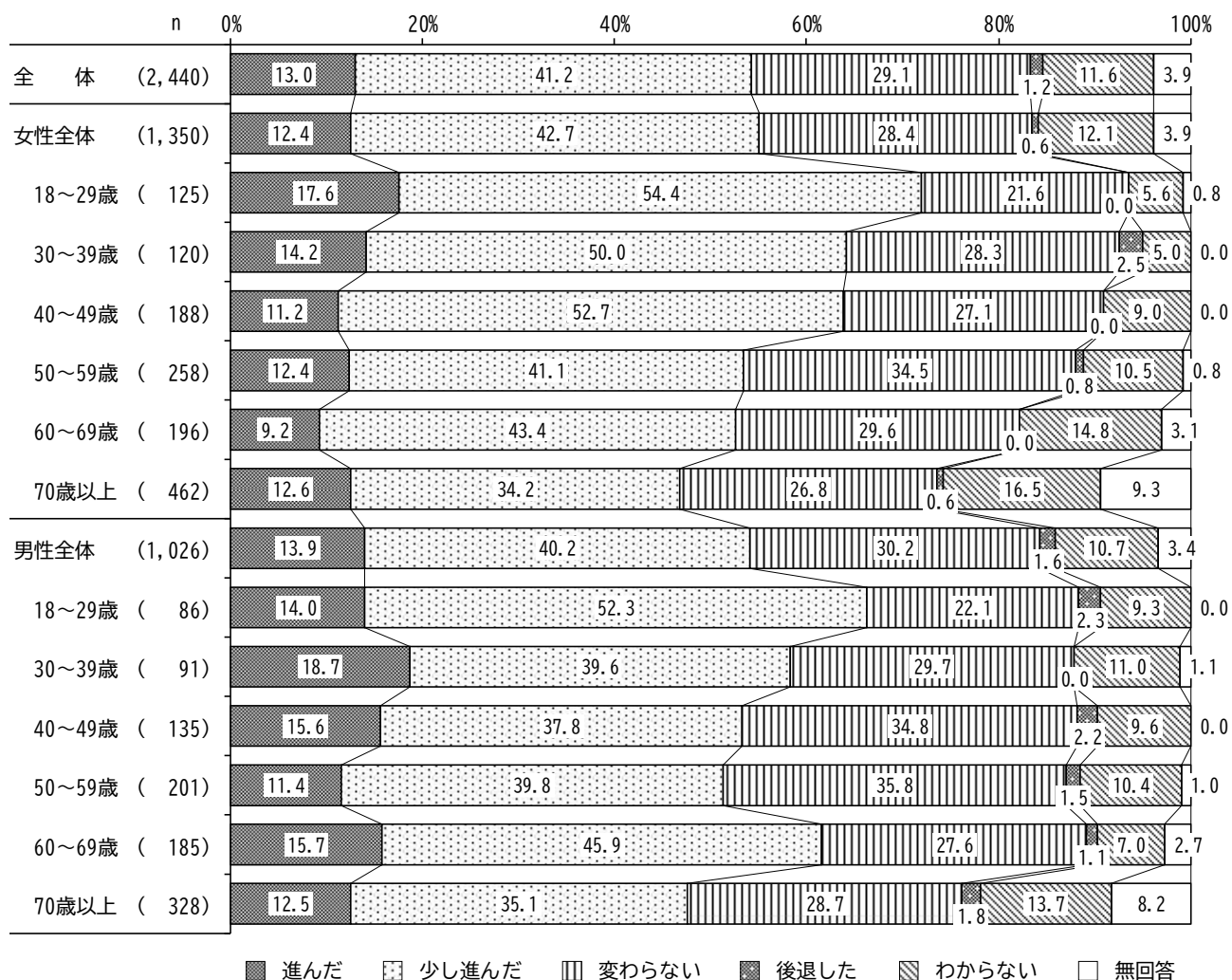
障がいや障がいのある人に対する理解の進捗については、「少し進んだ」(41.2%)が最も多く、次いで「変わらない」(29.1%)、「進んだ」(13.0%)、「後退した」(1.2%)の順となっている。「進んだ」と「少し進んだ」を合わせた『進んだ』(54.3%)は5割半ばとなっている。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、『進んだ』は女性18～29歳（72.0%）が最も多く、女性30歳代（64.2%）、40歳代（63.8%）、男性18～29歳（66.3%）、60歳代（61.6%）も6割台と多くなっている。一方、70歳以上は女性（46.8%）、男性（47.6%）とも4割台と、全体を6ポイント以上下回っている。

図表 17-1-2 性・年齢別 障がいや障がいのある人に対する理解の進捗



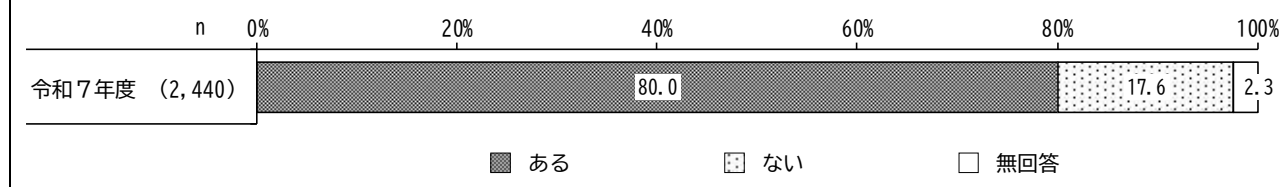
18. キャッシュレス決済について

(1) キャッシュレス決済の利用経験

◇「ある」が8割

問 50. あなたは、現金を使わずスマートフォンやクレジットカード、電子マネーなどで支払いができるキャッシュレス決済を利用したことがありますか。(〇は1つ)

図表 18-1-1 キャッシュレス決済の利用経験



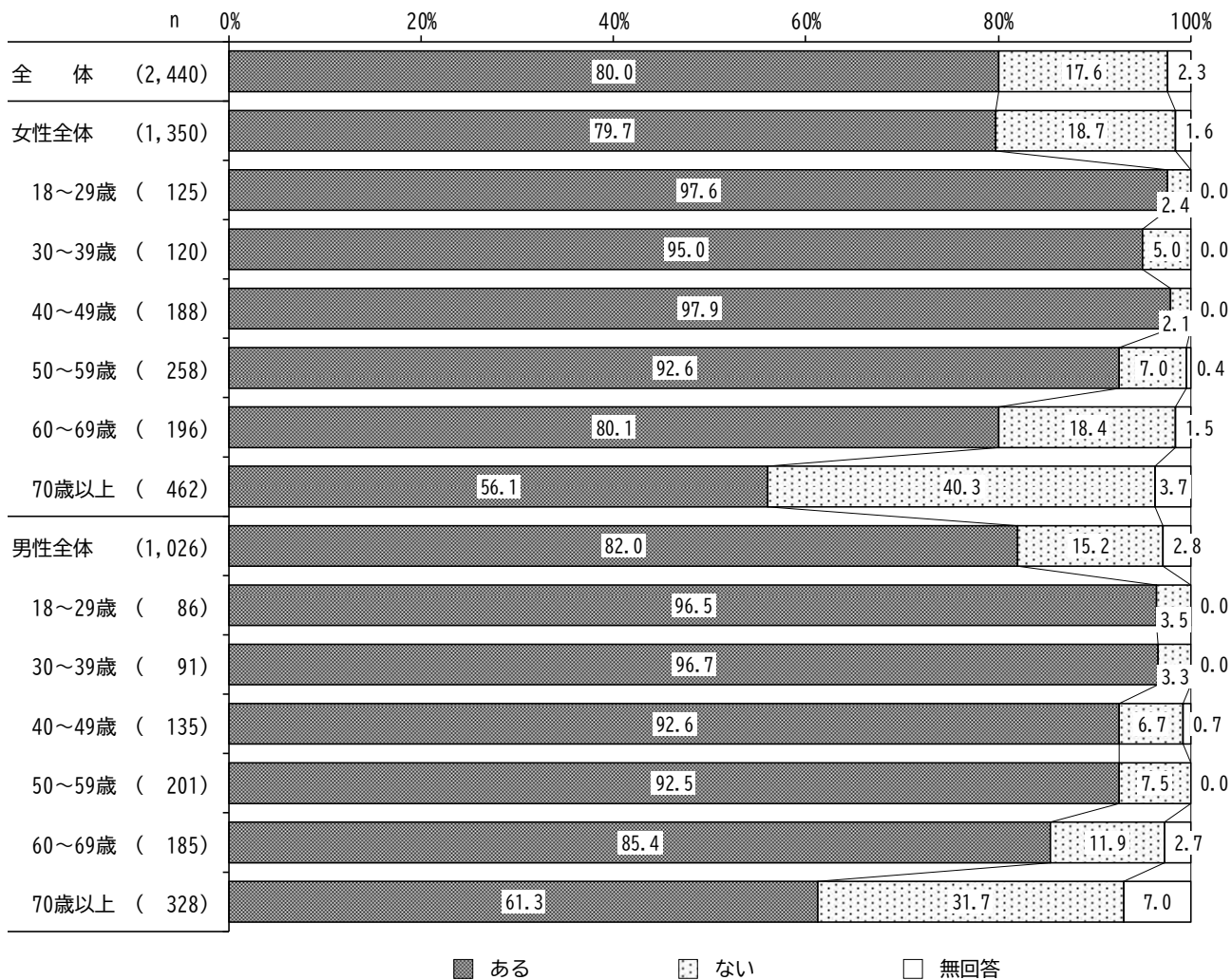
キャッシュレス決済の利用経験については、「ある」(80.0%)は8割、「ない」(17.6%)は2割弱となっている。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「ある」は女性 18～29 歳（97.6％）が最も多く、男女とも 50 歳代以下で 9 割台、60 歳代（女性 80.1％、男性 85.4％）で 8 割台と多くなっている。一方、70 歳以上は女性（56.1％）で 5 割半ば、男性（61.3％）で約 6 割と、全体を 1 割以上下回っている。

図表 18－1－2 性・年齢別 キャッシュレス決済の利用経験



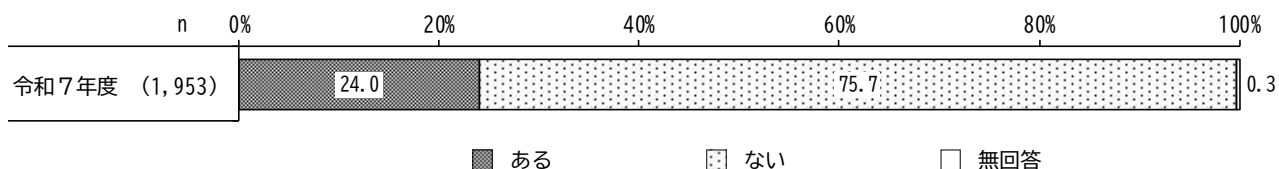
(2) 市の窓口等でのキャッシュレス決済の利用経験

◇「ある」が2割半ば

問 50-2. 問 50 で「1. ある」と答えた方に伺います。

越谷市役所の市民課や北部・南部出張所等の窓口で、住民票の写しや印鑑証明などの発行手数料の支払いにキャッシュレス決済が利用できますが、これらの窓口でキャッシュレス決済を利用したことはありますか。(〇は1つ)

図表 18-2-1 市の窓口等でのキャッシュレス決済の利用経験



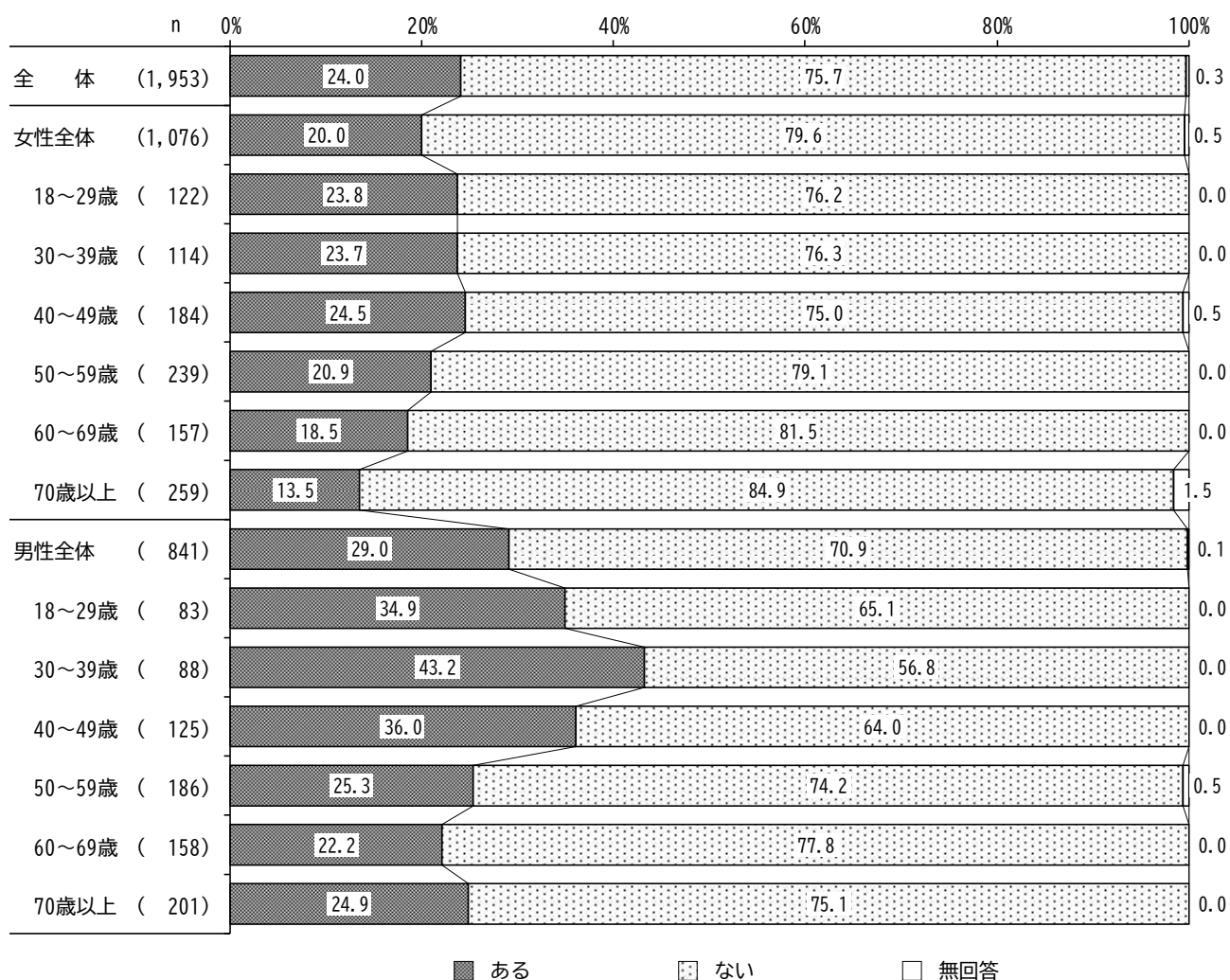
キャッシュレス決済を利用したことが「ある」と回答した1,953人に、市の窓口等でのキャッシュレス決済の利用経験を聞いたところ、「ある」(24.0%)は2割半ば、「ない」(75.7%)は7割半ばとなっている。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

性別でみると、「ある」は男性（29.0％）が女性（20.0％）を9.0ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「ある」は男性30歳代（43.2％）が最も多く、男性18～29歳（34.9％）、40歳代（36.0％）も3割半ばと多くなっている。一方、女性60歳代以上（18.5％、13.5％）は1割台と少なくなっている。

図表 18-2-2 性・年齢別 市の窓口等でのキャッシュレス決済の利用経験



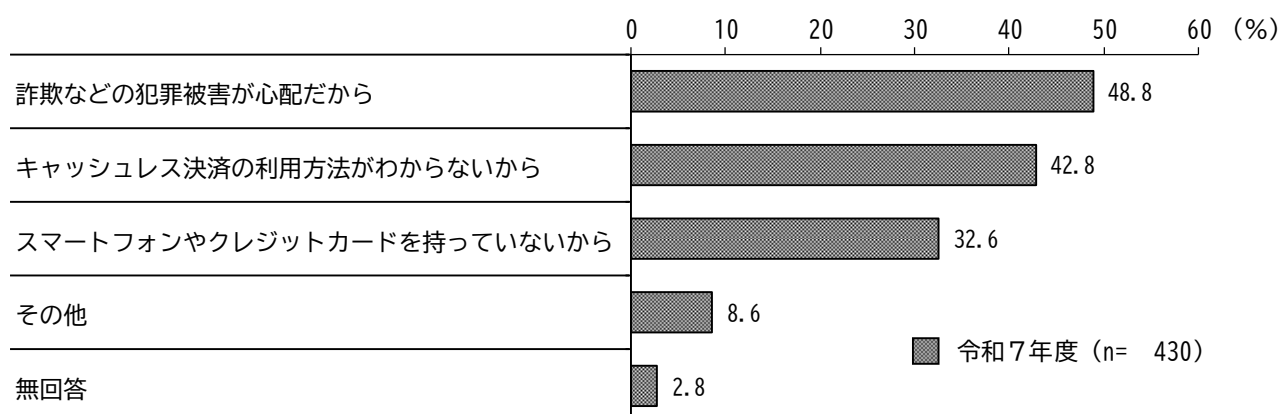
(3) キャッシュレス決済を利用しない理由

◇「詐欺などの犯罪被害が心配だから」が最も多く、5割弱

問 50-3. 問 50 で「2. ない」と答えた方に伺います。

キャッシュレス決済を利用しない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

図表 18-3-1 キャッシュレス決済を利用しない理由



キャッシュレス決済を利用したことが「ない」と回答した 430 人に、キャッシュレス決済を利用しない理由を聞いたところ、「詐欺などの犯罪被害が心配だから」(48.8%) が最も多く、次いで「キャッシュレス決済の利用方法がわからないから」(42.8%)、「スマートフォンやクレジットカードを持っていないから」(32.6%) の順となっている。

性別でみると、「詐欺などの犯罪被害が心配だから」は女性（52.6％）が男性（42.9％）を9.7ポイント上回っている。一方、「スマートフォンやクレジットカードを持っていないから」は男性（37.2％）が女性（28.1％）を9.1ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、女性60歳代は「詐欺などの犯罪被害が心配だから」（69.4％）が約7割と、他項目に比べ多くなっている。一方、女性70歳代は「キャッシュレス決済の利用方法がわからないから」（47.3％）と「詐欺などの犯罪被害が心配だから」（46.8％）が同程度、男性70歳以上は3項目がいずれも4割台となっている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については、記述の対象としない。

図表 18-3-2 性・年齢別 キャッシュレス決済を利用しない理由

	調査数（人）	詐欺などの犯罪被害が心配だから	キャッシュレス決済の利用方法がわからないから	スマートフォンやクレジットカードを持っていないから	その他	無回答
全体	430	48.8	42.8	32.6	8.6	2.8
女性全体	253	52.6	43.9	28.1	7.9	2.8
18～29歳	3	66.7	-	33.3	-	-
30～39歳	6	50.0	33.3	16.7	16.7	-
40～49歳	4	50.0	50.0	25.0	25.0	-
50～59歳	18	77.8	27.8	22.2	11.1	-
60～69歳	36	69.4	38.9	16.7	11.1	-
70歳以上	186	46.8	47.3	31.2	6.5	3.8
男性全体	156	42.9	41.7	37.2	10.9	2.6
18～29歳	3	33.3	33.3	100.0	33.3	-
30～39歳	3	33.3	33.3	66.7	-	-
40～49歳	9	44.4	33.3	33.3	11.1	-
50～59歳	15	26.7	53.3	6.7	20.0	6.7
60～69歳	22	50.0	40.9	31.8	9.1	-
70歳以上	104	44.2	41.3	40.4	9.6	2.9

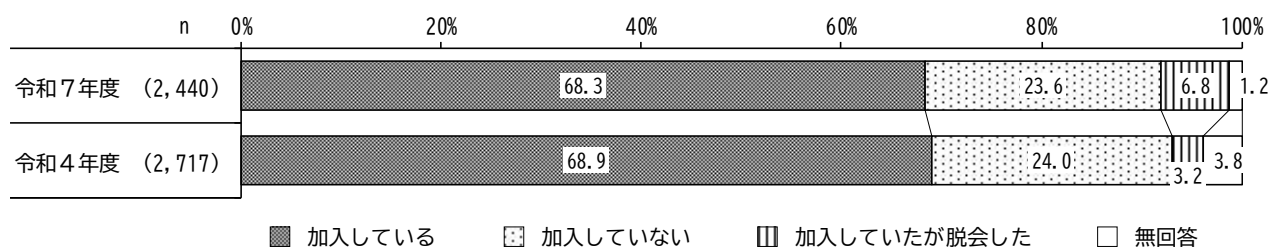
19. 自治会について

(1) 自治会の加入状況

◇「加入している」が最も多く、7割弱

問 51. あなたは、自治会に加入していますか。(〇は1つ)

図表 19－1－1 自治会の加入状況



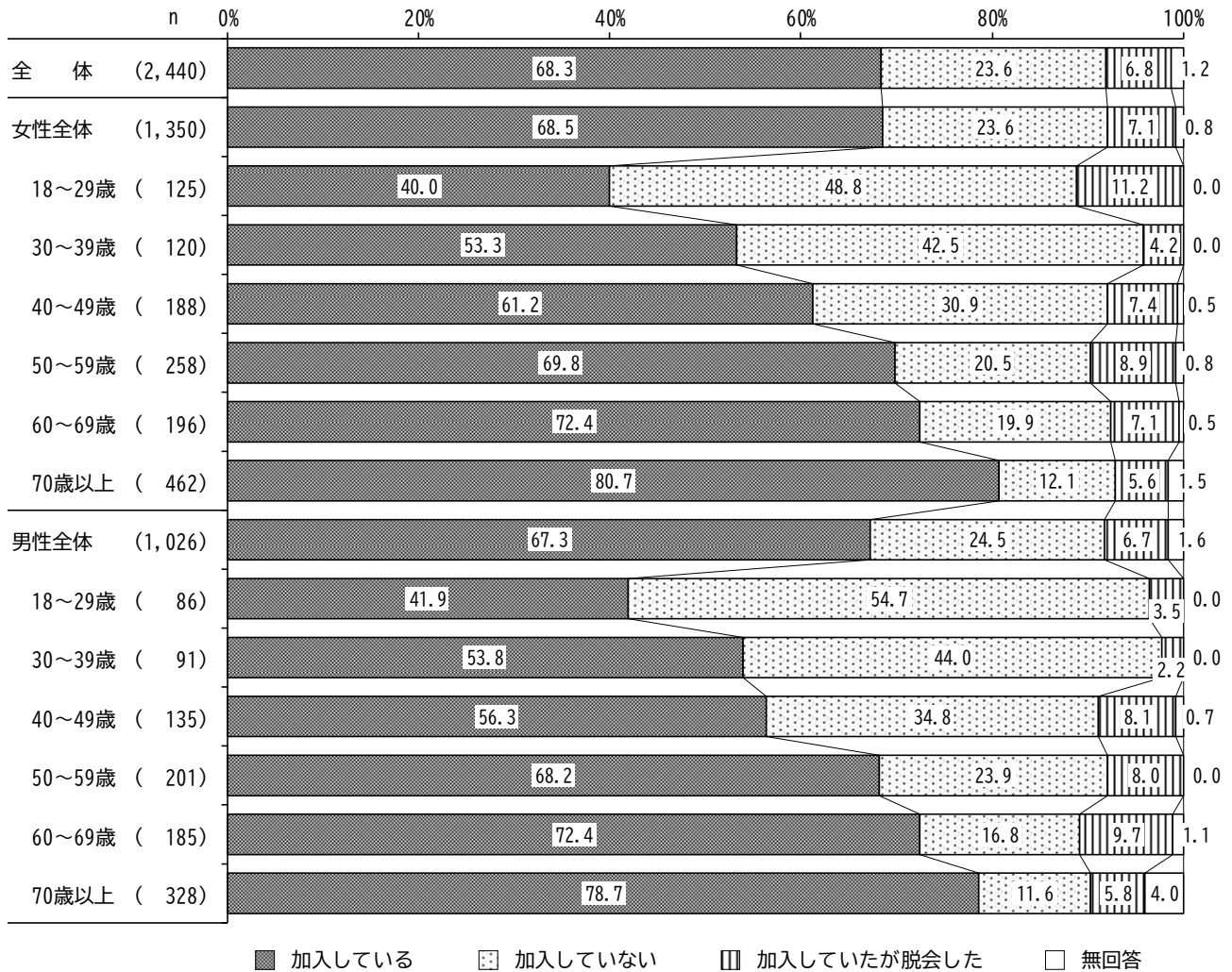
自治会の加入状況について、「加入している」(68.3%)が最も多く、次いで「加入していない」(23.6%)、「加入していたが脱会した」(6.8%)の順となっている。。

過去の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっている。

性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「加入している」は女性 70 歳以上 (80.7%) が最も多く、男性 70 歳以上 (78.7%) も 8 割弱と多くなっている。「加入している」は年齢が上がるにつれ増加する傾向となっており、男女とも 18～29 歳 (女性 40.0%、男性 41.9%) を除き 5 割以上となっている。一方、「加入していない」は男性 18～29 歳 (54.7%) が最も多く、女性 18～29 歳 (48.8%) も 5 割弱と多くなっている。

図表 19-1-2 性・年齢別 自治会の加入状況



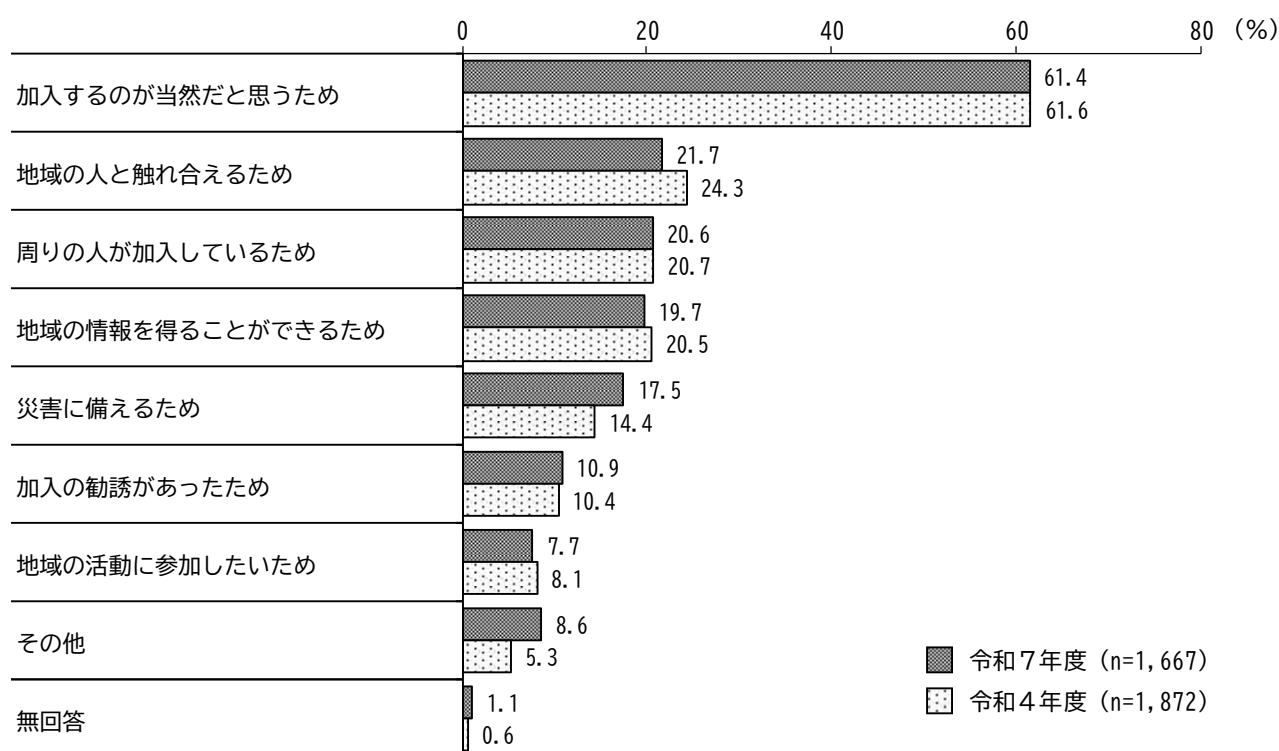
(2) 自治会に加入した理由

◇「加入するのが当然だと思うため」が最も多く、約6割

問 51-2. 問 51 で「1. 加入している」と答えた方に伺います。

あなたが自治会に加入した理由・参加している自治会活動・自治会に加入して感じている点を、次の中から選んでください。(〇はいくつでも)

図表 19-2-1 自治会に加入した理由



自治会に「加入している」と回答した1,667人に、自治会に加入した理由について聞いたところ、「加入するのが当然だと思うため」(61.4%)が最も多く、次いで「地域の人と触れ合えるため」(21.7%)、「周りの人が加入しているため」(20.6%)、「地域の情報を得ることができるため」(19.7%)、「災害に備えるため」(17.5%)の順となっている。

過去の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっている。

性別でみると、「災害に備えるため」は女性（20.3%）が男性（13.5%）を6.8ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「加入するのが当然だと思うため」は女性70歳以上（76.1%）が最も多く、男性70歳以上（73.6%）は7割強、男性60歳代（61.2%）は約6割と多くなっている。一方、男性18～29歳（27.8%）は3割弱で、全体を33.6ポイント下回っている。また、「周りの人が加入しているため」は男性30歳代（38.8%）で4割弱、「地域の人と触れ合えるため」は男女70歳代（女性32.2%、男性32.9%）で3割強、「加入の勧誘があったため」は男女30歳代（女性21.9%、男性24.5%）で2割台と、他の年齢に比べ多くなっている。

図表 19-2-2 性・年齢別 自治会に加入した理由

(%)

	調査数（人）	加入するのが当然だと思うため	地域の人と触れ合えるため	周りの人が加入しているため	地域の情報を得ることができるため	災害に備えるため	加入の勧誘があったため	地域の活動に参加したため	その他	無回答
全 体	1,667	61.4	21.7	20.6	19.7	17.5	10.9	7.7	8.6	1.1
女性全体	925	61.7	22.1	21.8	20.8	20.3	11.1	7.2	9.1	1.1
18～29歳	50	48.0	10.0	30.0	4.0	6.0	6.0	4.0	18.0	2.0
30～39歳	64	46.9	20.3	28.1	7.8	17.2	21.9	4.7	12.5	-
40～49歳	115	51.3	15.7	24.3	17.4	23.5	19.1	10.4	13.0	-
50～59歳	180	51.1	10.0	21.7	16.1	18.9	12.8	5.6	15.0	-
60～69歳	142	57.0	21.1	25.4	23.2	20.4	13.4	3.5	9.2	1.4
70歳以上	373	76.1	32.2	17.7	27.6	22.5	5.9	9.4	3.2	1.9
男性全体	690	60.6	20.9	20.1	18.1	13.5	10.7	8.1	8.1	1.0
18～29歳	36	27.8	2.8	25.0	5.6	5.6	8.3	-	27.8	-
30～39歳	49	44.9	6.1	38.8	10.2	4.1	24.5	2.0	10.2	-
40～49歳	76	56.6	17.1	19.7	10.5	9.2	14.5	5.3	7.9	1.3
50～59歳	137	51.8	14.6	26.3	16.8	9.5	16.8	5.1	8.8	1.5
60～69歳	134	61.2	16.4	20.1	17.9	14.9	10.4	7.5	11.2	-
70歳以上	258	73.6	32.9	12.8	24.4	19.0	4.3	13.2	3.1	1.6

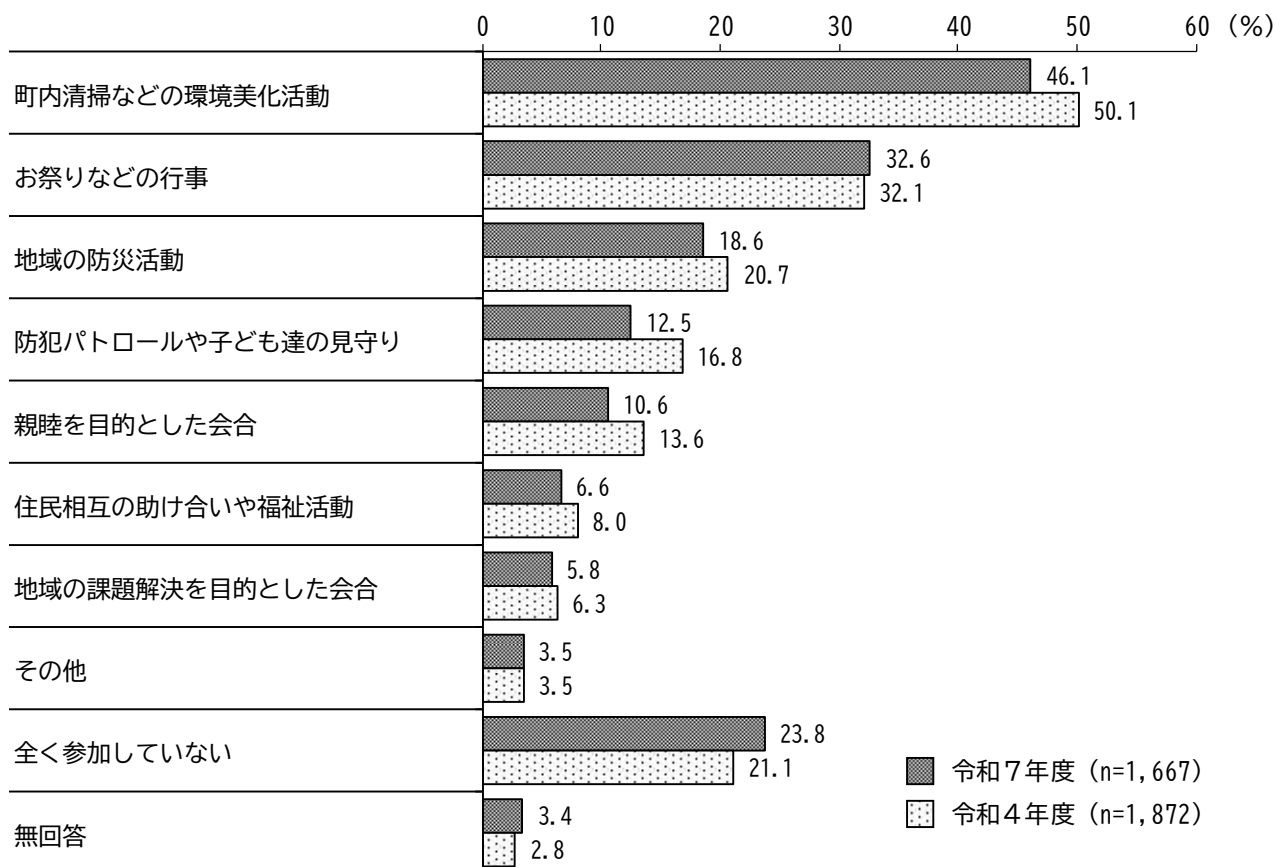
(3) 参加している自治会活動

◇「町内清掃などの環境美化活動」が最も多く、4割半ば

問 51-2. 問 51 で「1. 加入している」と答えた方に伺います。

あなたが自治会に加入した理由・参加している自治会活動・自治会に加入して感じている点を、次の中から選んでください。(〇はいくつでも)

図表 19-3-1 参加している自治会活動



自治会に「加入している」と回答した1,667人に、参加している自治会活動について聞いたところ、「町内清掃などの環境美化活動」(46.1%)が最も多く、次いで「お祭りなどの行事」(32.6%)、「地域の防災活動」(18.6%)、「防犯パトロールや子ども達の見守り」(12.5%)、「親睦を目的とした会合」(10.6%)の順となっている。一方、「全く参加していない」(23.8%)は2割強となっている。

過去の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっているが、「お祭りなどの行事」を除き令和4年度を下回っている。

性別でみると、「町内清掃などの環境美化活動」は女性（48.6％）が男性（42.6％）を6.0ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「町内清掃などの環境美化活動」は女性30歳代（56.3％）が最も多く、女性40歳代（50.4％）、70歳以上（50.1％）も約5割と多くなっている。一方、18～29歳は女性（26.0％）、男性（22.2％）とも2割台と、全体を2割以上下回っている。「お祭りなどの行事」は女性30～40歳代（各39.1％）が最も多く、男女ともすべての年齢で2割以上となっている。一方、「全く参加していない」は男性18～29歳（50.0％）が最も多く、女性18～29歳（40.0％）は4割、男性30～50歳代（36.7％、32.9％、30.7％）も3割台と多くなっている。

図表 19-3-2 性・年齢別 参加している自治会活動

											(%)
	調査数（人）	町内清掃などの環境美化活動	お祭りなどの行事	地域の防災活動	防犯パトロールや子ども達の見守り	親睦を目的とした会合	住民相互の助け合いや福祉活動	地域の課題解決を目的とした会合	その他	全く参加していない	無回答
全 体	1,667	46.1	32.6	18.6	12.5	10.6	6.6	5.8	3.5	23.8	3.4
女性全体	925	48.6	32.8	17.3	11.4	9.3	5.7	4.6	4.0	22.7	3.4
18～29歳	50	26.0	36.0	10.0	6.0	-	2.0	4.0	4.0	40.0	-
30～39歳	64	56.3	39.1	9.4	10.9	3.1	1.6	6.3	-	25.0	1.6
40～49歳	115	50.4	39.1	13.9	11.3	2.6	2.6	2.6	4.3	24.3	0.9
50～59歳	180	48.9	30.6	15.6	10.6	6.7	3.3	6.7	7.2	23.9	0.6
60～69歳	142	47.2	29.6	19.0	14.8	7.7	5.6	4.2	2.8	23.2	3.5
70歳以上	373	50.1	31.4	20.9	11.3	15.5	9.1	4.3	3.5	18.8	6.2
男性全体	690	42.6	31.7	20.3	13.8	11.7	7.7	7.1	2.9	25.8	3.2
18～29歳	36	22.2	27.8	5.6	5.6	-	-	-	2.8	50.0	-
30～39歳	49	38.8	28.6	4.1	8.2	2.0	6.1	4.1	4.1	36.7	-
40～49歳	76	39.5	31.6	19.7	11.8	11.8	3.9	10.5	1.3	32.9	-
50～59歳	137	45.3	31.4	20.4	9.5	9.5	5.1	8.0	2.9	30.7	1.5
60～69歳	134	38.8	31.3	23.9	14.2	9.7	9.0	7.5	3.0	25.4	3.7
70歳以上	258	47.7	33.3	23.6	18.6	17.4	10.9	7.0	3.1	15.9	5.8

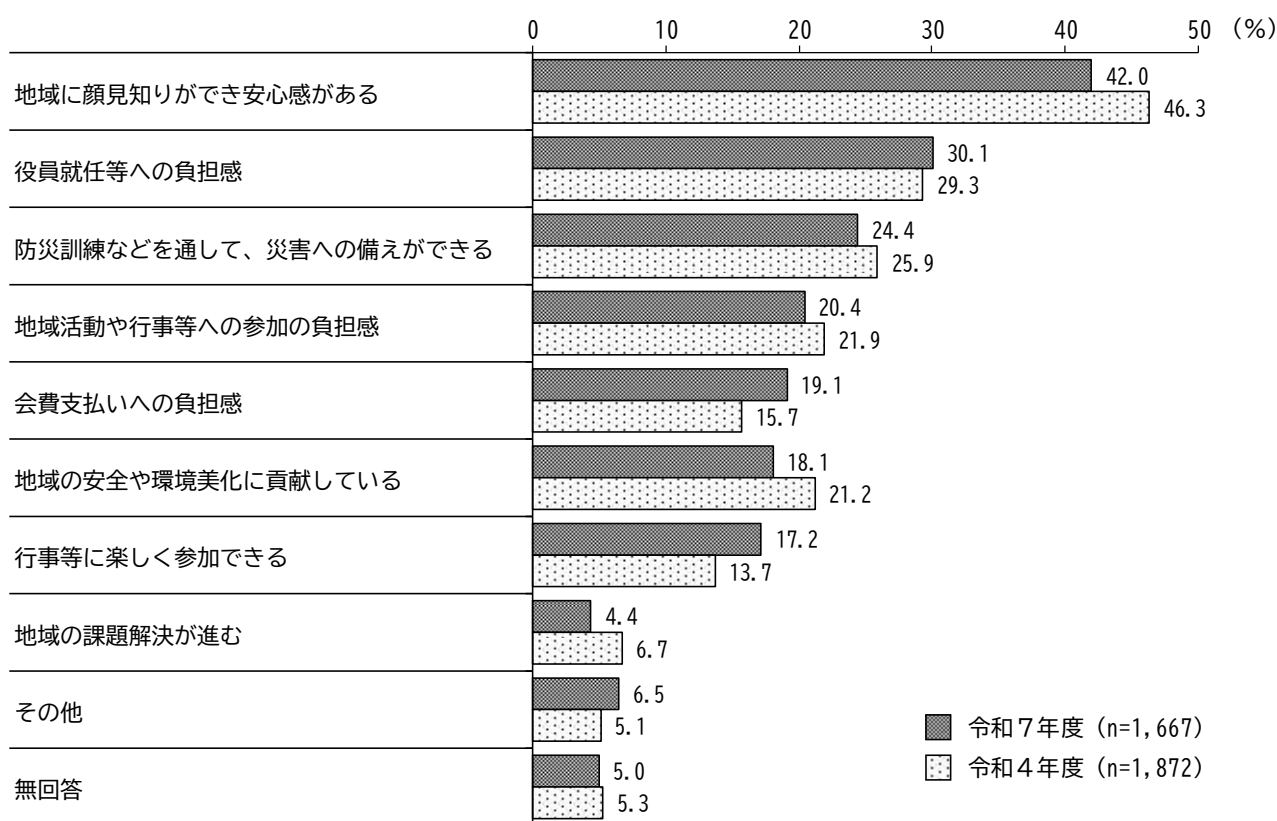
(4) 自治会に加入して感じている点

◇「地域に顔見知りができ安心感がある」が最も多く、4割強

問 51-2. 問 51 で「1. 加入している」と答えた方に伺います。

あなたが自治会に加入した理由・参加している自治会活動・自治会に加入して感じている点を、次の中から選んでください。(○はいくつでも)

図表 19-4-1 自治会に加入して感じている点



自治会に「加入している」と回答した1,667人に、自治会に加入して感じている点について聞いたところ、「地域に顔見知りができ安心感がある」(42.0%)が最も多く、次いで「役員就任等への負担感」(30.1%)、「防災訓練などを通して、災害への備えができる」(24.4%)、「地域活動や行事等への参加の負担感」(20.4%)、「会費支払いへの負担感」(19.1%)の順となっている。

過去の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっている。

性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「地域に顔見知りができ安心感がある」は男性 70 歳以上（51.6%）が最も多く、女性 30 歳代（42.2%）、60 歳代以上（40.8%、49.9%）も 4 割台と多くなっている。一方、男性 18～29 歳（16.7%）は全体を 25.3 ポイント下回っている。また、「防災訓練などを通して、災害への備えができる」は 70 歳以上で女性（31.4%）、男性（31.4%）とも約 3 割と多くなっている。一方、「役員就任等への負担感」は女性 40 歳代（42.6%）、50 歳代（46.7%）で 4 割台、「地域活動や行事等への参加の負担感」は女性 50 歳代（31.7%）で約 3 割、「会費支払いへの負担感」は女性 30 歳代（31.3%）、40 歳代（32.2%）で 3 割台と、それぞれ全体を 1 割以上上回っている。

図表 19-4-2 性・年齢別 自治会に加入して感じている点

	調査数（人）	地域に顔見知りができ安心感がある	役員就任等への負担感	防災訓練などを通して、災害への備えができる	地域活動や行事等への参加の負担感	会費支払いへの負担感	地域の安全や環境美化に貢献している	行事等に楽しく参加できる	地域の課題解決が進む	その他	無回答
全 体	1,667	42.0	30.1	24.4	20.4	19.1	18.1	17.2	4.4	6.5	5.0
女性全体	925	43.0	31.2	25.6	22.1	20.1	16.1	17.2	3.4	6.6	5.6
18～29歳	50	34.0	10.0	12.0	14.0	22.0	10.0	24.0	2.0	14.0	4.0
30～39歳	64	42.2	37.5	25.0	25.0	31.3	10.9	21.9	1.6	9.4	3.1
40～49歳	115	33.0	42.6	17.4	23.5	32.2	15.7	20.9	4.3	8.7	1.7
50～59歳	180	39.4	46.7	22.2	31.7	27.2	21.1	10.0	3.9	7.2	1.1
60～69歳	142	40.8	32.4	26.8	26.8	23.2	14.1	13.4	3.5	6.3	4.2
70歳以上	373	49.9	21.7	31.4	15.8	9.7	16.4	19.3	3.2	4.3	10.2
男性全体	690	40.7	28.6	22.3	18.4	18.0	21.0	17.2	5.7	6.2	3.9
18～29歳	36	16.7	22.2	8.3	11.1	22.2	16.7	13.9	2.8	19.4	-
30～39歳	49	38.8	32.7	12.2	26.5	24.5	16.3	14.3	4.1	10.2	2.0
40～49歳	76	34.2	26.3	11.8	22.4	23.7	17.1	22.4	2.6	6.6	1.3
50～59歳	137	35.8	30.7	15.3	24.1	24.8	18.2	17.5	6.6	5.8	2.2
60～69歳	134	35.8	35.1	25.4	23.1	17.9	17.9	8.2	3.7	5.2	3.7
70歳以上	258	51.6	24.8	31.4	11.2	10.9	26.7	21.3	7.8	4.3	6.6

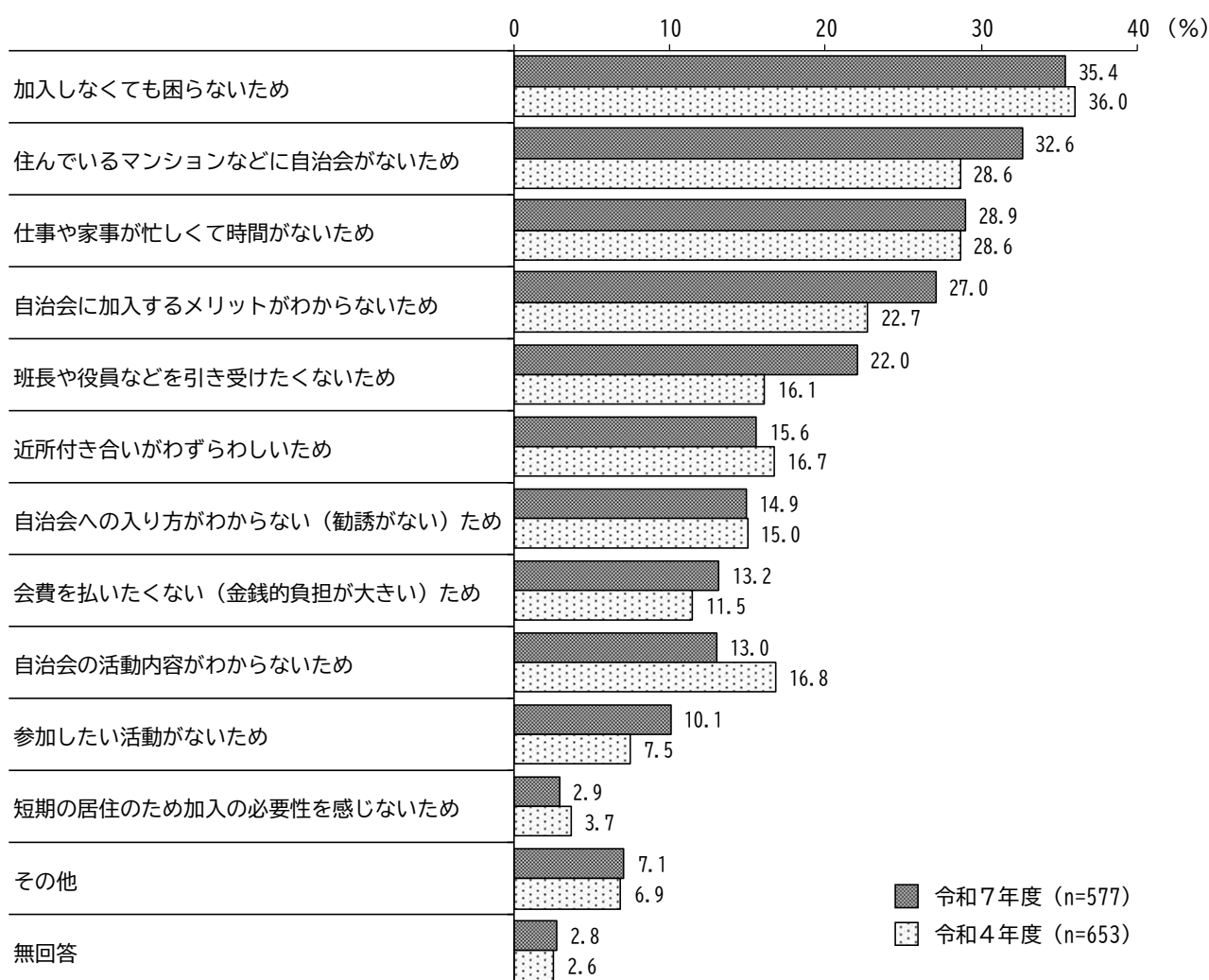
(5) 自治会に加入しない理由

◇「加入しなくても困らないため」が最も多く、3割半ば

問 51-3. 問 51 で「2. 加入していない」と答えた方に伺います。

あなたが自治会に加入していない理由・自治会に加入するために必要だと思うこと・自治会への加入意思を、次の中から選んでください。(〇はいくつでも)

図表 19-5-1 自治会に加入しない理由



自治会に「加入していない」と回答した 577 人に、自治会に加入しない理由について聞いたところ、「加入しなくても困らないため」(35.4%) が最も多く、次いで「住んでいるマンションなどに自治会がないため」(32.6%)、「仕事や家事が忙しくて時間がないため」(28.9%)、「自治会に加入するメリットがわからないため」(27.0%)、「班長や役員などを引き受けたくないため」(22.0%) の順となっている。

過去の調査と比較すると、「班長や役員などを引き受けたくないため」は令和4年度(16.1%)と比べ 5.9 ポイント増加している。

性別でみると、「住んでいるマンションなどに自治会がないため」は女性（36.5％）が男性（27.9％）を8.6ポイント上回っている。一方、「仕事や家事が忙しくて時間がないため」（男性33.5％、女性25.8％）は7.7ポイント、「近所付き合いがわずらわしいため」（男性19.9％、女性12.3％）は7.6ポイント、男性が女性を上回っている。女性は「住んでいるマンションなどに自治会がないため」、男性は「加入しなくても困らないため」が最も多くなっている。

性・年齢別でみると、「加入しなくても困らないため」は男性70歳以上（55.3％）が最も多く、女性18～29歳（47.5％）、男性30歳代（40.0％）、40歳代（44.7％）も4割台と多くなっている。「住んでいるマンションなどに自治会がないため」は女性50歳代（45.3％）、60歳代（41.0％）で4割台、「仕事や家事が忙しくて時間がないため」は男性40歳代（57.4％）で6割弱、男性30歳代（40.0％）で4割、「自治会に加入するメリットがわからないため」は女性30歳代（39.2％）で約4割と多くなっている。女性30歳代は「自治会への入り方がわからない（勧誘がない）ため」（29.4％）、「会費を払いたくない（金銭的負担が大きい）ため」（25.5％）も全体を1割以上上回っている。

図表 19-5-2 性・年齢別 自治会に加入しない理由

		（％）												
	調査数（人）	加入しなくても困らないため	住んでいるマンションなどに自治会がないため	仕事や家事が忙しくて時間がないため	自治会に加入するメリットがわからないため	班長や役員などを引き受けたくないため	近所付き合いがわずらわしいため	自治会への入り方がわからない（勧誘がない）ため	会費を払いたくない（金銭的負担が大きい）ため	自治会の活動内容がわからないため	参加したい活動がないため	短期の居住のため加入の必要性を感じないため	その他	無回答
全 体	577	35.4	32.6	28.9	27.0	22.0	15.6	14.9	13.2	13.0	10.1	2.9	7.1	2.8
女性全体	318	33.6	36.5	25.8	26.4	24.2	12.3	16.0	14.8	12.3	8.2	3.8	6.9	2.5
18～29歳	61	47.5	27.9	34.4	32.8	23.0	16.4	18.0	24.6	18.0	16.4	1.6	1.6	1.6
30～39歳	51	35.3	31.4	29.4	39.2	23.5	15.7	29.4	25.5	19.6	13.7	5.9	13.7	-
40～49歳	58	34.5	36.2	34.5	32.8	20.7	12.1	15.5	12.1	10.3	1.7	3.4	3.4	-
50～59歳	53	26.4	45.3	28.3	17.0	22.6	15.1	18.9	9.4	9.4	5.7	3.8	5.7	-
60～69歳	39	30.8	41.0	17.9	25.6	30.8	7.7	10.3	12.8	7.7	5.1	7.7	2.6	2.6
70歳以上	56	25.0	39.3	7.1	10.7	26.8	5.4	3.6	3.6	7.1	5.4	1.8	14.3	10.7
男性全体	251	38.2	27.9	33.5	28.3	19.5	19.9	13.9	11.2	14.3	12.7	2.0	7.2	1.6
18～29歳	47	27.7	21.3	36.2	27.7	17.0	10.6	17.0	14.9	12.8	12.8	4.3	8.5	-
30～39歳	40	40.0	20.0	40.0	30.0	15.0	25.0	17.5	10.0	25.0	15.0	-	5.0	-
40～49歳	47	44.7	25.5	57.4	34.0	21.3	29.8	10.6	10.6	17.0	12.8	-	2.1	-
50～59歳	48	31.3	39.6	31.3	22.9	22.9	20.8	16.7	14.6	6.3	14.6	4.2	10.4	-
60～69歳	31	32.3	35.5	16.1	19.4	16.1	12.9	12.9	9.7	16.1	16.1	3.2	9.7	6.5
70歳以上	38	55.3	26.3	10.5	34.2	23.7	18.4	7.9	5.3	10.5	5.3	-	7.9	5.3

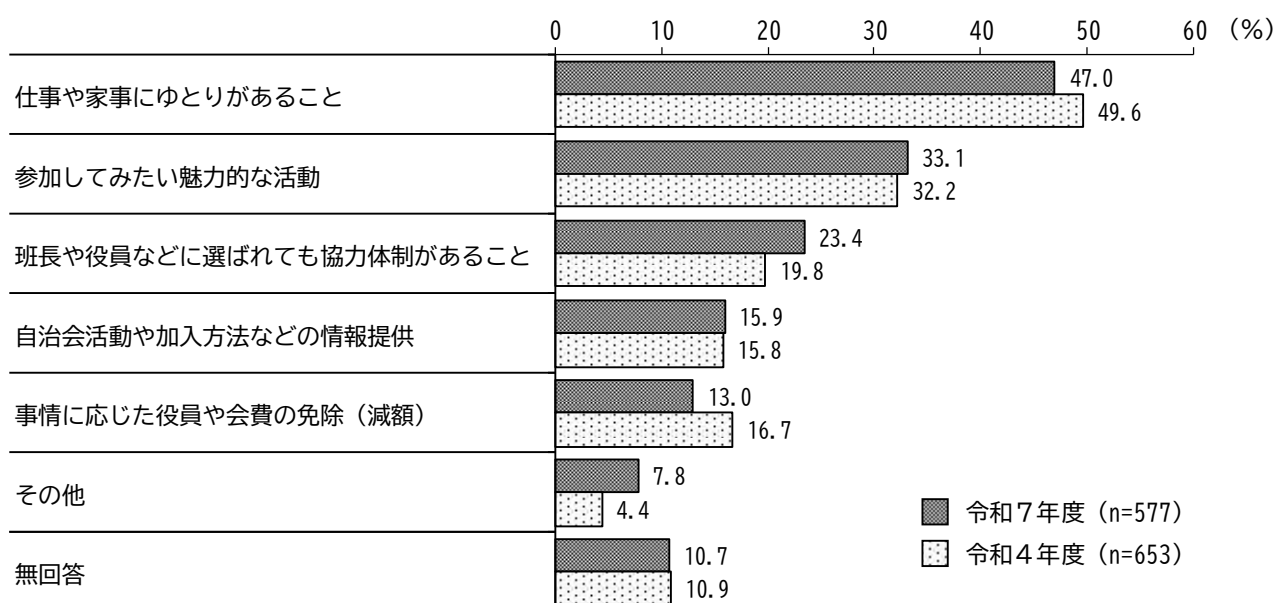
(6) 自治会に加入するために必要だと思うこと

◇「仕事や家事にゆとりがあること」が最も多く、5割弱

問 51-3. 問 51 で「2. 加入していない」と答えた方に伺います。

あなたが自治会に加入していない理由・自治会に加入するために必要だと思うこと・自治会への加入意思を、次の中から選んでください。(〇はいくつでも)

図表 19-5-1 自治会に加入するために必要だと思うこと



自治会に「加入していない」と回答した 577 人に、自治会に加入するために必要だと思うことについて聞いたところ、「仕事や家事にゆとりがあること」(47.0%) が最も多く、次いで「参加してみたい魅力的な活動」(33.1%)、「班長や役員などに選ばれても協力体制があること」(23.4%)、「自治会活動や加入方法などの情報提供」(15.9%)、「事情に応じた役員や会費の免除(減額)」(13.0%) の順となっている。

過去の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっている。

性別でみると、「班長や役員などに選ばれても協力体制があること」は女性（26.7％）が男性（19.9％）を6.8ポイント上回っている。一方、「参加してみたい魅力的な活動」は男性（37.1％）が女性（30.5％）を6.6ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「仕事や家事にゆとりがあること」は男性30歳代（67.5％）が最も多く、女性40歳代（62.1％）、男性40歳代（63.8％）も6割台と多くなっている。「仕事や家事にゆとりがあること」は女性70歳以上（23.2％）、男性18～29歳（36.2％）、60歳代以上（38.7％、28.9％）を除き4割以上と多くなっている。「参加してみたい魅力的な活動」は18～29歳で女性（52.5％）、男性（51.1％）とも5割台と「仕事や家事にゆとりがあること」を上回っており、男性30歳代（42.5％）も4割強と多くなっている。また、「班長や役員などに選ばれても協力体制があること」は女性30～50歳代（31.4％、32.8％、34.0％）で3割台、「事情に応じた役員や会費の免除（減額）」は女性18～29歳（21.3％）、50歳代（20.8％）、男性30歳代以下（23.4％、20.0％）で2割台と多くなっている。

図表 19-5-2 性・年齢別 自治会に加入するために必要だと思うこと

	調査数（人）	仕事や家事にゆとりがあること	参加してみたい魅力的な活動	班長や役員などに選ばれても協力体制があること	自治会活動や加入方法などの情報提供	事情に応じた役員や会費の免除（減額）	その他	無回答
全体	577	47.0	33.1	23.4	15.9	13.0	7.8	10.7
女性全体	318	47.5	30.5	26.7	16.4	13.5	7.9	10.7
18～29歳	61	44.3	52.5	29.5	21.3	21.3	6.6	1.6
30～39歳	51	54.9	39.2	31.4	19.6	9.8	7.8	3.9
40～49歳	58	62.1	27.6	32.8	17.2	13.8	8.6	1.7
50～59歳	53	58.5	17.0	34.0	22.6	20.8	7.5	3.8
60～69歳	39	41.0	28.2	15.4	10.3	5.1	2.6	17.9
70歳以上	56	23.2	16.1	14.3	5.4	7.1	12.5	37.5
男性全体	251	47.4	37.1	19.9	15.5	12.4	8.0	8.8
18～29歳	47	36.2	51.1	19.1	19.1	23.4	-	4.3
30～39歳	40	67.5	42.5	25.0	17.5	20.0	12.5	-
40～49歳	47	63.8	38.3	25.5	23.4	10.6	10.6	2.1
50～59歳	48	45.8	29.2	12.5	10.4	6.3	14.6	4.2
60～69歳	31	38.7	32.3	16.1	16.1	3.2	3.2	9.7
70歳以上	38	28.9	26.3	21.1	5.3	7.9	5.3	36.8

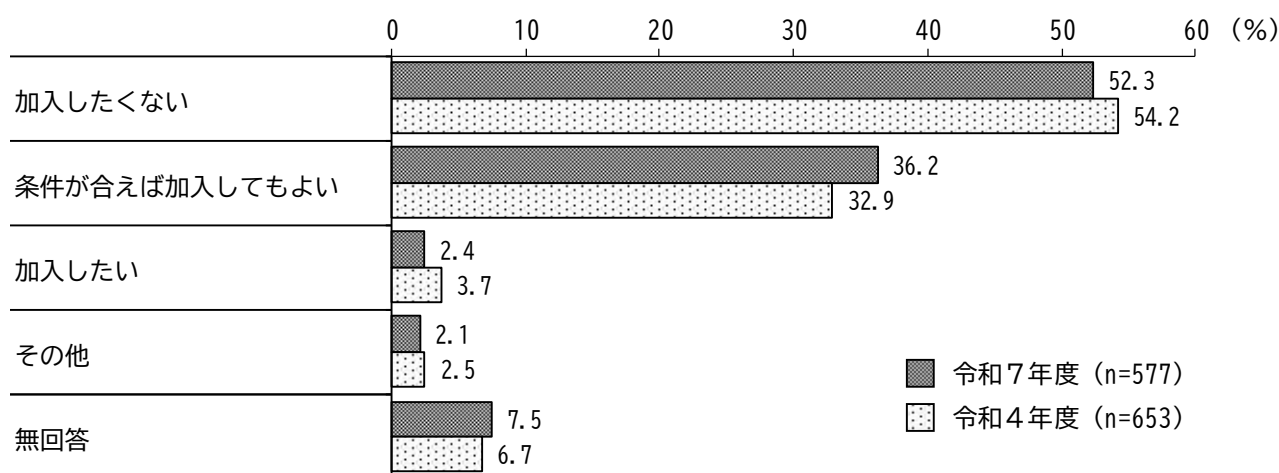
(7) 自治会への加入意思

◇「加入したくない」が5割強

問 51-3. 問 51 で「2. 加入していない」と答えた方に伺います。

あなたが自治会に加入していない理由・自治会に加入するために必要だと思うこと・自治会への加入意思を、次の中から選んでください。(〇はいくつでも)

図表 19-7-1 自治会への加入意思



自治会に「加入していない」と回答した 577 人に、自治会への加入意思について聞いたところ、「加入したくない」(52.3%)が最も多く、次いで「条件が合えば加入してもよい」(36.2%)、「加入したい」(2.4%)の順となっている。

過去の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっている。

性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「加入したくない」は女性 50 歳代（62.3%）が最も多く、男性 60 歳代（38.7%）を除き 4 割以上となっている。「条件が合えば加入してもよい」は男性 40 歳代（46.8%）が最も多く、女性 30 歳代以下（42.6%、41.2%）、男性 30 歳代（42.5%）も 4 割台と多くなっている。男女ともほとんどの年齢で「加入したくない」が「条件が合えば加入してもよい」より 1 割以上多くなっており、女性 50 歳代（加入したくない 62.3%、加入してもよい 30.2%）は 32.1 ポイント上回っている。一方、男性 40 歳代（加入したくない 48.9%、加入してもよい 46.8%）、60 歳代（加入したくない 38.7%、加入してもよい 35.5%）は、両者がほぼ同率となっている。また、「加入したい」は女性 60 歳代（10.3%）を除き 1 割未満となっている。

図表 19-7-2 性・年齢別 自治会への加入意思

(%)

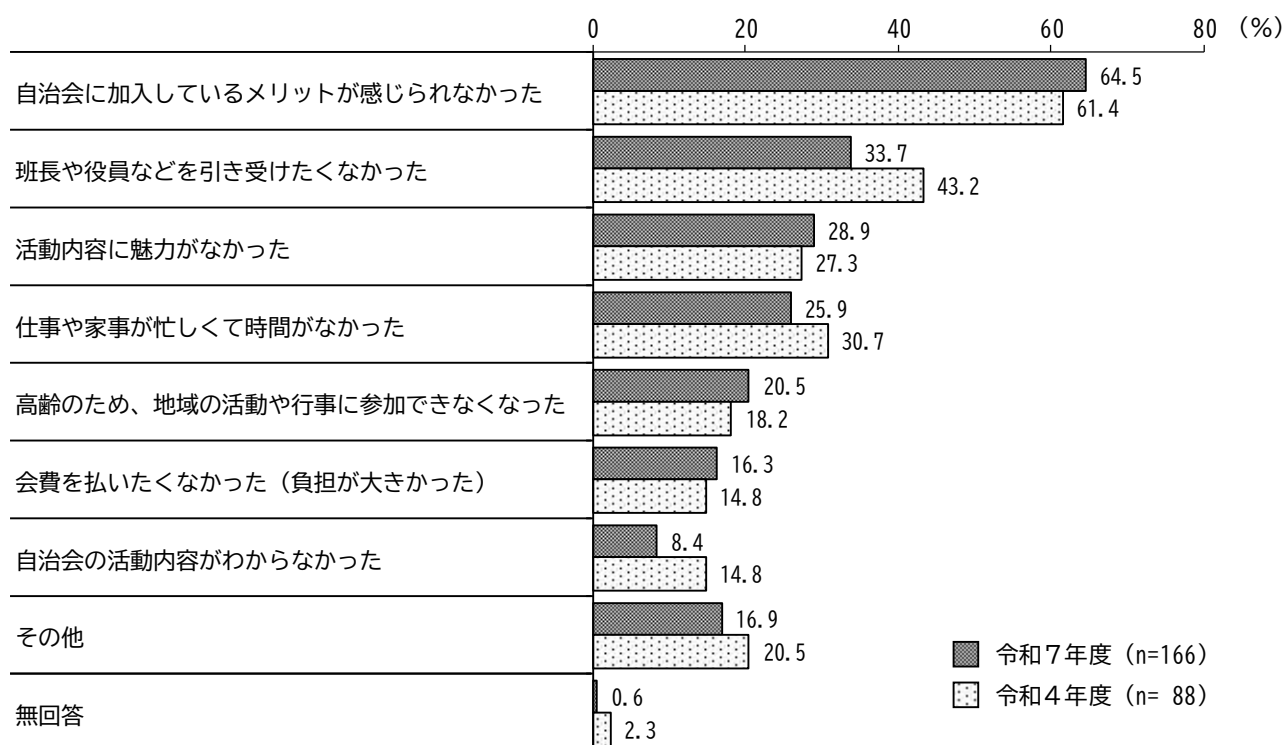
	調査数 (人)	加入 した くない	加 条 件 が 合 え ば よ い	加 入 し た い	そ の 他	無 回 答
全 体	577	52.3	36.2	2.4	2.1	7.5
女性全体	318	53.5	35.2	3.1	1.9	6.9
18～29歳	61	57.4	42.6	1.6	-	-
30～39歳	51	51.0	41.2	2.0	3.9	3.9
40～49歳	58	58.6	39.7	1.7	-	-
50～59歳	53	62.3	30.2	-	3.8	3.8
60～69歳	39	43.6	33.3	10.3	-	12.8
70歳以上	56	44.6	23.2	5.4	3.6	23.2
男性全体	251	51.0	38.6	1.6	2.4	6.8
18～29歳	47	53.2	38.3	2.1	2.1	4.3
30～39歳	40	55.0	42.5	-	-	2.5
40～49歳	47	48.9	46.8	-	-	6.4
50～59歳	48	54.2	39.6	-	-	6.3
60～69歳	31	38.7	35.5	6.5	9.7	9.7
70歳以上	38	52.6	26.3	2.6	5.3	13.2

(8) 自治会を脱会した理由

◇「自治会に加入しているメリットが感じられなかった」が最も多く、6割半ば

問 51-4. 問 51 で「3. 加入していたが脱会した」と答えた方に伺います。
あなたが自治会を脱会した理由は何ですか。(〇はいくつでも)

図表 19-8-1 自治会を脱会した理由



自治会に「加入していたが脱会した」と回答した 166 人に、自治会を脱会した理由について聞いたところ、「自治会に加入しているメリットが感じられなかった」(64.5%) が最も多く、次いで「班長や役員などを引き受けたくなかった」(33.7%)、「活動内容に魅力がなかった」(28.9%)、「仕事や家事が忙しくて時間がなかった」(25.9%)、「高齢のため、地域の活動や行事に参加できなくなった」(20.5%) の順となっている。

過去の調査と比較すると、「班長や役員などを引き受けたくなかった」は令和4年度(43.2%)と比べ 9.5 ポイント、「自治会の活動内容がわからなかった」(8.4%) は令和4年度(14.8%) と比べ 6.4 ポイント減少している。

性別でみると、男女とも「自治会に加入しているメリットが感じられなかった」（女性 63.5%、男性 65.2%）が6割台で最も多くなっている。また、「班長や役員などを引き受けられなかった」（女性 38.5%、男性 27.5%）は 11.0 ポイント、「会費を払いたくなくなった（負担が大きかった）」（女性 20.8%、男性 10.1%）は 10.7 ポイント、「高齢のため、地域の活動や行事に参加できなくなった」（女性 22.9%、男性 17.4%）は 5.5 ポイント、女性が男性を上回っている。

※調査数が少ないもの（本調査では 30 人未満とする）については、記述の対象としない。

図表 19-8-2 性・年齢別 自治会を脱会した理由

										(%)
	調査数（人）	自治会に加入して いないメ リッ トが 感じ られ な か つ た	班長や役員などを 引き受け られ な か つ た	活動内容に魅力が な か つ た	仕事や家事が忙し く て 時 間 が な か つ た	高齢のため、地 域 の 活 動 や 行 事 に 参 加 で き な く な つ た	会費を払いたく な か つ た （ 負 担 が 大 き か つ た ）	自治会の活動内 容 が わ か ら な か つ た	その他	無回答
全 体	166	64.5	33.7	28.9	25.9	20.5	16.3	8.4	16.9	0.6
女性全体	96	63.5	38.5	28.1	27.1	22.9	20.8	7.3	21.9	1.0
18～29歳	14	71.4	14.3	28.6	57.1	-	28.6	7.1	14.3	-
30～39歳	5	100.0	20.0	20.0	40.0	-	40.0	40.0	-	-
40～49歳	14	92.9	57.1	28.6	50.0	-	35.7	7.1	14.3	-
50～59歳	23	82.6	43.5	47.8	34.8	8.7	13.0	-	17.4	-
60～69歳	14	50.0	35.7	21.4	-	21.4	28.6	7.1	42.9	-
70歳以上	26	26.9	42.3	15.4	3.8	65.4	7.7	7.7	26.9	3.8
男性全体	69	65.2	27.5	30.4	24.6	17.4	10.1	10.1	10.1	-
18～29歳	3	66.7	-	66.7	66.7	-	-	33.3	33.3	-
30～39歳	2	-	-	-	50.0	-	-	-	100.0	-
40～49歳	11	45.5	27.3	27.3	54.5	9.1	-	18.2	18.2	-
50～59歳	16	75.0	37.5	25.0	31.3	-	6.3	6.3	6.3	-
60～69歳	18	77.8	38.9	38.9	16.7	5.6	22.2	-	-	-
70歳以上	19	63.2	15.8	26.3	-	52.6	10.5	15.8	5.3	-

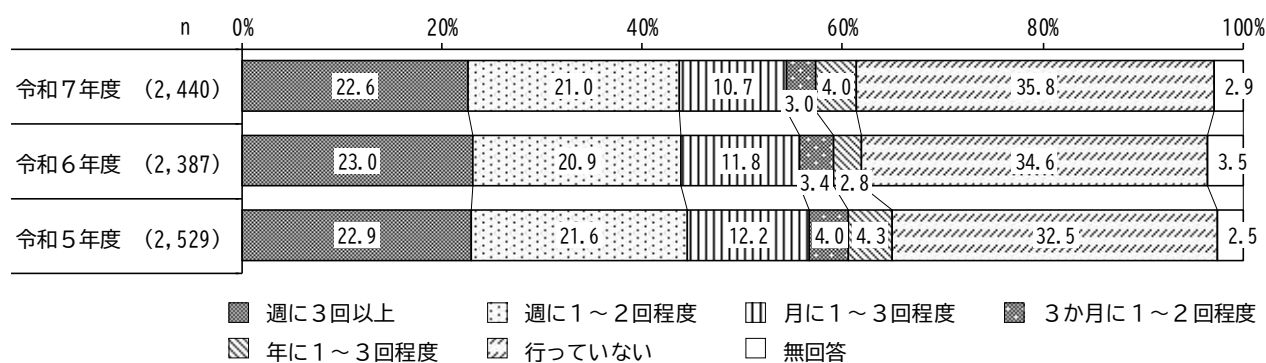
20. スポーツ・レクリエーションの実施状況について

(1) スポーツ・レクリエーション活動の実施状況

◇『週に1回以上』が4割強、『月に1回以上』が5割半ば

問 52. この1年間でどのくらいスポーツ・レクリエーション活動を行いましたか
(ウオーキング・徒歩や軽い体操も含みます)。(〇は1つ)

図表 20-1-1 スポーツ・レクリエーション活動の実施状況



この1年間のスポーツ・レクリエーション活動の実施状況については、「週に3回以上」(22.6%)と「週に1～2回程度」(21.0%)を合わせた『週に1回以上』(43.6%)は4割強、『週に1回以上』と「月に1～3回程度」(10.7%)を合わせた『月に1回以上』(54.3%)は5割半ばとなっている。一方、「行っていない」(35.8%)は3割半ばとなっている。

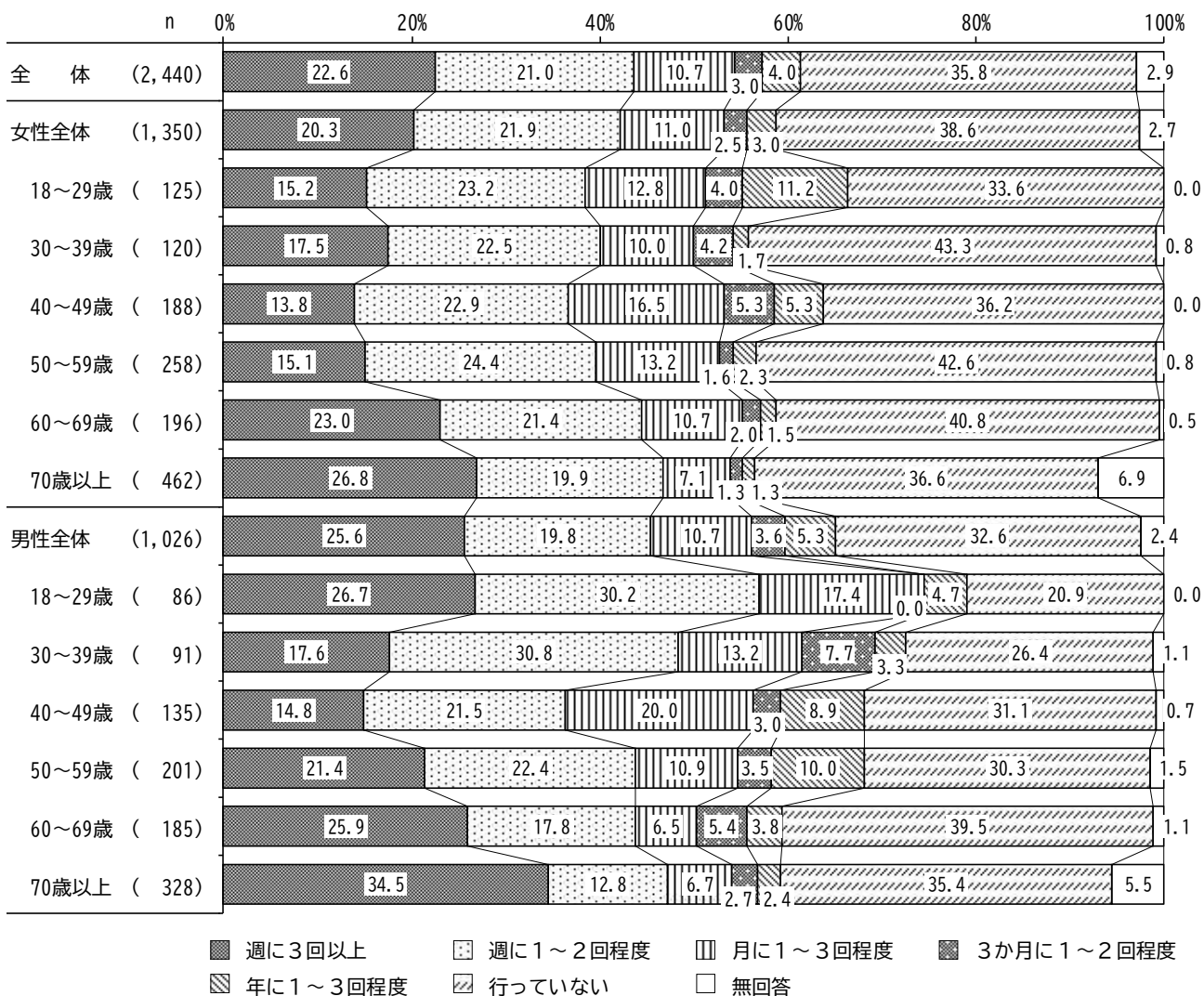
過去2回の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっている。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

性別でみると、『週に1回以上』、『月に1回以上』に大きな差はみられない。一方、「行っていない」は女性（38.6%）が男性（32.6%）を6.0ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、『週に1回以上』、『月に1回以上』とも男性18～29歳（57.0%、74.4%）が最も多くなっている。『週に1回以上』は男性18～29歳のみ、『月に1回以上』は男女ともすべての年齢で5割以上となっている。一方、「行っていない」は女性30歳代（43.3%）が最も多く、女性50歳代（42.6%）、60歳代（40.8%）も4割台と多くなっている。

図表 20-1-2 性・年齢別 スポーツ・レクリエーション活動の実施状況



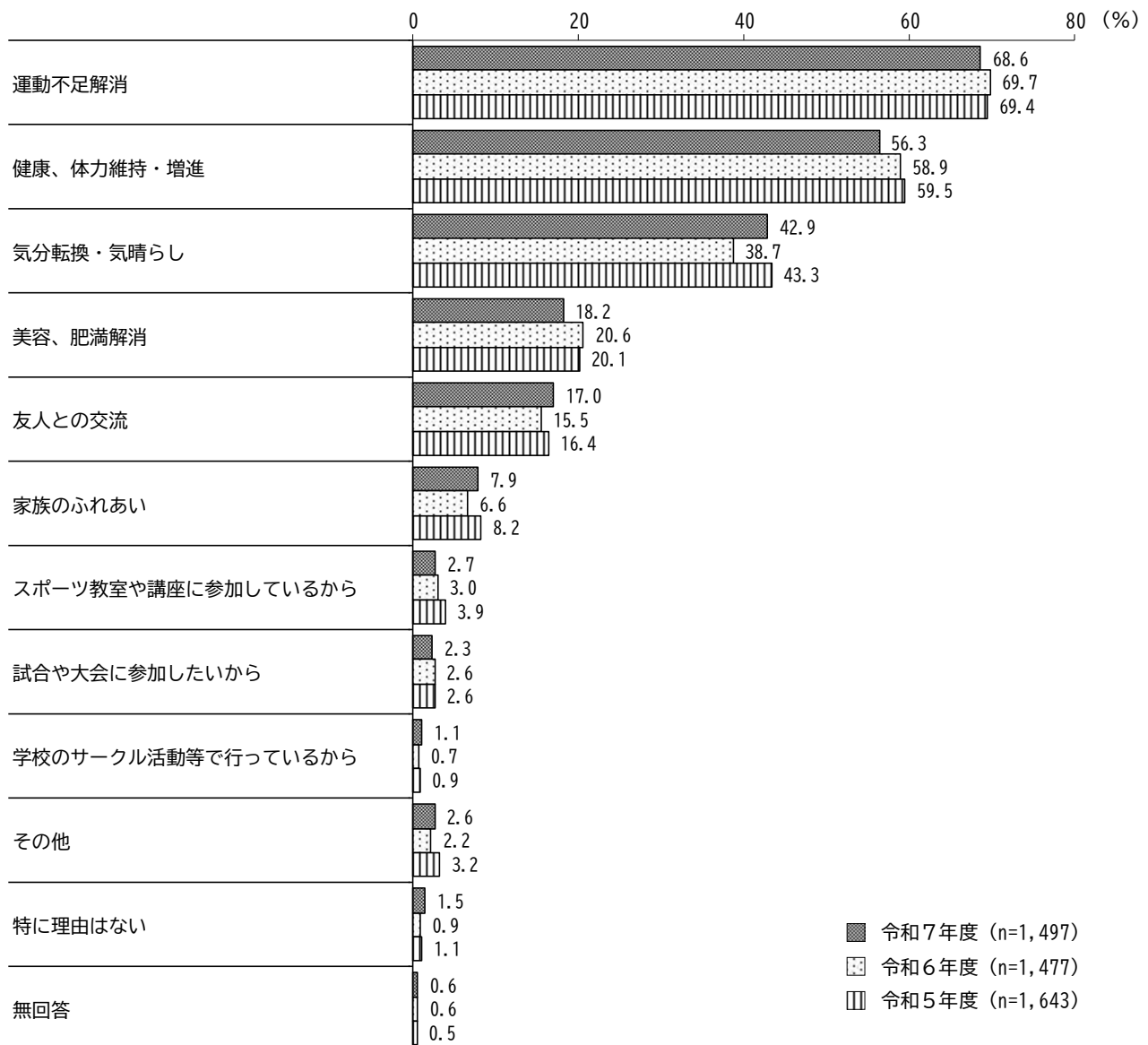
(2) スポーツ・レクリエーション活動を行った主な理由

◇「運動不足解消」が最も多く、7割弱

問 52-2. 問 52 で「1」から「5」のいずれかと答えた方に伺います。

あなたがスポーツ・レクリエーション活動を行った主な理由は何ですか。(〇は3つまで)

図表 20-2-1 スポーツ・レクリエーション活動を行った主な理由



この1年間でスポーツ・レクリエーション活動を行ったと回答した1,497人に、スポーツ・レクリエーション活動を行った主な理由を聞いたところ、「運動不足解消」(68.6%)が最も多く、次いで「健康、体力維持・増進」(56.3%)、「気分転換・気晴らし」(42.9%)、「美容、肥満解消」(18.2%)、「友人との交流」(17.0%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっている。

性別でみると、「美容、肥満解消」は女性（21.7%）が男性（14.2%）を7.5ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「運動不足解消」は男性60歳代（73.6%）が最も多く、男女ともすべての年齢で5割以上と多くなっている。「健康、体力維持・増進」は男性70歳以上（74.2%）が最も多く、女性50歳代以上（63.7%、63.5%、68.2%）、男性60歳代（61.8%）も6割台となる一方、女性30歳代以下（24.1%、29.9%）は2割台と少なくなっている。一方、「気分転換・気晴らし」は女性30歳代（53.7%）が最も多く、女性18～29歳（50.6%）、男性18～29歳（52.9%）も5割台と多くなっている。女性18～29歳は「運動不足解消」と「気分転換・気晴らし」が同率、男性18～29歳は上位3項目が同程度となっている。また、「美容、肥満解消」は女性18～29歳（44.6%）で4割半ば、女性30歳代（32.8%）、40歳代（33.3%）で3割強、「家族のふれあい」は女性30歳代（35.8%）で3割半ばと、他の年齢に比べ多くなっている。

図表 20-2-2 性・年齢別 スポーツ・レクリエーション活動を行った主な理由

	調査数（人）	運動不足解消	健康、体力維持・増進	気分転換・気晴らし	美容、肥満解消	友人との交流	家族のふれあい	スポーツ教室や講座に参加しているから	試合や大会に参加したいから	学校のサークル活動等で行っているから	その他	特に理由はない	無回答
全 体	1,497	68.6	56.3	42.9	18.2	17.0	7.9	2.7	2.3	1.1	2.6	1.5	0.6
女性全体	793	67.0	54.9	42.6	21.7	18.2	9.0	3.8	1.0	1.3	2.8	1.3	0.8
18～29歳	83	50.6	24.1	50.6	44.6	15.7	6.0	3.6	-	9.6	1.2	3.6	-
30～39歳	67	61.2	29.9	53.7	32.8	10.4	35.8	-	1.5	-	1.5	-	-
40～49歳	120	70.0	42.5	44.2	33.3	10.0	18.3	5.0	2.5	-	5.0	-	-
50～59歳	146	69.9	63.7	40.4	28.1	11.0	6.8	4.8	0.7	0.7	3.4	0.7	-
60～69歳	115	69.6	63.5	47.8	18.3	19.1	2.6	3.5	-	-	2.6	3.5	-
70歳以上	261	69.7	68.2	35.6	4.2	28.0	2.7	3.8	1.1	0.4	2.3	0.8	2.3
男性全体	667	70.8	57.9	43.9	14.2	14.8	6.9	1.6	3.6	0.9	2.4	1.8	0.3
18～29歳	68	57.4	50.0	52.9	20.6	16.2	7.4	-	10.3	7.4	2.9	2.9	-
30～39歳	66	68.2	47.0	45.5	25.8	15.2	18.2	-	6.1	-	3.0	1.5	-
40～49歳	92	72.8	45.7	45.7	22.8	6.5	13.0	1.1	4.3	1.1	1.1	1.1	-
50～59歳	137	71.5	48.9	48.9	15.3	12.4	5.8	2.2	2.2	-	4.4	2.9	0.7
60～69歳	110	73.6	61.8	39.1	15.5	7.3	2.7	3.6	2.7	-	0.9	1.8	-
70歳以上	194	73.2	74.2	38.7	2.6	24.2	3.1	1.5	1.5	-	2.1	1.0	0.5

(3) スポーツ・レクリエーション活動を行っていない理由

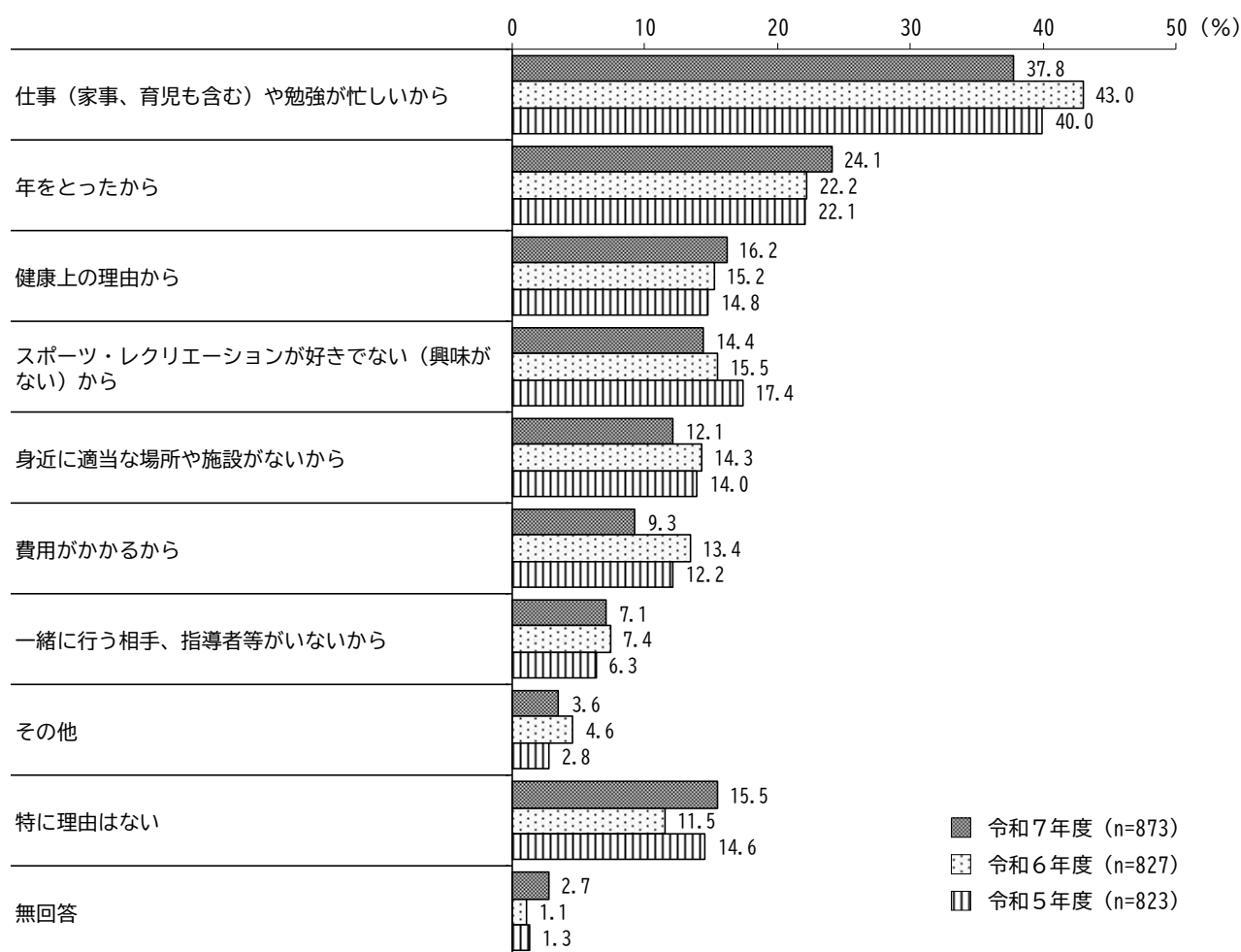
◇「仕事（家事、育児も含む）や勉強が忙しいから」が最も多く、4割弱

問 52-3. 問 52 で「6. 行っていない」と答えた方に伺います。

あなたが、スポーツ・レクリエーション活動を行っていない理由は何ですか。

(○は3つまで)

図表 20-3-1 スポーツ・レクリエーション活動を行っていない理由



この1年間にスポーツ・レクリエーション活動を「行っていない」と回答した873人に、スポーツ・レクリエーション活動を行っていない理由を聞いたところ、「仕事（家事、育児も含む）や勉強が忙しいから」（37.8%）が最も多く、次いで「年をとったから」（24.1%）、「健康上の理由から」（16.2%）、「スポーツ・レクリエーションが好きでない（興味がない）から」（14.4%）、「身近に適当な場所や施設がないから」（12.1%）の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、「仕事（家事、育児も含む）や勉強が忙しいから」は令和6年度（43.0%）と比べ5.2ポイント減少している。

性別でみると、「健康上の理由から」は女性（17.9％）が男性（12.9％）を5.0ポイント上回っている。一方、「年をとったから」は男性（28.7％）が女性（20.7％）を8.0ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「仕事（家事、育児も含む）や勉強が忙しいから」は女性30歳代（69.2％）が最も多く、男性40歳代（69.0％）は約7割、女性18～29歳（59.5％）、40歳代（58.8％）、男性50歳代（57.4％）は5割台と多くなっている。一方、「年をとったから」は男性70歳以上（62.9％）で6割強、女性70歳以上（50.9％）で約5割と多くなっている。女性70歳以上は「健康上の理由から」（34.3％）も全体を18.1ポイント上回っている。また、「費用がかかるから」は男性40歳代（23.8％）で2割強、女性50歳代（19.1％）で約2割となっている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については、記述の対象としない。

図表 20-3-2 性・年齢別 スポーツ・レクリエーション活動を行っていない理由

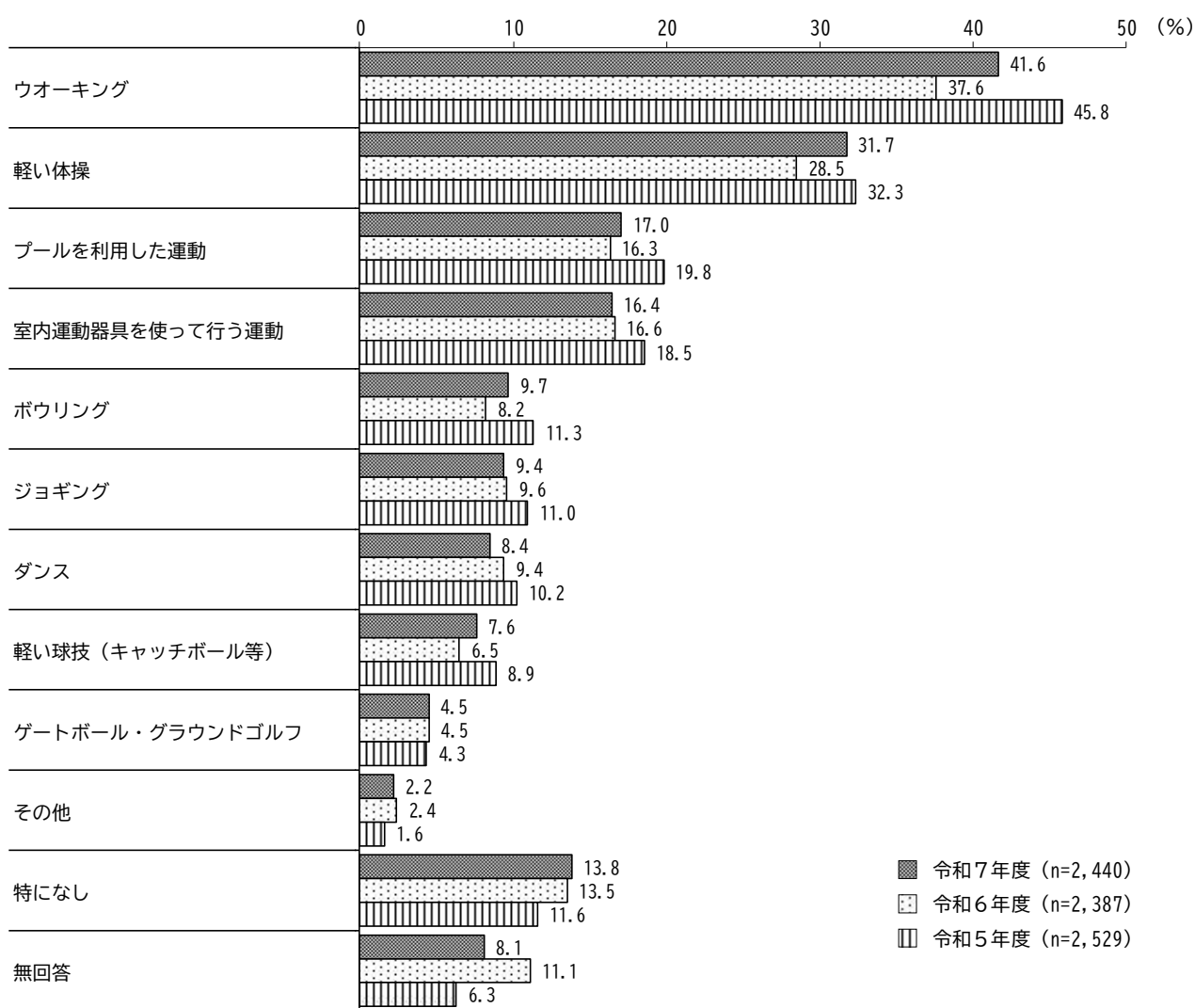
	調査数（人）	忙しいから （家事、育児も含む） や勉強が	年をとったから	健康上の理由から	スポーツ・レクリエーションが好きでない（興味がない）から	身近に適切な場所や施設がないから	費用がかかるから	一緒に 行う相手、指導者等がないから	その他	特に理由はない	無回答
全 体	873	37.8	24.1	16.2	14.4	12.1	9.3	7.1	3.6	15.5	2.7
女性全体	521	37.2	20.7	17.9	16.1	11.9	9.6	7.5	4.2	14.6	2.7
18～29歳	42	59.5	-	-	16.7	14.3	14.3	16.7	-	19.0	2.4
30～39歳	52	69.2	1.9	5.8	21.2	13.5	9.6	9.6	1.9	9.6	3.8
40～49歳	68	58.8	2.9	7.4	11.8	13.2	10.3	2.9	8.8	13.2	2.9
50～59歳	110	49.1	6.4	10.0	21.8	12.7	19.1	8.2	2.7	13.6	1.8
60～69歳	80	33.8	15.0	20.0	11.3	8.8	8.8	6.3	6.3	22.5	2.5
70歳以上	169	7.1	50.9	34.3	14.8	11.2	2.4	6.5	4.1	12.4	3.0
男性全体	334	39.2	28.7	12.9	12.0	12.3	9.3	6.6	2.7	17.1	2.7
18～29歳	18	38.9	-	-	27.8	11.1	11.1	-	-	38.9	5.6
30～39歳	24	62.5	-	4.2	20.8	25.0	16.7	8.3	-	12.5	-
40～49歳	42	69.0	2.4	7.1	14.3	14.3	23.8	14.3	2.4	14.3	-
50～59歳	61	57.4	13.1	1.6	6.6	6.6	9.8	4.9	1.6	24.6	-
60～69歳	73	42.5	19.2	13.7	12.3	16.4	8.2	5.5	5.5	19.2	6.8
70歳以上	116	12.1	62.9	24.1	9.5	9.5	2.6	6.0	2.6	10.3	2.6

(4) 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動（比較的軽いスポーツ）

◇「ウォーキング」が最も多く、約4割

問 53. 皆さんに伺います。今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動について次の中から当てはまるものを選んでください。(○はいくつでも)

図表 20-4-1 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動
－比較的軽いスポーツ－



今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動（比較的軽いスポーツ）については、「ウォーキング」（41.6%）が最も多く、次いで「軽い体操」（31.7%）、「プールを利用した運動」（17.0%）、「室内運動器具を使って行う運動」（16.4%）、「ボウリング」（9.7%）の順となっている。一方、「特になし」（13.8%）は1割強となっている。

過去2回の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっている。

性別でみると、「軽い体操」（女性 38.6%、男性 22.7%）は 15.9 ポイント、「ダンス」（女性 11.7%、男性 4.4%）は 7.3 ポイント、「室内運動器具を使って行う運動」（女性 19.1%、男性 13.4%）は 5.7 ポイント、女性が男性を上回っている。一方、「ジョギング」は男性（13.9%）が女性（6.1%）を 7.8 ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「ウォーキング」は男性 60 歳代（54.6%）が最も多く、女性 40 歳代（51.6%）は約 5 割、女性 50 歳代（49.6%）、60 歳代（43.9%）、男性 40 歳代（43.0%）、50 歳代（40.3%）、70 歳以上（47.6%）も 4 割台と多くなっている。「軽い体操」は女性 60 歳代以上（41.8%、49.1%）で 4 割台、「プールを利用した運動」は女性 30 歳代（30.8%）で約 3 割、「ジョギング」は男性 18～29 歳（26.7%）、40 歳代（24.4%）で 2 割半ば、「ダンス」は女性 18～29 歳（25.6%）で 2 割半ば、「軽い球技（キャッチボール等）」は男性 30 歳代（19.8%）で約 2 割となっており、それぞれ全体を 1 割以上上回っている。一方、「特になし」は男性 50 歳代（16.4%）が最も多く、男女ともすべての年齢で 1 割台となっている。

図表 20-4-2 性・年齢別 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動
－比較的軽いスポーツ－

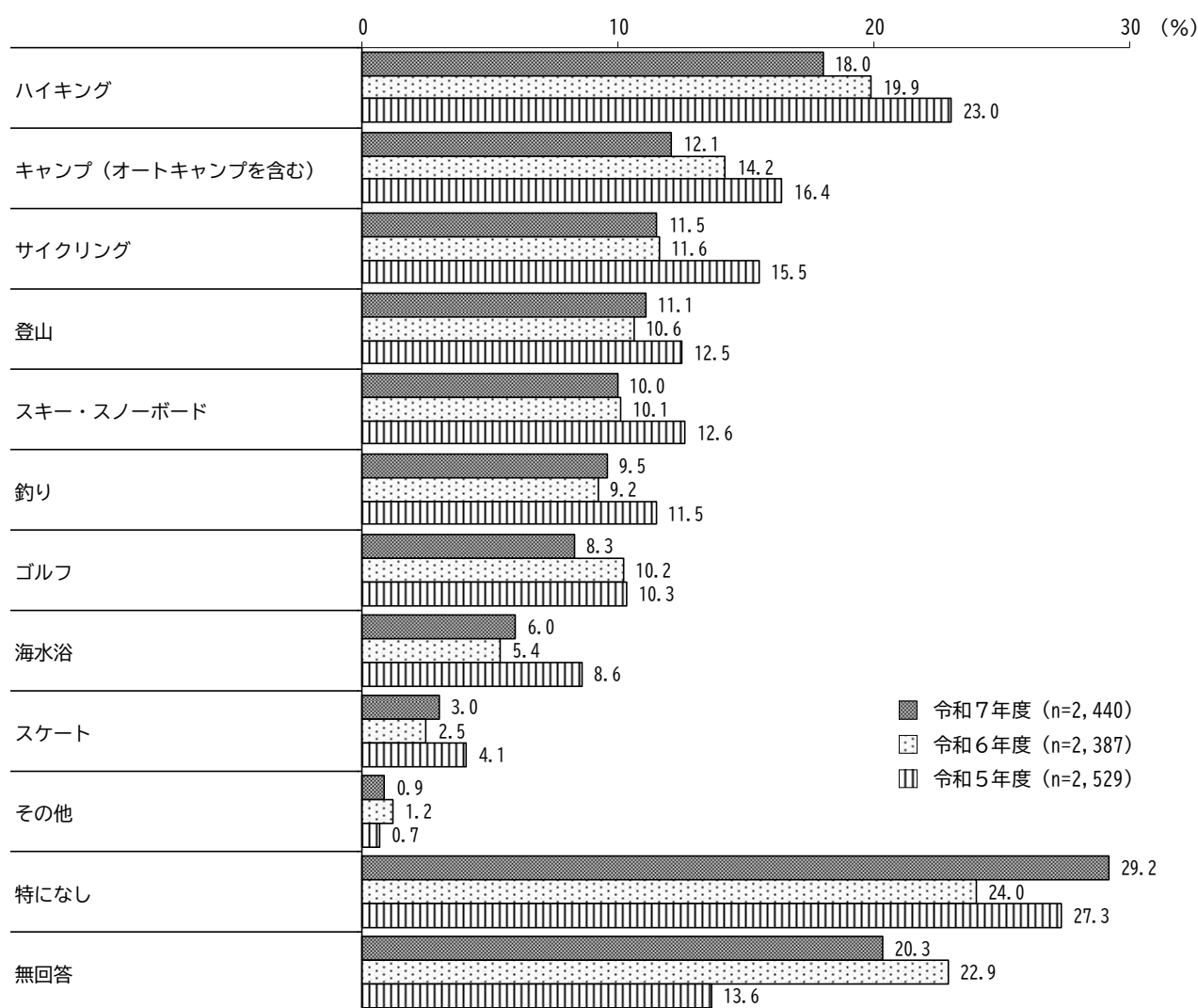
	調査数（人）	ウォーキング	軽い体操	プールを利用した運動	室内運動器具を使って行う運動	ボウリング	ジョギング	ダンス	軽い球技（キャッチボール等）	ゲートボール・グラウンドゴルフ	その他	特になし	無回答
全 体	2,440	41.6	31.7	17.0	16.4	9.7	9.4	8.4	7.6	4.5	2.2	13.8	8.1
女性全体	1,350	41.0	38.6	17.6	19.1	8.1	6.1	11.7	5.5	3.8	2.4	13.6	6.9
18～29歳	125	32.0	18.4	20.8	15.2	11.2	14.4	25.6	13.6	4.0	3.2	12.8	6.4
30～39歳	120	36.7	29.2	30.8	17.5	11.7	14.2	18.3	14.2	3.3	5.0	12.5	5.8
40～49歳	188	51.6	30.3	21.3	23.4	10.6	10.6	12.8	7.4	2.7	3.7	10.1	2.7
50～59歳	258	49.6	37.6	23.3	20.5	9.3	3.9	12.8	4.3	1.2	2.3	12.4	1.9
60～69歳	196	43.9	41.8	16.8	23.5	12.2	4.1	12.8	4.6	3.6	2.6	16.3	4.1
70歳以上	462	34.2	49.1	8.9	16.2	2.8	1.9	4.8	1.3	5.8	1.1	14.9	12.8
男性全体	1,026	43.4	22.7	16.8	13.4	12.0	13.9	4.4	10.4	5.4	1.6	14.3	8.5
18～29歳	86	23.3	11.6	16.3	18.6	15.1	26.7	7.0	17.4	2.3	1.2	16.3	7.0
30～39歳	91	31.9	16.5	26.4	18.7	17.6	17.6	4.4	19.8	1.1	3.3	12.1	7.7
40～49歳	135	43.0	18.5	25.9	13.3	18.5	24.4	5.9	14.1	4.4	1.5	11.1	6.7
50～59歳	201	40.3	18.9	15.4	12.4	11.4	14.9	4.5	9.0	4.0	1.5	16.4	9.0
60～69歳	185	54.6	25.4	16.8	13.0	16.2	11.4	4.3	9.7	9.7	1.6	11.4	3.8
70歳以上	328	47.6	29.9	11.3	11.3	4.9	6.1	3.0	5.8	6.1	1.2	16.2	12.2

(5) 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動（野外活動）

◇「ハイキング」が最も多く、2割弱

問 53. 皆さんに伺います。今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動について次の中から当てはまるものを選んでください。(○はいくつでも)

図表 20-5-1 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動
ー野外活動ー



今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動（野外活動）については、「ハイキング」（18.0%）が最も多く、次いで「キャンプ（オートキャンプを含む）」（12.1%）、「サイクリング」（11.5%）、「登山」（11.1%）、「スキー・スノーボード」（10.0%）の順となっている。一方、「特になし」（29.2%）は約3割となっている。

過去2回の調査と比較すると、上位3項目はいずれも減少傾向となっている。一方、「特になし」は令和6年度（24.0%）と比べ、5.2ポイント増加している。

性別でみると、「釣り」(男性 14.8%、女性 5.6%)は 9.2 ポイント、「ゴルフ」(男性 12.8%、女性 4.9%)は 7.9 ポイント、男性が女性を上回っている。

性・年齢別でみると、「ハイキング」は女性 50 歳代 (31.4%) が最も多く、女性 60 歳代 (29.1%) も全体を 11.1 ポイント上回っている。「キャンプ (オートキャンプを含む)」は男性 18~29 歳 (29.1%) が最も多く、女性 30 歳代 (27.5%)、40 歳代 (21.3%)、男性 30 歳代 (22.0%) も 2 割台となっている。

「スキー・スノーボード」は男性 18~29 歳 (39.5%) が約 4 割と他の年齢に比べ特に多く、女性 18~29 歳 (20.8%) も全体を 10.8 ポイント上回っている。女性 18~29 歳は「スケート」(16.0%)、男性 18~29 歳は「釣り」(22.1%) も多くなっている。一方、男女とも年齢が上がるにつれ「特になし」が増加する傾向となっており、女性 60 歳代以上 (36.7%、37.2%)、男性 70 歳以上 (32.0%) は 3 割台と多くなっている。

図表 20-5-2 性・年齢別 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動
ー野外活動ー

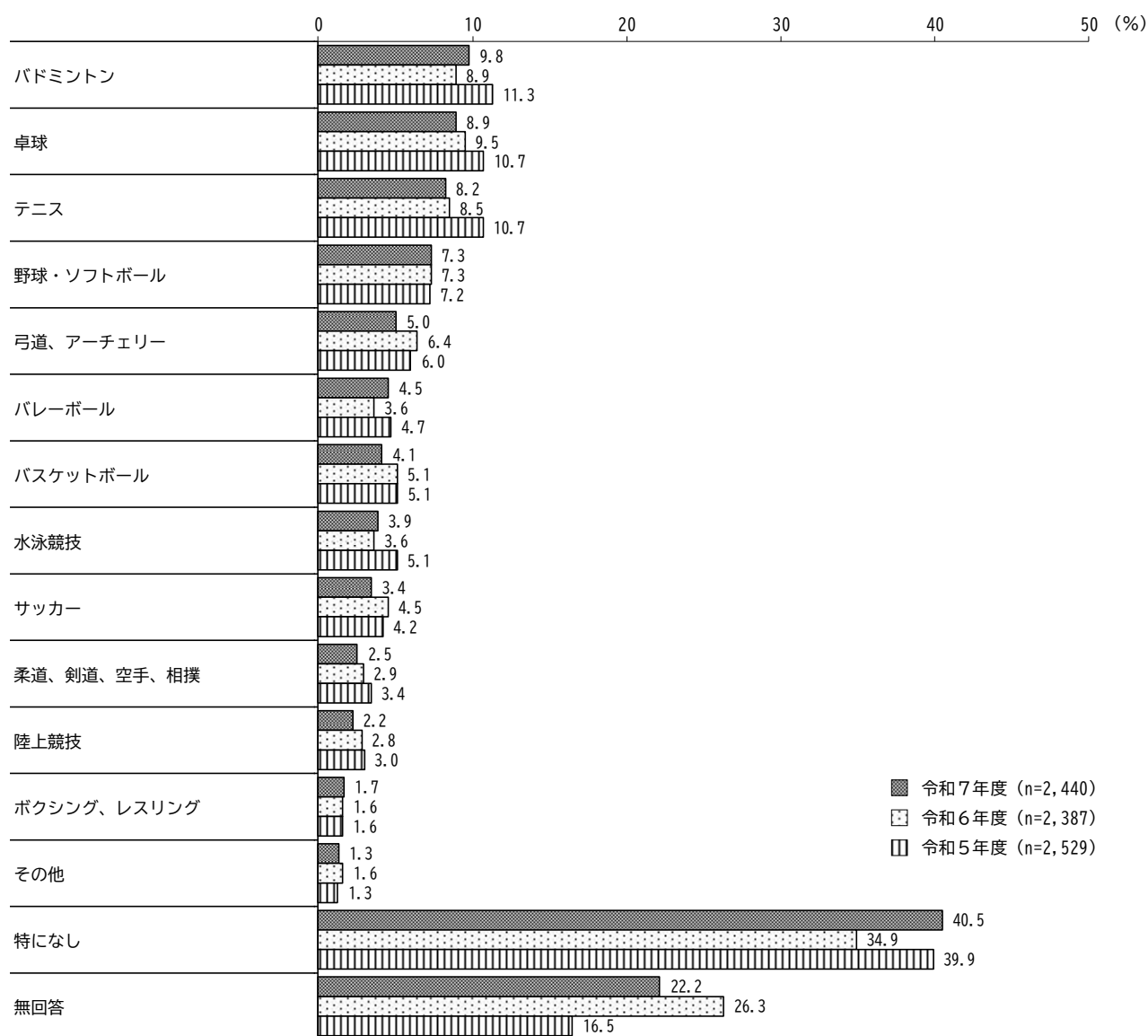
	調査数(人)	ハイキング	キャンプ(オートキャンプを含む)	サイクリング	登山	スキー・スノーボード	釣り	ゴルフ	海水浴	スケート	その他	特になし	無回答
全 体	2,440	18.0	12.1	11.5	11.1	10.0	9.5	8.3	6.0	3.0	0.9	29.2	20.3
女性全体	1,350	20.2	11.0	10.1	10.8	7.9	5.6	4.9	5.4	3.4	0.7	32.1	22.5
18~29歳	125	13.6	13.6	13.6	18.4	20.8	8.8	1.6	11.2	16.0	-	25.6	13.6
30~39歳	120	18.3	27.5	11.7	17.5	18.3	6.7	8.3	15.0	5.0	1.7	26.7	10.0
40~49歳	188	18.1	21.3	13.8	15.4	13.3	10.1	6.9	8.0	4.3	1.1	27.7	12.2
50~59歳	258	31.4	14.3	14.7	15.5	7.4	10.5	6.2	7.0	3.1	0.8	28.7	8.9
60~69歳	196	29.1	6.6	10.7	9.7	4.1	3.6	7.1	3.6	1.0	-	36.7	14.8
70歳以上	462	13.4	1.9	4.3	3.0	1.5	0.6	2.4	0.2	0.4	0.6	37.2	43.1
男性全体	1,026	15.5	13.7	13.7	11.5	12.6	14.8	12.8	7.0	2.4	1.1	26.3	15.5
18~29歳	86	9.3	29.1	17.4	18.6	39.5	22.1	14.0	14.0	8.1	2.3	19.8	4.7
30~39歳	91	15.4	22.0	23.1	16.5	17.6	9.9	11.0	13.2	3.3	1.1	24.2	8.8
40~49歳	135	12.6	18.5	21.5	19.3	19.3	14.1	12.6	18.5	2.2	-	20.7	14.1
50~59歳	201	13.4	15.9	14.4	15.4	15.4	16.4	11.9	6.5	4.0	1.0	25.4	11.4
60~69歳	185	24.9	15.7	15.7	9.7	8.6	14.6	15.7	4.3	1.6	1.6	25.4	8.6
70歳以上	328	14.3	3.0	5.5	3.7	1.8	13.7	11.9	0.6	0.3	0.9	32.0	27.1

(6) 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動（競技的スポーツ）

◇「バドミントン」が最も多く、約1割

問 53. 皆さんに伺います。今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動について次の中から当てはまるものを選んでください。(○はいくつでも)

図表 20-6-1 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動
－競技的スポーツ－



今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動（競技的スポーツ）については、「バドミントン」(9.8%) が最も多く、次いで「卓球」(8.9%)、「テニス」(8.2%)、「野球・ソフトボール」(7.3%)、「弓道、アーチェリー」(5.0%) の順となっている。一方、「特になし」(40.5%) は約4割となっている。

過去2回の調査と比較すると、すべての項目が1割未満となっており、「特になし」は令和6年度(34.9%)と比べ5.6ポイント増加している。

性別でみると、「バドミントン」は女性（12.4%）が男性（6.5%）を5.9ポイント上回っている。一方、「野球・ソフトボール」（男性13.6%、女性2.6%）は11.0ポイント、「サッカー」（男性6.4%、女性1.3%）は5.1ポイント、男性が女性を上回っている。

性・年齢別でみると、「バドミントン」は女性30歳代（28.3%）が最も多く、女性18～29歳（28.0%）、男性18～29歳（20.9%）も2割台となっている。「野球・ソフトボール」は男性18～29歳（31.4%）で約3割、「サッカー」は男性18～29歳（19.8%）、40歳代（20.7%）で約2割と、他の年齢に比べ多くなっている。また、「バレーボール」は女性18～29歳（19.2%）、「バスケットボール」は女性30歳代（14.2%）、「テニス」は男性18～29歳（18.6%）で全体を1割以上上回っている。一方、男女とも50歳代以上は「特になし」が4割台と多くなっている。

図表 20-6-2 性・年齢別 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動
－競技的スポーツ－

	調査数（人）	バドミントン	卓球	テニス	野球・ソフトボール	弓道、アーチェリー	バレーボール	バスケットボール	水泳競技	サッカー	柔道、剣道、空手、相撲	陸上競技	ボクシング、レスリング	その他	特になし	無回答
全 体	2,440	9.8	8.9	8.2	7.3	5.0	4.5	4.1	3.9	3.4	2.5	2.2	1.7	1.3	40.5	22.2
女性全体	1,350	12.4	9.5	8.1	2.6	5.6	5.3	4.1	3.0	1.3	1.6	1.6	1.6	0.8	42.7	23.1
18～29歳	125	28.0	15.2	16.8	10.4	11.2	19.2	12.8	8.0	4.8	6.4	4.0	1.6	0.8	20.8	5.6
30～39歳	120	28.3	6.7	11.7	3.3	8.3	8.3	14.2	6.7	4.2	5.0	5.0	4.2	0.8	32.5	10.8
40～49歳	188	17.6	13.3	11.2	4.3	9.0	7.4	4.3	4.8	3.2	1.6	2.1	3.2	1.6	39.4	11.2
50～59歳	258	15.1	9.7	10.5	1.9	7.4	3.5	2.3	3.5	－	1.2	1.2	1.9	0.8	47.3	14.0
60～69歳	196	9.2	11.7	8.2	2.0	6.1	5.6	4.6	1.0	－	1.0	1.0	0.5	1.0	49.5	20.4
70歳以上	462	1.9	6.1	2.2	0.2	0.6	0.9	－	0.6	－	－	0.4	0.4	0.4	47.4	42.0
男性全体	1,026	6.5	8.3	8.4	13.6	4.4	3.4	4.2	5.1	6.4	3.9	3.1	1.9	1.8	38.8	19.3
18～29歳	86	20.9	10.5	18.6	31.4	4.7	7.0	10.5	8.1	19.8	5.8	10.5	3.5	2.3	14.0	4.7
30～39歳	91	14.3	9.9	15.4	17.6	3.3	5.5	8.8	8.8	9.9	6.6	4.4	5.5	1.1	29.7	11.0
40～49歳	135	9.6	5.2	10.4	18.5	8.1	8.1	8.1	9.6	20.7	6.7	5.2	3.7	1.5	28.9	11.9
50～59歳	201	5.5	8.0	9.5	13.9	6.0	4.0	4.0	5.5	3.0	4.5	4.5	3.0	2.5	42.3	13.9
60～69歳	185	3.8	6.5	6.5	14.1	5.4	1.6	2.2	2.7	1.1	2.7	0.5	－	2.7	46.5	15.7
70歳以上	328	1.5	9.8	3.4	5.5	1.5	0.6	0.9	2.4	1.2	1.8	0.6	－	0.9	45.4	33.8

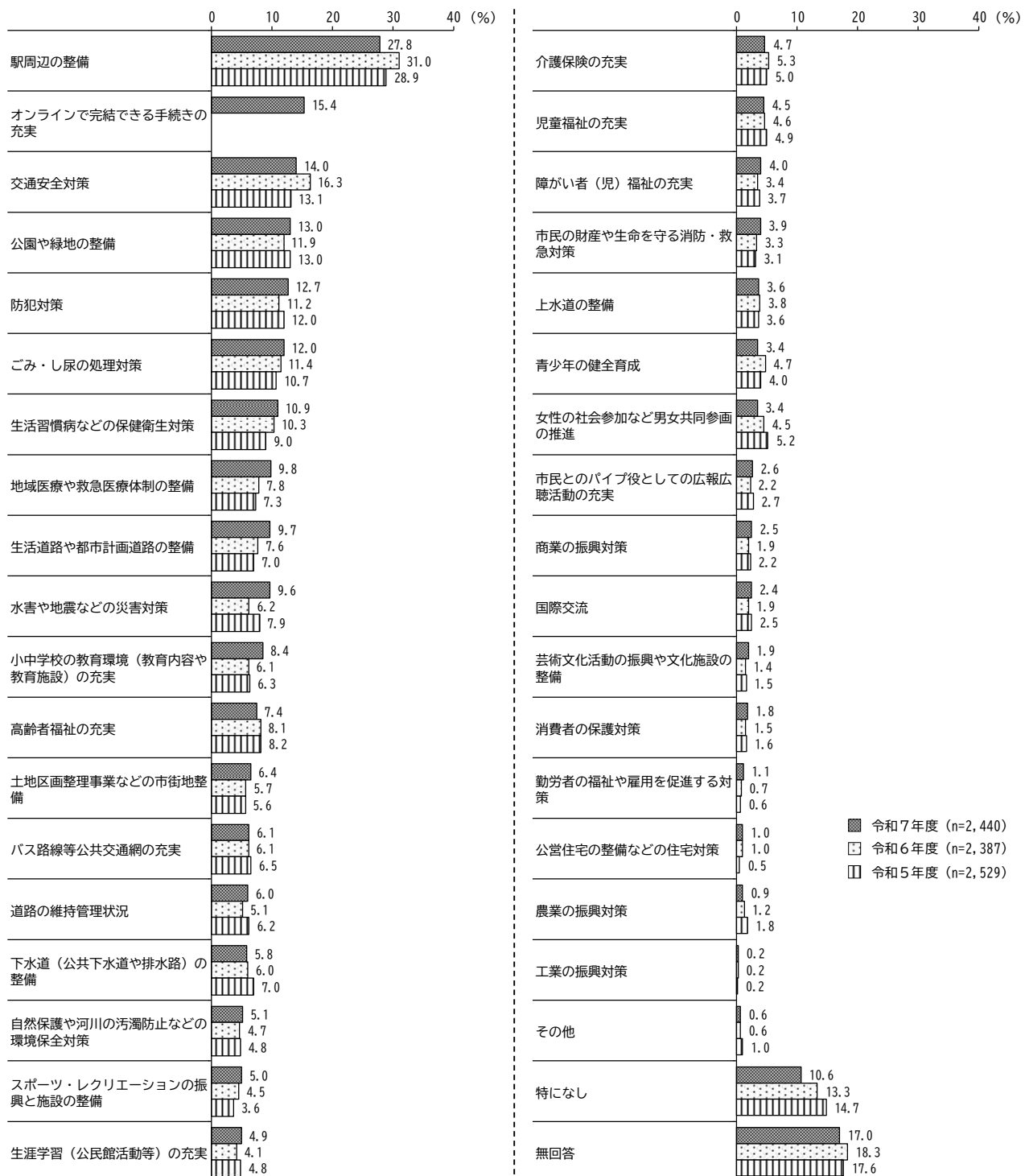
21. 越谷市の施策について

(1) よくなってきたと感じるもの

◇「駅周辺の整備」が最も多く、3割弱

問 54. 市では様々な施策を進めていますが、ここ数年のうちで「よくなってきたと感じるもの」また、今後の市政の中で「特に力を入れるべきだと思われるもの」を、次の中からそれぞれ5つまで選び、下の口内に番号をご記入ください。

図表 21-1-1 よくなってきたと感じるもの



(※)「オンラインで完結できる手続きの充実」は令和7年度新規項目

市の施策に対して、ここ数年のうちで「よくなってきたと感じるもの」は、1位「駅周辺の整備」(27.8%)、2位「オンラインで完結できる手続きの充実」(15.4%)、3位「交通安全対策」(14.0%)、4位「公園や緑地の整備」(13.0%)、5位「防犯対策」(12.7%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっており、「駅周辺の整備」は令和6年度と比べ3.2ポイント減少したものの、2位以下に比べ1割以上上回っている。

性別でみると、1位は男女とも「駅周辺の整備」となっている。2位以下は女性が「オンラインで完結できる手続きの充実」「公園や緑地の整備」、男性が「交通安全対策」「防犯対策」となっているが、すべての項目で男女差は5ポイント未満となっている。

性・年齢別でみると、1位は男女ともすべての年齢で「駅周辺の整備」となっており、男性60歳代で3割半ば、他も2割以上となっている。2位は女性50歳代以下、男性18～29歳、40歳代、60歳代が「オンラインで完結できる手続きの充実」となっており、70歳以上を除く幅広い年齢で上位となっている。他の2位は、女性60歳代が「ごみ・し尿の処理対策」、女性70歳以上が「生活習慣病などの保健衛生対策」、男性30歳代が「防犯対策」、男性50歳代、70歳以上が「交通安全対策」、男性60歳代が「生活道路や都市計画道路の整備」(同率)となっている。これらのうち、「生活習慣病などの保健衛生対策」「ごみ・し尿の処理対策」は高齢層中心に上位となる一方、「交通安全対策」「防犯対策」はより幅広い年齢で上位となっている。

図表21-1-2 性・年齢別 よくなってきたと感じるもの

調査数 (人)	1位	2位	3位	4位	5位
全 体 (2,440)	駅周辺の整備 27.8	オンラインで完結できる手続きの 充実 15.4	交通安全対策 14.0	公園や緑地の整備 13.0	防犯対策 12.7
女性全体 (1,350)	駅周辺の整備 27.0	オンラインで完結できる手続きの 充実 17.7	公園や緑地の整備 13.2	交通安全対策 13.0	ごみ・し尿の処理対策 13.0
18～29歳 (125)	駅周辺の整備 33.6	オンラインで完結できる手続きの 充実 24.8	交通安全対策 12.8	小中学校の教育環境（教育内容や 教育施設）の充実 12.0	防犯対策 11.2
30～39歳 (120)	駅周辺の整備 34.2	オンラインで完結できる手続きの 充実 25.8	小中学校の教育環境（教育内容や 教育施設）の充実 17.5	公園や緑地の整備 16.7	水害や地震などの災害対策 13.3
40～49歳 (188)	駅周辺の整備 28.7	オンラインで完結できる手続きの 充実 26.6	公園や緑地の整備 17.6	小中学校の教育環境（教育内容や 教育施設）の充実 17.0	水害や地震などの災害対策 13.3
50～59歳 (258)	駅周辺の整備 27.9	オンラインで完結できる手続きの 充実 26.7	交通安全対策 15.1	公園や緑地の整備 13.6	防犯対策 11.6
60～69歳 (196)	駅周辺の整備 28.6	ごみ・し尿の処理対策 17.3	オンラインで完結できる手続きの充実 生活習慣病などの保健衛生対策		交通安全対策 14.3
70歳以上 (462)	駅周辺の整備 21.6	生活習慣病などの保健衛生対策 20.1	ごみ・し尿の処理対策 19.5	防犯対策 13.9	交通安全対策 13.4
男性全体 (1,026)	駅周辺の整備 29.7	交通安全対策 15.5	防犯対策 13.9	公園や緑地の整備 13.2	オンラインで完結できる手続きの 充実 12.9
18～29歳 (86)	駅周辺の整備 33.7	オンラインで完結できる手続きの 充実 19.8	生活道路や都市計画道路の整備 17.4	交通安全対策 15.1	土地区画整理事業などの市街地整 理 14.0
30～39歳 (91)	駅周辺の整備 33.0	防犯対策 20.9	公園や緑地の整備 17.6	交通安全対策 16.5	オンラインで完結できる手続きの 充実 15.4
40～49歳 (135)	駅周辺の整備 34.1	オンラインで完結できる手続きの 充実 25.9	生活道路や都市計画道路の整備 17.8	小中学校の教育環境（教育内容や 教育施設）の充実 14.8	交通安全対策 公園や緑地の整備 14.1
50～59歳 (201)	駅周辺の整備 32.8	交通安全対策 13.9	防犯対策 11.9	公園や緑地の整備 10.9	オンラインで完結できる手続きの 充実 10.4
60～69歳 (185)	駅周辺の整備 36.8	生活道路や都市計画道路の整備 オンラインで完結できる手続きの充実	15.1	水害や地震などの災害対策 13.5	生活習慣病などの保健衛生対策 地域医療や救急医療体制の整備 13.0
70歳以上 (328)	駅周辺の整備 20.1	交通安全対策 18.9	ごみ・し尿の処理対策 16.5	防犯対策 16.2	生活習慣病などの保健衛生対策 公園や緑地の整備 14.0

第4章 調査結果の詳細

居住地区別でみると、1位はすべての地区で「駅周辺の整備」となっている（新方地区は「水害や地震などの災害対策」と同率）。「駅周辺の整備」は越ヶ谷地区（39.0%）、次いで増林地区（36.4%）が多くなる一方、新方地区（18.9%）は2割弱で、地区による差が20.1ポイントと多くなっている。2位は越ヶ谷地区（16.0%）が「防犯対策」、荻島地区（16.2%）、蒲生地区（17.6%）が「交通安全対策」、大袋地区（18.8%）、北越谷地区（19.3%）が「公園や緑地の整備」、桜井地区（17.1%）が「ごみ・し尿の処理対策」、その他6地区が「オンラインで完結できる手続きの充実」となっている。これらのうち、「オンラインで完結できる手続きの充実」は13地区中10地区、「公園や緑地の整備」は8地区、他3項目も7地区で5位以内となっており、過半数で上位となっている。

図表 21-1-3 居住地区別 よくなってきたと感じるもの

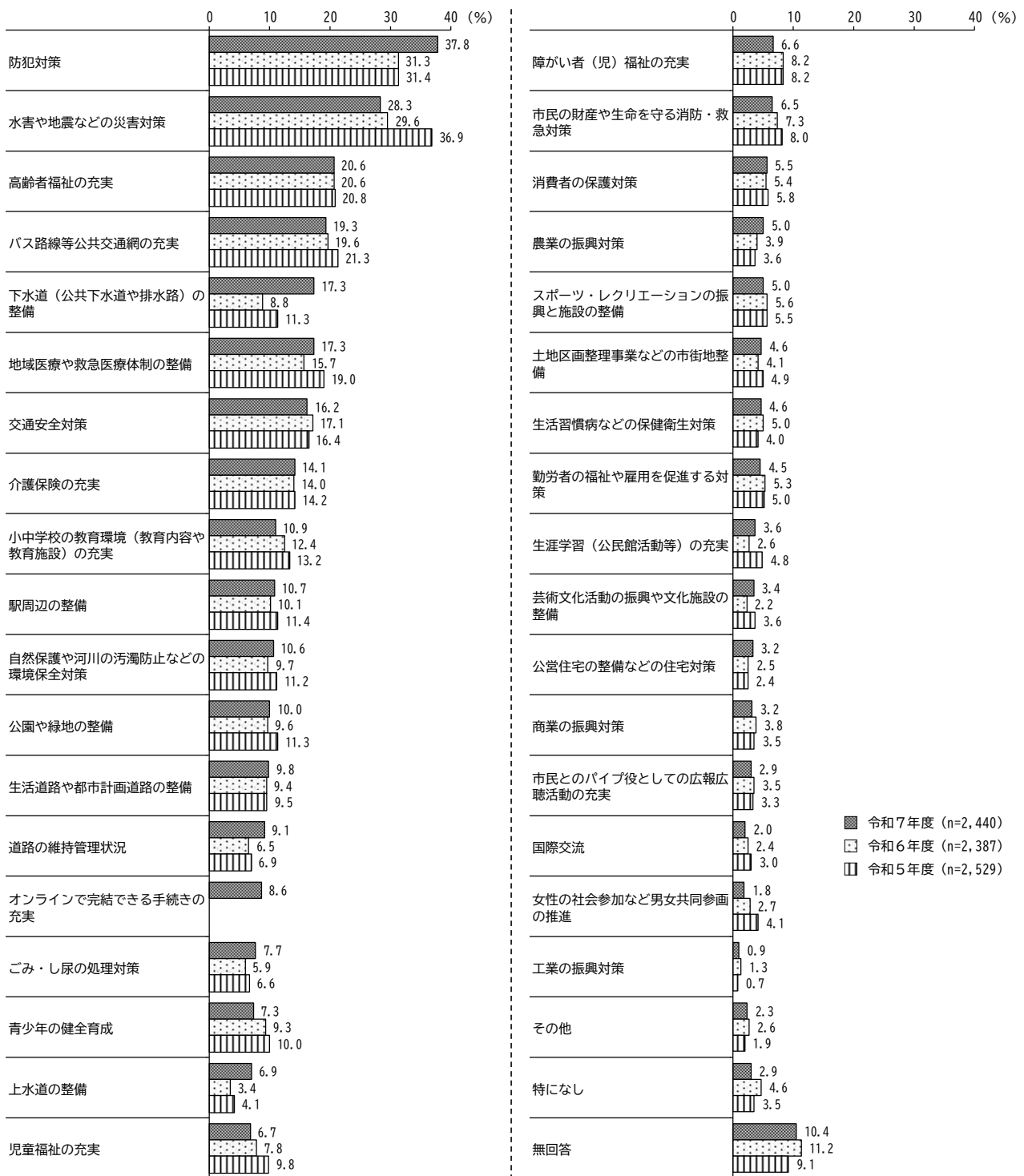
調査数 (人)	1位	2位	3位	4位	5位
全 体 (2,440)	駅周辺の整備 27.8	オンラインで完結できる手続きの 充実 15.4	交通安全対策 14.0	公園や緑地の整備 13.0	防犯対策 12.7
桜井地区 (275)	駅周辺の整備 24.7	ごみ・し尿の処理対策 17.1	交通安全対策 16.0	生活習慣病などの保健衛生対策 13.8	防犯対策 13.5
新方地区 (106)	駅周辺の整備 水害や地震などの災害対策 18.9		防犯対策 17.9	生活習慣病などの保健衛生対策 15.1	生活道路や都市計画道路の整備 14.2
増林地区 (195)	駅周辺の整備 36.4	オンラインで完結できる手続きの 充実 18.5	公園や緑地の整備 17.4	地域医療や救急医療体制の整備 14.4	ごみ・し尿の処理対策 13.3
大袋地区 (352)	駅周辺の整備 24.7	公園や緑地の整備 18.8	防犯対策 17.0	交通安全対策 オンラインで完結できる手続きの充実	14.2
荻島地区 (74)	駅周辺の整備 32.4	交通安全対策 16.2	公園や緑地の整備 14.9	地域医療や救急医療体制の整備 ごみ・し尿の処理対策	13.5
出羽地区 (178)	駅周辺の整備 26.4	オンラインで完結できる手続きの 充実 13.5	ごみ・し尿の処理対策 12.9	交通安全対策 生活習慣病などの保健衛生対策	12.4
蒲生地区 (306)	駅周辺の整備 23.9	交通安全対策 17.6	オンラインで完結できる手続きの 充実 16.7	小中学校の教育環境（教育内容や 教育施設）の充実 13.4	公園や緑地の整備 ごみ・し尿の処理対策 12.1
川柳地区 (76)	駅周辺の整備 26.3	オンラインで完結できる手続きの 充実 17.1	防犯対策 15.8	生活道路や都市計画道路の整備 公園や緑地の整備 小中学校の教育環境（教育内容や教育施設）の充実	14.5
大相模地区 (196)	駅周辺の整備 31.1	オンラインで完結できる手続きの 充実 21.9	公園や緑地の整備 12.8	地域医療や救急医療体制の整備 生活道路や都市計画道路の整備	11.7
大沢地区 (164)	駅周辺の整備 24.4	オンラインで完結できる手続きの 充実 16.5	ごみ・し尿の処理対策 15.9	公園や緑地の整備 15.2	生活習慣病などの保健衛生対策 14.6
北越谷地区 (83)	駅周辺の整備 26.5	公園や緑地の整備 19.3	防犯対策 水害や地震などの災害対策 14.5		オンラインで完結できる手続きの 充実 12.0
越ヶ谷地区 (231)	駅周辺の整備 39.0	防犯対策 16.0	交通安全対策 15.2	オンラインで完結できる手続きの 充実 13.4	ごみ・し尿の処理対策 11.3
南越谷地区 (197)	駅周辺の整備 27.9	オンラインで完結できる手続きの 充実 15.7	防犯対策 14.7	交通安全対策 14.2	生活習慣病などの保健衛生対策 12.7

(2) 特に力を入れるべきだと思われるもの

◇「防犯対策」が最も多く、4割弱

問 54. 市では様々な施策を進めていますが、ここ数年のうちで「よくなってきたと感じるもの」また、今後の市政の中で「特に力を入れるべきだと思われるもの」を、次の中からそれぞれ5つまで選び、下の口内に番号をご記入ください。

図表 21-2-1 特に力を入れるべきだと思われるもの



(※)「オンラインで完結できる手続きの充実」は令和7年度新規項目

今後の市政の中で「特に力を入れるべきだと思われるもの」は、1位「防犯対策」(37.8%)、2位「水害や地震などの災害対策」(28.3%)、3位「高齢者福祉の充実」(20.6%)、4位「バス路線等公共交通網の充実」(19.3%)、5位「下水道（公共下水道や排水路）の整備」(17.3%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、「下水道（公共下水道や排水路）の整備」「防犯対策」が令和6年度と比べ6ポイント以上増加する一方、「水害や地震などの災害対策」は減少傾向となっている。

性別でみると、男女とも1位は「防犯対策」、2位は「水害や地震などの災害対策」となっている。3位は女性が「バス路線等公共交通網の充実」、男性が「高齢者福祉の充実」となっており、「バス路線等公共交通網の充実」は女性(23.0%)が男性(14.5%)を8.5ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、1位は女性70歳以上が「水害や地震などの災害対策」、男性70歳以上が「高齢者福祉の充実」、それ以外は「防犯対策」となっている。「防犯対策」は男性70歳以上で2位、女性70歳以上で4位、「水害や地震などの災害対策」は女性40～60歳代、男性30～60歳代で2位となるなど、すべての年齢で上位となっている。一方、「高齢者福祉の充実」は高齢層を中心に多くなっている。他の2位は、女性18～29歳が「交通安全対策」、男性18～29歳が「道路の維持管理状況」、女性70歳以上が「バス路線等公共交通網の充実」、女性30歳代が「小中学校の教育環境（教育内容や教育施設）の充実」となっている。「交通安全対策」は幅広い年齢で上位となる一方、「バス路線等公共交通網の充実」は男性は50歳代のみ4位と男女差が大きく、「道路の維持管理状況」「小中学校の教育環境（教育内容や教育施設）の充実」は特定の年齢で上位となっている。

図表 21-2-2 性・年齢別 特に力を入れるべきだと思われるもの

調査数 (人)	1位	2位	3位	4位	5位
全 体 (2,440)	防犯対策 37.8	水害や地震などの災害対策 28.3	高齢者福祉の充実 20.6	バス路線等公共交通網の充実 19.3	下水道（公共下水道や排水路）の整備 17.3
女性全体 (1,350)	防犯対策 36.1	水害や地震などの災害対策 28.3	バス路線等公共交通網の充実 23.0	高齢者福祉の充実 20.7	下水道（公共下水道や排水路）の整備 18.9
18～29歳 (125)	防犯対策 38.4	交通安全対策 23.2	水害や地震などの災害対策 18.4	バス路線等公共交通網の充実 17.6	小中学校の教育環境（教育内容や教育施設）の充実 15.2
30～39歳 (120)	防犯対策 43.3	小中学校の教育環境（教育内容や教育施設）の充実 27.5	交通安全対策 25.8	水害や地震などの災害対策 20.8	児童福祉の充実 18.3
40～49歳 (188)	防犯対策 46.3	水害や地震などの災害対策 26.1	バス路線等公共交通網の充実 22.3	交通安全対策 21.8	下水道（公共下水道や排水路）の整備 20.7
50～59歳 (258)	防犯対策 44.2	水害や地震などの災害対策 31.0	地域医療や救急医療体制の整備 25.2	バス路線等公共交通網の充実 22.9	高齢者福祉の充実 21.7
60～69歳 (196)	防犯対策 35.2	水害や地震などの災害対策 33.7	高齢者福祉の充実 29.1	下水道（公共下水道や排水路）の整備 26.0	バス路線等公共交通網の充実 22.4
70歳以上 (462)	水害や地震などの災害対策 29.9	バス路線等公共交通網の充実 26.8	高齢者福祉の充実 25.5	防犯対策 25.3	地域医療や救急医療体制の整備 19.3
男性全体 (1,026)	防犯対策 41.0	水害や地震などの災害対策 28.9	高齢者福祉の充実 20.8	交通安全対策 18.6	地域医療や救急医療体制の整備 16.0
18～29歳 (86)	防犯対策 37.2	道路の維持管理状況 20.9	オンラインで完結できる手続きの充実 19.8	交通安全対策 18.6	水害や地震などの災害対策 17.4
30～39歳 (91)	防犯対策 50.5	水害や地震などの災害対策 24.2	交通安全対策 オンラインで完結できる手続きの充実 22.0		駅周辺の整備 18.7
40～49歳 (135)	防犯対策 45.2	水害や地震などの災害対策 33.3	交通安全対策 20.7	地域医療や救急医療体制の整備 下水道（公共下水道や排水路）の整備	17.8
50～59歳 (201)	防犯対策 45.8	水害や地震などの災害対策 28.4	交通安全対策 18.9	バス路線等公共交通網の充実 下水道（公共下水道や排水路）の整備	17.9
60～69歳 (185)	防犯対策 48.6	水害や地震などの災害対策 35.7	高齢者福祉の充実 24.9	交通安全対策 地域医療や救急医療体制の整備	19.5
70歳以上 (328)	高齢者福祉の充実 34.1	防犯対策 30.5	水害や地震などの災害対策 28.0	介護保険の充実 20.4	地域医療や救急医療体制の整備 19.8

居住地区別でみると、1位は新方地区（38.7%）が「バス路線等公共交通網の充実」、出羽地区（31.5%）が「水害や地震などの災害対策」（「防犯対策」と同率）、新方地区を除く12地区が「防犯対策」となっている。「防犯対策」は南越谷地区（45.7%）が最も多く、新方地区（35.8%）も3位と、すべての地区で上位となっている。2位は荻島地区（32.4%）、川柳地区（26.3%）が「バス路線等公共交通網の充実」、増林地区（39.0%）など10地区が「水害や地震などの災害対策」となっている。「水害や地震などの災害対策」は川柳地区（15.8%）を除く12地区で5位以内、「バス路線等公共交通網の充実」も8地区で4位以内と、過半数の地区で上位となっているが、地区による差は「水害や地震などの災害対策」（増林地区39.0%、川柳地区15.8%）が23.2ポイント、「バス路線等公共交通網の充実」（新方地区38.7%、北越谷地区7.2%）が31.5ポイントと多くなっている。また、「高齢者福祉の充実」は大相模地区（14.3%）を除く12地区、「地域医療や救急医療体制の整備」は8地区、「下水道（公共下水道や排水路）の整備」は7地区で5位以内となっている。

図表 21-2-3 居住地区別 特に力を入れるべきと思われるもの

調査数 (人)	1位	2位	3位	4位	5位
全 体 (2,440)	防犯対策 37.8	水害や地震などの災害対策 28.3	高齢者福祉の充実 20.6	バス路線等公共交通網の充実 19.3	下水道（公共下水道や排水路）の整備 17.3
桜井地区 (275)	防犯対策 38.2	水害や地震などの災害対策 33.1	バス路線等公共交通網の充実 24.4	高齢者福祉の充実 22.2	地域医療や救急医療体制の整備 下水道（公共下水道や排水路）の整備 19.6
新方地区 (106)	バス路線等公共交通網の充実 38.7	水害や地震などの災害対策 36.8	防犯対策 35.8	下水道（公共下水道や排水路）の整備 22.6	高齢者福祉の充実 17.9
増林地区 (195)	防犯対策 42.6	水害や地震などの災害対策 39.0	バス路線等公共交通網の充実 26.2	高齢者福祉の充実 24.1	下水道（公共下水道や排水路）の整備 18.5
大袋地区 (352)	防犯対策 38.1	水害や地震などの災害対策 27.8	高齢者福祉の充実 22.4	バス路線等公共交通網の充実 19.0	地域医療や救急医療体制の整備 17.9
荻島地区 (74)	防犯対策 37.8	バス路線等公共交通網の充実 32.4	高齢者福祉の充実 28.4	地域医療や救急医療体制の整備 25.7	水害や地震などの災害対策 23.0
出羽地区 (178)	防犯対策 水害や地震などの災害対策 31.5		バス路線等公共交通網の充実 24.7	高齢者福祉の充実 20.2	下水道（公共下水道や排水路）の整備 16.3
蒲生地区 (306)	防犯対策 38.2	水害や地震などの災害対策 25.5	高齢者福祉の充実 21.9	下水道（公共下水道や排水路）の整備 18.3	交通安全対策 地域医療や救急医療体制の整備 17.0
川柳地区 (76)	防犯対策 31.6	バス路線等公共交通網の充実 26.3	高齢者福祉の充実 25.0	下水道（公共下水道や排水路）の整備 22.4	交通安全対策 介護保険の充実 17.1
大相模地区 (196)	防犯対策 42.3	水害や地震などの災害対策 23.5	下水道（公共下水道や排水路）の整備 21.9	交通安全対策 17.9	生活道路や都市計画道路の整備 16.8
大沢地区 (164)	防犯対策 35.4	水害や地震などの災害対策 31.7	バス路線等公共交通網の充実 20.1	地域医療や救急医療体制の整備 18.9	高齢者福祉の充実 17.7
北越谷地区 (83)	防犯対策 36.1	水害や地震などの災害対策 22.9	地域医療や救急医療体制の整備 高齢者福祉の充実 自然保護や河川の汚濁防止などの環境保全対策 16.9		
越ヶ谷地区 (231)	防犯対策 32.9	水害や地震などの災害対策 26.4	高齢者福祉の充実 16.5	地域医療や救急医療体制の整備 15.6	交通安全対策 14.7
南越谷地区 (197)	防犯対策 45.7	水害や地震などの災害対策 23.4	高齢者福祉の充実 22.3	地域医療や救急医療体制の整備 21.8	交通安全対策 18.3

(3) 自由回答

問 55. 問 54 で選ばれた「特に力を入れるべきと思われるもの」について、どのような対応(対策)を望まれますか。また、市政に関するご意見やご要望など、自由にご記入ください。

市政に関する意見や要望の回答件数は 995 件（意見等合計 1,678 件）であった。

これを下記のとおり「第5次越谷市総合振興計画前期基本計画」の項目ごとに整理した。

		件数
大綱1. 多様な人が交流し、参加と協働により発展するまちづくり	市民参加と協働による市政を推進する	53
	互いに認め合い人権を尊重する社会づくりを推進する	26
	健全でスマートな都市経営を推進する	117
大綱2. みんなが健康で共生して住み続けられるまちづくり	ともに支え合いながら暮らせる地域をつくる	12
	予防と助け合いのもとで、充実した地域医療・保健衛生体制をつくる	53
	子どもたちが夢と希望を持って育ち、安心して子育てできるまちをつくる	60
	障がい者（児）が安心して暮らせる環境をつくる	21
	高齢者が安心していきいきと暮らせるまちをつくる	85
	市民生活を支える支援制度や体制の充実を図る	22
大綱3. 都市と自然が調和した集約と連携によるまちづくり	生活の質が高く選ばれ続ける都市をつくる	50
	地域を支える道路・公共交通をつくる	278
	水と緑でつながるやすらぎのある空間をつくる	61
	安全で良好な水環境をつくる	162
	安心して住むことができる住宅環境をつくる	12
大綱4. 持続可能で災害に強い安全・安心なまちづくり	環境にやさしい持続可能な地域・社会をつくる	75
	安全・安心に暮らせるまちをつくる	249
	生命・身体・財産を守る消防体制を整える	8
大綱5. 魅力ある資源を活かし、都市の活力を創造するまちづくり	地域社会を支える産業の活性化を図る	23
	魅力と活力でライフスタイルを豊かにする	18
	持続的に農業が行われる環境をつくる	14
	だれもがいきいきと働ける地域社会をつくる	12
大綱6. みんなが主体的に学び、生きがいを持って活躍できるまちづくり	生きる力を育む学校教育を推進する	69
	生涯にわたる学びを充実し、地域文化を振興する	21
	生涯にわたりスポーツ・レクリエーションに親しめる環境をつくる	33
その他		144

総計 1,678

大綱	区分	内 容	件数
1	市民参加と協働による市政を推進する	市政への市民参加を進める	2
		市民との協働のまちづくりを進める	10
		情報を提供し、市民との共有を図る	41
		計	53
	互いに認め合い人権を尊重する社会づくりを推進する	相手を思いやる人権意識を高める	4
		人権教育を進める	0
		男女共同参画社会を進める	1
		多文化共生社会の形成と国際交流を進める	21
		平和を愛する心を継承する	0
		計	26
	健全でスマートな都市経営を推進する	効率的かつ効果的な行政運営を進める	63
		行財政運営の健全化を進める	54
		計	117

大綱	区分	内 容	件数
2	ともに支え合いながら暮らせる地域をつくる	地域福祉体制の充実を図る	12
		計	12
	予防と助け合いのもとで、充実した地域医療・保健衛生体制をつくる	市民の健康づくりを進める	4
		地域医療体制の充実を図る	45
		保健衛生体制の充実を図る	4
		計	53
	子どもたちが夢と希望を持って育ち、安心して子育てできるまちをつくる	地域のなかで子育てを支える	1
		地域のなかで子どもが自ら育つ環境をつくる	5
		次世代を担う子どもたちを健やかに育てられる子育てしやすい環境を整える	53
		貧困の状況にある子どもと家庭を支える	1
		計	60
	障がい者（児）が安心して暮らせる環境をつくる	障がいの早期発見と療育環境を整える	4
		生活の質の向上を支援し、社会的自立を促進する	5
		地域での生活を支え、日常生活の充実を図る	10
		安心して外出するための円滑な移動を支援し、社会参加を促進する	2
		計	21
	高齢者が安心していきいきと暮らせるまちをつくる	生きがいづくりを支援する	14
		住民主体の介護予防を進める	1
		認知症の人にやさしい地域をつくる	2
		高齢者を支える環境をつくる	44
		介護保険制度の充実を図る	24
		計	85
	市民生活を支える支援制度や体制の充実を図る	生活に困窮している方々へのサポート体制の充実に努める	12
		医療保険制度の維持・充実を図る	6
		安定した生活を送るため年金制度を支援する	4
		計	22

大綱	区分	内 容	件数
3	生活の質が高く選ばれる都市をつくる	メリハリのある土地利用を進める	7
		活気ある市街地を整備する	40
		身近で親しみのある景観をつくる	3
		計	50
	地域を支える道路・公共交通をつくる	道路の整備を図る	87
		道路・水路の管理を図る	58
		公共交通網の維持・充実を図る	133
		計	278
	水と緑でつながるやすらぎのある空間をつくる	身近な緑を守り育てる	14
		だれもが利用しやすく安全な公園をつくる	37
		水辺を活かした快適な空間をつくる	10
		計	61
	安全で良好な水環境をつくる	水害に強いまちづくりを進める	129
		水質の保全と安全な水の確保により快適な生活環境を整える	33
		計	162
	安心して住むことができる住宅環境をつくる	安心して暮らせる住まいづくりを支援する	5
		住宅ストックの有効活用と快適な住宅環境の実現を図る	7
		計	12

大綱	区分	内 容	件数
4	環境にやさしい持続可能な地域・社会をつくる	脱炭素社会をつくる	2
		地域の効率的な資源循環を進める	32
		生き物・人が共生する社会をつくる	1
		安全・安心な環境づくりを進める	40
		計	75
	安全・安心に暮らせるまちをつくる	危機管理対策の充実を図る	17
		災害対策を進める	44
		地域の防犯力を高める	147
		交通安全の充実を図る	40
		消費者の自立を支援し、消費者意識の高揚を図る	1
		計	249
	生命・身体・財産を守る消防体制を整える	火災を予防する活動の充実を図る	0
		消防力の充実・強化を図る	3
		消防署所の充実・強化を図る	0
		救急体制の充実・強化を図る	5
		消防団の充実・強化を図る	0
		計	8

大綱	区分	内 容	件数
5	地域社会を支える産業の活性化を図る	地域産業の持続的発展を支援する	3
		新たな産業を育成する	1
		魅力ある商業の振興を図る	18
		魅力ある工業の振興を図る	1
		計	23
	魅力と活力でライフスタイルを豊かにする	地域の魅力の発信と都市のブランドの構築でまちの総合力を高める	10
		にぎわいを創出し地域経済の循環を促進する	8
		計	18
	持続的に農業が行われる環境をつくる	越谷農業の強みを活かした農業経営を追求する	7
		立地特性に応じて農地を保全・活用する	3
		持続的に農業経営を担う人材を育成する	2
		消費者が農業を支える仕組みをつくる	2
		計	14
	だれもがいいきと働ける地域社会をつくる	就業支援の充実と労働環境の向上を図る	12
		計	12

大綱	区分	内 容	件数
6	生きる力を育む学校教育を推進する	9年間を見通した越谷教育を推進する	1
		確かな学力を育む	6
		豊かな心を育む	2
		健やかな体を育む	3
		自立する力を育む	7
		質の高い教育環境を整備する	50
		計	69
	生涯にわたる学びを充実し、地域文化を振興する	生涯にわたる学びを進める	12
		文化活動を充実し、郷土の歴史を継承する	9
		計	21
	生涯にわたるスポーツ・レクリエーションに親しめる環境をつくる	健康ライフスタイルづくりを支援する	3
		スポーツ・レクリエーション活動を支援する環境の充実を図る	30
		計	33

大綱	区分	内 容	件数
その他		市政への感謝・激励など	25
		アンケートについての意見・要望	23
		その他市政への意見・要望	65
		越谷市への感想など	24
		その他	7
		計	144

第5章 調査票

インターネット回答用ユーザーID・パスワード

ユーザーID

パスワード

r7shisei

令和7年度市政世論調査 調査票

【ご記入にあたってのお願い】

郵送とインターネットのいずれかを選択してご回答ください。

●郵送の場合

1. あて名のご本人がお答えください。(住所、氏名を記入する必要はありません)
ご本人によるご記入が困難な場合には、身近な方による代筆をお願いします。
2. ご記入は鉛筆、ボールペン、万年筆などで、黒または青色でお書きください。
3. 最初から1問ずつ、該当する全ての質問にお答えください。
4. お答えは、あなたのお考えに最も近いと思われる回答を設問文中に示された数の範囲で選び、その番号に○をつけるか番号を□の中にご記入ください。
5. 「その他〔 〕」に○をつけたときは、〔 〕内に具体的な内容をご記入ください。

ご記入いただいた調査票用紙を、同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずにご投函ください。

調査票用紙、返信用封筒に住所・氏名などを記入する必要はございません。

令和7年8月5日(火)までに郵便ポストにご投函いただきますよう、
お願いいたします。

●インターネットの場合

調査票フォームに回答を入力し、送信してください。

詳細につきましては、別紙「令和7年度市政世論調査ご協力のお願い」
裏面をご覧ください。

令和7年8月5日(火) 23時59分までに、

送信を完了していただきますよう、お願いいたします。

調査票フォームへのアクセスは、右のQRコードを読み取っていただくか、
下記のURLを入力してください。

<QRコード>



<調査票フォームURL> <https://wss3.5star.jp/survey/login/229n4yoc>

※お送りいただいたご回答は、個人を特定できないよう、取り扱っております。

※この調査に関してのお問い合わせは、下記までお願いします。

越谷市 市民協働部 くらし安心課(広聴担当)

電話 048-963-9336 (直通)

FAX 048-965-7809

＜居住地区区分＞



◆ 居住地区該当町表

地区区分	該当町名
桜井	大字大里、大字下間久里、大字上間久里、大字大泊、大字平方、平方南町、千間台東1～4丁目
新方	大字弥十郎、大字大吉、大字向畑、大字北川崎、大字大杉、大字大松、大字船渡、弥栄町1～4丁目
増林	大字花田、大字増林、大字増森、大字中島、東越谷1～10丁目、中島1～3丁目、増林1～3丁目、増森1～2丁目、花田1～7丁目
大袋	大字恩間、大字大竹、大字大道、大字三野宮、大字恩間新田、大字袋山、大字大林、大字大房、千間台西1～6丁目
荻島	大字野島、大字小曾川、大字砂原、大字南荻島、大字西新井、大字北後谷、大字長島
出羽	宮本町1～5丁目、神明町1～3丁目、谷中町1～4丁目、七左町1・4～8丁目、大間野町1～5丁目、新川町1～2丁目、新越谷2丁目
蒲生	大字蒲生、瓦曾根1～2丁目、南越谷1丁目、登戸町、蒲生東町、蒲生寿町、蒲生旭町、蒲生本町、蒲生西町1～2丁目、蒲生1～4丁目、蒲生愛宕町、蒲生南町、南町1～3丁目
川柳	伊原1～2丁目、川柳町1～5丁目、レイクタウン7丁目
大相模	大字西方、相模町1～5丁目、大成町1～2・6～8丁目、東町1～3・5丁目、相模町6～7丁目、流通団地1～4丁目、西方1～2丁目、レイクタウン1～6・8～9丁目
大沢	大沢、大沢1～4丁目、東大沢1～5丁目
北越谷	北越谷1～5丁目
越ヶ谷	越ヶ谷、越ヶ谷1～5丁目、御殿町、柳町、越ヶ谷本町、中町、弥生町、赤山町1～2丁目、宮前1丁目、赤山本町
南越谷	瓦曾根3丁目、南越谷2～5丁目、蒲生茜町、東柳田町、元柳田町、赤山町3～5丁目、新越谷1丁目

あなたご自身のことがらについておたずねします。

問1. あなたの性別を教えてください。(○は1つ)

1. 女性	2. 男性	3. その他
-------	-------	--------

問2. あなたの年齢はどの区分にあてはまりますか。(○は1つ)

1. 18～19歳	6. 40～44歳	11. 65～69歳
2. 20～24歳	7. 45～49歳	12. 70～74歳
3. 25～29歳	8. 50～54歳	13. 75歳以上
4. 30～34歳	9. 55～59歳	
5. 35～39歳	10. 60～64歳	

問3. あなたのご職業は次のうちどれにあたりますか。(○は1つ)

1. 農業	6. 製造関係自営業	11. 学生
2. 市内会社員	7. サービス関係自営業	12. 家事従業
3. 市外会社員	8. 自由業	13. パートタイマー（アルバイト含む）
4. 小売店自営業	9. 公務員	14. その他〔
5. 建築関係自営業	10. 団体職員	15. 無職（年金生活を含む）

問4. あなたの世帯は次のうちどれにあたりますか。(○は1つ)

1. 単身世帯（ひとり暮らし）	4. 三世帯世帯（親と子と孫など）
2. 一世帯世帯（夫婦のみ、兄弟姉妹のみ）	5. その他〔
3. 二世帯世帯（親子など）	

問5. あなたは、越谷市に住んでどれくらいになりますか。(○は1つ)

1. 1年未満	4. 5～10年未満	7. 20～30年未満
2. 1～3年未満	5. 10～15年未満	8. 30～40年未満
3. 3～5年未満	6. 15～20年未満	9. 40年以上

問6. あなたのお住まいは次のどれにあたりますか。(○は1つ)

1. 持ち家一戸建て	6. 公団公社等賃貸マンション
2. 民間借家一戸建て	7. 社宅・官舎
3. 民間分譲マンション	8. 間借り・下宿・寮・寄宿舍
4. 民間賃貸マンション・アパート	9. 店舗・事務所併用住宅
5. 公団公社等分譲マンション	10. その他〔

問7. あなたは、どの地区に住んでいますか。(○は1つ)

※前ページの「居住地区該当町表」をご参照ください。

1. 桜井地区	6. 出羽地区	11. 北越谷地区
2. 新方地区	7. 蒲生地区	12. 越ヶ谷地区
3. 増林地区	8. 川柳地区	13. 南越谷地区
4. 大袋地区	9. 大相模地区	
5. 荻島地区	10. 大沢地区	

あなたの暮らしや居住意向についておたずねします。

問 8. あなたは現在の暮らし向きについて、どのように思っていますか。(○は1つ)

- | | |
|-----------------------|------------|
| 1. 十分満足している | 4. まだまだ不満だ |
| 2. 十分とはいえないが、一応満足している | 5. 極めて不満だ |
| 3. ふつう | 6. わからない |

問 9. あなたは今後も、現在のところに住み続けたいと思いますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1. ずっと住み続けたい | 3. どちらかといえば引っ越したい |
| 2. どちらかといえば住み続けたい | 4. 引っ越したい |
| | 5. わからない |

問 9-2. 問 9 で「3」または「4」と答えた方(引っ越したいと答えた方)に伺います。←

引っ越したいと思われる主な理由は何ですか。(○は1つ)

- | | |
|-------------------------|------------------|
| 1. 商業や事業に不利なので | 8. 買い物が不便なので |
| 2. 交通の便が悪いので | 9. 医療機関が近くにない |
| 3. 現在、住んでいる住宅が狭いので | 10. このまちに愛着がないから |
| 4. 付近の生活環境が悪いので | 11. 地域になじめないから |
| 5. 仕事の関係で | 12. 家族の介護の関係で |
| 6. 賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしかった | 13. その他〔 |
| 7. こどもの教育のため | 14. 特に理由はない |

越谷市への愛着度と魅力発信についておたずねします。

問 10. あなたは、越谷市に対して、どのくらい愛着がありますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------|--------------|
| 1. とても愛着がある | 4. 愛着がない |
| 2. 愛着がある | 5. どちらともいえない |
| 3. やや愛着がある | |

▶ 問 10-2. 問 10 で「1」から「3」(愛着がある)と答えた方に伺います。

愛着がある理由は何ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|---------------------------|---------------------|
| 1. 地域に愛されるグルメがある | 7. 越谷市にゆかりのある著名人がいる |
| 2. イベント、祭り、伝統芸能が豊富 | 8. 交通の利便性がよい |
| 3. 歴史的建造物や誇れる街並みがある | 9. 生活全般において不足がない |
| 4. 越谷市ならではの伝統的手工芸品や特産品がある | 10. 日常生活における買い物が便利 |
| 5. 自然(水辺空間、農地等)が多く残されている | 11. その他〔 |
| 6. 余暇に楽しむことができる施設・スポットがある | |

問 11. あなたの住んでいる地域をより魅力的にするために貢献したいと思いますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------|--------------|
| 1. 大いに貢献したい | 4. 貢献したくない |
| 2. 貢献したい | 5. どちらともいえない |
| 3. やや貢献したい | |

問 12. ブランドメッセージ「水遊都市 KOSHIGAYA」を策定し、市の魅力を発信していることを知っていますか。(○は1つ)

- | | |
|------------|--------------|
| 1. よく知っている | 3. まあまあ知っている |
| 2. 知っている | 4. 知らない |

広報についておたずねします。

問 13. あなたは、市政情報を主に何から得ていますか。(〇はいくつでも)

- | | |
|---|---------------|
| 1. 広報こしがや | 4. テレビ広報番組 |
| 2. SNS 市公式アカウント
(X、LINE、Instagram、YouTube、越谷 city メール配信サービス) | 5. ラジオ広報番組 |
| 3. 越谷市公式ホームページ | 6. その他〔 〕 |
| | 7. 特に情報は得ていない |

▶ 問 13-2. 問 13 で「1」と答えた方に伺います。

あなたは、「広報こしがや」の情報をどのように入手して読んでいますか。(〇はいくつでも)

- | | |
|----------------|--------------------|
| 1. 紙面 | 4. 無料配信サービス「マイ広報紙」 |
| 2. 越谷市公式ホームページ | 5. その他〔 〕 |
| 3. アプリ「マチイロ」 | |

問 14. 広報こしがやについて伺います。「広報こしがや」は、わかりやすいと思いますか。(〇は1つ)

- | | |
|---------------|-----------------|
| 1. わかりやすい | 4. わかりにくいところがある |
| 2. おおむねわかりやすい | 5. わかりにくい |
| 3. どちらともいえない | |

問 15. 「広報こしがや」で興味をもった記事は何ですか。(〇はいくつでも)

- | |
|-------------------------------|
| 1. 重要な地域課題や市内で活躍する団体・企業など（特集） |
| 2. 越谷アルファーズや郷土力士の活躍などのスポーツの魅力 |
| 3. グルメやイベントなど |
| 4. 子育て |
| 5. 医療・健康 |
| 6. 行政運営（予算・組織など） |
| 7. 行政サービス（各種相談、支援制度、申請手続きなど） |
| 8. その他〔 〕 |

問 16. 「広報こしがや」などの市政情報は、役に立ったことがありますか。(〇は1つ)

- | | |
|-------------|---------------|
| 1. とても役に立った | 4. 役に立ったことはない |
| 2. 役に立った | 5. わからない |
| 3. やや役に立った | |

▶ 問 16-2. 問 16 で「1」から「3」(役に立った)と答えた方に伺います。

どのような点についてそう感じましたか。(〇はいくつでも)

- | |
|--|
| 1. 地域の課題や課題解決に取り組む人や団体・企業について知ることができた |
| 2. スポーツやグルメ、イベントなどの地域の魅力について知ることができた |
| 3. 子育てや健康・医療などの暮らしに役立つ情報を知ることができた |
| 4. 行政情報（行政運営・行政サービス）について知ることができた |
| 5. 地域に関心を持つ、地域で活動する人に感謝するなど、意識が変わるきっかけになった |
| 6. 地域のイベントや会議、講座に参加するなど行動が変わるきっかけになった |
| 7. その他〔 〕 |

市内の公共交通についておたずねします。

問 17. あなたは、公共交通(鉄道・バス・タクシー)を利用していますか。(それぞれ○は1つつ)

	常に 利用している	よく 利用している	ときどき 利用している	たまに 利用している	全く 利用しない
鉄 道	1	2	3	4	5
バ ス	1	2	3	4	5
タクシー	1	2	3	4	5

問 18. あなたは、公共交通(鉄道・バス・タクシー)にどの程度満足していますか。(それぞれ○は1つつ)

	とても満足している	やや満足している	やや不満である	とても不満である
鉄 道	1	2	3	4
バ ス	1	2	3	4
タクシー	1	2	3	4

景観(風景)についておたずねします。

問 19. あなたは、お住まいの地区の景観(風景)に満足していますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------------------|--------------|
| 1. 満足している | 4. とても不満である |
| 2. 十分とはいえないが、おおむね満足している | 5. どちらともいえない |
| 3. やや不満である | |

問 20. あなたは、良い景観(風景)のまちをつくるために行政に何を望みますか。(○は3つまで)

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| 1. 目標や基本方針を住民に示す | 5. 景観づくりに協力する際の助成金等 |
| 2. 良好な景観づくりに役立つ公共事業 | 6. 景観整備のための住民の合意づくり支援 |
| 3. 規制を含めた強いリーダーシップの発揮 | 7. その他 [] |
| 4. 景観に関する情報提供・普及啓発 | |

地場農産物や地産地消についておたずねします。

問 21. 越谷を代表する農産物について、あなたが知っているものを選んでください。(○はいくつでも)

- | | | | |
|-----------|--------|-----------|------------|
| 1. 太郎兵衛もち | 3. ねぎ | 5. いちご | 7. 小松菜 |
| 2. くわい | 4. 山東菜 | 6. チューリップ | 8. その他 [] |

問 22. あなたは、越谷を代表する農産物を購入したことがありますか。ある場合は、どこで購入しましたか。

(ア～ク それぞれ横に○はいくつでも)	購入したことがある				購入した ことがない
	市民まつり などイベント	農産物 直売所	市内スーパー マーケット	その他	
ア 太郎兵衛もち	1	2	3	4	5
イ くわい	1	2	3	4	5
ウ ねぎ	1	2	3	4	5
エ 山東菜	1	2	3	4	5
オ いちご	1	2	3	4	5
カ チューリップ	1	2	3	4	5
キ 小松菜	1	2	3	4	5
ク その他[]	1	2	3	4	5

1. よく知っている 2. まあまあ知っている 3. 聞いたことがある 4. 知らない

１．広報こしがや ２．越谷市公式ホームページ ３．越谷 city メール配信サービス ４．越谷市自治基本条例を通じて ５．友人・知人	６．自治会やコミュニティ推進協議会を通じて ７．市民活動団体やボランティア団体を通じて ８．イベント ９．その他〔 〕
--	---

1. 参加したい	3. どちらかといえば参加したくない
2. どちらかといえば参加したい	4. 参加したくない

1. よく知っている 2. まあまあ知っている 3. 聞いたことがある 4. 知らない

１．広報こしがや ２．越谷市公式ホームページ ３．越谷 city メール配信サービス ４．パンフレット等の啓発物 ５．友人・知人	６．自治会やコミュニティ推進協議会を通じて ７．市民活動団体やボランティア団体を通じて ８．イベント ９．その他〔 〕
--	---

1. 広報こしがやへの情報掲載	10. 公共交通機関等でのポスター掲示板や大型モニターによる情報発信
2. テレビ広報番組による広報	11. パンフレットの配布
3. ラジオ広報番組による広報	12. 啓発物品（ポケットティッシュ・エコバッグ等）の配布
4. 越谷市公式ホームページ上への情報掲載	13. シンポジウム・講演会の開催
5. 越谷 city メールによる情報発信	14. パネル展の開催
6. SNS（X や LINE）による情報発信	15. 動画コンテスト等の体験型イベントの開催
7. 動画（YouTube 等）による情報配信	16. 出張講座の開催
8. 啓発映像（DVD 等）の上映や貸出	17. その他〔 〕
9. 公共施設等でのポスター掲示	

ひきこもりについておたずねします。

問 27. あなた自身、または家族の中に、仕事や学校等に行けず、家族以外の人と交流をほとんどしていない等、『ひきこもり』の状態に当てはまる人がいますか。(〇は1つ)

1. いる

2. いない

▶ 問 27-2. 問 27 で「1. いる」と答えた方に伺います。

『ひきこもり』の状態にある方の①年齢、②期間、③相談の状況について教えてください。

① 年齢は (〇はいくつでも)	1. 小・中学生 2. 義務教育修了後の10歳代	3. 20歳代 4. 30歳代	5. 40歳代 6. 50歳代	7. 60歳代以上
② 期間は (〇はいくつでも)	1. 1年未満 2. 1年～3年	3. 4年～5年 4. 5年以上10年未満	5. 10年以上20年未満 6. 20年以上	
③ 相談の状況 (〇はいくつでも)	1. 相談したことがある 2. 相談したことはないが、相談したいと思う 3. 相談したことがない 4. 相談したいと思わない 5. わからない			

問 28. ひきこもりに悩む方への支援として、どのようなものがあると良いと思いますか。(〇はいくつでも)

- | | |
|------------------------|---------------------------------|
| 1. ひきこもり支援に関する様々な情報の提供 | 9. ひきこもり本人同士が交流できる場 |
| 2. 家族向けセミナー | 10. ひきこもり本人が利用できる職場体験や職業訓練の提供 |
| 3. 対面で相談できる窓口 | 11. ひきこもり本人が利用できるフリースペースや居場所づくり |
| 4. 電話で相談できる窓口 | 12. 地域における関係機関のネットワークづくり |
| 5. メールやSNS等で相談できる窓口 | 13. 支援は希望しない |
| 6. 訪問による相談支援 | 14. その他〔 〕 |
| 7. 出張相談会 | |
| 8. 家族が情報交換を行うための場 | |

問 29. あなたは、ひきこもりに関して相談できる窓口として、どの窓口・団体等を知っていますか。

(〇はいくつでも)

- | | |
|--|---------------------|
| 1. 埼玉県ひきこもり相談サポートセンター
(NPO 法人 越谷らるご内) | 8. 児童相談所 |
| 2. 保健所こころの健康支援室(市役所第三庁舎1階) | 9. 青少年相談室 |
| 3. 生活自立相談よりそい(市役所第三庁舎2階) | 10. ハローワーク |
| 4. 社会福祉協議会 | 11. 地域若者サポートステーション |
| 5. 精神保健福祉センター | 12. 障がい者等基幹相談支援センター |
| 6. 学校・スクールカウンセラー | 13. 地域包括支援センター |
| 7. 教育センター | 14. NPO 法人などの民間団体 |
| | 15. その他〔 〕 |

環境政策についておたずねします。

問 30. 越谷市では様々な環境問題への取組を進めています。

あなたは、環境や環境の取組に関心がありますか。(〇は1つ)

1. 関心がある

2. ある程度関心がある

3. あまり関心がない

4. 全く関心がない

▶ 問 30-2. 問 30 で「1」または「2」と答えた方に伺います。

関心がある項目を教えてください。(〇はいくつでも)

- | | | |
|----------------------------|------------------|-----------------|
| 1. 地球温暖化対策 | 3. ごみの減量・リサイクル | 6. 環境・SDGs教育・学習 |
| 2. 気候変動の影響への対処
(熱中症対策等) | 4. 生物多様性の保全と回復 | 7. その他 |
| | 5. 大気汚染・水質汚濁等の対策 | 〔 〕 |

問 31. 「脱炭素社会」とは、人間の活動による温室効果ガスの排出量と森林などによる吸収量が等しくなり、排出実質ゼロとなる社会をいいます。あなたは、「脱炭素社会」についてどの程度知っていますか。

(○は1つ)

- | | |
|-------------------------|-----------------|
| 1. 言葉も意味も知っている | 3. 言葉も意味も知らない |
| 2. 言葉は知っているが、意味はよくわからない | (今回の調査で初めて認識した) |

問 32. 脱炭素社会の実現に向け、一人一人が二酸化炭素などの排出を減らす取組についてどのように考えますか。(政府は、2050 年に温室効果ガス排出量実質ゼロとし、脱炭素社会の構築を目指すことを宣言しました。それに伴い、越谷市は 2030 年度市域の温室効果ガス削減目標について、2013 年度比 46%以上削減を掲げています。)(○は1つ)

- | | |
|---------------|----------------|
| 1. 積極的に取り組みたい | 3. あまり取り組みたくない |
| 2. ある程度取り組みたい | 4. 全く取り組みたくない |

▶ 問 32-2. 問 32 で「3」または「4」と答えた方に伺います。その理由を教えてください。(○はいくつでも)

- | |
|---------------------------------------|
| 1. 経済的なコストがかかる |
| 2. 手間がかかる |
| 3. どのような基準で選択し、どのように取り組めばよいか情報が不足している |
| 4. 日常生活の中で常に意識して行動するのが難しい |
| 5. 地球温暖化への対策としてどれだけ効果があるのかわからない |
| 6. 地球温暖化への対策のための取組を行う必要性を感じない |
| 7. その他〔 |
| 8. 特にない |

問 33. あなたは、脱炭素社会の実現につながる以下の各項目の行動を実践していますか。

(ア～セ それぞれ横に○は1つずつ)

	実践している	実践を検討している	検討もしていない
ア こまめな消灯やエアコンの設定温度の適切な管理など、省エネ・節電行動をとる	1	2	3
イ 冷蔵庫、エアコン等の家電製品や給湯空調設備は、省エネ性能の高いものを使用する	1	2	3
ウ 照明器具は LED を使用する	1	2	3
エ 宅配便の1回での受取り、または宅配ボックスでの受取りなど再配達を防止する	1	2	3
オ 部屋の温度を快適に保つ高断熱などの省エネ住宅へ居住する、またはリフォームを行う	1	2	3
カ 太陽光発電パネルなどの再生可能エネルギー設備を設置する	1	2	3
キ 自宅の電気プランを再生可能エネルギーメニューに切り替える	1	2	3
ク 自動車を EV・PHEV に乗り換える	1	2	3
ケ 移動時には、なるべく徒歩・自転車・公共交通機関を利用する	1	2	3
コ ごみの正しい分別や資源のリサイクルを積極的に行う	1	2	3
サ レジ袋等の使用量を削減するため、買い物にはマイバッグやかごを持参する	1	2	3
シ 環境に配慮された商品を選んで購入する	1	2	3
ス 食べ残しを減らす	1	2	3
セ 自宅に庭木や緑のカーテンを取り入れる	1	2	3

人権全般に関する意識についておたずねします。

問 34. あなたは、今の日本社会において、どのくらい基本的人権が尊重されていると思いますか。(○は1つ)

- | | |
|--------------|----------------|
| 1. 十分尊重されている | 3. あまり尊重されていない |
| 2. やや尊重されている | 4. 尊重されていない |

問 35. 一人ひとりの人権意識は、10年前に比べて高くなっていると思いますか。(○は1つ)

- | | | |
|---------------|--------------|------------|
| 1. 非常に高くなっている | 3. 変わっていない | 5. 低くなっている |
| 2. やや高くなっている | 4. やや低くなっている | |

問 36. 今の日本の社会に様々な人権問題がありますが、あなたが関心のあるものはどれですか。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------------------|---------------------------|
| 1. 女性の人権問題 | 9. 刑を終えて出所した人々の人権問題 |
| 2. こどもの人権問題 | 10. 犯罪被害者やその家族の人権問題 |
| 3. 高齢者の人権問題 | 11. インターネット上における人権問題 |
| 4. 障がい者の人権問題 | 12. 北朝鮮当局による拉致問題 |
| 5. 部落差別（同和問題） | 13. ホームレスの人々の人権問題 |
| 6. アイヌ民族の人権問題 | 14. L G B T Qなど性的少数者の人権問題 |
| 7. 外国人の人権問題 | 15. 大規模災害時の避難生活などにおける人権問題 |
| 8. エイズやハンセン病等感染症患者の人権問題 | 16. その他〔 〕 |

問 37. あなたは、日常生活の中であなた自身またはあなたの周りの人々の人権が侵害されたと感じたことはありますか。(○は1つ)

- | | | |
|-------|-------|----------|
| 1. ある | 2. ない | 3. わからない |
|-------|-------|----------|

→ 問 37-2. 問 37 で「1.ある」と答えた方に伺います。

人権が侵害されたと感じたことは、どのような内容ですか。(○はいくつでも)

- | |
|--|
| 1. あらぬ噂を立てられたり、他人から悪口や陰口を言われた |
| 2. 人種・信条・性別などにより、不平等または不利益な取扱いをされた |
| 3. 職場において、不当な待遇や上司の言動を受けた |
| 4. プライバシーを侵害された |
| 5. 性的嫌がらせ（セクシュアル・ハラスメント）を受けた |
| 6. 特定の人に執拗につきまとわれた（ストーカー行為） |
| 7. 配偶者やパートナーなどから、家庭内暴力（ドメスティック・バイオレンス）を受けた |
| 8. その他〔 〕 |

男女共同参画についておたずねします。

問 38. 一般的に、男女がともに仕事と家庭を両立していくためには、どのような条件が必要だと思いますか。(○は3つまで)

- | |
|---------------------------------------|
| 1. 育児休業・介護休暇制度を利用できる職場環境を整備すること |
| 2. 女性が働くことに対して、家族や周囲の理解と協力があること |
| 3. 保育施設や保育時間の延長など、保育内容を充実させること |
| 4. 在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること |
| 5. 育児や介護のため退職した方を、元の職場で再雇用する制度を導入すること |
| 6. 昇給などの男女格差をなくすこと |
| 7. 年間労働時間を短縮すること |
| 8. 育児休業・介護休暇中の賃金など経済面を充実させること |
| 9. 職務上必要な知識や技術などを習得するための訓練を充実させること |
| 10. その他〔 〕 |

問 39. 日常生活のなかでの、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度について伺います。
あなたの希望と現実(現状)に最も近いものを選んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

優先したいと希望するもの	現実(現状)に優先しているもの
1. 「仕事」	1. 「仕事」
2. 「家庭生活」	2. 「家庭生活」
3. 「地域・個人の生活」	3. 「地域・個人の生活」
4. 「仕事」と「家庭生活」の両方	4. 「仕事」と「家庭生活」の両方
5. 「仕事」と「地域・個人の生活」の両方	5. 「仕事」と「地域・個人の生活」の両方
6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」の両方	6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」の両方
7. 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」のすべて	7. 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」のすべて

問 40. 仕事、家事・育児・介護、地域活動、学習、娯楽など、1つの生活の中で行うさまざまな活動について、あなたは概ね自分が希望するおりの配分で時間を使えていると思いますか。(○は1つ)

1. そう思う	3. どちらかといえばそう思わない
2. どちらかといえばそう思う	4. そう思わない

問 41. 越谷市には、男女共同参画を推進する拠点施設として「男女共同参画支援センター(ほっと越谷)」があります。あなたは、男女共同参画施設が今後どのような内容に特に力を入れる必要があると思いますか。(○は2つまで)

1. いつでも誰でも気軽に立ち寄れる交流の場	6. 相互交流の援助など市民・団体活動の支援
2. 情報誌や啓発パンフレットなどによる啓発事業	7. 男性向けの講座
3. 相談事業	8. 女性向けの講座
4. 男女共同参画に関する講座・フォーラムの開催	9. 性の多様性に関する講座
5. 図書や雑誌等の収集・閲覧やインターネットによる情報提供	10. その他 []
	11. 特になし

行政のデジタル化についておたずねします。

問 42. デジタル化された行政サービスのうち、利用したことがあるものはどれですか。(○はいくつでも)

1. 越谷市電子申請届出サービス (オンライン手続き)	5. SNS市公式アカウント
2. オンライン相談・面談	(X、LINE、Instagram、YouTube、越谷 city メール配信サービス)
3. 越谷市公式ホームページ	6. こしがや住まいるマップ
4. 越谷市が情報発信等で利用しているアプリ	7. 越谷市電子図書館
(防災こしがや、マチイロ、越谷まるこアプリ、脳にいいアプリ_きらぼ、ミライロ ID、	8. 越谷市デジタルアーカイブ
コバトン ALK00 マイレージ、水道マイページ、さんあ〜る、がやっこ)	9. その他 []

▶ 問 42-2. 問 42 で「1」～「9」のいずれか1つでも利用したことがある方に伺います。
利用したデジタル行政サービスに満足していますか。(○は1つ)

1. とても満足	3. どちらともいえない	5. とても不満足
2. 満足している	4. 不満足	

問 43. 行政サービスのデジタル化について、期待する分野はどれですか。(○はいくつでも)

1. 人権	5. 子育て	9. 危機管理	13. 教育
2. 行財政運営	6. 福祉	10. 消防	14. 生涯学習・文化
3. 保健	7. 都市計画	11. 産業・雇用	15. スポーツ・レクリエーション
4. 医療	8. 環境	12. 観光	

地域医療体制についておたずねします。

問 44. 次に掲げる「ことば」や「ことがら」を知っていますか。また、利用(実施)したことはありますか。

(ア～オ それぞれ横に○は1つずつ)	利用(実施)したことがある	利用(実施)したことはないが知っている	知らない
ア 越谷市夜間急患診療所	1	2	3
イ 休日当番医制度※1	1	2	3
ウ 埼玉県救急電話相談※2(＃7119)	1	2	3
エ 医療情報ネット(ナビィ)※3	1	2	3
オ 人生会議(ACP:アドバンス・ケア・プランニング)	1	2	3

※1 休日当番医制度：祝日や年末年始に、病院・診療所・歯科診療所が交代で診療を行っている制度

※2 埼玉県救急電話相談：埼玉県が行っている、急病時の家庭での対処方法や受診の必要性についての電話相談ができる制度

※3 医療情報ネット(ナビィ)：診療日や診療科目といった一般的な情報に加え、対応可能な疾患・治療内容、提供しているサービスなど様々な情報から、全国の医療機関を検索することができるシステム

※4 人生会議(ACP:アドバンス・ケア・プランニング)：もしもの時が迫った時、自分が望む医療やケアを受けられるために、本人、家族、医療・ケアチームと元気なうちから繰り返し話し合い、共有する取り組み

問 45. あなたは、夜間や休日に利用できる医療機関の情報が必要な場合、どこから情報を入手しますか。
次の中から選んでください。(○はいくつでも)

1. 広報こしがや	6. インターネットで調べる
2. 市民ガイドブック	(越谷市・厚生労働省ホームページを除く)
3. 越谷市公式ホームページ	7. 埼玉県救急電話相談(＃7119)
4. 越谷市発行のチラシ	8. 埼玉県A I 救急相談※5
(「越谷市の休日診療・救急医療のご案内」等)	9. 消防署に問い合わせ
5. 厚生労働省ホームページ	10. 医療機関に問い合わせ
(医療情報ネット(ナビィ)を含む)	11. 知人・友人等に聞く
	12. その他〔 〕

※5 埼玉県A I 救急相談：埼玉県が行っている、急病時の家庭での対処方法や受診の必要性について、チャット形式で相談した内容をもとに、A I (人工知能) がアドバイスする制度

介護サービスについておたずねします。

問 46. あなた又はあなたの家族が介護サービスを利用する際、事業・事業所・従事者に求めるものは何ですか。

※現在、介護サービスの利用予定がない、利用対象者がいない場合もお答えください。

事業の形態 (○は1つ)	1. 広く事業展開をしている施設(市内・市外問わずだれでも利用できる施設) 2. 地域に密着した事業展開をしている施設(市内在住者のみ利用できる施設) 3. どちらでもよい
事業の種別 (○は1つ)	1. 施設・居住系サービス(施設に入所して介護を受けるサービス) 2. 訪問系サービス(ホームヘルパーなどに自宅へ来てもらって介護を受けるサービス) 3. 通所系サービス(事業所に通って介護や機能訓練を受けるサービス)
事業所の体制 (○は1つ)	1. 従事者のスキル向上や知識の取得に力を入れている 2. 虐待研修などを行い、虐待発生防止に力を入れている 3. 感染対策に力を入れている 4. その他〔 〕
従事者の資質 (○は1つ)	1. 利用者の話をしっかり聞く 2. 介護の経験が豊富 3. 身だしなみ、言葉づかいがしっかりしている 4. その他〔 〕

地域活動への参加状況についておたずねします。

問 47. あなたは、お住まいの地域でどのような活動に参加していますか。(○はいくつでも)

- | | |
|---------------------|-----------------------------|
| 1. 自治会等の行事 | 5. 地区センター・公民館や交流館等の市の施設での講習 |
| 2. 学校等の行事 | 6. その他〔 |
| 3. 福祉施設等での活動 | 7. 特に何も行っていない |
| 4. 趣味やスポーツのサークルでの活動 | |

相談できる相手や場所についておたずねします。問 48. あなたの心配ごとや困りごとを相談したり、愚痴(ぐち)を聞いてくれたりする人は誰ですか。
あるいはそうした場所はどこですか。次の中から選んでください。(○はいくつでも)

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1. 家族や親戚 | 10. 民生委員・児童委員 |
| 2. 友人・知人 | 11. 障がい者等基幹相談支援センター |
| 3. 市役所の窓口・地区センター | 12. 生活自立相談「よりそい」 |
| 4. 学校や会社(職場)の人 | 13. インターネット上の知り合い |
| 5. 病院 | 14. こども家庭センター |
| 6. 近所の人 | 15. その他〔 |
| 7. 地域包括支援センター | 16. 相談できる人がいない |
| 8. ケアマネジャー・ホームヘルパー | 17. 誰に相談していいかわからない |
| 9. 社会福祉協議会 | |

障がいや障がいのある人に対する理解についておたずねします。

問 49. あなたは、障がいや障がいのある人に対する理解が進んでいると思いますか。(○は1つ)

- | | | | | |
|--------|----------|----------|---------|----------|
| 1. 進んだ | 2. 少し進んだ | 3. 変わらない | 4. 後退した | 5. わからない |
|--------|----------|----------|---------|----------|

キャッシュレス決済についておたずねします。

問 50. あなたは、現金を使わずスマートフォンやクレジットカード、電子マネーなどで支払いができるキャッシュレス決済を利用したことがありますか。(○は1つ)

- | | | |
|-------|-------|----------------|
| 1. ある | 2. ない | ----▶ 問 50-3 へ |
|-------|-------|----------------|

→ 問 50-2. 問 50 で「1. ある」と答えた方に伺います。越谷市役所の市民課や北部・南部出張所等の窓口で、住民票の写しや印鑑証明などの発行手数料の支払いにキャッシュレス決済が利用できますが、これらの窓口でキャッシュレス決済を利用したことはありますか。(○は1つ)

- | | |
|-------|-------|
| 1. ある | 2. ない |
|-------|-------|

問 50-3. 問 50 で「2. ない」と答えた方に伺います。
キャッシュレス決済を利用しない理由は何ですか。(○はいくつでも)

- | |
|------------------------------|
| 1. スマートフォンやクレジットカードを持っていないから |
| 2. キャッシュレス決済の利用方法がわからないから |
| 3. 詐欺などの犯罪被害が心配だから |
| 4. その他〔 |

自治会についておたずねします。

問 51. あなたは、自治会に加入していますか。(○は1つ)

- | | | |
|------------|---------------------|-----------------------|
| 1. 加入している | ----▶ P.12 問 51-2 へ | 3. 加入していたが脱会した |
| 2. 加入していない | ----▶ P.12 問 51-3 へ | !-----▶ P.12 問 51-4 へ |

問 51-2. 問 51 で「1. 加入している」と答えた方に伺います。

あなたが自治会に加入した理由・参加している自治会活動・自治会に加入して感じている点を、次の中から選んでください。(〇はいくつでも)

自治会に加入した理由	1. 加入するのが当然だと思うため 2. 地域の人と触れ合えるため 3. 地域の情報を得ることができるため 4. 地域の活動に参加したいため	5. 周りの人が加入しているため 6. 加入の勧誘があったため 7. 災害に備えるため 8. その他〔 〕
参加している自治会活動	1. 防犯パトロールや子ども達の見守り 2. 地域の防災活動 3. 住民相互の助け合いや福祉活動 4. 町内清掃などの環境美化活動 5. お祭りなどの行事	6. 地域の課題解決を目的とした会合 7. 親睦を目的とした会合 8. 全く参加していない 9. その他〔 〕
自治会に加入して感じている点	1. 地域に顔見知りができ安心感がある 2. 地域の安全や環境美化に貢献している 3. 防災訓練などを通して、災害への備えができる 4. 地域の課題解決が進む 5. 行事等に楽しく参加できる	6. 役員就任等への負担感 7. 会費支払いへの負担感 8. 地域活動や行事等への参加の負担感 9. その他〔 〕

問 51-3. 問 51 で「2. 加入していない」と答えた方に伺います。

あなたが自治会に加入していない理由・自治会に加入するために必要だと思うこと・自治会への加入意思を、次の中から選んでください。(〇はいくつでも)

自治会に加入しない理由	1. 仕事や家事が忙しくて時間がないため 2. 近所付き合いがわずらわしいため 3. 加入しなくても困らないため 4. 自治会の活動内容がわからないため 5. 自治会への入り方がわからない(勧誘がない)ため 6. 自治会に加入するメリットがわからないため 7. 班長や役員などを引き受けたくないため	8. 会費を払いたくない(金銭的負担が大きい)ため 9. 参加したい活動がないため 10. 短期の居住のため加入の必要性を感じないため 11. 住んでいるマンションなどに自治会がないため 12. その他〔 〕
自治会に加入するために必要だと思うこと	1. 仕事や家事にゆとりがあること 2. 自治会活動や加入方法などの情報提供 3. 参加してみたい魅力的な活動 4. 班長や役員などに選ばれても協力体制があること	5. 事情に応じた役員や会費の免除(減額) 6. その他〔 〕
自治会への加入意思	1. 加入したい 2. 加入したくない	3. 条件が合えば加入してもよい 4. その他〔 〕

問 51-4. 問 51 で「3. 加入していたが脱会した」と答えた方に伺います。

あなたが自治会を脱会した理由は何ですか。(〇はいくつでも)

1. 仕事や家事が忙しくて時間がなかった 2. 自治会の活動内容がわからなかった 3. 自治会に加入しているメリットが感じられなかった 4. 班長や役員などを引き受けなくなかった 5. 会費を払いたくなかった(負担が大きかった)	6. 活動内容に魅力がなかった 7. 高齢のため、地域の活動や行事に参加できなくなった 8. その他〔 〕
--	---

スポーツ・レクリエーションの実施状況についておたずねします。

問 52. この1年間でどのくらいスポーツ・レクリエーション活動を行いましたか(ウオーキング・徒歩や軽い体操も含みます)。(○は1つ)

- | | | |
|-------------|---------------|-----------|
| 1. 週に3回以上 | 4. 3か月に1～2回程度 | 6. 行っていない |
| 2. 週に1～2回程度 | 5. 年に1～3回程度 | ⇒問 52-3 へ |
| 3. 月に1～3回程度 | | |

▶ 問 52-2. 問 52 で「1」から「5」のいずれかと答えた方に伺います。

あなたがスポーツ・レクリエーション活動を行った主な理由は何ですか。(○は3つまで)

- | | |
|---------------|-----------------------|
| 1. 気分転換・気晴らし | 7. 試合や大会に参加したいから |
| 2. 運動不足解消 | 8. 学校のサークル活動等で行っているから |
| 3. 美容、肥満解消 | 9. スポーツ教室や講座に参加しているから |
| 4. 家族のふれあい | 10. その他〔 〕 |
| 5. 友人との交流 | 11. 特に理由はない |
| 6. 健康、体力維持・増進 | |

問 52-3. 問 52 で「6. 行っていない」と答えた方に伺います。

あなたが、スポーツ・レクリエーション活動を行っていない理由は何ですか。

(○は3つまで)

- | | |
|--------------------------|---------------------------------|
| 1. 仕事(家事、育児も含む)や勉強が忙しいから | 6. 年をとったから |
| 2. 費用がかかるから | 7. スポーツ・レクリエーションが好きでない(興味がない)から |
| 3. 身近に適当な場所や施設がないから | 8. その他〔 〕 |
| 4. 健康上の理由から | 9. 特に理由はない |
| 5. 一緒に行く相手、指導者等がないから | |

問 53. 皆さんに伺います。今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動について次の中から当てはまるものを選んでください。(○はいくつでも)

比較的軽いスポーツ	野外活動	競技的スポーツ
1. 軽い体操	1. スキー・スノーボード	1. 陸上競技
2. 軽い球技(キャッチボール等)	2. 海水浴	2. 水泳競技
3. ウオーキング	3. スケート	3. 野球・ソフトボール
4. ジョギング	4. 登山	4. サッカー
5. ゲートボール・グラウンドゴルフ	5. キャンプ(オートキャンプを含む)	5. バレーボール
6. ボウリング	6. ハイキング	6. バスケットボール
7. プールを利用した運動	7. サイクリング	7. バドミントン
8. ダンス	8. ゴルフ	8. テニス
9. 室内運動器具を使って行う運動	9. 釣り	9. 卓球
10. その他〔 〕	10. その他〔 〕	10. 柔道、剣道、空手、相撲
11. 特になし	11. 特になし	11. ボクシング、レスリング
		12. 弓道、アーチェリー
		13. その他〔 〕
		14. 特になし

よくなってきたと感じるもの					
特に力を入れるべきだと思われるもの					

(それぞれ5つまで番号を記入)

- 問 55. 問 54 で選ばれた「特に力を入れるべきと思われるもの」について、どのような対応(対策)を望めますか。また、市政に関するご意見やご要望など、自由にご記入ください。

同封の返信用封筒に入れて8月5日（火）までにご投函ください。

令和7年度 市政世論調査結果報告書

発行年月： 令和7年11月

発行： 越谷市 市民協働部 くらし安心課
〒343-8501 埼玉県越谷市越ヶ谷四丁目2番1号
電話 048(963)9336(直通)

調査実施： 株式会社 物流科学研究所
〒330-0052 さいたま市浦和区本太2-2-36
SUNCREST 302
電話 048(887)3790

